2018年度　開講科目表

開講科目表の見方

①授業科目欄：○○○→□□□は2018年度より名称が変更となった科目です。
左の○○○は2017年度以前の科目名、右の□□□は2018年度以降の科目名。
科目名が変更された科目については再履修できません。

②開講状況欄：2014～2017年度入学者と2018年度編入生は、2017年度以前の欄を参照してください。
2018年度１年次入学者は、2018年度以降の欄を参照ください。
入学年度により同一科目で所属科目群の異なる科目は、**太字**で当該科目の所属の群を表記しています。
例）「キャリアデザイン基礎」を履修した場合、は2017年度以前入学者については教養科目の扱いだが、
2018年度以降入学者については、専門科目の専門演習科目群の扱いとなります。

③必修・選択等欄：◎印：必修　○印：選択必修　無印：選択

教養（Liberal Arts）科目

			掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
							2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
教養科目群	生命	基礎	106	総合人間学	2	1	前期１	前期１	◎	◎
			106	聖書を読む	2	1	後期１	後期１	◎	◎
			107	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期１	前期１	◎	◎
			108	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期１	後期１		
			113	生命・生態・進化Ⅰ→現代生命科学Ⅰ	2	1・2・3・4	前期１	前期１		
			114	生命・生態・進化Ⅱ→現代生命科学Ⅱ	2	1・2・3・4	後期１	後期１		
		健康	114	スポーツと健康（体育実技を含む）A	2	1・2	前期１	前期１		
			115	スポーツと健康（体育実技を含む）B	2	1・2	後期１	後期１		
	環境	自然	－	海と森の生物Ⅰ→環境科学Ⅰ	2	2・3・4	2019	2019		
			－	海と森の生物Ⅱ→環境科学Ⅱ	2	2・3・4	2019	2019		
			116	地球と宇宙Ⅰ	2	1・2・3・4	前期１	前期１		
			116	地球と宇宙Ⅱ	2	1・2・3・4	後期１	後期１		
			－	自然科学の視点Ⅰ	2	1・2・3・4	閉講	×		
			－	自然科学の視点Ⅱ	2	1・2・3・4	閉講	×		
		社会学	－	中世史との対話	2	1・2	2019	2019		
			－	近世史との対話	2	1・2	2019	2019		
			117	憲法	2	1・2	前期１	前期１		
			118	法学	2	1・2	後期１	後期１		
			118	社会学	2	1・2	前期１	前期１		
			119	社会学Ⅱ	2	1・2	後期１	後期１		
			109	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期１	前期１	◎	◎
			110	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期１	後期１		
			111	心理学	2	1・2	前期１	前期１	◎	◎
			112	心理学Ⅱ→心理学概論	2	1・2	後期１	後期１		
			－	政治学（国際政治を含む）	2	1・2	2019	2019		
		文化	120	文学Ⅰ　→　文学	2	1・2	前期１	前期１		
			－	文学Ⅱ	2	1・2	閉講	×		
			121	教養としての哲学	2	1・2	前期１	前期１		
			122	哲学と論理	2	1・2	後期１	後期１		
			123	教育学	2	1・2	後期１	後期１		
			123	音楽の基礎	2	1・2	前期１	前期１		
			124	音楽の実際	2	1・2	後期１	後期１		
	コミュニケーション	基礎	125	コミュニケーションの演習	2	1	前期１	前期１		◎
			－	コミュニケーションの理論	2	1	休講	休講	◎	
			－	異文化間コミュニケーション	2	2・3・4	2019	2019		
			126	キャリア概論Ⅰ→キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期１	**専門演習**		
			127	キャリア概論Ⅱ→キャリアデザイン実践	2	3	後期１	**専門演習**		
		情報処理	127	コンピュータ入門Ⅰ	2	1・2	前期１	前期１		
			128	コンピュータ入門Ⅱ	2	1・2	後期１	後期１		
			－	視覚障害者ＰＣ入門	2	1	前期１	前期１		
			－	情報言語コミュニケーションⅠ	2	2・3・4	閉講	×		
			－	情報言語コミュニケーションⅡ	2	2・3・4	閉講	×		
		語学	129	英語 Reading	2		前期２or後期２	前期２or後期２	○〈１〉	○〈１〉
			130	英語 Speaking/Listening	2	1	前期２	前期２	○〈１〉	○〈１〉
			131	英語 Writing/Grammar Ⅰ	1	1	前期１	前期１	○〈１〉	○〈１〉
			132	英語 Writing/Grammar Ⅱ	1	1	後期１	後期１	○〈１〉	○〈１〉
			132	英語特別演習(Independent Study)	1	2・3・4	適宜	2019	○〈１〉	○〈１〉
			133	英語 Reading 演習 A(基礎)	1	2・3	前期１	2019	○〈１〉	○〈１〉

			掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
							2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
教養科目群	コミュニケーション	語学	134	英語 Reading 演習 B(発展)	1	2・3	後期1	2019	○〈1〉	○〈1〉
			135	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	前期2	2019	○〈1〉	○〈1〉
			136	英語 Writing 演習	1	2・3	前期1	2019	○〈1〉	○〈1〉
			159	英語特別プログラム(ESP: English for Special Purposes)	1	1・2	後期1	国際	○〈1〉	
			138	ドイツ語　初級A(読本・会話)Ⅰ　→ドイツ語会話Ⅰ	1	1・2	前期1	前期1		
			139	ドイツ語　初級A(読本・会話)Ⅱ　→ドイツ語会話Ⅱ	1	1・2	後期1	後期1		
			136	ドイツ語　初級B(文法)　→ドイツ語初級	2	1	前期2	前期2		
			—	ドイツ語　中級A(講読・会話)Ⅰ　→ドイツ語講読Ⅰ	1	1・2	2019	2019		
			—	ドイツ語　中級A(講読・会話)Ⅱ　→ドイツ語講読Ⅱ	1	1・2	2019	2019		
			137	ドイツ語　中級B(文法)　→ドイツ語中級	2	1	後期2	後期2		
			139	外国の言語と文化　初級(韓国語)	1	1・2・3・4	前期1	前期1		
			140	外国の言語と文化　中級(韓国語)	1	1・2・3・4	後期1	後期1		
			141	外国の言語と文化　初級(中国語)Ⅰ	1	1・2・3・4	前期1	前期1		
			141	外国の言語と文化　初級(中国語)Ⅱ	1	1・2・3・4	後期1	後期1		
			159	外国の言語と文化　(フィリピノ語)	1	1・2・3・4	後期1	国際		
			—	日本語特講(留学生)Ⅰ	1	1・2	前期1	前期1		
			—	日本語特講(留学生)Ⅱ	1	1・2	後期1	後期1		

教養科目まとめ
・総合人間学、聖書を読む、キリスト教概論Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、心理学、コミュニケーションの理論
(2018年度以降入学者はコミュニケーションの演習)は必修。
・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。
以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。

専門科目

	掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
					2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
総合人間学コア科目群	142	人間・文化とキリスト教Ⅰ	2	2・3	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	143	人間・文化とキリスト教Ⅱ	2	2・3	後期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	143	キリスト教の人間観Ⅰ	2	2・3・4	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	144	キリスト教の人間観Ⅱ	2	2・3・4	後期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	145	社会福祉の基礎	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	146	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	146	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	後期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	239	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	後期隔週2	キャリア(相談)	○〈2〉	
	229	障害者福祉の諸問題	2	2	キャリア(相談)	2019		○〈2〉
	226	高齢者福祉の諸問題	2	2	キャリア(相談)	2019		○〈2〉
	147	地域福祉論Ⅰ	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	148	地域福祉論Ⅱ	2	2	後期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	243	社会保障論Ⅰ	2	2	キャリア(地域)	2019		○〈2〉
	149	ボランティア・市民活動論	2	2・3	前期1	キャリア(地域)	○〈2〉	
	150	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1	国際	○〈2〉	
	150	児童福祉の諸問題	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	151	教育心理学	2	2	後期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	152	発達心理学(発達障害を含む)→発達心理学	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	153	国際社会福祉概説	2	2	前期1	国際	○〈2〉	
	—	心理療法概説	2	2	閉講	×	○〈2〉	
	154	カウンセリング実技の基本	2	2	前期1	2019	○〈2〉	○〈2〉
	154	カウンセリングの実際　(2018年度まで)　旧カリ科目	2	2	後期1	×	○〈2〉	○〈2〉
	270	心理学研究法Ⅲ(データ解析)→心理学研究法Ⅰ(データ解析)	2	2	キャリア(心理)	2019		○〈2〉
	273	心理検査技法Ⅰ→心理的アセスメント	2	2・3・4	キャリア(心理)	2019		○〈2〉
	155	心理学基礎実験→心理学実験	2	2	後期2	2019	○〈2〉	○〈2〉
総合人間学キリスト教といのち科目群	156	いのち学序説	2	1・2	後期1	後期1	○〈3〉	○〈3〉
	—	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	2019	2019	○〈3〉	○〈3〉
	—	福祉のキリスト教的源流	2	2・3・4	休講	休講	○〈3〉	○〈3〉
	—	社会福祉とキリスト教	2	2・3・4	2019	2019	○〈3〉	○〈3〉
	—	キリスト教と生命倫理	2	2・3・4	2019	2019	○〈3〉	○〈3〉
	157	人間・いのち・世界Ⅰ	2	3・4	前期1	2020	○〈3〉	○〈3〉
	157	人間・いのち・世界Ⅱ	2	3・4	後期1	2020	○〈3〉	○〈3〉
	158	キリスト教の倫理	2	2・3・4	前期1	2020	○〈3〉	○〈3〉
国際プログラム科目群	159	英語特別プログラム(ESP：English for Special Purposes)	1	1・2	教養	後期1		
	159	外国の言語と文化(フィリピノ語)	1	1・2・3・4	教養	後期1		
	150	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	コア	2019		
	153	国際社会福祉概説	2	2	コア	2019		
	242	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	キャリア(地域)	2019		
	—	海外研修A(アジア)	2	1・2・3・4	実践	休講		
	160	海外研修B(欧米)	2	1・2・3・4	実践	集中		
	176	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	実践	2020		
	176	海外インターンシップA(アジア)	2	3	実践	2020		
	177	海外インターンシップB(欧米)	2	3	実践	2020		
総合人間学外国語原典講読科目群	—	英語聖書Ⅰ	1	1・2	閉講	×		
	—	英語聖書Ⅱ	1	1・2	閉講	×		
	193	神学初級演習	2	1	後期1	演習		
	181	旧約聖書原典講読	2	2	前期1	2019		
	182	新約聖書原典講読	2	3・4	前期1	2020		
	—	ドイツ語聖書	2	2	閉講	×		

	掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
					2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
総合人間学外国語原典講読科目群	182	ヘブル語	8	2	通年２	2019		
	183	ギリシア語	8	3	通年２	2020		
	－	ラテン語Ⅰ	2	3・4	2019	2020		
	－	ラテン語Ⅱ	2	3・4	2019	2020		
	184	社会福祉英専門書講読	2	2・3・4	後期１	2019		
	185	臨床心理英専門書講読Ａ	2	2・3・4	前期１	2019		
	186	臨床心理英専門書講読Ｂ	2	2・3・4	後期１	2019		
	187	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2	2・3・4	前期１	2019		
	188	臨床心理英語論文読解Ⅱ	2	2・3・4	後期１	2019		
総合人間学総合演習科目群	126	キャリア概論Ⅰ→キャリアデザイン基礎	2	2・3	**教養**	2019		○〈4〉
	127	キャリア概論Ⅱ→キャリアデザイン実践	2	3	**教養**	2020		○〈4〉
	188	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	**キャリア（相談）**	前期１		
	189	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	**キャリア（相談）**	後期１		
	190	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2	**キャリア（相談）**	2019		○〈4〉
	191	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	**キャリア（相談）**	2020		
	191	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期１	2020		
	192	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	前期１	2021		
	193	キャリアアップゼミ→ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期１	2021		
	193	神学初級演習	2	1	**外国語**	後期１		
	194	キリスト教特講ゼミⅠ	2	2	前期１	2019		
	195	キリスト教特講ゼミⅡ	2	2	後期１	2019		
	195	キリスト教特講ゼミⅢ	2	3	前期１	2020		
	196	キリスト教特講ゼミⅣ	2	3	後期１	2020		
	196	キリスト教特講ゼミⅤ	2	4	前期１	2021		
	197	キリスト教特講ゼミⅥ	2	4	後期１	2021		
	197	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	**キャリア（心理）**	後期１		
	198	卒業演習プレゼミナール	1	3	後期１	2020		
	199	卒業演習Ⅰ	2	3	後期１	2020		
	200	卒業演習Ⅱ	2	4	前期１	2021		
	200	卒業演習Ⅲ	2	4	後期１	2021		
	201	卒業論文	4	4	通年１	2021		
総合人間学実践科目群	160	海外研修　→海外研修Ａ（アジア）海外研修Ｂ（欧米）	2	1・2・3・4	集中	**国際**		
	161	食といのちと環境Ⅰ	2	2・3	前期１	2019		
	162	食といのちと環境Ⅱ	2	2・3	後期１	2019		
	－	ボランティア実習	2	2	休講	休講		
	－	介護技術演習	1	2	閉講	×		
	163	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	後期１	2019		
	164	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	3・4	前期１	2020		
	164	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	3・4	前期１	2020		
	165	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	3・4	後期１	2020		
	166	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	2	4	前期１	2021		
	167	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	2	4	後期１	2021		
	167	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3	後期１	2020		
	168	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4	前期１	2021		
	169	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4	前期１	2021		
	170	ソーシャルワーク実習Ⅰ	4	3・4	前期１	2020		
	170	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	通年１	2021		
	171	ソーシャルワーク実習Ⅲ	4	3・4	通年１	2020		
	－	精神保健福祉現場実習	3	4	閉講	×		
	172	精神保健福祉実習	4	4	前期１	2021		
	173	インターンシップゼミ	2	3	前期１	2020		
	173	インターンシップⅠ	1	3	前期１	2020		
	174	インターンシップⅡ	1	3	前期１	2020		
	175	インターンシップⅢ	1	4	前期１	2021		
	175	インターンシップⅣ	1	4	前期１	2021		
	176	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	後期１	**国際**		
	176・177	海外インターンシップ→海外インターンシップＡ（アジア）、海外インターンシップＢ（欧米）	2	3	後期１	**国際**		
	178	臨床心理実習前演習　（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2	後期１	×		
	－	→心理実習Ⅰ	2	2	2019	2019		
	179	臨床心理実習Ⅰ　（2019年度まで）　旧カリ科目	2	3	前期１	×		
	－	→心理実習Ⅱ	2	3	2020	2020		
	180	臨床心理実習Ⅱ　（2019年度まで）　旧カリ科目	2	3	集中	×		
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	202	世界の宗教Ⅰ	2	2・3・4	前期１	2019		
	203	世界の宗教Ⅱ	2	2・3・4	後期１	2019		
	203	文化史	2	1・2・3	前期１	前期１		
	204	比較文化論	2	3・4	後期１	2020		
	－	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	休講	休講		
	205	日本における死生学	2	4	前期１	2021		
	205	キリスト教と死生学	2	4	後期１	2021		
	206	キリスト教カウンセリング	2	3・4	後期１	2020		
	207	キリスト教の歴史Ⅰ	2	3	前期１	2020		
	207	キリスト教の歴史Ⅱ	2	3	後期１	2020		
	208	聖書入門Ⅰ（旧約）	2	2	前期１	2019		
	209	聖書入門Ⅱ（新約）	2	2	後期１	2019		
	210	旧約聖書精読	2	3・4	前期１	2020		
	211	新約聖書精読	2	3・4	後期１	2020		
	212	旧約聖書の人間観	2	3	後期１	2020		
	212	新約聖書の人物像	2	3	後期１	2020		

	掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
					2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	213	聖書に見るジェンダー	2	3・4	後期1	2020		
	—	スピリチュアリティーと聖書の伝統	2	3・4	2019	2021		
	214	美術史	2	2・3・4	前期1	2020		
	214	キリスト教美術特講	2	2・3・4	後期1	2020		
	215	キリスト教文学特講Ⅰ→キリスト教文学特講	2	1・2	後期1	後期1		
	—	キリスト教文学特講Ⅱ	2	2・3・4	閉講	×		
	216	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年	通年		
	217	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	前期1	2019		
	218	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	後期1	2019		
	—	礼拝音楽と讃美歌	2	4	閉講	×		
	218	日本の宗教Ⅰ	2	3	前期1	2020		
	219	日本の宗教Ⅱ	2	3	後期1	2020		
	220	キリスト教の信仰	2	4	前期1	2021		
総合人間学キャリア形成科目群（福祉相談援助系）	—	社会福祉の歴史	2	1・2・3	閉講	×		
	220	社会福祉入門	2	1	後期1	後期1		
	221	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	後期1	2019		
	222	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	4	後期1	2021		
	223	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	4	前期1	2021		
	223	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	4	後期1	2021		
	224	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	2	3・4	後期1	2020		
	225	介護概論	2	1・2	前期1	前期1		
	226	高齢者福祉の諸問題	2	2	前期1	**コア**		
	227	高齢者福祉論	2	2	後期1	2019		
	229	障害者福祉の諸問題	2	2	前期1	**コア**		
	229	障害者福祉論	2	2	後期1	2019		
	230	保健医療サービス	2	3	後期1	2020		
	231	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2	2	前期1	2019		
	231	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	2	後期1	2019		
	232	精神障害者の生活支援システム	2	2	後期1	2019		
	233	SST	2	2・3・4	前期1 or 後期1	2019		
	234	権利擁護と成年後見制度	2	1・2	後期1	後期1		
	235	公的扶助論	2	2	後期1	2019		
	236	就労支援サービス	2	3	後期1	2020		
	236	更生保護制度論	2	2	後期1	2019		
	237	医学一般→人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1	2019		
	238	精神保健	2	1	後期1	後期1		
	239	精神医学→精神疾患とその治療	2	2	後期1	2019		
	239	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	**コア**	2020		
	240	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1・2・3・4	後期1	後期1		
	188	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1	演習		
	189	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1	演習		
	190	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2	前期1	演習		
	191	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1	演習		
	193	キャリアアップゼミ→ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1	演習		
	241	社会福祉特講A	2	4	後期1	2021		
	242	社会福祉特講B	2	4	後期1	2021		
総合人間学キャリア形成科目群（地域福祉開発系）	242	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1	**国際**		
	149	ボランティア・市民活動論	2	2・3	**コア**	2019		
	243	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1	**コア**		
	244	社会保障論Ⅱ	2	2	後期1	2019		
	245	地域支援技法Ⅰ	2	4	前期1	2021		
	246	地域支援技法Ⅱ	2	4	後期1	2021		
	246	福祉行財政と福祉計画	2	3	集中	2020		
	247	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1	2020		
	248	社会福祉調査	2	3・4	後期1	2020		
	249	福祉実践調査	2	4	前期1	2021		
	250	地域開発総論	2	4	前期1	2021		
	250	社会福祉特講C	2	3	後期1	2020		
総合人間学キャリア形成科目群（子ども支援系）	251	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1	2019		
	252	児童福祉論	2	2	後期1	2019		
	253	レクリエーションとグループリーダー	2	2	後期1	2019		
	—	発達障害の理解	2	2	閉講	×		
	254	障害者・障害児心理学	2	2	後期1	2019		
	—	家族福祉論	1	3	閉講	×		
	255	家族心理学	2	2・3・4	前期1	2019		
	256	子どもと教育	2	3	前期1	2020		
	257	子どもと家族の国際問題と支援	2	3	後期1	2020		
	257	子どものプレイセラピー　（2019まで開講）　旧カリ科目	2	3・4	後期1	×		
	—	プレイセラピーの理論と実際　新カリ科目	1	3・4	2021	2021		
	259	子どものグリーフワーク　（2019まで開講、2021年より奇数年隔年）	1	3・4	後期1	2020		
	258	虐待への対応　（2019まで開講）　旧カリ科目	1	3	後期1	×		
	—	教育カウンセリング→教育・学校心理学	2	2・3・4	後期1	2019		
	260	家族療法	2	2・3・4	後期1	2019		
	—	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	未定	2019		
	261	子ども支援キャリアデザイン	2	1・2・3	前期1	前期1		
	262	野外活動とキャンプ→野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	前期1	前期1		
	263	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1	前期1		
	264	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1	後期1		

	掲載ページ	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況		必修選択等	
					2017年度以前入学者	2018年度以降入学者	2017年度以前入学者	2018年度以降入学者
総合人間学キャリア形成科目群（臨床心理系）	197	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	**演習**		
	265	臨床心理学概説　→心理学的支援法	2	1	前期1	前期1		
	266	臨床心理の倫理（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2・3・4	前期1	×		
	―	公認心理師の職責　　新カリ科目	2	2・3・4	2019	2019		
	267	心理療法演習	2	2・3・4	後期1	2020		
	268	青年心理学	2	1・2・3・4	後期1	後期1		
	269	心理学研究法Ⅰ（統計基礎）→心理学統計法	2	1	後期1	後期1		
	269	心理学研究法Ⅱ（質的研究）→質的研究法	2	2・3・4	前期1	2019		
	270	心理学研究法Ⅲ（データ解析）→心理学研究法Ⅰ（データ解析）	2	2	前期1	**コア**		
	271	質問紙調査法実習　→質問紙調査法	2	3	前期1	2020		
	272	人間行動観察実習→心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）	2	3・4	前期1	2020		
	273	心理検査技法Ⅰ→心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1	**コア**		
	273	心理検査技法Ⅱ　→心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1	2019		
	274	学習心理学→学習・言語心理学	2	2・3・4	後期1	2019		
	275	認知心理学→知覚・認知心理学	2	2・3・4	前期1	2019		
	275	生理心理学	2	2・3・4	集中	2019		
	276	神経心理学→神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1	2019		
	277	カウンセリングの理論→臨床心理学概論	2	1・2	前期1	前期1		
	―	絵画療法	1	2・3・4	閉講	×		
	―	箱庭・コラージュ療法	1	2・3・4	閉講	×		
	277	自律訓練法	1	1・2・3・4	集中	集中		
	278	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1	2019		
	279	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1	2019		
	280	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	前期1or後期1	2019		
	281	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	前期1or後期1	2019		
	282	人格心理学→感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1	2019		
	282	交流分析	2	2・3・4	前期1	2019		
	283	社会心理学　→社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	集中	2019		
	284	産業組織心理学→産業・組織心理学	2	2・3・4	後期1	2019		
	―	精神分析学	2	2・3・4	2019	2019		
	285	ストレス学　（2018年度まで）　旧カリ科目	2	2・3・4	前期1	×		
	―	健康・医療心理学　　新カリ科目	2	2・3・4	2019	2019		
	―	福祉心理学	2	3・4	2020	2020		
	286	犯罪心理学→司法・犯罪心理学	2	2・3・4	集中	2019		
	―	関係行政論	2	2	2019	2019		
	―	心理演習　　新カリ科目	2	2	2019	2019		
	287	臨床心理特講A（大学院進学支援講座）	2	2・3・4	前期1	2019		

専門科目まとめ
・〈2〉総合人間学コア科目群から8単位以上を選択必修とする。
・〈3〉総合人間学キリスト教といのち科目群から4単位以上を選択必修とする。
・〈4〉総合人間学総合演習科目群の「キャリアデザイン基礎」「キャリアデザイン実践」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」より1科目2単位選択必修（2018年度入学者より）
以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。

卒業要件
教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上
専門科目から選択必修を含めて72単位以上
以上を含めて124単位以上を取得することが必要

総合人間学

2単位：前期1コマ	1年　必修
谷口　俊一郎、ジャン・プレゲンズ、ジェームズ・サック、髙山　由美子、山口　麻衣、加藤　純、谷井　淳一	

[到達目標]

(1)人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
(2)地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
(3)大学の理念、5つのコースの内容、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

[履修の条件]

総合人間学部の必修科目であり、新入生は入学初年度に必ず受講すること。

[講義概要]

人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画

第1回　総合人間学とは
第2回　キリスト教における人間理解
第3回　福祉と人間
第4回　地域と人間
第5回　子ども・家族と人間
第6回　こころと人間
第7回　異文化・多文化における人間理解
第8回　コミュニケーションと人間理解
第9回　宇宙より重くかけがえのない存在であるヒト
第10回　生命の誕生
第11回　人の始まりと進化
第12回　いのちの科学
第13回　いのちの意義
第14回　がんの予防
第15回　総合人間学をふりかえって

[成績評価]

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]

「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]

リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次回の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]

1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3. 総合的・実践的な学習能力、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

[テキスト]

10代からのいのち学-あるがん研究者のつぶやき(谷口俊一郎)オフィスエム出版社　定価1404円
それぞれの講義では、テーマに合わせた配布資料がある。

[参考文献]

必要に応じて、講義の時に紹介する。

聖書を読む

2単位：後期1コマ	1年　必修
河田　優	

[到達目標]

聖書を土台とする本学において、これからの専門的な学びのためにまず「聖書を読む」。聖書がなぜ長い歴史の中で多くの人々の心を動かし、愛と奉仕の生き方に向かわせたかを学ぶ。また自分の考えを文章としてまとめる力と、説得力を持って相手に伝える力を養う。

[履修の条件]

必修科目。いずれのコースを希望する者も必ず履修すること。

[講義概要]

旧約・新約聖書全体についての基礎的なオリエンテーションの後、聖書を読み進め、人間や世界についての理解と思索を深める。講義を含むが、全体としてはゼミ形式で進められ、意見を交わしたり、レポートや発表などで学びをまとめていく。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　一人で読む、グループで読む、自然の中で読む、礼拝で読むなど、それぞれの聖書の読み方について
第2回　聖書基礎知識　聖書の成立から現代にいたるまで
世界中で読まれる聖書
第3回　旧約聖書
創世記①　創造物語から神と人との関係を考える
第4回　旧約聖書
創世記②　創造物語から造られた世界と人との関係

を考える
第5回　旧約聖書
歴史・文学　この世界に現れる神の言葉
第6回　旧約聖書
預言書　罪ある人間と神の救いの予告
第7回　私たちの世界と聖書
自然と親しみながら読む聖書
第8回　新約聖書
福音書①　イエス・キリストの降誕と新しい約束について
第9回　新約聖書
福音書②　現代社会に生かされるイエス・キリストの言葉
第10回　新約聖書
福音書③　イエス・キリストの奇跡と現在の文明・科学
第11回　新約聖書
福音書④　イエス・キリストの十字架と復活と私たちのいのち
第12回　新約聖書
使徒言行録　世界宣教へと向かう使徒たちの働き
第13回　新約聖書
使徒の手紙　慰めと励ましの言葉
第14回　映像や音楽から読む聖書
視覚や聴覚による聖書の楽しみ
第15回　礼拝や祈りと聖書
礼拝で語られる聖書、聖書と黙想の体験
第16回　発表
イエスのたとえ話と今日的意味

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発言など授業での積極的な取り組み

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
次回の授業として予告される聖書個所をあらかじめ読んでおく。難しい語句などを予め調べておく。指定された聖書個所についてのレポートなど与えられた課題への取り組み。
「本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。」

[試験・レポート等のフィードバック]
授業で提出したリアクションペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書を読むことにより、キリスト教の愛と命について深く学ぶ。また意見交換を行い、その学びを深める。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会　新共同訳が望ましい)

[参考文献]
特になし。
授業で紹介。

[備考]
学内で行われる礼拝に複数回出席し、礼拝の感想や聖書から語られるメッセージの要約を課題として実施します。

キリスト教概論Ⅰ

2単位：前期1コマ	1年　必修
河田　優	

[到達目標]
①「キリストの心を心とする」という建学の精神に基づいて教育を進める本学ですから、コースに分かれて専門的な学びを始める前に、キリスト教の基本を理解します。
②歴史や芸術など様々な面からキリスト教を学び、私たちの生活に根付いているキリスト教についての知識を深めます。

[履修の条件]
必修。特に条件はありません。キリスト教に関心を持って授業に臨むことを期待します。

[講義概要]
毎時間の授業は、授業ごとにテーマを定め、聖書をはじめて読む学生にもわかりやすくキリスト教を紹介していくことになります。
時には、ビデオなどの視聴覚教材、さらにワークシートなどを用いながら、より理解を深めていきます。
また、随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めていきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
ミッションスクールとしてのルーテル学院Ⅰ　本学のミッションステートメント
第2回　ミッションスクールとしてのルーテル学院Ⅱ　ルーテル学院の礼拝、宗教活動
第3回　キリスト教の教会について、地域の教会紹介
第4回　社会に生きるキリスト者　信仰者として社会奉仕をされている方の講演
第5回　聖書の紹介Ⅰ　成立から私たちの手元に届くまで
第6回　聖書の紹介Ⅱ　旧約、新約聖書の構成
第7回　聖書の紹介Ⅲ　旧約聖書からよく知られている聖書物語
第8回　キリスト教の歴史Ⅰ　使徒たちから始まる教会
第9回　キリスト教の歴史Ⅱ　ルターの宗教改革
第10回　キリスト教の歴史Ⅲ　近代から現代までの教会
第11回　日本とキリスト教　キリスト教伝来から現代の教会
第12回　聖書から見るわたしたちのいのちと性
第13回　キリスト教の暦とわたしたちの生活　クリスマスや結婚式
第14回　キリスト教と芸術　キリスト教美術や音楽の紹介
第15回　まとめ　ミッションスクールであるルーテル学院で学ぶということ

第16回　試験

[成績評価]
試験（70％）、レポート（10％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
発言など授業での積極的な取り組み

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告するので、指定された聖書個所、関連の図書などをあらかじめ読む。復習としては、授業内容と関連した事柄を調べ、毎回ノートにまとめる。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業後に提出されたリアクションペーパーは、次回の授業にフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書をテキストに「神が愛しておられるいのち」について学び、互いのいのちの尊厳のために仕え合う人間性を養っていく。

[テキスト]
旧新約聖書（新共同訳を用いますが、口語訳・新改訳聖書でも可）
キリスト教ハンドブック（本学で配布している冊子）

[参考文献]
土井かおる著　よくわかるキリスト教（PHP 研究所）1,350円
富田正樹著　キリスト教資料集（日本キリスト教団出版局）1,000円

[備考]
授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校の礼拝や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。
その他、特別講師を招いて講義をうかがうこともあります。

キリスト教概論 II

2単位：後期1コマ	1年
河田　優	

[到達目標]
①聖書を読み、特にイエス・キリストの生涯を通して学び、人間を救おうとされる神の愛とその働きについて理解します。
②現代社会のさまざまな問題を、キリスト教的な考え方からも捉えていくことができる程の基礎的学力を得ます。
③福祉やカウンセリング、地域社会や子供などの専門分野での学びにどのようにキリスト教の教えが関わっているかを学び、専門的な学びの土台とします。

[履修の条件]
条件ではないが、キリスト教概論Ⅰを履修済みであることが望ましい。また、キリスト教に関心を持って積極的な発言を期待します。

[講義概要]
毎時間の授業は、聖書から学ぶことが中心です。聖書をはじめて読む学生にもわかりやすく聖書の言葉を解説します。時には、ビデオなどの視聴覚教材、さらにワークシートなどを用いながら、より理解を深めます。
また、随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　日本人の宗教観とキリスト教
第2回　神の存在と人の存在
第3回　神の創造と人間の罪
第4回　救いへの招き　律法と預言を通して
第5回　イエス・キリストの生涯Ⅰ　降誕・公生涯のはじまり
第6回　イエス・キリストの生涯Ⅱ　伝道と奉仕、また奇跡の出来事
第7回　イエス・キリストの生涯Ⅲ　変容とエルサレムへの道
第8回　イエス・キリストの生涯Ⅳ　受難と十字架
第9回　イエス・キリストの生涯Ⅴ　復活と永遠の命
第10回　イエス・キリストの教えⅠ　山上の説教
第11回　イエス・キリストの教えⅡ　さまざまなたとえ話
第12回　聖霊と使徒たちの働き
第13回　愛と奉仕に生きたキリスト者
第14回　現代における命と平和の問題
第15回　遣わされる私たちとキリスト教の教え
第16回　試験

[成績評価]
試験（70％）、レポート（10％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
発言などによる授業への積極的な取り組み。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告、その授業内容に関連の本などを予め読む。また授業内容についてノートを作成する。「本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。」

[試験・レポート等のフィードバック]
時に授業でリアクションペーパーを提出する。そのフィードバックは次回の授業においてなされる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学のディプロマポリシーである「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。特にキリスト教の中心であるイエスの言葉とその生涯を学ぶ中で、隣人への愛について深く学ぶ。

[テキスト]
旧新約聖書（新共同訳を用いますが、口語訳・新改訳聖書でも可）

[参考文献]
土井かおる著　よくわかるキリスト教（PHP 研究所）1,350円
富田正樹著　キリスト教資料集（日本キリスト教団出版局）1,000円

[備考]
授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。礼拝出席の感想を課題とする場合があります。
特別な講師を招いて講義いただくこともあります。

社会福祉原論 I

2単位：前期1コマ	1年　必修
市川　一宏	

[到達目標]
社会福祉原論は、ソーシャルワーカーを目指して学習する起点となる講義で、基礎知識と基礎的援助技術の習得を目標とし、以下の視点で講義を行う。
①社会福祉そのものの基盤となる理念を学ぶ。②社会福祉の展開過程を学ぶ、③最低生活保障である生活保護制度について学ぶ
④歴史や先駆者の働きを通して、今日の社会福祉のあるべき姿を模索する。
⑤制度体系を学習する。

[履修の条件]
卒業に必要な科目である。また「社会福祉援助技術現場実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績以上で単位取得しなければならない。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

[講義概要]
社会福祉を学んでいく導入として、社会福祉の思想、理論、実践を考察し、社会福祉に関わる基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、授業計画に沿って学習を進めていくが、講義だけでなく、事例、視聴覚教材を用い、議論しながら学んでいくことを重視する。

■授業計画
第1回　＜オリエンテーション「今日の社会福祉問題と社会福祉の特徴」＞
家庭崩壊、孤立、貧困、介護、子育て等の社会福祉問題を示し、施設収容・貧困対策中心から在宅福祉、予防重視、利用者の個別性重視へと転換した社会福祉を学習する。
第2回　＜社会福祉の先人から福祉の源流を学ぶ（1）石井十次＞
児童養護の父と言われた石井の足跡をたどり、現在でも示唆を与える小規模養護、教育重視の意味を考える。
第3回　＜社会福祉の先人から福祉の源流を学ぶ（2）糸賀一雄＞
知的障害者の父と言われた糸賀の『福祉の思想』（NHK ブックス）を題材に、発達保障と存在保障を守り続けた糸賀の思想を検証する。
第4回　＜社会福祉の理念と構成＞
福祉の理念「ノーマリゼーション」・「参加と平等」の考え方と実際の施策について学ぶ
第5回　＜社会福祉の歴史「イギリスの歴史から学ぶ（1）」＞
1601年エリザベス救貧法、1834年改正救貧法による厳しい救貧政策の展開を学ぶ。
第6回　＜社会福祉の歴史「イギリスの歴史から何を学ぶか（2）」＞
ビクトリア時代、社会改良期、そして第2次世界大戦にいたる時期を焦点に、COS. セツルメント運動、ブースやラウントリーの貧困調査を踏まえ、社会福祉の源流を学ぶ。
第7回　＜社会福祉の歴史「イギリスの歴史から学ぶ（3）」＞
ベバリッジ等による福祉国家、シーボームによる福祉改革、そして今日における福祉施策の展開を学ぶ。
第8回　＜社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開（1）」＞
恤救規則、救護法という救貧制度を中心に、明治期から第2次世界大戦までの制度を学ぶ。
第9回　＜社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開（2）」＞
第2次世界大戦後の生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法、昭和30年代の精神薄弱者福祉法、老人福祉法、母子福祉法という福祉六法時代の社会福祉を学ぶ。
第10回　＜社会福祉の歴史「日本の社会福祉の展開（3）」＞
高度経済成長を経て、入所施設中心から在宅福祉へ、救貧制度から社会福祉制度へと転換する社会福祉を学び、今日の社会福祉の意義を考える。
第11回　＜社会福祉の定義＞
これまでの講義の整理を行い、慈善事業、社会事業、社会福祉等の言葉の整理を行うとともに、社会福祉の根拠法を示し、組織・法体系を学ぶ。
第12回　＜貧困問題の所在＞
児童の貧困、高齢者の貧困、そして派遣労働者等の労働者の貧困と、貧困問題は拡大している。その現状と問題点を考察する。
第13回　＜生活保護の仕組みと現状＞
生活保護制度の原理と運用の原則を軸に、扶助、福祉事務所の体制、施設等、生活保護制度の仕組みを学ぶ。
第14回　＜生活保護の課題と生活困窮者自立支援＞
現在の生活保護が直面する課題を明らかにしつつ、新たに発足した生活困窮者自立支援制度の意義と今後の課題について学ぶ。
第15回　＜総括と評価＞
第16回　試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
・期末試験の評価を中心に成績70%
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する

評価30%
・なお、出席については、4分の3以上を求める。
成績は、原則として、秀、優、良とし、その基準に達しない場合には、単位を取得できない。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。教科書を学習すること。またレジメを配布するので、復習すること。なお、質問に対しては、随時アドバイスを行う。

[試験・レポート等のフィードバック]
前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

[テキスト]
山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房、随時レジメを配布し、講義を補強します。

[参考文献]
厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

社会福祉原論 II

2単位：後期1コマ	1年
市川　一宏	

[到達目標]
社会福祉原論は、ソーシャルワーカーを目指して学習する起点となる講義で、基礎知識と基礎的援助技術の習得を目標とし、以下の視点で講義を行う。
①高齢者、児童、障害者等の生活問題を理解する。
②高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉等の各分野の社会福祉制度の現状と課題を理解する。
③各分野に共通する地域福祉の現状について理解する。
④社会福祉士等の専門職、児童相談所等の専門機関、専門的援助の知識および実践を理解する。

[履修の条件]
社会福祉士受験資格を取得する学生は、本科目を一定の成績以上で単位取得しなければならない。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

[講義概要]
社会福祉問題に関する客観的な分析を行い、社会福祉制度・政策等の体系的理解を目指す。今日の社会福祉は、経済的貧困とともに、高齢者や障害者の介護、自立生活を妨げるバリアーの問題、児童を養育する家庭基盤が揺らぎと子育ての難しさ、地域における孤立等、多様かつ広範な問題に取り組んでいる。本講義では、受講生が問題を認識し、福祉制度の考え方やサービスの意味を理解できるよう、事例や調査結果を活用し、互いの学びを深める。

■授業計画

第1回　＜社会福祉制度体系と近年の動向＞
社会福祉法および児童福祉法、老人福祉法等の福祉関係法を踏まえ、近年の社会福祉の動向を考察する。

第2回　＜児童福祉問題の所在＞
家庭では養育できない養護児童、両親の就労等による保育を要する児童、被虐待児童、非行児童が直面する様々な生活課題と、児童が成長するために必要な支援について検討する。

第3回　＜児童福祉の制度体系と運営＞
児童福祉法、児童虐待防止法の基本的内容を学び、社会的養護の考え方、保育対策について検討する。その際、児童相談所、福祉事務所、家庭裁判所等の役割について、検討する。また、非行児童を生み出す要因、犯罪の再犯をもたらす要因を明確にし、児童福祉法、少年法、刑法、犯罪者予防更正法による基本的な自立支援システムを学習する。

第4回　＜高齢者福祉問題の所在＞
人口の高齢化と少子化による社会の影響、高齢者の孤立、高齢者世帯の小規模化、認知症高齢者等の要介護高齢者の増加、高齢者の経済的問題等を提示し、高齢者福祉の役割を検討する前提を明確にする。

第5回　＜高齢者福祉の体系と運営＞
介護保険を含む高齢者福祉制度を検討するとともに、高齢者の生活を支える住宅保障、バリアフリー施策、保健医療等のサービスの現状と課題を提起する。

第6回　＜障害者（身体障害児者・知的障害児者・精神障害者）問題の所在＞
障害の定義と障害者が直面する様々な生活課題を検証するとともに、障害者福祉制度が取り組む障害者の課題を明確化する。

第7回　＜障害者福祉の体系と運営＞
児童福祉法による障害児福祉制度、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、障害者総合支援法等の基本的内容について学習する。

第8回　＜家族の意味を問う＞
社会福祉は、家族がどのように関わるか、または家族をどのように支援し、家族の代わりにどのように当事者を支援してきたか、家族の意味を問いながら、検討する。

第9回　＜母子・父子福祉問題の所在と福祉の運営＞
離婚の増加にともない、増加する母子・父子世帯が直面する生活課題を検証し、母子・父子福祉制度につ

いて学習する。
第10回　＜医療福祉問題の所在と医療福祉・医療ソーシャルワーカーの役割＞
疾病や障害をもち、保健医療との関わりが強調されている今日、医療、病院等の保健医療の場において、社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る医療ソーシャルワーカーの果たす役割に対する期待が増加しており、専門職の役割を学習する。
第11回　＜地域福祉問題の所在＞
住民間の関わりの減少と家族の小規模化、住民のニーズの多様化に伴い、孤立、自殺、虐待が顕著に増加している。
第12回　＜地域福祉システムの現状と課題1＞
地域福祉の推進者・機関である社会福祉協議会・NPO 法人・ボランティア、民生委員等の役割を検討するとともに、行政、社会福祉法人や社会福祉協議会等の民間非営利組織、住民、専門職との協働のあり方について学習する。
第13回　＜地域福祉システムの現状と課題2＞
地域福祉の推進者・機関である社会福祉協議会・NPO 法人・ボランティア、民生委員等の役割を検討するとともに、行政、社会福祉法人や社会福祉協議会等の民間非営利組織、住民、専門職との協働のあり方について学習する。
第14回　＜社会福祉の援助技術と専門従事者＞
社会福祉制度が対応する生活課題は、複雑化、多様化、深刻化しており、それらの解決を援助する専門職の専門性が求められている。ソーシャルワークの専門性を考察し、社会福祉士等に求められる役割を学習する。
第15回　＜総括と評価＞
後期のふりかえりを行い、特に学習すべき点を確認する
第16回　試験

［成績評価］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

［成績評価（備考）］
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％
・なお、出席については、4分の3以上を求める。
・成績は、原則として、秀、優、良とし、その基準に達しない場合には、単位を取得できない。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。教科書を学習すること。またレジメを配布するので、復習すること。なお、質問に対しては、随時アドバイスを行う。

［試験・レポート等のフィードバック］
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

［テキスト］
山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房、随時レジメを配布し、講義を補強します。

［参考文献］
厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

［備考］
毎回、レジメと教科書を持参のこと

心理学

2単位：前期1コマ	1〜2年　必修
松田　崇志	

［到達目標］
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

［履修の条件］
特になし
※後期の「心理学概論」と連続した内容である。

［講義概要］
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。前期の心理学では，「錯視はなぜ起きるのか?」「どうしたら効率的に記憶できるのか?」といった人間の情報処理についての内容や，「人は生涯にわたりどのように発達していくのか?」「発達障害とはどんな障害なのか?」といった発達についての内容を中心に扱う。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，講義の進め方，心とは?
第2回　心理学とは何か?
第3回　知覚①：視知覚

第4回　知覚②：注意の仕組み
第5回　知覚③：注意の障害
第6回　記憶①：記憶の仕組み
第7回　記憶②：記憶術
第8回　記憶③：日常生活における記憶
第9回　前半の内容のまとめと小テスト
第10回　学習①：条件付け
第11回　学習②：運動学習，観察学習
第12回　発達①：乳幼児・児童・青年
第13回　発達②：成人・老年
第14回　発達③：発達障害の基礎
第15回　まとめ
第16回　試験

［成績評価］
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（20％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

［成績評価（備考）］
小テストと最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業後に，配布資料を見返す，授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回に事後学習4時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，小テストの解答・解説はテストが実施された翌週に行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

［テキスト］
特になし

［参考文献］
①内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学（第16版）」　金剛出版　2015年　（本体価格：22,000円+税）
②無藤隆他「心理学（New Liberal Arts Selection）」　有斐閣　2004年　（本体価格：3,700円+税）
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門――人の心を知る科学（有斐閣ストゥディア）」　有斐閣　2015年（本体価格：1,800円+税）
④青木紀久代・神宮英夫　「カラー版　徹底図解　心理学」新星出版社　2008年　（本体価格：1,500円+税）

［備考］
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

心理学概論

2単位：後期1コマ	1〜2年
松田　崇志	

［到達目標］
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

［履修の条件］
特になし。
※前期の「心理学」と連続した内容である。

［講義概要］
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義では，「心理学の成り立ち」と「人の心の基本的な仕組み及び働き」について対人関係や集団における心理，不適応や心の健康についての内容を扱い，解説していく。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
授業はパワーポイントを用いて行いて行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，講義の進め方，授業に使用する参考文献の紹介
第2回　心理学の成り立ちと展開
第3回　対人関係（1）：印象形成
第4回　対人関係（2）：親密な関係
第5回　社会的認知（1）：原因帰属
第6回　社会的認知（2）：ステレオタイプと対人認知
第7回　集団（1）：同調
第8回　集団（2）：大衆の心理
第9回　前半の内容のまとめと小テスト
第10回　精神障害（1）：心の健康と不適応
第11回　精神障害（2）：統合失調症
第12回　精神障害（3）：うつ病
第13回　心理療法
第14回　ストレス
第15回　まとめ
第16回　試験

［成績評価］
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（35％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（15％）

［成績評価（備考）］
小テストと最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業後に，配布資料を見返す，授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回に事後学習4時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，小テストの解答・解説はテストが実施された翌週に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
①内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学（第16版）」 金剛出版 2015年 （本体価格:22,000円+税）
②無藤隆他「心理学（New Liberal Arts Selection）」 有斐閣 2004年 （本体価格:3,700円+税）
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門−−人の心を知る科学（有斐閣ストゥディア）」 有斐閣 2015年（本体価格:1,800円+税）
④青木紀久代・神宮英夫 「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 （本体価格:1,500円+税）

[備考]
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

現代生命科学 I

2単位：前期1コマ	1〜4年
谷口 俊一郎	

[科目補足情報]
現代生命科学ⅠとⅡの関係は、前者が背景、考え方中心、後者はやはり考え方中心であるが具合的に現代生命科学の概略理解に重点を置く

[到達目標]
現代の生命科学による生命、特に人間の地球生物における位置付けとその生死を分子レベルから理解する、同時に現代生命科学の成果からは理解し難い「いのち」の側面があることを把握し、科学の有用性と限界を認識する。現代生命科学を理解するための基礎的考え方に慣れる。

[履修の条件]
記憶よりも考えることに重きを置くので積極的に自分の考え、不明な点を発表すること。授業ごとに課題を示すので、レポートを原則として次の授業で提出すること、また必要に応じて知識面の小テストを行うので受けること。

[講義概要]
最初に科学の考え方を科学史、科学哲学の側面から解説し、キリスト教信仰との関わりなどについて講義形式で行う。現代科学の始まり、その特徴、そして現代科学が理解する、宇宙の始まり、そして生命の始まり、ヒト生物の始まりを概観する。現代科学の一つとしての生命科学の具体的成果、得られた知識を理解するための基礎的考え方に重きを置いて説明する。理解を深めるため、グループディスカッションも取り入れる。

■授業計画
第1回 イントロダクションー私の生命科学との関わり
第2回 考えるということについてー質問の整理（HowとWhy）
第3回 現代科学の始まりー科学革命はキリスト教との争いだったのか?
第4回 現代科学の考え方ー生命科学は暗記科目ではない、数学、物理から生物学まで概観
第5回 宇宙の始まりから地球の始まり
第6回 生命の始まりからー研究の方法と細胞の始まり
第7回 ヒト生物ー多細胞の誕生、DNA 科学からヒトの起源と謎
第8回 現代生命科学でわかることとわからないこと
第9回 生命の基本単位である細胞の構造・機能・遺伝子（DNA）について
第10回 細胞が生きるということ、死ぬということー細胞計画死
第11回 がんを通して見るいのちーがん研究の自分史
第12回 がんを通して見るいのちーがん発生の仕組み（遺伝子の傷を考える）
第13回 がんを通して見るいのちーがんが難病と言われる理由
第14回 がんを通して見るいのちー遺伝子レベルから見る治療と予防
第15回 がんを通して見るいのちーがんから学ぶこと、多様性の重要性、がんは細胞が死ねない病気
第16回 総論ーヒト（自分）は如何に生きているか、生きるかーHow?
ヒト（自分）はなぜ生きるか、生きる意義・目的は何かーWhy?

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（20%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
本授業では考え方を学ぶのが目的なので授業中の質問、意見発表による積極性を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業ごとに2時間（予習・復習）を必要とする、合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとに、課題を示しあるいは自分の考え方を要求するので、それに対してレポートを次の授業で提出すること。最低必要な知識を確認するために、必要に応じて小テストを行う。提出された内容、テスト解答については翌週の講義中にコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
現代生命科学の考え方や知識、ま現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を得、また意見交換を行うことによっ

て、1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

[テキスト]
10代からのいのち学ーあるがん研究者のつぶやき(谷口俊一郎)オフィスエム出版社　定価1404円

[参考文献]
池上彰が聞いてわかった生命のしくみ(岩崎博史、田口英樹)朝日新聞出版　1500円+税
現代生命科学(東京大学生命科学教科書編集委員会編)羊土社　2800円+税

現代生命科学 II

2単位：後期1コマ	1〜4年
谷口　俊一郎	

[科目補足情報]
現代生命科学 I と II の関係は、前者が背景、考え方中心、後者はやはり考え方中心であるが具合的に現代生命科学の概略理解に重点を置く

[到達目標]
現代生命科学の成果を理解し、自然、生命、人間を多面的に深く理解すると同時に科学でわかること、わからないことを明確に把握する。

[履修の条件]
記憶よりも考えること理解することに重きをおくこと、従って自分の考え、不明な点を積極的に発表すること。授業ごとに課題を示すので、レポートを原則として次の授業で提出すること、また必要に応じて知識面の小テストを行うので受けること。

[講義概要]
教科書に沿って、各項目ごとに講義形式でパワーポイントなどを用い説明を行う。その際、現代生命科学 I で触れた背景や考え方を必要に応じて復習する。内容の理解を深めるためにグループディスカッションを行う。

■授業計画
第1回　生命科学と現代社会の関わり(1)
第2回　生命科学と現代社会の関わり(2)
第3回　生命はどのように設計されているか
第4回　ゲノム情報はどのように発現するのか
第5回　複雑な体はどのようにしてつくられるか
第6回　脳はどこまでわかったか
第7回　がんはどのような現象か(1)ー基礎生物
第8回　がんはどのような現象か(2)ー予防と治療
第9回　私たちの食と健康の関係
第10回　ヒトは病原体にどのように備えるか
第11回　環境と生物はどのようにかかわるか
第12回　生命科学技術はここまで進んだ(1)
第13回　生命科学技術はここまで進んだ(2)
第14回　生命倫理はどこに向かいつつあるのか
第15回　生命や生物の不思議をどのように理解するか(1)
第16回　生命や生物の不思議をどのように理解するか(2)

[成績評価]
試験(20%)、レポート(30%)、小テスト(10%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問、発表から積極的に学ぶ姿勢を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業ごとに2時間(予習・復習)を必要とする、合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとに、課題を示しあるいは自分の考え方を要求するので、それに対してレポートを次の授業に提出すること。最低必要な知識を確認するために、必要に応じて小テストを行う。提出あるいはテストのコメント・解答を翌週の授業で示す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
現代生命科学の考え方や知識、現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を得、1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

[テキスト]
現代生命科学(東京大学生命科学教科書委員会編)　羊土社　2800円+税
現代生命科学(東京大学生命科学教科書編集委員会編)羊土社

[参考文献]
10代からのいのち学ーあるがん研究者のつぶやき(谷口俊一郎)オフィスエム出版社　1404円
池上彰が聞いてわかった命のしくみ(岩崎博史、田口英樹)朝日新聞出版　1500円+税

スポーツと健康(体育実技を含む)A

2単位：前期1コマ	1〜2年
仲宗根　森敦	

[到達目標]
　生涯にわたり健康で豊かな生活をおくるためには、日常的な運動・スポーツの実践が重要であり、自身の体調を管理する方法や栄養学的な知識の習得が必要不可欠である。この講義では、生活習慣病の予防、運動を介した体調管理、日常的に運動に親しむような態度や知識を獲得することを目的とする。

[履修の条件]
①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること

[講義概要]

健康で豊かな日常生活を過ごすためには運動に対する理論的な知識や技術、態度といったものが不可欠になります。そのような運動に対する知識を学び、簡単な運動を行うことで自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学んで行きます。

■授業計画

第1回　「ガイダンス」 授業の目的と進め方について概説する
第2回　（実技①）「測定①体力テスト」体力テストを実施しコンディショニングを把握する
第3回　（実技②）「測定②体力テスト」体力テストを実施しコンディショニングを把握する
第4回　（実技③）「ウォーキング」脂肪燃焼を目的とした有酸素トレーニングを実践する
第5回　（実技④）「低強度のランニング」脂肪燃焼を目的とした有酸素トレーニングを実践する
第6回　（実技⑤）「ラジオ体操」ラジオ体操を実践する
第7回　（実技⑥）「体つくり運動」動くことを楽しむための体つくりの運動を実践する
第8回　（実技⑦）「なわとび①」なわとびの実践
第9回　（実技⑧）「なわとび②」高難度のなわとびの実践
第10回　（講義①）健康について
第11回　（講義②）運動と栄養
第12回　（講義③）運動と心
第13回　（講義④）生活習慣病とその予防①
第14回　（講義⑤）生活習慣病とその予防②
第15回　（講義⑥）運動の技術について
第16回　まとめ・レポート作成

[成績評価]

試験（0％）、課題レポート（40％）、毎回の小レポート（60％）

[成績評価（備考）]

講義全体の２／３以上の出席をしていること。
小レポートの提出をすること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では　各授業回に４時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

３総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

[テキスト]

テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

[参考文献]

なし

[備考]

各自運動着および運動用のシューズを用意すること。

スポーツと健康（体育実技を含む）B

2単位：前期1コマ	1～2年
仲宗根　森敦	

[到達目標]

健康な生活を生涯にわたり営むには、運動の実践やスポーツ活動への参加が必要不可欠である。日常的な運動・スポーツの実践は身体に様々な適応と変化をもたらす。生活習慣病の予防や減量などのポジティブな適応や、突然死や熱中症などのネガティブな側面も有する。本講義では、運動に対する知識を学び、自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学部ことを目的とする。本講義は座学と実技を融合して行う。

[履修の条件]

①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること

[講義概要]

講義にて、運動が身体に与える生理的な適応を概説する。不活動が健康に与える影響、生活習慣病の予防における運動の役割、熱中症のメカニズムなどの知識を獲得した後に、生涯にわたり実践できるポピュラーなスポーツ・運動を実践する。その際、教場は学内および近隣の公園を最大限に活用する。

■授業計画

第1回　ガイダンス、オリエンテーション（講義の進め方および実技に対する注意事項等の説明）
第2回　（講義）「不活動と健康」身体に対する不活動の影響を理解する
第3回　（講義）「トレーニングと代謝・ダイエット」ウエイトコントロールと運動・栄養の関係を理解する
第4回　（講義）「運動と呼吸循環」運動に対する呼吸循環の適応とそのメカニズムを理解する
第5回　（講義）「筋機能と神経」巧みな運動を可能にする神経系と筋の関係について理解する
第6回　（講義）「体温調節と熱中症」体温調節の仕組みと熱中症の要因を理解する
第7回　（実技）スポーツ実践①フットサル
第8回　（実技）スポーツ実践①フットサル
第9回　（実技）スポーツ実践②バスケットボール
第10回　（実技）スポーツ実践②バスケットボール
第11回　（実技）スポーツ実践③バレーボール
第12回　（実技）スポーツ実践③バレーボール
第13回　（実技）スポーツ実践④ティーボール
第14回　（実技）スポーツ実践④ティーボール
第15回　（実技）スポーツ実践のまとめ

第16回　まとめ・レポート作成

[成績評価]
試験（0％）、課題レポート（40％）、毎回の小レポート60％

[成績評価（備考）]
講義全体の２/３以上の出席をしていること。
小レポートの提出をすること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
　実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では　各授業回に４時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
３総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

[テキスト]
テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

[参考文献]
なし

[備考]
各自運動着および運動用のシューズを用意すること。

地球と宇宙 I

2単位：前期1コマ	1〜4年
田辺　俊彦	

[到達目標]
天文学を学ぶことにより科学的な発想法，論理的な考え方を身につけ，未知の問題に対処する能力を養うことを目標とする．

[履修の条件]
天文学，自然科学一般に興味を有する者．
続けて「地球と宇宙 II」を履修することが望ましい．

[講義概要]
現代天文学概論の講義を行う．
地球と宇宙 I では主に太陽系内天体を扱う．

■授業計画
第1回　天文学とは
第2回　電磁波の性質，天文学における観測，望遠鏡
第3回　宇宙の大きさ，宇宙の諸階層，天球座標
第4回　地球の運動，月の運動
第5回　暦，時間と時刻
第6回　惑星の運動
第7回　力学と万有引力の法則
第8回　スペース・ミッション，惑星の科学
第9回　惑星各論（内惑星）
第10回　惑星各論（外惑星，衛星，環）
第11回　太陽系内の小天体
第12回　太陽系外縁天体，惑星の新しい定義，新しい太陽系の姿
第13回　太陽系の形成
第14回　太陽の物理
第15回　巨大隕石の衝突，恐竜の絶滅
第16回　試験

[成績評価]
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする．合計15回の授業で60時間となる．

[試験・レポート等のフィードバック]
試験のフィードバックは行わない．

[ディプロマポリシーとの関連性]
総合的・実践的な学習能力に該当する．

[テキスト]
使用しない．

[参考文献]
適宜紹介する．

地球と宇宙 II

2単位：後期1コマ	1〜4年
田辺　俊彦	

[到達目標]
天文学を学ぶことにより科学的な発想法，論理的な考え方を身につけ，未知の問題に対処する能力を養うことを目標とする．

[履修の条件]
天文学，自然科学一般に興味を有する者．
「宇宙と地球 I」を履修していることが望ましい．

[講義概要]
I に引続き現代天文学概論の講義を行う．
地球と宇宙 II では太陽系外天体を扱う．

■授業計画
第1回　輻射とスペクトル
第2回　星座と恒星，年周視差と距離，恒星の運動
第3回　恒星の明るさ，等級

第4回　恒星の色, 恒星のスペクトルとスペクトル型
第5回　HR 図, HR 図と恒星の分類
第6回　散開星団と球状星団, HR 図と星団
第7回　恒星のエネルギー, HR 図と恒星の進化, 元素の起源
第8回　連星・重星, 変光星, 高密度星とブラックホール
第9回　脈動型変光星の周期・光度関係, 恒星までの距離決定
第10回　我々の銀河系
第11回　星間物質, 星団, 星の誕生
第12回　銀河の分類, 様々な銀河
第13回　ハッブルの法則, 銀河団, 銀河の進化
第14回　初期宇宙, 宇宙の起源と進化
第15回　地球外文明
第16回　試験

[成績評価]
試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする. 合計15回の授業で60時間となる.

[試験・レポート等のフィードバック]
試験のフィードバックは行わない.

[ディプロマポリシーとの関連性]
総合的・実践的な学習能力に該当する.

[テキスト]
使用しない.

[参考文献]
適宜紹介する.

憲法

2単位：前期1コマ	1〜2年
金子　和夫	

[到達目標]
国の最高法規である日本国憲法について理解する。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験、各種公務員採用試験や教員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格を希望する者は、「権利擁護と成年後見制度」とあわせて履修すること。それ以外の者もそうしてほしい(「法学」履修)。

[講義概要]
本講義は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに、三権分立や地方自治についても講義する。

■授業計画
第1回　ガイダンス授業(法の一般理論)
第2回　憲法の基本原理
第3回　国民主権
第4回　平和主義
第5回　基本的人権の一般理論(幸福追求権)
第6回　基本的人権の一般理論Ⅱ(平等権)
第7回　自由権Ⅰ(精神的自由)
第8回　自由権Ⅱ(人身の自由)
第9回　自由権Ⅲ(経済的自由)
第10回　社会権Ⅰ(生存権)
第11回　社会権Ⅱ(生存権に関する判例)
第12回　社会権Ⅲ(教育権、勤労権、労働基本権)
第13回　三権分立(その抑制と均衡)
第14回　財政(政教分離原則、公私分離原則)
第15回　地方自治(自治体の事務、条例)
第16回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
憲法に規定される基本的人権を始めとした理念・原則・条文に関し、新聞記事や TV ニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につける。

[テキスト]
『ポケット六法』(平成30年版)(有斐閣、2,000円、税込)
その他講義資料を配布する。

[参考文献]
憲法に関する文献は、専門的な研究書から受験参考書まで数

多くあるので、自分で使いやすい文献を利用すること。
渋谷他『憲法1・2・3』<有斐閣アルマ>（有斐閣）
初宿他『いちばんやさしい憲法入門』<有斐閣アルマ>（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（有斐閣）など

［ 備考 ］
授業はキャッチボール形式です。教員の質問に対し多くの学生に答えてもらう形式で進めます。

法学

2単位：後期1コマ	1〜2年
金子　和夫	

［ 到達目標 ］
民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などを概観し、教員採用試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

［ 履修の条件 ］
本科目は「憲法」とあわせて履修してほしい。社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験希望者は「権利擁護と成年後見制度」を参照すること。

［ 講義概要 ］
民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度やそれに係る機関・専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。

■授業計画
第1回　ガイダンス（相談援助の必要な法律問題）
第2回　憲法の基本原理（基本的人権を中心に）
第3回　行政法（行政処分と不服申立て）
第4回　民法（契約と消費者保護）
第5回　民法（国家賠償を含む損害賠償）
第6回　民法（夫婦とDV防止法）
第7回　民法（親子と児童虐待防止法）
第8回　民法（扶養・相続と高齢者虐待防止法）
第9回　民法（権利能力、行為能力）
第10回　成年後見制度（制度の概要）
第11回　成年後見制度（任意後見を含めた動向）
第12回　成年後見制度（その実際）
第13回　権利擁護制度（専門機関）
第14回　権利擁護制度（専門職）
第15回　権利擁護制度（権利擁護制度の実際）
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（80%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

［ テキスト ］
『ポケット六法』（平成30年版）（有斐閣、2,000円、税込）
その他講義資料を配布する。

［ 参考文献 ］
憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。
川井健『民法入門』（有斐閣）
石川他『はじめての行政法』<有斐閣アルマ>（有斐閣）
『権利擁護と成年後見制度』（中央法規）
『法学』（全国社会福祉協議会）など

［ 備考 ］
授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

社会学

2単位：前期1コマ	1〜2年
李　侖姫	

［ 到達目標 ］
社会学の基本的な概念と考え方に慣れ親しみ、日常生活で経験する個人的な出来事を社会学的な視点で読み解く力を学習することを目的とします。日々の生活の中で、様々な社会現象を社会学的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを到達目標とします。

[履修の条件]
特になし。

[講義概要]
本講義の目的は、社会学的なものの見方・考え方を身につけることです。講義内容は、社会学理論、文化、ネットワークなどを中心にして社会の諸側面について考察します。特に、基本的な社会学概念を学習しながら、いかにして個人的な経験が社会過程によって作られるのかについて考えます。個人的な出来事が社会的な出来事とどのように結びついているのかを意識することで、これまでとは少し違うものの見方や考え方ができるようになることを期待しています。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進めます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　：社会学とは何か、授業を社会学的視点から観察してみよう
　社会学の基本的な分析レベル（ミクロ・メゾ・マクロ）
第2回　理論とは何か：社会学と科学、理論、概念、命題、仮説
第3回　社会学理論：①機能理論
第4回　社会学理論：②紛争理論
第5回　社会学理論：③象徴的相互作用理論
第6回　社会学理論：④交換理論
第7回　文化とは何か：文化の特性、文化の基本的要素、文化遅滞、エスノセントリズム、下位文化、文化と社会
第8回　ウェーバーの理論：プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
第9回　社会的相互作用：一次的関係、二次的関係、競争、協同、準拠集団
第10回　社会構造：地位と役割、役割葛藤
第11回　組織：官僚制の特徴
第12回　ネットワーク：ネットワークとは何か、紐帯の内容と強さ、密度
第13回　ネットワークの構造と機能：閉鎖型と開放型ネットワーク
第14回　ネットワークと起業活動：女性起業家研究
第15回　補足とまとめ
第16回　試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法として「リアクションペーパー」を提出してもらいます。
リアクションペーパーは14回目の授業で提出してもらいます。
試験は客観テストを実施します（◯×式問題、選択問題、語群から適切な語を選択し文の空所を埋める問題）。 試験は「資料の持ち込み不可」です。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、講義で配布するプリントの内容を確認し、そこで学習した概念や用語について復習してください。すなわち、毎回の講義には、すでに配布されたプリントの内容を復習して受講することが求められます。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習など）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは最終回の授業で行います。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当します。この科目を履修することにより、社会、経済、文化と個人（人間）との関係を社会学的にとらえ、総合的に考えることができるようになります。特に、「私たちが他者との関係の中に存在し、共に生かされていること」を理解し、個人的な出来事が社会的な出来事とどのように結びついているのかという「社会学的なものの見方・考え方」を身につけることができます。

[テキスト]
教科書は特に指定しません。毎回、穴埋め式のプリントを配布します。

[参考文献]
1. 高根　正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
2. 渡辺　深（2002）『経済社会学のすすめ』八千代出版
3. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳（2009）『社会学第5版』両立書房

社会学 II

2単位：後期1コマ	1〜2年
李　命姫	

[到達目標]
社会学の基本的な概念と考え方に慣れ親しみ、日常生活で経験する個人的な出来事を社会学的な視点で読み解く力を学習することを目的とします。日々の生活の中で、様々な社会現象を社会学的に考えてみるという訓練、そして、社会関係を構築するための実践的な思考力を身につけることを到達目標とします。社会学Ⅱの講義では、特に社会学の各領域に関する基本的な概念によって具体的な内容を理解し、そして、調査方法全般について勉強します。

[履修の条件]
社会学Ⅱを履修するには、社会学Ⅰが履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
講義内容は、社会化、ジェンダー、ライフコース、文化と消費、企業とネットワーク、逸脱、宗教、社会変動などを中心にして社会の各領域について考察します。そして、社会調査法の講義を通して、様々な調査法（サーベイ、実験、観察、文書分析）について勉強します。本講義は、配布資料を解説する講義形式で進めます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：講義の進め方、参考文献の紹介など
第2回　社会化：生まれか育ちか？社会階層と社会化、社会化のエージェント
第3回　ジェンダー：性とジェンダー、ジェンター役割と社会化
第4回　ライフコース：個人の人生と歴史的出来事、社会構造との関係
第5回　文化と消費：準拠集団と消費、地位と消費、クチコミ
第6回　企業とネットワーク：産業と企業間ネットワーク、起業家とネットワーク
第7回　逸脱：デュルケム、マートンのアノミー概念、ラベリング理論
第8回　宗教：宗教の定義、基本要素、宗教と社会秩序、宗教と近代化
第9回　社会変動：古典理論（マルクス、ウェーバー、デュルケム）と現代の理論
第10回　社会調査法1回目：理論と方法との関係、科学の循環過程、帰納と演繹
第11回　社会調査法2回目：サーベイ法
第12回　社会調査法3回目：実験法
第13回　社会調査法4回目：観察法
第14回　社会調査法5回目：文書分析法
第15回　補足とまとめ
第16回　試験

［成績評価］

試験（80%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］

その他の評価方法として「リアクションペーパー」を提出してもらいます。
リアクションペーパーは14回目の授業で提出してもらいます。
試験は客観テストを実施します（○×式問題、選択問題、語群から適切な語を選択し文の空所を埋める問題）。 試験は「資料の持ち込み不可」です。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］

毎回、講義で配布するプリントの内容を確認し、そこで学習した概念や用語について復習してください。すなわち、毎回の講義には、すでに配布されたプリントの内容を復習して受講することが求められます。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習など）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］

リアクションペーパーに対するフィードバックは最終回の授業において行います。

［ディプロマポリシーとの関連性］

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当します。この科目を履修することにより、社会、経済、文化と個人（人間）との関係を社会学的にとらえ、総合的に考えることができるようになります。特に、「私たちが他者との関係の中に存在し、共に生かされていること」を理解し、個人的な出来事が社会的な出来事とどのように結びついているのかという「社会学的なものの見方・考え方」を身につけることができます。

［テキスト］

教科書は特に指定しません。毎回、穴埋め式のプリントを配布します。

［参考文献］

1. 高根　正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書
2. 渡辺　深（2002）『経済社会学のすすめ』八千代出版
3. アンソニー・ギデンズ著、松尾清文ほか訳（2009）『社会学第5版』両立書房

文学

2単位：前期1コマ	1〜2年
黒木　章	

［到達目標］

日本近代文学入門。話題にされながら未だ読んだことがない作品は多いと思う。ここでは明治維新以来の日本近代文学の作品をほぼ10年ごとに輪切りしてその年々に発表された小説類について、作品の時代背景や作家自身の問題を重ねながら講読することで明治文学史の大枠をつかめるようにする。

［履修の条件］

特にない。文学する楽しみや読みの醍醐味を味わいたい人を歓迎するが、駆け足になったり精読になったりするので、ほぼ毎回配布するプリントによって自分の「講義ノート」を作り、積極的参加とフィードバックペーパーや授業中の質疑応答を希望する。

［講義概要］

1872年の福沢諭吉『学問のすすめ』をはじめ、ほぼ10年ごとに発表された周知の作品を扱って、それぞれの作品についてどんな問題があるのか、なぜ話題にされるのか、どんな文学史的な意義があるのかなどを検証し理解する。

■授業計画

第1回　導入。扱う作品の簡単な解説と問題点の指摘。受講上の注意等。
第2回　福沢諭吉『学問のすすめ』（1872）読解。アメリカ独立宣言、『西洋立志篇』等との連関について。
第3回　同上。
第4回　同上。
第5回　「民権かぞへ歌」（2880）とその周辺。自由民権運動、帝国憲法等との連関。
第6回　同上。
第7回　森鴎外『舞姫』（1890）読解。
第8回　同上。
第9回　同上。
第10回　同上。
第11回　泉鏡花『高野聖』（1900）読解。
第12回　同上。
第13回　同上。
第14回　同上。

第15回　谷崎潤一郎『刺青』(1910)読解。
第16回　同上

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
学期途中で小レポート(2000字程度)を1～2回課す。
課題提出・成績評価の一部となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①授業には扱う作品を読了して自分なりの課題をもって参加すること。②配布するプリントを予復習に役立てる必要がある。①②が十分出来ているかどうか授業中に担当者が質問等で確かめて「その他評価方法」に加味する。本科目では、各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
学期途中に課す小レポートで提出されたものに沿ってそれぞれにコメントしてさらなる深化・発展を指示する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」 に該当する。人間は他者との関係性の中で生きる。文学は人間の問題を様々な場面を設定して具体的に探究する「人間学」である。この科目は自己と他者の理解を深化し、同時に受講生の鋭利な言語感覚を育てる。

[テキスト]
「民権かぞへ歌」は担当者がコピーして配布したものを使う。その他は新潮文庫本を使うので各自購入すること。

[参考文献]
その都度指示したり、配布したりする。

[備考]
ほぼ毎回配布するプリントは授業中に書き込みをして「講義ノート」にするものである。必ず持参すること。

教養としての哲学

2単位：前期1コマ	1～2年
石井　砂母亜	

[到達目標]
哲学者の〈問いの立て方〉と〈考え方〉に触れることで、受講者一人ひとりが自らの足場を疑い、問いに彩られた眼差しをもって物事を見られるようになる。

[履修の条件]
履修条件は特にない。

[講義概要]
「哲学とは何か?」と聞かれて、「哲学とは○○なものです」と答えられるようなものはおよそ哲学ではない。哲学(philosophia)とは〈知を愛し求める〉営みであり、答えを見つけて「はい、それでおしまい」といった類のものではないからである。こうした問いに対して強いて答えるなら、「哲学とは、今、あなたの〈問い〉そのものだ」と答えるほかない。この授業では、差し当たり〈考え続ける〉ことを「哲学」と呼んでおきたいと思う。
毎回の授業では、歴史上の賢人たちの〈問いの立て方〉とそこから導き出される〈考え方〉を学んでゆく。特に、西洋思想の源泉となった古代ギリシャの思想に触れることで、受講者と共に、〈問いを立てる〉ということ、その問いから〈考える〉ということを試みたい。
講義形式の授業が基本となるが、一部の題材については DVD 等の映像や画像を活用してグループディスカッションを行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション(1)：授業の進め方など
第2回　オリエンテーション(2)：〈考える〉ということ、〈問いを立てる〉ということ
第3回　古代ギリシャの世界への招待状(1)
第4回　古代ギリシャの世界への招待状(2)
第5回　ミュトスからロゴスへ：神話的世界観からの脱却
第6回　アルケーへの眼差し：哲学誕生
第7回　フォアソクラティカ(1)：イオニアの哲学
第8回　フォアソクラティカ(2)：南イタリアの哲学
第9回　ソフィスト：ピュシスからノモスへ
第10回　ソクラテス：汝自身を知れ
第11回　プラトン(1)
第12回　プラトン(2)
第13回　アリストテレス(1)
第14回　アリストテレス(2)
第15回　究極の幸せを求めて：ソクラテス・プラトン・アリストテレス
第16回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業への参加度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の授業を通して、自ら問い、〈考える〉ことを始めて欲しい。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回講義冒頭において行う。
期末試験は、試験期間内に実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修するこ

とで、物事を総合的多角的に捉え論理的に考えることができるようになる。またこうして身につけた論理的思考力を通して、自ら考え、自らの見解を他者に表現できるようになる。

[テキスト]
岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書441)、岩波書店、2007年、860円+税。

[参考文献]
授業時に適宜紹介する。

[備考]
成績評価欄の「課題提出」は、授業最後に毎回課するフィードバック。

哲学と論理

2単位：後期1コマ	1〜2年
石井　砂母亜	

[到達目標]
哲学者の〈問いの立て方〉と〈考え方〉に触れることで、受講者一人ひとりが、自らの足場を疑い、問いに彩られた眼差しをもって物事を見られるようになる。

[履修の条件]
履修条件は特にないが、「教養としての哲学」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
「哲学とは何か?」と聞かれて、「哲学とは○○なものです」と答えられるようなものはおよそ哲学ではない。哲学(philosophia)とは〈知を愛し求める〉営みであり、答えを見つけて「はい、それでおしまい」といった類のものではないからである。こうした問いに対して強いて答えるなら、「哲学とは、今、あなたの〈問い〉そのものだ」と答えるほかない。この授業では、差し当たり〈考え続ける〉ことを「哲学」と呼んでおきたいと思う。
毎回の授業では、歴史上の賢人たちの〈問いの立て方〉とそこから導き出される〈考え方〉を学んでゆく。特に後期では、「私とは何か」という問いを灯火として、受講者と共に〈問いを立てる〉ということ、その問いから〈考える〉ということを試みたい。
講義形式の授業が基本となるが、一部の題材についてはDVD等の映像や画像を活用してグループディスカッションを行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の進め方など
第2回　失われたものを求めて：十牛図を味わう(1)
第3回　失われたものを求めて：十牛図を味わう(2)
第4回　記憶への旅路：アウグスティヌス(1)
第5回　私と記憶：「人生はビギナーズ」を観る
第6回　私の中で〈私〉に出会う：アウグスティヌス(2)
第7回　私を超えて〈あなた〉において：アウグスティヌス(3)
第8回　〈私〉からの出発：近代的自我
第9回　理性を正しく導くために：デカルト(1)
第10回　われ思う、ゆえに我あり：デカルト(2)
第11回　私は何を知りうるか：カント(1)
第12回　私は何をなしうるか：カント(2)
第13回　意志としての私：キルケゴールとニーチェ
第14回　現代を生きる：チャップリン「モダン・タイムス」を観る
第15回　他者の呼び声から生きる：ブーバー『私と汝』
第16回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業への参加度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の授業を通して、自ら問い、〈考える〉ことを始めて欲しい。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回講義冒頭において行う。
期末試験は、試験期間内に実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、物事を総合的多角的に捉え論理的に考えることができるようになる。またこうして身につけた論理的思考力を通して、自ら考え、自らの見解を他者に表現できるようになる。

[テキスト]
岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書441)、岩波書店、2007年。
※必要な資料は授業時に配布する。

[参考文献]
左近司祥子編著『西洋哲学の10冊』(岩波ジュニア新書613)、岩波書店、2009年。
熊野純彦『西洋哲学史−古代から中世へ』(岩波新書1007)、岩波書店、2006年。
熊野純彦『西洋哲学史−近代から現代へ』(岩波新書1008)、岩波書店、2006年。
酒井潔『自我の哲学史』(講談社現代新書1792)、講談社、2005年。
※授業時に適宜紹介する。

[備考]
成績評価欄の「課題提出」は、授業最後に毎回課するフィードバックである。

教育学

2単位：後期1コマ	1〜2年
橋本　憲幸	

[科目補足情報]
後期開講予定

[到達目標]
「教育」とは何かについて、教育論議やこれまでの自身の被教育体験に囚われずに、また、教育学の諸理論を踏まえながら、自ら考えられるようになる。教育に関する答えを求める姿勢も必要だが、それ以上に重要なことは、教育に関する問いを自ら立て、それについて自ら吟味できるようになることである。

[履修の条件]
履修希望者は初回の講義に可能なかぎり出席すること。

[講義概要]
これまで教育を受けてきた体験があることから、われわれは「(よい)教育」とは何かについて、自分なりの見方を持つようになる。だが、その「(よい)教育」は別の角度から捉えたとき、「(よい)教育」とは必ずしも呼べないかもしれない。それは「学習」と呼ばれるべきものかもしれないし、「福祉」かもしれない。本講義では、「教育」とはどのようなものなのか、他者にどのように関与することなのか、人間をどのようにしようとすることなのかを改めて根底から考えるための契機を提供する。自分がどのような教育観を有しているのかを自覚し、それを教育学の諸理論を踏まえて自省することが重要である。その過程で、教育には答えがない、教育には答えしかない、教育について考えても仕方がない、と開き直りたくなることがあるかもしれない。その前で踏みとどまり、教育について粘り強く省察し続けていくことを期待する。

■授業計画

第1回　講義「教育学」のねらいと進め方
第2回　「教育」とは何であったのか
第3回　「教育」とは何か
第4回　「教育」とはどのような行為か
第5回　「教育」とはどのような行為でないか
第6回　「教育」は誰にでもできるのか
第7回　教師はなぜ教えられるのか
第8回　国家は教育に関与できるのか
第9回　学校は必要か
第10回　教育は社会を変革できるか
第11回　教育は社会を維持できるか
第12回　教育は子どもを守れるか
第13回　教育は学校に委ねたほうがよいか
第14回　教育は子どもの可能性を広げるか
第15回　総括
第16回　試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(25%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(25%)

[成績評価(備考)]
授業内課題(毎時のリフレクション・ペーパーの記入と口頭発表)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習として、教育に関する本や報道に目を通し、そこで「教育」がどのように捉えられているのかを理解する。復習として、当該回で取り上げた本や論文を実際に読み、講義内容の理解を深める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リフレクション・ペーパーのフィードバックを次回講義冒頭で実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」にとくに関連する。他でもない教育という他者への関わり方への理解を深める。教育以外の他者関与のあり方を把握するための補助線を引く。

[テキスト]
使用しない。文献を適宜紹介する。

[参考文献]
末松裕基編『現代の学校を読み解く』春風社(2,300円+税)
※とくに第10章

音楽の基礎

2単位：前期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

[到達目標]
1. 楽譜から音楽を読みとる基礎力を養う。2. 音楽の基本であるリズムを作成し、それを表現したり仲間と共有できるようになる。

[履修の条件]
特にありませんが、授業内容を毎回復習し、知識・技術の習得に、努力する姿勢を持って臨むこと。

[講義概要]
楽譜を正しく読み取り、音楽を深く理解することが出来るように、音楽の基礎知識を身につけ、表現することを目指す内容。基本的な音楽知識(楽典)を学びながら、実技(視唱・リズム打ち・リズム創作・ボディーパーカッション発表)に取り組む。履修者の確定とともに、人数やレベルに合わせて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
　　読譜能力・基礎知識テスト
第2回　楽譜について/リズム導入
第3回　楽譜について/リズムⅠ
第4回　リズムについて(DVD 鑑賞)/音楽用語
第5回　音程(全音階的音程)Ⅰ/リズム創作Ⅰ

第6回　音程（全音階的音程）Ⅱ/リズム創作Ⅱ
第7回　倍音について/リズム創作Ⅲ
第8回　楽典復習/リズム創作Ⅳ
第9回　楽典復習/小試験Ⅰ
第10回　リズム創作発表
第11回　音階Ⅰ/呼吸と発声Ⅰ
第12回　声帯の動き・喉の仕組みについて（DVD 鑑賞）
第13回　音階Ⅱ/呼吸と発声Ⅱ
第14回　小試験Ⅱ
第15回　音階Ⅲ/アンサンブル（歌唱・リズムなど）
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（60%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
楽典の基礎知識は復習をして暗記する努力が必要。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
講義内で行った小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。提出された課題、実技発表については、授業内に口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、音楽で自己表現したり、音楽を他者に伝え、共有する学びができ、音楽を通してコミュニケーション能力が身につく。

［ テキスト ］
供田武嘉津著『最新学生の音楽通論』音楽之友社　1007円（税込）。（※必ず購入すること）
その他、随時プリントを配布

［ 参考文献 ］
必要に応じて授業内で紹介。

［ 備考 ］
毎回、次の3点を持参すること。
1. テキスト　2. 配布したプリント　3. 筆記用具（楽譜を書く時には鉛筆使用が望ましい）
（※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること）

音楽の実際

2単位：後期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

［ 到達目標 ］
1. 楽譜から音楽を読み取る基礎力を身につける。2. 音楽を知的に理解し、簡単な分析ができるようになる。3. 指揮法の基礎を学び、実践できるようになる。

［ 履修の条件 ］
「音楽の基礎」を履修済みが望ましい。後期から受講する場合は、前期「音楽の基礎」の授業
内容を授業第3回目までに習得する必要がある。

［ 講義概要 ］
前期から引き続き、基礎的な音楽知識を学び、実践的に活用できるよう目指す。実技はリズムアンサンブル、視唱、指揮法などを予定。指揮法は実践に役立つ基礎を学び、簡単な楽曲の指揮が出来る程度を目指す。履修者の確定とともに、人数やレベルに合わせて授業内容は変更されることがある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
　　基礎知識テスト・前期学習内容の復習Ⅰ
第2回　前期学習内容の復習Ⅱ/音名と音程（全音階的音程）/音階
第3回　音程Ⅰ（半音階的音程）
第4回　音程Ⅱ（半音階的音程）/リズム・アンサンブルⅠ
第5回　音階Ⅰ/リズム・アンサンブルⅡ
第6回　音階Ⅱ/調性
第7回　調名/調号Ⅰ
第8回　調名/調号Ⅱ
第9回　小試験Ⅰ/近親調Ⅰ
第10回　移調・転調/指揮法の基礎
第11回　指揮法の基礎と実践Ⅰ/近親調Ⅱ
第12回　指揮法の基礎と実践Ⅱ（DVD 鑑賞）/和音Ⅰ
第13回　和音Ⅱ/指揮法の基礎と実践Ⅲ
第14回　小試験Ⅱ/オペラ（DVD 鑑賞）Ⅰ
第15回　実技試験（指揮）/オペラ（DVD 鑑賞）Ⅱ
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（60%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
学習した楽典の基礎知識は、その都度よく復習して暗記する努力が必要。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
講義内で行った小テストの解答・解説は、テストが実施された翌

週に行う。提出された課題、実技発表については、授業内に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、音楽で自己表現したり、音楽を他者に伝え、共有する学びができ、音楽を通してコミュニケーション能力が身につく。

[テキスト]
供田武嘉津著『最新学生の音楽通論』音楽之友社　1007円（税込）。（※必ず購入すること）
その他、随時プリントを配布。

[参考文献]
必要に応じて授業内で紹介。

[備考]
毎回、次の3点を持参すること。
1. テキスト2. 配布プリント3. 筆記用具（楽譜を書く時に鉛筆使用が望ましい）
（※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること）

コミュニケーションの演習

2単位：前期1コマ	1年必修
柿崎　広幸	

[到達目標]
1、日本語の表記、特質について理解し正しい文章（レポート、小論文等）を書くことができる。
2、与えられたテーマについて資料を適正に駆使し、論理的な文章を書くことができる。
3、スピーチ、プレゼンテーションの準備と発表の技術を身につけ、レジュメを書くことができる。
4、会議やシンポジュウムなどで自分の意見、考えを発言できる。

[履修の条件]
講義には当然継続性があるので、コミュニケーション能力を高めるためにできるだけ欠席せずに参加することが必要。前時の講義の確認のための小テストも継続的に行うので欠席を避ける。講義には国語辞書（携帯に便利なもので可、電子辞書も可）を必ず持参のこと。

[講義概要]
コミュニケーションの方法としては、書いて相手に伝える、話して相手に伝える、大まかにいえばこの二つの方法がある。大学生にはこの二つのコミュニケーション能力を適正に使えることが求められる。大学で学問・研究に触れ、さまざまな共感や疑問を持ち、それに対する自分の考えを、表現、発信する能力が求められている。日本語の表記、特質を理解し、与えられたテーマについて適正に構成し、論理的な文章を書くことができること。自分の考えをスピーチ、プレゼンテーションで適正に発信できること。また自分の考えや、グループの考えをまとめて上手に伝えることなどを講義、演習を通じて学んでいく。基本的に講義、演習形式の授業であるが一部 DVD 等の映像を活用することもある。

■授業計画
第1回　講義の概要説明、講義の進め方、受講の際の心構え、教材、資料の説明、参考文献の紹介、日本語、文章についてのアンケート、学生諸君の簡単な自己紹介の文を書く。
第2回　前時のアンケートの報告
文章表現技術　演習Ⅰ　日本語の表記、仮名遣い、常用漢字、句読点等文章表現上の基本的事項の確認、説明。
第3回　前時の小テスト。
文章表現技術　演習Ⅱ　文体、あいまいな表現について。
第4回　小テスト返却、説明。前時の小テスト。
文章表現技術　演習Ⅲ　文の乱れ、文を区切るについて。
第5回　小テスト返却、説明。前時の小テスト。
文章表現技術　演習Ⅳ　表現の工夫、接続詞と指示語について。
第6回　小テスト返却、説明。前時の小テスト。
文章表現技術　演習Ⅴ　悪文治療、悪文を題材に正しい文章を直す。
第7回　小テスト返却、説明。前時の小テスト。
文章表現技術　演習Ⅵ　感じたことを言葉で表現する。
第8回　前時の小テスト、課題の返却、説明。
文章表現技術　演習Ⅶ　自分の意見を文章に書く。
第9回　前時の小テスト、課題の返却、説明。
文章表現技術　演習Ⅷ　手紙、はがき、案内状等の実用的な文章の形式、書き方について。
第10回　前時の小テスト
レポート・論文の書き方Ⅰ　作文、感想文との違い。レポート、論文の必要要素。組み立て、構成について。
第11回　前時の小テスト、課題の返却、説明。
レポート・論文の書き方Ⅱ　注意事項、書式と道具、コピー（盗作）、引用等、図書館の利用について。
第12回　スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、シンポジュウム、会議について。（講義）模擬シンポジュウムのグループ、テーマ決め。
第13回　模擬シンポジュウム　演習Ⅰ
第14回　模擬シンポジュウム　演習Ⅱ
第15回　模擬シンポジュウム　演習Ⅲ
第16回　学期末試験　前期に学習した全般について試験を行う。

[成績評価]
試験（30%）、レポート（40%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
スピーチ、プレゼンテーション、シンポジュウムの後は課題提出。その際各自が発言したことについて、発声、内容なども併せて評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。小テストは必ず事前学習をして受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストについては返却時に必ず講評する。課題についても授業時にコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力及び総合的・実践的な学習能力に該当する。コミュニケーション能力を身につけることにより他の人々との協働作業を創り、社会に貢献できる。また他の人々とうまくコミュニケーションをとることで自己を対象化でき、自分の思いや考えを深めることができる。

[テキスト]
教材はすべて担当者で作成します。

[参考文献]
「新しい国語表記ハンドブック」（第七版）三省堂　740円+税

[備考]
毎回国語辞書を持参すること。

キャリアデザイン基礎

2単位：前期1コマ	2〜3年
田副　真美	

[到達目標]
自らが社会で活躍している姿を描き、社会人として求められる「基礎力」を習得することを目指します。また、併せて就職活動で活用できる知識・ノウハウの獲得を目指します。

[履修の条件]
将来を考えること、また、社会人として求められる基礎力の獲得を目的としていますので、一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。2年生の履修も可能ですが、原則として3・4年生を対象とします。また、前期の「キャリアデザイン基礎」を発展させた後期の「キャリアデザイン実践」では、より具体的なスキル・テクニックを教授しますので、あわせて履修することを推奨します。（前期のみの履修も可）

[講義概要]
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。
(1)社会人として働いている方のお話を聴き、自分の生き方や働き方を考えるきっかけを提供します。その上で、将来の目標および大学生活での行動計画づくりを行います。
(2)社会人として求められる「コミュニケーション力（聴く、話す、書く）」について、具体的な方法を理解した上で実践します。
(3)時事問題や企業・業界研究から、「自分がどのように社会と関わるのか」を考えます。
(4)個人及びグループワークを通じて、自己に対する気づきを得る機会を提供します。
(5)就職活動において、自分自身をしっかりと表現する方法を学びます。（担当講師：小風奏子　株式会社ベネッセi−キャリア）

■授業計画
第1回　オリエンテーション、今後の進め方の確認、大学生の基本姿勢について
第2回　コミュニケーションを学ぶ
第3回　自己紹介ワーク
第4回　自己理解を深めよう
第5回　伝わる話し方、話法
第6回　プレゼンテーションを学ぶ
第7回　伝わる書き方①、文法
第8回　伝わる書き方②、就職活動の基礎知識
第9回　インターンシップについて学ぶ（就職関連情報）
第10回　「はたらく」とは
第11回　社会・企業を知る
第12回　グループディスカッションワーク
第13回　ビジネスマナー（面接編）、働く価値観
第14回　模擬面接
第15回　復習と振り返り
第16回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
授業態度（積極性、主体性、発言内容など）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料の振り返りを行うこと。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行います。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、社会人として働いている方のお話を聞いたり、各種グループワーク等を実践したりすることで他者を理解していく力が身に付きます。また、社会人として求められる「コミュニケーション力（聴く、話す、書く）」について具体的な方法を理解した上で自分自身をしっかりと表現することができるようになります。

[テキスト]
毎回必要な教材を配布します。配布した教材が散在しないよう、

専用ファイルの準備をお願いします（資料のサイズは、A4を予定）。

［参考文献］
授業内で告知

［備考］
特になし

キャリアデザイン実践

2単位：後期1コマ	3年
田副　真美	

［到達目標］
就職活動において求められる自己分析、応募書類、業界研究、企業研究、グループディスカッション、面接、ビジネスマナー等の各種対策やテクニックを実践的に学び、自身が思い描く将来を具体化しつつ、それを実現するための自信と考え方及びスキルを身に付けます。

［履修の条件］
一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。原則として3・4年生を対象とします。前期の「キャリアデザイン基礎」を受講していなくても履修可能であり、授業に問題なくついていくことができる設計になっています。なお、第11回目以降はより実践に即すため、リクルートスーツの着用を必須とします。

［講義概要］
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。
(1)自己理解を深めるため、職業興味検査やワークシートを元に自己分析を行い、強み等を言語化します。
(2)応募書類のポイントを理解し、必須となる項目を実際に記入していきます。
(3)業界・企業研究の方法を理解し、具体的に調べていきます。
(4)グループディスカッション、面接の対策法を学び、実際に体験をしていきます。
(5)ビジネスマナーの基本を理解し、実践的なスキルを学びます。(担当講師：小風奏子　株式会社ベネッセ i−キャリア)

■授業計画
第1回　就活キックオフ（心構え、進め方、必要な準備の理解）
第2回　自己分析　～StepⅠ～（職業興味検査）
第3回　自己分析　～StepⅡ～（自分の強みを言語化する）
第4回　応募書類対策　～StepⅠ～（卒業論文・ゼミ・実習、趣味・特技の記入）
第5回　応募書類対策　～StepⅡ～（学生時代に力を入れたことの記入）
第6回　応募書類対策　～StepⅢ～（自己 PR の記入）
第7回　業界研究
第8回　企業研究
第9回　応募書類対策　～StepⅣ～（志望動機の記入）
第10回　応募書類対策　～StepⅤ～（履歴書を書く際のポイント・注意点）
第11回　グループディスカッションワーク
第12回　面接対策　～集団編～
第13回　面接対策　～個人編Ⅰ～
第14回　面接対策　～個人編Ⅱ～（ブラッシュアップ）
第15回　ビジネスマナー
第16回　試験

［成績評価］
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
授業態度（積極性、主体性、発言内容など）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料やテキストの振り返りを行うこと。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行います。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

［ディプロマポリシーとの関連性］
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、グループディスカッションや面接、各種グループワーク等を通じて他者を理解したり、社会やビジネスで通じる実践的な自己表現を獲得できるようになります。

［テキスト］
『MY　CAREER　NOTEⅢ』制作・著作/株式会社ベネッセ i−キャリア 1,543円

［参考文献］
授業内で告知

［備考］
特になし

コンピュータ入門Ⅰ

2単位：前期1コマ	1～2年
佐藤　舞	

［到達目標］
①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。②大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得すること。

[履修の条件]
こちらから指定する条件は特にありません。視覚障碍者のためのPC クラスについては別途、実施されます。

[講義概要]
本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。まず、各回で学習する技能について説明し、説明された操作方法に沿って課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得することを目指す。なお、一部の題材については DVD 等映像や音楽を使用する場合もありうる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション（本講義の目的、概要、構成）
第2回　パソコンの基礎知識
第3回　タイピング演習
第4回　ワード（1）（和文の入力）
第5回　ワード（2）（英文の入力）
第6回　ワード（3）（レイアウト①）
第7回　ワード（4）（レイアウト②）
第8回　ワード（5）（スタイル設定①）
第9回　ワード（6）（スタイル設定②）
第10回　ワード（7）（タブ設定）
第11回　ワード（8）（論文作成のための基礎技能①）
第12回　ワード（9）（論文作成のための基礎技能②）
第13回　ワード（10）（論文作成のための基礎技能③）
第14回　まとめ
第15回　試験対策
第16回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げてくるよう求める。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

[備考]
講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

コンピュータ入門 II

2単位：後期1コマ	1〜2年
佐藤　舞	

[到達目標]
①エクセルを使った表計算とグラフ作成の方法を身につけること。②エクセルの表やグラフを挿入したワード文書を作成することができるようになること。

[履修の条件]
「コンピュータ入門 I 」を履修しているか、同等の操作技術を有していること。また、視覚障碍者のための PC クラスについては別途、実施されます。

[講義概要]
本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。まず、各回で学習する技能について説明し、説明された操作方法に沿って課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なエクセルの基本操作を習得することを目指す。なお、一部の題材については DVD 等映像や音楽を使用する場合もありうる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション（本講義の目的、概要、構成）
第2回　エクセル（1）（ワークシートの基本操作と簡単な計算）
第3回　エクセル（2）（日付データ）
第4回　エクセル（3）（住所録）
第5回　エクセル（4）（成績集計表）
第6回　エクセル（5）（小遣い帳）
第7回　エクセル（6）（時刻の計算①）
第8回　エクセル（7）（時刻の計算②）
第9回　エクセル（8）（統計関数）
第10回　エクセル（9）（COUNTIF 関数）
第11回　エクセル（10）（VLOOKUP 関数）
第12回　エクセル（11）（グラフ作成①）
第13回　エクセル（12）（グラフ作成②）
第14回　図表を挿入したワード文書の作成
第15回　試験対策
第16回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げてくるよう求める。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当

する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

［備考］
講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

英語 Reading

2単位：前期 or 後期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［科目補足情報］
※前期・後期とも同一授業

［到達目標］
英語の文書のレトリック（文書の構造）を把握して、読解力をたかめる。また、語彙を増やす方法も教える。

［履修の条件］
(1)授業は、前期2コマか後期2コマのどちらかを履修することになる。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業で課せられる課題(assignment)は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

［講義概要］
○　この授業では、常に辞書に頼ることなく、英文を効果的に英語で読んでいくためのスキルを習得することを目指している。接頭辞、接尾辞、ギリシア語・ラテン語を起源とする語幹の学習を中心とした reading に必要な語彙力の増強が授業の中心となる。
○　語彙力の増強と並行して、Scanning（特定の情報を読み出す読み方、拾い読み）、Skimming（文の大意を読みとる読み方、斜め読み）に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念（main idea）を読みとるスキル等の習得にも強調がおかれる。時事英文にも取組む。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

第1回　Introduction to course/Parts of speech
第2回　History of English/Using an English−English dictionary
第3回　Word study
　　Latin stems/prefixes
第4回　Introduction to extensive reading
第5回　Unit 1, Reading 1
第6回　Unit 1, Reading 2
　　Extensive Reading 1
第7回　Understanding words in context
第8回　Researching in English/reference books
第9回　Unit 2, Reading 1
第10回　Unit 2, Reading 2
　　Extensive Reading 2
第11回　Unit 3, Reading 1
第12回　Unit 3, Reading 2
　　Extensive Reading 3
第13回　Unit 4, Reading 1
第14回　Unit 4, Reading 2
　　Extensive Reading 4
第15回　Unit 5, Reading 1
　　Extensive Reading 5
第16回　Unit 5, Reading 2
第17回　Understanding Topics
第18回　Reading Patterns
　　Introduction to Reading Projects/Authentic materials
第19回　The Listing Pattern
第20回　The Time Order Pattern
第21回　Unit 6, Reading 1
第22回　Unit 6, Reading 2
　　Extensive Reading 6
第23回　The Comparison Pattern
第24回　The Cause/Effect Pattern
第25回　Unit 7, Reading 1
第26回　Unit 7, Reading 2
　　Extensive Reading 7
第27回　Unit 10, Reading 1
第28回　Unit 10, Reading 2
　　Extensive Reading 10
第29回　Unit 11, Reading 1
第30回　Reading Projects
第31回　Reading Projects
第32回　Reading Projects

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回の宿題は不可欠。特に毎週の Vocabulary　Quiz の復習がもとめられています。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計30回の授業で30時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
二回、単語のノートのチェックで、学生一人ひとりと指示します。
Reading Project は個人的指導、フィードバック。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状

況に応じて適切に行うことができるようになること。

［テキスト］
Richard R. Day and Junko Yamanaka, Cover to Cover 1（Oxford）定価¥3,220

［参考文献］
特になし

英語 Speaking/Listening

2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ、アデレード・アミサ	

［到達目標］
英語の発音、発声、Formulaic expressions（挨拶など、）実用的な会話の訓練と習得。

［履修の条件］
(1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(2)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する（active participation）ことが求められ、評価の大切な要因となります。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

［講義概要］
○　授業は、充実した指導を徹底させるために2グループに分かれ、2グループがほぼ同じ内容の学習ができるように努める。
○　英語のSpeakingとListeningのスキル（技能）のダイナミックスを習得することに重きが置かれる。
○　主に、自然なスピードの英語の発音・リズム・アクセント・イントネーション・発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。実際の内容のある練習・演習も織り込んで、英語によるこの授業では、学生が今まで習ってきた英語を用いて話していくスキルとしてのSpeakingとListeningを促進するための実際的な方策についても学びを行う。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位がみとめられません。

■授業計画

第1回　1）Placement Test
第2回　Orientation
第3回　1）Introductions
　　2）Phonetics Test
第4回　1）Practice
　　2）Clear Speech：Vowel sounds
第5回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech：Vowel and Consonant sounds
第6回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech, pp. 2–6
第7回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, pp. 7–9
第8回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, Unit 2
第9回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Units 2–3
第10回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Unit 4
第11回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 4
第12回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 5
第13回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 5
第14回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 6
第15回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第16回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第17回　1）Review
　　2）Midterm Test（Phonetics/Lexicarry）
第18回　1）Review
　　2）Clear Speech, Test, pp. xiii–xv
第19回　1）Lesson 4A
　　2）Clear Speech, Unit 8
第20回　1）Lesson 4A
　　2）Clear Speech, Unit 8
第21回　1）Lesson 4B
　　2）Clear Speech, Unit 9
第22回　1）Lesson 4B
　　2）Clear Speech, Unit 10
　　Pronunciation Review
第23回　1）Lesson 5A
　　2）Clear Speech, Unit 11
第24回　1）Lesson 5A
　　2）Clear Speech, Unit 11
第25回　1）Lesson 5B
　　2）Clear Speech, Unit 15
第26回　1）Lesson 5B
　　2）Clear Speech, Unit 15
第27回　1）Lesson 6A
　　2）Clear Speech, Unit 15
第28回　1）Lesson 6A
　　2）Review of Formulaic Expressions
第29回　1）Lesson 6B
　　2）Clear Speech Test
第30回　1）Review
　　2）Review
第31回　Speaking Test
第32回　Speaking Test

［成績評価］
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（20%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
教科書の CD を復習する。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計30回の授業で30時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験の結果、中間テストで一人一人を評価する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Judy B. Gilbert, Clear Speech（4rd Edition）, （Cambridge University Press）定価¥2,499
Angela Buckingham, et al., Get Real 1（New Edition）, （Macmillan）定価¥2,500

[参考文献]
特になし

英語 Writing/Grammar Ⅰ

1単位：前期1コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
英語の文書の種類、段落（paragraph）の構造を学ぶ。

[履修の条件]
(1) 語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(2) 本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(3) 授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
(4) 授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。
(5) この「英語 Writing / Grammar Ⅰ」の履修だけで終わることはできるが、後期の授業である「英語 Writing / Grammar Ⅱ」も合わせて履修することが望ましい。

[講義概要]
○　英語の Grammar のポイントをふまえながら、Writing の力をつけていくための学習をする。
○　教科書の1～3章を学習する。特に文の接続表現に留意して文を書き進めていくことを習得する。
○　授業では、個人的及びビジネス上の手紙文を書く等の実際的な書く練習も豊富に含まれる。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画
第1回　Class rules, Common mistakes in English
第2回　Interviewing a partner
第3回　Writing about yourself
第4回　Simple sentences/ Capitalization
第5回　Simple sentences; and/or conjunctions
第6回　Prewriting skills：freewriting
第7回　Prewriting skills：clustering
　　Listing order paragraph, topic sentences
第8回　Supporting sentences, listing signals, paragraph unity, concluding sentences
第9回　Compound sentences, comma splices
第10回　Outlining, in−class writing
第11回　Prewriting：brainstorming
　　Outlining
第12回　How To paragraphs, time−order signals
第13回　Complex sentences with dependent and independent clauses
第14回　Capitalization and comma rules
第15回　Postcards, In−class writing for final paragraph
第16回　Final paragraph

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の宿題の提出、復習が必要。宿題のなおし、2回目のチェック。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
宿題の個人的指導、説明。学生は宿題を一回書きなおして、もう一度チェックを受ける。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Ann Hogue,*First Steps in Academic Writing*, （2rd Edition）, （Longman）定価¥3,220

[参考文献]
特になし

英語 Writing/Grammar II

1単位：後期1コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
英語の文書、段落（paragraph）の構造を学ぶ。実用的な書き方（手紙など）の訓練もする。

[履修の条件]
(1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(2)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(3)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
(4)授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。
(5)この「英語 Writing / GrammarⅡ」だけの履修はできず、前期の「英語 Writing / GrammarⅠ」を可以上の成績で履修済みであることが「英語 Writing / GrammarⅡ」を履修するために必要である。

[講義概要]
○　英語の Grammar のポイントをふまえながら、Writing の力をつけていくための学習をする。
○　前期で学習したことを基礎にして、教科書の4～6章を学習する。学生は［明確なトピック文を書く、その主題点をサポートする根拠を列挙する、論理的な結論を導き出す］等の学習を通して、明確に構成された文を書くという段落のダイナミックスの習得に努める。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位がみとめられません。

■授業計画

第1回　Review of common errors
第2回　Space order descriptions
第3回　Adjectives and adjective order
第4回　Descriptions
第5回　Prepositions and prepositional phrases
第6回　In−class writing
第7回　Clustering and outlines with examples and reasons
第8回　Transitions with reasons/examples
第9回　Complex sentences, dependent clauses and condition subordinators
第10回　Capitalization, comma rules, personal letters
第11回　Personal letters
第12回　Business letters
第13回　Writing advertisements
第14回　Adjective clauses
第15回　In−class writing for final paragraph
第16回　Final paragraph

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の宿題の提出は不可欠。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
宿題での個人的指導、書き直してからまたチェック。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Ann Hogue, *First Steps in Academic Writing*, (2rd Edition), (Longman) 定価¥3,220

[参考文献]
特になし

英語特別演習（Independent Study）

1単位：適宜	2～4年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
学生のニーズにあわせて授業を計画します。

[履修の条件]
(1)特別に英語の学力があると認められる者ー帰国子女等ーーが履修できる。
(2)次の手続きを経て、履修が認められる。
・履修希望者は、次の学年はじめのオリエンテーション期間中に担当教員に申し出、履修内容、履修計画等を提出する。
・履修届最終期限前に教養部の教授会で承認を得て、履修届をする。
(3)通常の授業（1コマについて、90分授業を少なくとも13回）と同じかそれ以上の教員との学習、そのための予習・復習の学習が必要である。
(4)学習状況が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

[講義概要]
学年度始めの履修計画に基づいて、1コマについて少なくとも週1回の指導を受け、勉強を続けていく。

■授業計画

第1回　Orientation/Needs Assessment
第2回　First reading

第3回　Homework/Second reading
第4回　Homework/Third reading
第5回　Homework and discussion/Fourth reading
第6回　Homework/Fifth reading
第7回　Homework/Sixth reading
第8回　Homework/Seventh reading
第9回　Homework/Next reading
第10回　Homework and discussion/Next reading
第11回　Homework and discussion/Next reading
第12回　Homework and discussion/Next reading
第13回　Homework and discussion/Next reading
第14回　Homework and discussion/Next reading
第15回　Homework and discussion/Next reading
第16回　Final project

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
先生の提供するプリントを事前によく読んでおくこと。本科目では、各授業回に1時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の宿題のフィードバック。個人的指導、先生と一対一の授業。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
学生の履修計画に基づいて、適切なテキストを担当教員が選択する。

[参考文献]
必要な時に授業内で情報提供する。

英語 Reading 演習 A(基礎)

1単位：前期1コマ	2〜3年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
英語の文書のレトリックを学んで、原文と取り組む。将来の英語での研究に役立つ技術を習う。なお、演習を履修する学生はそのような目的を持つことを前提としてこの授業を進めます。

[履修の条件]
(1)原則として、「英語 Reading」既修者及びそれと同等の英語力があると担当者が認定することが必要です。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠です。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要です。
(4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を担当者が命じることもあるので、注意が必要です。
授業の目的
この授業では、「英語 Reading」で学習したことを基礎にして、専門分野の研究のために上級レベルの英文の文献を読み進めるための諸々の知識・スキルを修得・増強させていくことに努めます。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

[講義概要]
○　学生は、英語 Reading の上級スキルを習得していきます。
○　重点的に学習する項目として、次の各項目の十分な理解力の修得に力を入れていきます。
このクラスでは、「英語 Reading」で学んだスキルを復習して、さらに上級の文献を読み進めていきます。授業のために書き直されていない原典そのものに当たる機会が多くなります。英文の講読・理解に必要な次の能力の復習・修得に努めていきます。
・語彙力の増強
・文脈の論点の活用(Using context clues)
・文献の内容に関する下調べ(Previewing)
・文献の主要点展開の把握(Scanning)
・主題文の把握(Topic sentences)
・段落における論点の展開(The rhetoric of paragraphs)
・論点の推論(Making inferences)
○　授業で読んでいく文献については、主に担当教員が用意しますが、学生も読む題材について自由に提案することが奨励されます。

■授業計画
第1回　Vocabulary Study Skills
pp. 33–45
第2回　Vocabulary Study
Learning vocabulary from reading
第3回　Vocabulary Study
Learning vocabulary from reading
第4回　Word Parts,
Unit 4
第5回　Guessing meaning from context
pp. 4–7
第6回　Guessing meaning from context
pp. 57–67
第7回　Collocations
pp. 82–92
第8回　Scanning
pp. 107–116
第9回　Previewing
pp. 117–124
第10回　Making inferences
pp. 131–137
第11回　Reading Genres

pp. 138–140
Introduction to the short story
第12回 Understanding Paragraphs/Topics
pp. 147–150
第13回 Topics of Paragraphs
pp. 150–156
第14回 Main Ideas in Paragraphs
pp. 156–160
第15回 Main Ideas in Paragraphs/Following Paragraphs
pp. 160–161
Introduction to Authentic Materials.
第16回 Take–home test（report）

［ 成績評価 ］
試験（20％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
授業に対しての取り組み方、及び発表等で判断する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
毎回の宿題と単語調べ。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
宿題のフィードバック、学生の選択で選ばれた原文と取り組む。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［ テキスト ］
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries,『More Reading Power』, 3rd Edition（Longman）定価¥3,220

［ 参考文献 ］
特にありません。

英語 Reading 演習 B（発展）

1単位：後期1コマ	2〜3年
ジャン・プレゲンズ	

［ 到達目標 ］
英語のレトリックを学んで、研究論文の構造を徹底的に勉強する。

［ 履修の条件 ］
（1）原則として、「英語 Reading」既修者及びそれと同等の英語力があると担当者が認定することが必要です。
（2）語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠です。
（3）本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要です。
（4）授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を担当者が命じることもあるので、注意が必要です。
授業の目的
この授業では、「英語 Reading」で学習したことを基礎にして、専門分野の研究のために上級レベルの英文の文献を読み進めるための諸々の知識・スキルを修得・増強させていくことに努めます。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

［ 講義概要 ］
○　学生は、英語 Reading の上級スキルを習得していきます。
○　重点的に学習する項目として、次の各項目の十分な理解力の修得に力を入れていきます。
このクラスでは、「英語 Reading」で学んだスキルを復習して、さらに上級の文献を読み進めていきます。授業のために書き直されていない原典そのものに当たる機会が多くなります。英文の講読・理解に必要な次の能力の復習・修得に努めていきます。
○　授業で読んでいく文献については、主に担当教員が用意しますが、学生も読む題材について自由に提案することが奨励されます。

■授業計画
第1回 Vocabulary Study
第2回 Listing pattern
Additive logical connectors
第3回 Sequence pattern
Sequential logical connectors
第4回 Comparison/Contrast pattern
Adversative logical connnectors
第5回 Cause/Effect pattern
Causal logical connectors
第6回 Problem/Solution pattern
第7回 Review of reading patterns
第8回 Summarizing
第9回 Summarizing
第10回 Concrete Support
Definitions
第11回 Identifying facts and opinions
第12回 Organization of introductions
第13回 Reading genres
第14回 Understanding abstracts
Organization of academic papers
第15回 More on the organization of academic papers
Explanation of take–home test study sheet
第16回 Take–home test

［ 成績評価 ］
試験（20％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（40％）

[成績評価（備考）]
授業に対しての取り組み方、及び発表等で判断する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の宿題と単語調べ。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
宿題のフィードバック、学生が選んだ原文を一緒に読む。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries,『More Reading Power』, 3rd Edition（Longman）定価¥3,220

[参考文献]
特になし

英語 Speaking/Listening 演習

2単位：前期2コマ	2〜3年
ジャン・プレゲンズ、アデレード・アミサ	

[到達目標]
英語での情報交換、発表の技術の学びと訓練。

[履修の条件]
(1)原則として「英語 Speaking/Listening」既修者及びそれと同等の英語力があると担当責任者が認定する者が履修できる。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する（active participation）ことが求められ、評価の大切な要因になります。
(4)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(5)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
(6)最新版の教科書が必要

[講義概要]
○　前期の継続として、いろいろな演習を通して学生の実際的な Speaking/Listening の力を高めていくことに努める。
○　教科書の学習に加えて、英語による発表（presentation）、短いスピーチ、諸々の英語による情報伝達を計画していく演習も行われる。

■授業計画
第1回　Introductions/Review
第2回　Communication Strategies
第3回　Lesson 1A
第4回　Lesson 1B
第5回　Lesson 2A
第6回　Lesson 2B
第7回　Lesson 3A
第8回　Lesson 3B
第9回　Review
　　Presentation Skills
第10回　Review
　　Presentation Skills
第11回　Lesson 4A
第12回　Lesson 4B
第13回　Lesson 5A
第14回　Lesson 5B
第15回　Lesson 6A
第16回　Lesson 6B
第17回　Review
　　Midterm Test
第18回　Communication Activities
　　Midterm Test
第19回　Lesson 7A
第20回　Lesson 7B
第21回　Lesson 8A
第22回　Lesson 8B
第23回　Lesson 9A
第24回　Lesson 9B
第25回　Review
第26回　Lesson 10A
第27回　Lesson 10B
第28回　Lesson 11A
第29回　Lesson 11B
第30回　Presentations
　　Test explanation
第31回　Speaking Test
第32回　Speaking Test

[成績評価]
試験（20%）、レポート（0%）、小テスト（20%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
スピーチ及びプレゼンテーション。
小テスト

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
宿題の実施、提出は不可欠です。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回のスピーキング宿題の評価、ピアーでの評価。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［ テキスト ］
Angela Buckingham, et al. Get Real! 2（New Edition）Macmillan 定価¥2,500

［ 参考文献 ］
特になし

英語 Writing 演習

1単位：前期1コマ	2〜3年
ジャン・プレゲンズ	

［ 到達目標 ］
英語での essay 小論文の書き方、展開の学習。

［ 履修の条件 ］
(1)原則として、「英語 WritingⅡ」既修者及びそれと同等の英語力があると担当者が認定する者が履修できる。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

［ 講義概要 ］
・この授業では、「英語 WritingⅡ」で学習したことを基礎にして、さらに論理的な展開をふまえたわかりやすいレポート（well-organized essay）を英文で書き上げるスキルを修得・増強させていくことに努める。
・主眼点は、明確な文を書くこと、論理的な文の展開を進めることにおかれていく。
具体的には、論理関係を示す接続表現やその他の接続表現を細かく検討しながら学んでいく。
・論理的（logical and descriptive）な英文や説明的（narrative and expository）な英文を明確に区別しなが書き上げることが最終課題となる。
授業の積極的な参加と毎回の課題の評価（70%）と最後に課すエッセイ（30%）により評価する。

■授業計画

第1回　Common mistakes in English
The BE verb
Sentence Types
Unit 1 Paragraph to Short Essay, Paragraph Structure
第2回　Unit 1 Paragraph to Short Essay, Paragraph Unity and Coherence
第3回　Unit 1 Paragraph to Short Essay, Paragraph to Essay
第4回　Unit 2 Descriptive Essays, Brainstorming, Outlining
第5回　Unit 2 Descriptive Essays, Adjectives, Similies
第6回　Unit 3 Narrative Essays, Actions and Emotions
第7回　Unit 3 Narrative Essays, Time Order
第8回　Unit 4 Comparison−Contrast Essays, Graphic Organizer
第9回　Unit 4 Comparison−Contrast Essays, Logical Connectors
第10回　Unit 5 Opinion Essays, Organizing Ideas
第11回　Unit 5 Opinion Essays, Fact vs. Opinion
第12回　Unit 6 Cause−Effect Essays, Organizing Ideas
第13回　Unit 6 Cause−Effect Essays, Phrasal Verbs, Logical Connectors
第14回　Final Essay：Brainstorming, Outlining
第15回　Final Essay：Writing and Editing
第16回　Completion and submission of essay

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
宿題の提出、またはその修正は不可欠。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業の初めに宿題の個人指導、フィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［ テキスト ］
Alice Savage and Patricia Mayer, "Effective Academic Writing" Second Edition
Oxford,￥3628

ドイツ語初級

2単位：前期2コマ	1年
織田　晶子	

［ 到達目標 ］
文字の読み方や発音などの初歩から始めて、ドイツ語の理解に不可欠な基礎を身につけます。

[履修の条件]
指定のテキスト(教科書)と独和辞書を用意してください。
後期の「ドイツ語中級」を履修するには、まずこの「ドイツ語初級」を履修しておくことを勧めます。
授業は週2回行われます。

[講義概要]
言葉の骨組みである文法は、読む・書く・聞く・話すの全てにおいて必要な、いわば便利なドイツ語使用マニュアルです。実際に使いこなせるように、学んだことはすぐに練習して確実に積み上げていきます。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語に触れることが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにもつながればと思います。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので、似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。
前期は以下の項目を学ぶ予定ですが、進度は前後することがあります。

■授業計画
第1回　導入～ドイツについて・アルファベット
第2回　ドイツ語で挨拶・簡単な自己紹介
第3回　つづりの読み方と発音、ドイツ語で数える
第4回　ドイツ語の人称：私、君、あなた…
第5回　動詞の基本(1)
第6回　動詞の基本(2)
第7回　sein と haben は英語の be 動詞と have
第8回　ドイツ語の語順
第9回　名詞には性があります
第10回　名詞には格があります
第11回　名詞の複数形
第12回　定冠詞と不定冠詞(the と a)
第13回　定冠詞類：定冠詞と同じ変化をする冠詞
第14回　不定冠詞類：所有の冠詞　私の、君の…
第15回　否定の冠詞 kein
第16回　人称代名詞の格変化
第17回　三人称の人称代名詞の使い方～彼・彼女・それ
第18回　3格・4格の語順
第19回　非人称の es
第20回　少し不規則な動詞(1)
第21回　少し不規則な動詞(2)
第22回　命令形！
第23回　前置詞(1)
第24回　前置詞(2)
第25回　前置詞(3)
第26回　分離動詞：前つづりが分かれる動詞
第27回　非分離動詞：分かれない動詞
第28回　従属接続詞と副文(1)
第29回　従属接続詞と副文(2)
第30回　ドイツ語によくある「ワク構造」
第31回　前期のまとめ
第32回　試験

[成績評価]
試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
積極的な授業参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には付属 CD が付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回に1時間の準備学習(復習や宿題など)を必要とします。合計30回の授業で30時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出物やテストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の提出物にコメントを添えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
荻原耕平、山崎泰孝著「プロムナード　やさしいドイツ語文法」
白水社　2016年　2400円

[参考文献]
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありませんが、アポロン、クラウン、マイスターあたりが入手しやすく、かつ学習に便利です。

ドイツ語中級

2単位：後期2コマ	1～2年
織田　晶子	

[到達目標]
ドイツ語の基本を身につけ、自力でドイツ語の文章を読み、書けるようになることを目指します。

[履修の条件]
指定のテキストと独和辞書を用意してください。この「ドイツ語中級」を履修するには、前期の「ドイツ語初級」を履修しておくことを勧めます。授業は週2回行われます。

[講義概要]
初級で学んだ事柄の確認をしながら、その先を学びます。学んだことを定着させ使いこなせるよう、ドイツ語の読み物などにも取り組みます。前期の進み具合や、参加者の習熟度、関心の方向などにより、内容や進度を多少変更することがあります。

■授業計画
第1回　前期の復習
第2回　話法の助動詞(1)
第3回　話法の助動詞(2)
第4回　動詞の3基本形～不定形、過去形、過去分詞
第5回　過去形

第6回　大事な現在完了形(1)
第7回　大事な現在完了形(2)
第8回　時間の表現：いま何時ですか?
第9回　受動文のしくみ(1)
第10回　受動文のしくみ(2)
第11回　形容詞の用法
第12回　形容詞の格変化(1)
第13回　形容詞の格変化(2)
第14回　比較の表現(1)
第15回　比較の表現(2)
第16回　再帰代名詞
第17回　再帰代名詞とセットで使う再帰動詞
第18回　zu 不定詞
第19回　関係文の読み方、作り方(1)
第20回　関係文の読み方、作り方(2)
第21回　接続法「もしも…なら」という非現実の表現
第22回　接続法でていねいな表現を
第23回　間接話法
第24回　数詞いろいろ
第25回　年号や日付けの言い方
第26回　ドイツ語の文章を読む(1)
第27回　ドイツ語の文章を読む(2)
第28回　ドイツ語の文章を読む(3)
第29回　ドイツ語の文章を読む(4)
第30回　ドイツ語の文章を読む(5)
第31回　後期のまとめ
第32回　試験

[成績評価]
試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
積極的な授業参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には付属 CD が付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回に1時間の準備学習(復習や宿題など)を必要とします。合計30回の授業で30時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出物やテストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の提出物にコメントを添えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
使用する教科書は、前期に引き続き「プロムナード　やさしいドイツ語文法」(白水社)です。その他に必要なものはプリントで配布します。

[参考文献]
独和辞書

[備考]
教科書と辞書を持参してください。

ドイツ語会話 I

1単位：前期1コマ	1年
織田　晶子	

[到達目標]
自分の日常をドイツ語で表現できるようになることを目指します。

[履修の条件]
後期の「ドイツ語会話 II 」を履修するには、まずこの「ドイツ語会話 I 」を履修しておくことを勧めます。

[講義概要]
まずは挨拶など簡単なことから始めて、使える表現を増やしていきます。基本パターンも、単語を増やせばいろいろ表現の幅が広がります。どんどん聞いて話して、発音や自然なイントネーションも身につけてしまいましょう。ドイツ語はしっかり声を出して発声すれば、ちゃんと伝わる言葉です。クラスメートと会話練習をしながら、ドイツ語で伝えたり理解したりする楽しみを体験して下さい。ドイツの文化や生活にも触れたいと思います。
進度は多少前後することもあります。

■授業計画
第1回　挨拶と簡単な自己紹介のしかた
第2回　挨拶と近況～元気?
第3回　人と知り合う～紹介したり、尋ねたり
第4回　電話番号を尋ねる～ドイツ語の数字
第5回　私の専攻や言語、大学での毎日
第6回　趣味さまざま～私の好きなこと
第7回　比較の表現～どちらが好き?一番好き?
第8回　食べ物の名前
第9回　好きな食べ物と世界の料理
第10回　家族について
第11回　職業さまざま
第12回　お父さんは厳しいですか～ひとの性格や様子
第13回　身の回りの物の名前
第14回　持ち物について：何を持っていますか、これをどう思いますか?
第15回　前期のまとめと練習
第16回　まとめとしてのテスト

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(10%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
積極的な授業参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。本科目では各授業回に1時間の準備学習（復習や宿題など）を必要とします。合計15回の授業で15時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出物やテストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の提出物にコメントを添えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
必要なものはプリントで配布します。

[参考文献]
独和辞書があることが望ましい。

ドイツ語会話 II

1単位：後期1コマ	1年
織田　晶子	

[到達目標]
自分の日常をドイツ語で表現できるようになります。

[履修の条件]
この「ドイツ語会話 II 」を履修するには、前期の「ドイツ語会話 I 」を履修しておくことを勧めます。

[講義概要]
前期に引き続き、使える表現を増やしていきます。クラスメートとどんどん会話して、ドイツ語を聞いて話して、ドイツ語で伝えたり理解したりする楽しみを体験して下さい。基本パターンをおさえておけば、部屋探しやスケジュールの相談、道案内なども無理なくドイツ語でできるようになります。

■授業計画

第1回　ドイツの住居、日本の住居
第2回　住居、家具、部屋の様子を説明する
第3回　部屋探しをする
第4回　時間の言い方
第5回　スケジュールや開館時間をたずねる
第6回　日付の言い方とあなたの予定
第7回　道案内をしよう(1)
第8回　道案内をしよう(2)
第9回　あなたの交通手段
第10回　ドイツの大学、私の大学
第11回　休暇の予定～どこで何をするのか
第12回　私の休暇
第13回　休暇先からのハガキ
第14回　ドイツのクリスマス
第15回　後期のまとめと練習
第16回　まとめとしてのテスト

[成績評価]
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（10%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
積極的な授業参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。本科目では各授業回に1時間の準備学習（復習や宿題など）を必要とします。合計15回の授業で15時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出物やテストのフィードバックは次回の授業時に行うか、あるいは各自の提出物にコメントを添えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
必要なものはプリントで配布します。

[参考文献]
独和辞書があることが望ましい。

外国の言語と文化　初級（韓国語）

1単位：前期1コマ	1～4年
金　元恵	

[到達目標]
言語はコミュニケーション及びその国の文化理解のために大切な手段です。一番近い外国である韓国の言語を楽しく身につけて、新しい世界を発見することを目指す。

[履修の条件]
言葉（言語）と文化に興味ある学生で、積極的に発音と会話の習得を望む学生。

[講義概要]
①文字と発音から始め、読み書きができ、韓国語で「自己紹介」ができるまで練習する。
②基本的な単語の意味と発音を練習する。そして、基本的な文法を習得して、単文作成を学ばせる。
③テーマに従って会話の練習をする。教師と学生、および学生間の会話の形式をとる。

■授業計画

第1回　ハングルの由来と文化

第2回　文字の母音について　発音を書く練習
第3回　文字の子音について　発音を書く練習
第4回　文字の濃音・激音について　発音を書く練習
第5回　文字の終音（パッチム）の練習
第6回　日常生活の基本的な単語の意味と発音の練習
第7回　自己紹介の文章を作成
第8回　文法①　単文作成を学ぶ・発音のテスト
第9回　文法②　単文作成を学ぶ
第10回　単語テスト、自己紹介の練習
第11回　テーマに従って日常会話の練習①
第12回　テーマに従って日常会話の練習②
第13回　テーマに従って日常会話の練習③
第14回　自己紹介の発表　試験
第15回　「アオガエル物語」
第16回　グループ会話の実施による評価（試験）

［ 成績評価 ］
試験（40％）、レポート（0％）、小テスト（40％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
配布した課題プリントを次回授業のために2時間予習すること。授業で学んだ文法を身につけ、毎日新しい単語を5つずつ覚えるために、2時間復習すること。合わせて4時間となる。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。また、発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
この科目を習得することによって、韓国語による他者理解と自己表現を身につけることができる。

［ テキスト ］
特定の教科書は使用せず、随時必要なプリントを配布する。

［ 参考文献 ］
随時、必要な参考文献を提示する。

［ 備考 ］
授業態度が良好で、かつ三分の二以上の出席が評価の前提となる。

外国の言語と文化　中級（韓国語）

1単位：後期1コマ	1〜4年
金　元恵	

［ 到達目標 ］
多くの日常生活の単語を覚えさせ、年末年始の生活ぶりに関する内容が書けるように目指す。

［ 履修の条件 ］
初級を受けた学生と、韓国語の読み書きができる学生

［ 講義概要 ］
①初級で習得した基本を中心に会話練習をする。教師と学生、および学生間の会話形式をとる。
②形容詞と動詞の語尾変化を学び、手紙が書けるよう練習する。
③場合によって韓国料理を作ることもある。

■授業計画
第1回　発音の復習
第2回　基本的な文字　①単文作成を学ぶ
第3回　基本的な文字　②単文作成を学ぶ
第4回　テーマに従って日常会話を学ぶ　①
第5回　テーマに従って日常会話を学ぶ　②
第6回　テーマに従って日常会話を学ぶ　③
第7回　テーマに従って日常会話を学ぶ　④
第8回　形容詞の意味と発音と単文作成を学ぶ
第9回　形容詞の意味と発音と単文作成を学ぶ
第10回　テーマに従って日常会話を学ぶ　⑤
第11回　テーマに従って日常会話を学ぶ　⑥　形容詞のテスト
第12回　動詞・形容詞の語尾変化を学ぶ　①
第13回　動詞・形容詞の語尾変化を学ぶ　②
第14回　動詞・形容詞の語尾変化を学ぶ　③
第15回　韓国のお正月の儀礼用語、料理の紹介、手紙の書き方を学ぶ
第16回　書いた手紙を各自読み上げて提出したものを評価（試験）

［ 成績評価 ］
試験（40％）、レポート（0％）、小テスト（40％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
配布する課題プリントを各自読んで2時間予習する。授業で学んだ文法を身につけ、毎日新しい単語を5つずつ覚えるために2時間以上復習する。合計4時間以上の準備学習となる。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業時に、テーマに沿った韓国語会話を発表をし、それを教師が受けて適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
この科目を習得することにより、韓国語による一層のコミュニケーション能力を身につけることができる。

［ テキスト ］
特定の教科書は使用せず、随時必要なプリントを配布する。

［ 参考文献 ］
授業時に、適宜紹介する。

［ 備考 ］
授業態度が良好で、かつ三分の二以上の出席が評価の前提となる。

外国の言語と文化　初級（中国語）I

1単位：前期1コマ	1〜4年
八木澤　奏子	

［ 到達目標 ］
1年間の学習を通して
①ピンイン（発音）と基本文法をマスターし、基本的な会話ができる。中国語検定準四級レベル。
②中国の概要を把握し、国情と国民性に関する基本的知識を身につける。

［ 履修の条件 ］
中国や中華圏に興味がある方、熱心な授業参加の可能な方を希望します。

［ 講義概要 ］
歴史的に深い係わりのある隣国中国は、現在その経済躍進により国際社会においてその重要性を増しつつあります。また日本との間では懸案も多く存在します。
顔かたちは私たちと似ているようで全く異なる性質を持つこの国民、漢字など多くの文化を日本にもたらしながらも違いの多いこの国について、政治経済・民族習慣・教育社会・文化芸能及び時事的な諸問題など、毎週さまざまな角度からスポットを当て、その理解を深めます。
また同時に、世界の5人に1人が操る中国語の基礎会話を楽しみながら会得します。

■授業計画

第1回	国名の持つ意味	オリエンテーション　授業の進め方や全概要の紹介
第2回	国民性と特色	発音の基礎　声調とピンイン1
第3回	歴史の流れと特徴	声調とピンイン2
第4回	政治体制の特徴	自己紹介と挨拶
第5回	経済体制の特徴	疑問文1
第6回	映画鑑賞	中国語体験1
第7回	民族の特色	疑問詞1
第8回	中華民族の衣装	否定文1
第9回	食文化	形容詞1
第10回	娯楽と生活	場所詞
第11回	冠婚葬祭	助動詞
第12回	台湾と大陸	形容詞2
第13回	華僑と中国	疑問詞2
第14回	中国茶体験とディスカッション	
第15回	復習と総括	
第16回	試験	

［ 成績評価 ］
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
授業への積極的な参加を20%とします。
試験は筆記試験（30点満点）と口頭試験（70点満点）で行います。
課題提出は映画鑑賞感想文とします。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
語学の習得には日々の積み重ねが必須です。
毎日15分のみの自宅学習を課します。15分以上は不要です。
録音を聞いたり、発音してみたりする復習作業です。
復習に役立つ練習問題などの宿題も課します。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
レポートや試験について、授業内に適宜口頭でコメントします。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を習得することで、
外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができます。

［ テキスト ］
CD 付き指定教材の購入が必要です。
その他資料としてプリントを配布します。

外国の言語と文化　初級（中国語）II

1単位：後期1コマ	1〜4年
八木澤　奏子	

［ 到達目標 ］
1年間の学習を通して
①ピンイン（発音）と基本文法をマスターし、基本的な会話ができる。中国語検定準四級レベル。
②中国の概要を把握し、国情と国民性に関する基本的知識を身につける。

［ 履修の条件 ］
外国の言語と文化　初級（中国語）Ｉを履修済みの方

［ 講義概要 ］
歴史的に深い係わりのある隣国中国は、現在その経済躍進により国際社会においてその重要性を増しつつあります。また日本との間では懸案も多く存在します。
顔かたちは私たちと似ているようで全く異なる性質を持つこの国民、漢字など多くの文化を日本にもたらしながらも違いの多いこの国について、政治経済・民族習慣・教育社会・文化芸能及び時事的な諸問題など、毎週さまざまな角度からスポットを当て、その理解を深めます。
また同時に、世界の5人に1人が操る中国語の基礎会話を楽しみながら会得します。

■授業計画

第1回	前期の復習	前期に習った内容の確認と復習
第2回	国土の自然と地理	完了形

第3回　民族問題（チベット）　介詞
第4回　民族問題（ウイグル）　比較表現
第5回　教育問題　進行形
第6回　貧富の格差　強調と反語
第7回　都市と地方　方向表現
第8回　中国映画史　長文読解1
第9回　映画鑑賞　中国語体験2
第10回　サブカルチャー　長文読解2
第11回　中国茶体験　ディスカッション
第12回　華僑と中国人　長文読解3
第13回　中国と世界　長文読解4
第14回　中国旅行を楽しもう　漢詩体験（もしくはチャイニーズポップスを歌ってみよう）
第15回　総括と復習
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
授業への積極的な参加を20％とします。
試験は筆記試験（30点満点）と口頭試験（70点満点）で行います。
課題提出は映画鑑賞感想文とします。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
語学の習得には日々の積み重ねが必須です。
毎日15分のみの自宅学習を課します。15分以上は不要です。
録音を聞いたり、発音してみたりする復習作業です。
復習に役立つ練習問題などの宿題も課します。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
レポートや試験について、授業内に適宜口頭でコメントします。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を習得することで、
外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができます。

［ テキスト ］
CD 付き指定教材の購入が必要です。
その他資料としてプリントを配布します。

人間・文化とキリスト教 I

2単位：前期1コマ	2〜3年
江口　再起	

［ 到達目標 ］
キリスト教と人間の文化の深い関係を学ぶことを通して、現代世界と人間存在をより深く理解すること。

［ 履修の条件 ］
キリスト教と文化について関心があること。

［ 講義概要 ］
ルターの宗教改革運動によって近代社会の幕が開いたとも言われている。そこでルターと近代の社会、政治、経済、思想、芸術等との関わりについて考える。

■授業計画
第1回　はじめに－　宗教改革運動、カトリックとプロテスタント
第2回　ルターについて①　青年ルターと「塔の体験」
第3回　ルターについて②　神学思想、三大原理
第4回　中世と近代　－　トレルチ・テーゼ
第5回　ルターと近代　－　内面性とこの世性
第6回　ルターと良心
第7回　ルターと言葉（聖書の翻訳）
第8回　ルターと人権（自由と平等）
第9回　ルターと職業（ウェーバーの説）
第10回　ルターと経済（北欧福祉社会）
第11回　ルターと「負の遺産」（ユダヤ人問題など）
第12回　ルターと文学
第13回　ルターと音楽
第14回　ルターと芸術
第15回　ルターとわたし
第16回　まとめ

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
授業における参加態度も考慮する（ノート等をとること）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
期末レポートをおこなう（問題点があれば指摘する）

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。ルターと近代社会について学ぶことにより、人間について考える力をやしなう。

［ テキスト ］
江口再起『ルターと宗教改革500年』（NHK 出版）

［ 参考文献 ］
授業中に指示する。

人間・文化とキリスト教 II

2単位：後期1コマ	2〜3年
江口　再起	

[到達目標]
キリスト教と人間の文化の深い関係を学ぶことを通して、現代世界と人間存在をより深く理解すること。

[履修の条件]
キリスト教と文化について関心があること。

[講義概要]
人間の文化の「最高」の成果、それが原子力です(?)。しかし、人類と原子力は共存できるのでしょうか。原子力の問題をキリスト教の視点で考えます。

■授業計画

第1回　3.11が問うたもの
第2回　自然と文化①
第3回　自然と文化②
第4回　原子力の現実と問題性①　現状と放射能
第5回　原子力の現実と問題性②　原爆と原発
第6回　原子力の現実と問題性③　神の領域
第7回　ヒロシマ・ナガサキの神学−永井隆の「浦上ホロコースト論」
第8回　原子力の原理的特異性①　カトリック神父シャルダン
第9回　原子力の原理的特異性②　吉本隆明
第10回　原子力の原理的特異性③　中沢新一
第11回　原子力の原理的特異性④　ハイデガー
第12回　原子力とキリスト教
第13回　神野すばらしき創造の世界①
第14回　神のすばらしき創造の世界②
第15回　未来への責任　−　ヨナス「責任の倫理学」
第16回　まとめ

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
授業における参加態度も考慮する(ノート等をとること)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末レポートをおこなう(問題点があれば指摘する)

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。原子力の問題を考えることを通じて、人間の責任について学ぶ。

[テキスト]
なし

[参考文献]
授業中に指示する。

キリスト教の人間観 I

2単位：前期1コマ	2〜4年
ジェームズ・サック	

[到達目標]
1. われわれは多元的な社会に住んでいるので、いろんな視点から(たとえば、心理学的、社会的、神学的、人類学的な視点から)人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
2. いろいろな角度から現代の人間問題と取り組む。
3. 課題図書を読み、小グループで議論して、自分の意見を積極的に表現するように奨励する。コミュニケーション・スキルを高める。

[履修の条件]
履修者の積極的な参加と発言を期待する。キリスト教という視点から人間を考える興味を持つ、意欲的な学生が望ましい。

[講義概要]
読書とグループ・ディスカッションを通して人間の喜び、悩みとジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義と体験学習方式で授業を行い、人間って、どんな存在でしょうかということを検討しながら、人間理解をする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：講義の進め方、授業にしようするテキストや参考文献の紹介。
第2回　方法論・主な課題：この学期取り上げる主な課題を説明する。「脳：限るな創造性」のビデオを見てから、意見交換をする。
第3回　「表と裏」：土居健郎氏が書いた「表と裏」の第1章を読んでから話し合う。
第4回　受容と曖昧さを考察する
第5回　「コミュニケーションとは?」というテーマを勉強する。
ポール・トゥルニエ氏が書いた「人間：仮面と真実」(第1章)を読んで、小レポートを書いて、少人数と全体として討議する。
第6回　自己概念の体験学習をする。
トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第2章)を読んで、小レポートを書いて、少人数と全体として討議する。
第7回　「サヴァン症候群」のビデオを見る。
トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第3・4章)の抜粋を読んで、小レポートを書いて、少人数と全体として討議する。
第8回　家族関係と出産順位の体験学習をする。
トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第8章)の抜粋を読んで、小レポートを書いて、少人数と全体として討議する。
第9回　トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第9章)を読んで、小レポートを書いて、少人数と全体として討議する。

第10回　ビデオ：「命は誰のものなのでしょう」を見てから意見交換をする。
第11回　ビデオ：「ALSとの戦い」と「モリー先生との火曜日」を見てから意見交換をする。
第12回　ビデオ：「ピーターの教室」を見てから”Mainstreaming”（普通学級参加）の長所と短所について話し合う。
第13回　「障がい者」と「健常者」を考える
第14回　前期のまとめ
第15回　ジレンマの導入
第16回　レポートの提出

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（25%）、その他の評価方法（25%）

［成績評価（備考）］
成績評価のその他は少人数グループの話し合いの内容を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
キリスト教の人間観（I）では各授業回に4時間の準備学習を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。配布された資料を読む。授業前に配布された資料を予め読んで小レポートを記入しておく。

［試験・レポート等のフィードバック］
レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。物事の本質を把握し、問題点の発見、解決策を提言をし、実行できるように、必要とされる他の人々の協働作業を創り、積極的に参与できるようになることを身につける。
援助者になる学生がきちんと人間の話を聞いて、援助するようになることが出来る。

［テキスト］
「人間・仮面の真実」ポール・トゥルニエ　山村嘉己・渡辺幸博
ヨルダン社　1,900円
プリントをまとめたものを配布する。

［参考文献］
教材としてビデオを使用します。

キリスト教の人間観 II

2単位：後期1コマ	2〜4年
ジェームズ・サック	

［到達目標］
1. 心理学的、社会的、神学的、倫理的、人類学的な視点から人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
2. いろいろな角度から現代の人間問題と取り組む。
3. 講義や小グループとしてジレンマのケース・スタディを提出することやグループで議論して自分の意見を積極的に表現するように勉強する。
4. 授業の勉強と知識に基づいて、深く議論したり、意見を交換したりする。

［履修の条件］
キリスト教の人間観Iを履修しなくても、キリスト教の人間観（II）を履修できるが、キリスト教の人間関（I）が履修済みであることが望ましい。

［講義概要］
講義、グループ・ディスカッションとケース・スタディを通して人間のジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義とジレンマのケース・スタディ方式で授業を行なう。少人数のグループは一緒に特定のジレンマのケースを授業で提出する。全員でケースの選択を配慮してそれぞれの選択の当然の成り行きを検討する。クリスチャン・ノンクリスチャンはどういうふうに人間を見るのかを話し合う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：講義の進め方、授業に使用する教材や参考文献の紹介。ジレンマのビデオ：「無罪か有罪か」を見る。
第2回　ジレンマや少人数のケース・スタディとグループの発表を説明する。
第3回　講義：「自我」
　　少人数のケース・スタディの準備
第4回　講義：「他者関係」
　　少人数のケース・スタディの準備
第5回　講義：「神との関係」
　　少人数のケース・スタディの準備
第6回　少人数のケース・スタディの準備
第7回　少人数のケース・スタディの準備
第8回　最終の少人数のケース・スタディの準備
第9回　ケース・スタディの発表（グループ1）
第10回　ケース・スタディの発表（グループ2）
第11回　ケース・スタディの発表（グループ3）
第12回　ケース・スタディの発表（グループ4）
第13回　討議：「解離性」
　　ビデオ：「私の中の他人」を見てから一緒に考える。
第14回　討議：「ウイリアムス症候群」
　　ビデオ：「ウイリアムス症候群」を見てから討議する。
第15回　マインドフルネスを考えると後期のまとめ
第16回　レポートの提出

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（30%）

［成績評価（備考）］
成績評価のその他はグループ・ディスカッションの発言内容です。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
キリスト教の人間観（II）では各授業回に4時間の準備学習を必

要とする。合計15回の授業で60時間となる。配布された資料を読む。授業前に配布された資料を予め読んで小レポートを記入しておく。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。援助者になる学生がきちんと人間の話を聞いて、援助するようになることが出来る。

[テキスト]
プリントをまとめたものを配布する。

[参考文献]
「甘えの構造」　土居健郎、弘文堂、1985年

社会福祉の基礎

2単位：前期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
3・4年次で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績（※「良」以上）で単位取得済みであることが必須条件となる。

[到達目標]
①社会福祉関係法制度それぞれの成り立ちと内容についての基礎的な知識を習得する。
②ソーシャルワーク実践活動がどのような法制度の枠組みで行われているかを理解する。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、”主体的に”学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

[履修の条件]
・「社会福祉入門」を履修済みであること。但し「社会福祉入門」が単位取得できていなくても「ソーシャルワーク実習」の履修を希望する場合は必ず履修すること。
・編入生で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する場合は、この「社会福祉の基礎」から履修すること。

[講義概要]
本講義では、実習に臨むにあたって必要とされる、社会福祉関係法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基礎的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、老人福祉法、介護保険法について学ぶ。受講生の問題関心を深めるために、適宜参考文献・資料を紹介したり、新聞記事等を教材として活用し小グループでの討議も行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　レポートのまとめ方
第3回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向①
第4回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向②
第5回　障害者総合支援法の理解①
第6回　障害者総合支援法の理解②
第7回　身体障害者福祉法の理解
第8回　知的障害者福祉法の理解①
第9回　知的障害者福祉法の理解②
第10回　精神保健福祉法の理解①
第11回　精神保健福祉法の理解②
第12回　老人福祉法の理解①
第13回　老人福祉法の理解②
第14回　介護保険法の理解①
第15回　介護保険法の理解②
　　各法の要点整理とふりかえり
第16回　定期試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
実習及び実習関連科目を履修するための必須科目であるため、遅刻・欠席に関しては厳しく対応する。なお、実習及び実習関連科目履修の可否については、成績をはじめ、授業態度等を勘案し、社会福祉領域の会議にて審議し最終的に決定する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考資料・文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる定期試験に備えて復習を欠かさないようにすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題レポートに関して、オフィスアワーを用いて個別の添削を行う（希望者のみ）。個別添削により、基本的なレポートの書き方や論理的思考を身につけられるようサポートをする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉関係法制度に関する基本的知識を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
参考文献に挙げた2点は必須ではないが、持っておくことが望ましい。その他必要な資料は適宜配布する。

[参考文献]
①『社会福祉小六法』（各社から出版されている最新版）
②厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向2017/2018年版』2,200円
※上記以外の参考文献については「リザーブブック」として紹介する。

［ 備考 ］
『社会福祉小六法』は毎回の授業に持参することが望ましい。

ソーシャルワーク論Ⅰ

2単位：前期1コマ	2年
福島　喜代子	

［ 到達目標 ］
①相談援助の専門職（ソーシャルワーカー）としての価値、理念を理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる知識を理解する。
③包括的・総合的な援助を考える力を得る。

［ 履修の条件 ］
社会福祉入門、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。社会福祉の基礎（社会福祉入門Ⅱ）を並行履修していることが望ましい。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。

［ 講義概要 ］
授業は、講義と演習からなる。継続的な講義、演習により、ソーシャルワークの基盤となる知識を理解し、専門職としての価値と倫理を身につけ、包括的・総合的な援助を考える力を得る。
演習では、グループごとに、現場のスタッフ役のロールプレイを行いながら、課題の解決に取り組み、全体発表を行う。

■授業計画
第1回　授業のねらい、方針について
第2回　ソーシャルワークの定義
第3回　ソーシャルワークの構成要素
第4回　ソーシャルワークと価値、理念
第5回　ソーシャルワークにおける権利擁護
第6回　クライエントの尊厳と自己決定
第7回　ノーマライゼーションと社会的包摂（ソーシャル インクルージョン）
第8回　アウトリーチ、ケースワークとケアマネジメント
第9回　チームアプローチ、ネットワーキング、ソーシャルサポート、地域ケアシステム
第10回　ネットワーキング、他職種との連携（演習）
第11回　総合的かつ包括的な相談援助
第12回　社会資源の活用・調整・開発（演習）
第13回　全体発表と評価
第14回　ソーシャルワークの形成過程（歴史その1）
第15回　ソーシャルワークの形成過程（歴史その2）
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（40%）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。教科書の該当部分を読むこと。
授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助を行う基盤を身につけることができる。

［ テキスト ］
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』中央法規出版
新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版
初回授業で注文数を確定して、取り寄せ販売する。

［ 参考文献 ］
岩田正美著、『社会的排除−参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣 Insight。

ソーシャルワーク論Ⅱ

2単位：後期1コマ	2年
浅野　貴博	

［ 科目補足情報 ］
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。3年次以降の社会福祉関連施設・機関におけるソーシャルワーク実習や精神保健福祉実習の基礎として位置づけられる。

［ 到達目標 ］
ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ、ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・価値について、個別援助の方法（ケースワーク）を中心にさらに理解を進める。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、”主体的に”学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

［ 履修の条件 ］
原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅰを履修しているか並行履修していること。

［ 講義概要 ］
ソーシャルワーク実践を支える基礎理論、ソーシャルワーク実践のプロセス（展開過程）、相談援助をする上での基礎的な面接

技術等を主に学ぶ。授業は講義と演習からなり、講義だけでなく、グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークを適宜取り入れて進められる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　ソーシャルワークの機能と構造
第3回　人と環境の交互作用
第4回　相談援助における援助関係①
第5回　相談援助における援助関係②
第6回　相談援助のための面接技術①
第7回　相談援助のための面接技術②
第8回　相談援助のための面接技術③
第9回　相談援助のための面接技術④
第10回　小テスト①
第11回　相談援助の展開過程①
第12回　相談援助の展開過程②
第13回　相談援助の展開過程③
　　ソーシャルワーク実践の基礎理論①
第14回　ソーシャルワーク実践の基礎理論②
第15回　小テスト②
　　ソーシャルワーク実践の基礎理論③
第16回　※定期試験は実施しない

［成績評価］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（40%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークにおける授業への貢献度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
指定された参考文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる小テスト（※2回）に備えて復習を欠かさないようにすること。

［試験・レポート等のフィードバック］
・小テスト（※2回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。
・課題レポートに関して、オフィスアワーを用いて個別の添削を行う（希望者のみ）。個別添削により、基本的なレポートの書き方や論理的思考を身につけられるようサポートをする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な基本的な知識と技術を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

［テキスト］
特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている社会福祉士養成講座の『相談援助の理論と方法Ⅰ』『相談援助の理論と方法Ⅱ』

［参考文献］
①川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規2,800円
②北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編（2010）『ソーシャルワーク実践の基礎理論（改訂版）』有斐閣1,890円
③空閑浩人編著（2009）『ソーシャルワーク入門～相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房2,600円

地域福祉論Ⅰ

2単位：前期1コマ	2年
市川　一宏	

［到達目標］
人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等、地域福祉の基本的考え方を理解する。また、地域福祉の主体と対象、地域福祉に関わる組織、団体、及び専門職や地域住民の役割と実際および地域トータルケアシステムの構築方法について理解する。

［履修の条件］
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。「地域福祉論Ⅱ」とあわせて履修すること。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

［講義概要］
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメを資料として配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画

第1回　総論　地域福祉論を学ぶにあたって
　　1. 地域福祉の理念、2. 地域福祉の原則
第2回　地域福祉の発展過程
　　1. 戦後の地域福祉の展開、2. 新しい福祉としての地域福祉
第3回　新しい生活課題に対する地域福祉
　　1. 生活困窮、2. 孤立、3. 虐待
第4回　生活困窮者自立支援制度
　　1. 制度の背景、2. 制度の概要、3. 課題
第5回　地域福祉理論の発展と広がり
　　1. 構造論的アプローチ（①制度論的、②制度政策的、③運動論的）2. 機能論的アプローチ（①主体論的、②資源論的）
第6回　福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成
　　1. 福祉コミュニティ論、2. 主体形成
第7回　地域関係の再検討
　　1. 地域のとらえ方と福祉圏域、2. 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携
第8回　新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉（小括）
　　1. メインストリームとしての地域福祉、2. 地域福祉の構成要素
第9回　地域福祉の主体と福祉教育
　　1. 福祉教育実践の2つの流れ、2. 福祉教育の概念、3. 福祉教育の推進主体
第10回　地域福祉計画

1. 地域福祉計画の背景、2. 地域福祉計画の内容、3. 課題
第11回　社会福祉協議会
1. 成立背景、2. 機能、3. 課題
第12回　社会福祉法人
1. 成立背景、2. 内容、3. 今日の課題（社会貢献）
第13回　地域福祉の主体とその働き③ボランティア活動と福祉教育
第14回　NPO、ボランティア活動
1. 理念、2. 現状、3. 課題
第15回　民生委員児童委員、保護司
1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題
第16回　試験（1～15回までの理解）

［ 成績評価 ］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［ 成績評価（備考） ］
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。教科書を学習すること。またレジメを配布するので、復習すること。なお、質問に対しては、随時アドバイスを行う。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

［ テキスト ］
新・社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規

［ 参考文献 ］
授業の中で紹介する

地域福祉論 II

2単位：後期1コマ	2年
市川　一宏	

［ 到達目標 ］
多職種・多機関との連携を含む、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法、及びその実際について理解する。ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域福祉計画と地域福祉活動計画、サービスの評価方法を含む地域福祉の推進方法について理解する。地域での生活を支える地域福祉サービス、災害と地域福祉、地域福祉の財源について理解する。

［ 履修の条件 ］
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。「地域福祉論Ⅰ」とあわせて履修すること。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

［ 講義概要 ］
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメのパワーポイントを資料印刷し配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画
第1回　地域福祉の推進方法①地域福祉の方法論
第2回　地域福祉の推進方法②地域福祉の対象とニーズ把握の方法
第3回　地域福祉の推進方法③地域福祉の計画化
第4回　地域福祉の推進方法④社会資源の活用・調整・開発
第5回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・生活福祉サービスの実際
第6回　地域のおける地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・生活困窮者の自立支援
第7回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・日常生活自立支援事業
第8回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・地域トータルケアシステムの構築方法と実際
第9回　小テスト（1回～9回までの内容）
第10回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・地域における福祉サービスの評価と質の確保
第11回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・地域福祉財源の確保　公的財源
第12回　地域福祉の推進方法⑤地域での生活を支える地域福祉サービス・地域福祉財源の確保　民間財源
第13回　災害と地域福祉①災害救助と民間福祉
第14回　災害と地域福祉②災害時の避難支援、災害救助、被災後の生活
第15回　まとめ
第16回　試験（1回～15回までの内容）

［ 成績評価 ］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[成績評価（備考）]
・期末試験の評価を中心に成績70％
・その他、授業で求める課題提出や授業への取り組みに対する評価30％

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。教科書を学習すること。またレジメを配布するので、復習すること。なお、質問に対しては、随時アドバイスを行う。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性と心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること3. 総合的・実践的な学習能力ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規

[参考文献]
授業の中で紹介する

ボランティア・市民活動論

2単位：前期1コマ	2〜3年
大曲　睦恵	

[到達目標]
①ボランティア・市民活動の意義・理念、歴史、制度、実際の活動の特色や課題等について学ぶ。
②地域の活動を体験することを通じて、活動の現状や活動者の思い、地域のニーズとボランティア・市民活動の意義を体験的に学ぶ。

[履修の条件]
ボランティア・市民活動について関心があること。地域で行われている活動に参加し、学ぶ意欲のあること。

[講義概要]
参加型授業を通じ、ボランティア・市民活動の意義・理念、歴史、制度、実際の活動の特色や課題等について学ぶ。また、フィールドワークの事前学習、実施、振り返りを通して、地域をフィールドとしたボランティア・市民活動に実際に参加する。ボランティア・市民活動を活動の実際や活動者の思いに直接触れる。

■授業計画
第1回　ボランティア・市民活動の意義・理念・現状
第2回　ボランティア・市民活動・地域福祉活動の歴史
第3回　ボランティア・市民活動の実際1−児童福祉分野
第4回　ボランティア・市民活動の実際2−高齢者福祉分野
第5回　ボランティア・市民活動の実際3−障害者福祉分野
第6回　ボランティア・市民活動の実際4−地域福祉分野、まちづくり等
第7回　ボランティア・市民活動の実際5−国際ボランティア等
第8回　ボランティア・市民活動の実際6−病院ボランティア
第9回　ボランティアコーディネート、地域生活支援コーディネーター
第10回　フィールドワークに向けた準備
第11回　フィールドワーク1
第12回　フィールドワーク2
第13回　フィールドワークの振り返り1
第14回　フィールドワークの振り返り2
第15回　総括
第16回　課題提出

[成績評価]
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（60％）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法の内訳は、フィールドワークへの参加状況40％、授業・報告会への貢献度20％である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、またはフィールドワークに欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
以下に挙げる参考文献を読んでおいたほうが、授業への理解度が深まる。
フィールドワーク先決定後は、フィールドワーク先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各回のリアクションペーパー等を講義の内容に活用する。疑問に応え、参加型の学びに活かす。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当する。この科目を履修することで、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を育む。ボランティア活動や市民活動についての理解を深め、ボランティアを体験し、今後の活動に生かしていけるようにする。

[テキスト]
その都度、資料を提供する。

[参考文献]
『ボランティア論　「広がり」から「深まり」へ』　柴田謙治・原田正樹・名賀亨編　（株）みらい

『よくわかるNPO・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルヴァ書房

[備考]
※フィールドワーク実施先は、学生の希望と受入先の状況等をふまえて決定する。フィールドワークの受入先の都合等により、授業時間外の活動を行う場合があるので留意すること。

多文化ソーシャルワーク

2単位：後期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
日本社会のなかで定住化する異文化を背景と難民、移民が増加している現状を理解し、生活課題の特徴および課題への対応に必要な初歩的な知識、価値、技術を身につけることを目標とします。

[履修の条件]
本講義は、日本国内で増加する難民、移民の生活に関心があり、ソーシャルワークの視点を大切にして、現場の実践から学ぼうとする意欲があることを条件とします。

[講義概要]
1980年代から1990年代にかけて日本経済の繁栄はアジアからの出稼ぎ労働者によって大きく支えられてきた時代が。その過程で、労働、医療、超過滞在などの基本的人権や生活に関わる問題が生じました。現在では、オールドカマーと呼ばれる在日韓国・朝鮮の人々の高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー（新たに来日した人々）と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしています。今後、発展途上国内の失業と日本の少子高齢化により労働力不足が生じ、外国人労働者と家族が増加する可能性は高いといえます。このように日本社会は多文化・多民族化しつつあり、民族や国籍を超えて日本社会も変化していく必要に迫られています。現場での実践家による講義も含まれているので、有意義な学習ができます。

■授業計画
第1回　授業の概要と進め方
第2回　日本社会の多文化化の現状（1）
第3回　日本社会の多文化化の現状（2）
第4回　在日コリアン
第5回　難民
第6回　出稼ぎ労働者
第7回　留学生
第8回　国際結婚
第9回　外国人政策
第10回　日本社会の人々の多様化と共生
第11回　実践事例報告①
第12回　実践事例報告②
第13回　実践事例報告③
第14回　事例検討結果の整理とまとめ
第15回　多文化ソーシャルワークの展開
第16回　多文化社会日本におけるソーシャルワーカーの役割

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関する文献を読むことを通して、基本的理解を発展させてほしい。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対する補足説明を次回の講義時に行う。課題レポートにコメントを付して返却を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー1〜4に該当する。異文化社会から様々な理由で来日して生活している難民、移民の生活課題を理解し、多文化共生を実践する支援者に求められる人間性、知識を身に付ける。

[テキスト]
授業毎に資料を配布します。

[参考文献]
適宜紹介します。

児童福祉の諸問題

2単位：前期1コマ	2年
加藤　純	

[到達目標]
1)「各自が関心を持つ専門領域」と「子どもや家族の生活課題」との関連を理解して、児童福祉への関心を高める。
2)子どもの幸せに関わる課題を家族の状況と関連付けて理解する。
3)子どもや家族の生活課題を、さらに広く、社会の状況と関連付けて理解する。

[履修の条件]
参考図書を読んだりレポートを書いたり、授業外の時間をかなり必要とするので、十分な意欲を持って履修してください。

[講義概要]
社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得に必要な指定科目ではありませんが、児童福祉論（社会福祉士の指定科目）を理解するために重要な内容を学びます。
支援が必要な「諸問題」を理解する視点を学ぶ科目です。「問題」に対する制度政策的な対策は「児童福祉論」、実践的支援方法は「子どものプレイセラピー」「子どものグリーフワーク」「虐待への対応」などで学びます。

■授業計画
第1回　「児童福祉」とは何か。オリエンテーション。
第2回　児童福祉の目的（子どもの幸せとは何か）
第3回　ニーズの連続性（普通の育児〜育児不安〜児童虐

待などを例に）
第4回　援助の連続性（子育て支援～補完～介入～家庭代替）
第5回　役割理論（子育てを役割と捉える）
子育て役割遂行に必要な養育条件と養育環境
第6回　家族の多様性と児童福祉1（親の離婚と子どもの課題）
第7回　家族の多様性と児童福祉2（ひとり親家庭の生活課題）
第8回　家族の多様性と児童福祉3（里親・養子縁組）
第9回　家族の多様性と児童福祉4（里親・養子縁組）
第10回　家族内の課題と児童福祉1（アルコール依存症と家族）
第11回　家族内の課題と児童福祉2（家族内暴力）
第12回　社会状況と児童福祉（養護ニーズ発生理由の変遷）
第13回　学校と児童福祉1（不登校）
第14回　学校と児童福祉2（いじめ）
第15回　まとめ
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（40%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
「その他の評価方法」は期末の自己評価、などです。出席を重視するので、欠席は減点材料とします。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業時間内に必要な内容の全てを紹介できないので、参考文献の関連箇所を読んでください。新聞やニュース、テレビドラマ、映画などを観ながら、子どもの気持ちや子どもの幸せについて考えてみてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計15回の授業で60時間となります。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
期末試験は採点後返却します。
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください）。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性　に該当する。この科目を履修することにより、対人援助職としての全人的な視点から課題を理解する能力を身に付けることができる。

［ テキスト ］
授業中に資料を配付します。

［ 参考文献 ］
白澤政和、岡田喜篤、高橋重宏他編（2003）『社会福祉士のための基礎知識 II』第3章と第4章
春日キスヨ（1989）『父子家庭を生きる』勁草書房
北川清一（2005）『児童福祉施設と実践方法［三訂］』中央法規
正高信男（1998）『いじめを許す心理』岩波書店

教育心理学

2単位：後期1コマ	2年
佐藤　舞	

［ 到達目標 ］
①教育心理学の基本的な原理を理解すること。②教育に関わるさまざまな問題を科学的に捉える考え方を身につけること。

［ 履修の条件 ］
こちらから指定する条件は特にありません。

［ 講義概要 ］
心理学は実証科学的方法によって人の心を解き明かそうとする学問であり、扱う領域は多岐にわたる。なかでも教育心理学は、教え教わるなかで人が学ぶ過程に関わる諸問題を扱う。これらの諸問題はさらに、発達・教授・学習・認知など、複数の分野に細分化される。本講義では、これまでに集積されてきた知の体系を、15回の講義で可能な限り広く取り上げ、紹介する。基本的にパワーポイントで説明し、配布資料に学生が穴埋めする形式をとるが、一部の題材についてはDVD等映像を使用したり、グループディスカッションを行ったりする場合もある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション（本講義の目的・概要・構成）
第2回　記憶（長期記憶・短期記憶・作動記憶・忘却）
第3回　学習（1）（古典的条件づけと道具的条件づけ）
第4回　学習（2）（試行錯誤と洞察・観察学習・学習の転移）
第5回　推論と問題解決（問題解決・帰納的推論・演繹的推論・メタ認知）
第6回　動機づけ（1）（動機づけとは）
第7回　動機づけ（2）（様々な動機づけ理論）
第8回　知能（知能の理論と測定）
第9回　発達（1）（発達とは）
第10回　発達（2）（人間の発達）
第11回　発達（3）（発達理論）
第12回　発達（4）（LD・ADHD・ASD等の発達障害の理解）
第13回　教授法と教育評価（代表的な教授法・ATI・教育評価の目的・相対評価と絶対評価）
第14回　学級集団（集団の人間関係・ソシオメトリー・教師期待効果・リーダーシップ）
第15回　まとめ
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
毎回の授業において、授業の感想や質問などを記入してもらいます。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義冒頭に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。教育心理学を学ぶことにより、教育に関わるさまざまな問題を理解する枠組みを獲得するとともに、教育現場においてつまずきや困難を抱える子どもへの支援について包括的な知識を得る。

[備考]
講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

発達心理学

2単位：前期1コマ	2年
高城　絵里子	

[到達目標]
①発達心理学の基本概念・理論を理解する。
②臨床現場や日常場面における発達心理学の知識・理論の応用について、理解を深める。
③今後の発達心理学の発展に向けた課題を考察する。

[履修の条件]
講義中に実施するディスカッションやワークにおいて、履修者の積極的な参加と発言を期待する。人間の発達・成長に興味を持ち、発達心理学の知識を自己理解や日常生活に活かす意欲を持つ学生が望ましい。

[講義概要]
発達心理学の基礎用語や概念・理論について、エリクソンの生涯発達の視点を踏まえ講義形式で学習する。また、幅広い対人援助の現場、あるいは日常場面における発達心理学の知見の有用性について、討論を交えて考えを深める。各単元ごとに質疑応答とグループディスカッションを取り入れ、また毎回授業終了後に提出を求めるリアクションペーパーと次回授業でのフィードバック実施により、学生の理解を丁寧に進めることを目指す。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材については DVD 等の映像や画像を活用する。
本講では以下の内容を含む。
1. 認知機能の発達及び感情・社会性の発達
2. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達
3. 誕生から死に至るまでの生涯における発達
4. 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
5. 高齢者の発達

■授業計画

第1回　オリエンテーション、授業のねらいと方針
「誕生から死に至るまでの生涯における発達」の視点を紹介し、発達心理学の定義を解説する。
第2回　生涯発達①胎児期の発達
胎児期の発達を概観し、妊娠期の両親の心理を理解すると共に、その支援について考察する。
第3回　生涯発達②乳児期の発達
乳児期の心身の発達と課題を概観し、育児に関する問題理解を踏まえてこの時期の支援について考察する。
第4回　生涯発達③幼児期の発達
幼児期の心身の発達と課題を概観し、家庭の役割とその支援について考察する。
第5回　生涯発達④乳幼児期の発達
「認知機能の発達及び感情・社会性の発達」
乳幼児期の認知発達に焦点を当て、ピアジェの理論を紹介する。
第6回　生涯発達⑤児童期の発達
児童期の心身の発達と課題を概観し、学校教育と家庭の役割を踏まえて、その支援について考察する。
第7回　生涯発達⑥思春期の発達
思春期の心身の発達と課題を概観し、その支援について考察する。
第8回　生涯発達⑦青年期の発達
青年期の心身の発達と課題を概観し、アイデンティティの概念を理解した上でその支援について検討する。
第9回　生涯発達⑧成人期の発達
成人期の心身の発達と課題を概観し、その支援について考察する。
第10回　生涯発達⑨中年期・高齢者の発達
中年期・老年期の心身の発達と課題を概観し、その支援について考察する。
第11回　生涯発達⑩発達のまとめ
「自己と他者の関係の在り方と心理的発達」に焦点をあて、生涯発達を概観する。
第12回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方①
ASD の障碍特性を理解し、その支援について検討する。
第13回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方②
AD/HD および LD の障碍特性を理解し、その支援について検討する。
第14回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方③
発達障碍の支援について実際の事例を提示し、その効果や今後の可能性を検討する。
第15回　発達臨床現場の理解
発達支援の現場における幅広い実践を紹介し、臨床現場・対人援助現場での発達心理学の応用について討論する。
第16回　全体のまとめとレポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
課題提出は毎回のフィードバックペーパー、および授業中に実施するワークの提出を指す。
その他の評価とは、授業およびディスカッションへの参加態度に関する評価を指す。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。事前学習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた予習を勧める。事後学習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察を求める。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。発達心理学の基本的な理論と方法を学ぶこと、またグループディスカッションやレポートへの取り組みにより、人間の発達に関する課題の発見と分析、解決への提言へとつなげる。授業内でのディスカッションやワークを通して他者理解と自己表現のコミュニケーションを実践する。

[テキスト]
特に定めない。授業内で必要に応じてテキストを配布する。

[参考文献]
特に定めない。講義の中で適宜紹介する。

[備考]
毎回講義終了時にフィードバックペーパーの提出を求める。

国際社会福祉概説

2単位：前期1コマ	2年
原島　博	

[到達目標]
世界の人々の福祉を実現するためには、世界の人口の3分の2を占める発展途上国に暮らす人々の福祉を抜きして考えることはできません。国際社会福祉の目標は、地球に暮らす人々の社会問題が解決されることにあるといえます。本科目では、今日の地球社会を取り巻く変化に注目しながら、問題現象を国際的視点から理解することができるようになります。

[履修の条件]
世界の3分の2の人びとが暮らす発展途上国社会の福祉の課題を国際協力の視点から学ぶ意欲のある学生諸君の履修を期待します。海外インターンシップ（3年）の履修を考えている場合は、必ず履修してください。

[講義概要]
20世紀の国際関係に影響を与えた出来事から世界で暮らす人々のこれからの地球社会（global society）の姿を考えたいと思います。相互依存が進む国際社会においてどのような地球規模の福祉の諸課題が生み出されているかを把握しながら、すべての人びとの安全が守られる社会のあり方を考えます。具体的には、国連憲章、世界人権宣言から人類不偏の願いを概観し、平和と暴力、貧困、難民、子ども、女性、多民族共生、ガバナンスや市民社会の役割などに関する課題を扱います。そして、21世紀における私たちの近未来を描いてみたい。授業では、講義のほか、視聴覚教材を利用します。

■授業計画
第1回　世界はどのように歩んできたか
第2回　戦後の世界と今日の「人間の安全」
第3回　発展途上国と先進国の関係
第4回　「貧富の格差」と「貧困の悪循環」
第5回　「子どもの権利」
第6回　「女性と開発」
第7回　「難民と平和構築」
第8回　「移民と多文化共生」
第9回　持続可能な開発
第10回　“共有の未来”の実現とソーシャル・アクション
第11回　持続可能な開発目標（MGDs）
第12回　国際協力とソーシャルワーク
第13回　ワーカーの役割
第14回　地球社会の課題と地球市民の役割
第15回　まとめ（1）
第16回　まとめ（2）

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（20%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
参考文献を読んでおく。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回以降の講義内容において行う。課題レポートについては、コメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー1～4に該当する。地球規模の共通課題について総合的に学び、人間がどのように持続可能な社会を構築していくことができるかを、講義、グループ討議、ゲスト講師から学ぶことにより、全人的なヒューマンケアな高度な専門性の基礎的な学びを行う。

[テキスト]
特定の教科書は使わず、必要な資料を配布します。

[参考文献]
適宜紹介します。

カウンセリング実技の基本

2単位：前期1コマ	2年
植松　晃子	

[到達目標]
人が人を援助する際に重要なことは何か、知識の整理だけでなく頭と身体を動かしながら、体験的に対人援助の基本としてカウンセリング実技に必要な基礎を学びます。

[履修の条件]
2年生以上が履修可能です。体験型の授業ですので、授業のルールを守り、全ての授業に出席し、積極的な参加ができる人を求めます。初回に授業の概要を説明します。関心のある方は出席して、履修の際の参考にしてください。

[講義概要]
カウンセリングでの援助について、具体的な体験の中で理解しながら、専門家がどのように人と関わっていくのかを理解します。前半は討論を交えた知識の整理を中心に、後半はロールプレイを用いた体験学習を中心に授業を構成しています。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することもあります。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：授業の説明・ルールの説明
第2回　カウンセリングとは何か：神経症の理解
第3回　カウンセラーはカウンセリングを通して何をするのか
第4回　「健康な心」とは何か：自我機能の理解
第5回　面接空間にあるモノを理解する
第6回　臨床的態度について理解する1：ロジャーズによる6条件を中心に
第7回　臨床的態度について理解する2：ロジャーズによる6条件を中心に
第8回　臨床的態度について理解する3：ロジャーズによる6条件を中心に
第9回　技法を学ぶ1　クライエントの主訴を聴く
第10回　技法を学ぶ2　クライエントの主訴を聴く
第11回　技法を学ぶ3　クライエントの内的世界に関心を持つ
第12回　技法を学ぶ4　クライエントの内的世界に関心を持つ
第13回　技法を学ぶ5　クライエントの自己理解を促進する
第14回　技法を学ぶ6　クライエントの自己理解を促進する
第15回　技法を学ぶ7　知識、臨床的態度、技法、総合的に活用してみる
第16回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
レポートおよび課題提出（ワークシート）によって評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
カウンセリングについての理解を深めるために、各自ノートやワークシート、また参考文献による予習と復習を薦めます。ワークシートには授業で掴んだこと、また次の授業で取り組みたいことを記入する欄があります。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予・復等）を必要とし、合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
ワークシートは、最終レポートに全てまとめて添付する。毎回の授業で、各自が作成したワークシートをもとに、質問やフィードバックをする時間を設ける。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
カウンセリングに関する知識や臨床的態度とは何かを学ぶことにより、カウンセリングの基礎を学ぶ。

[参考文献]
小谷英文「ガイダンスとカウンセリング；指導から自己実現の共同作業へ」北樹出版

[備考]
＊レポートは学期末に提出する

カウンセリングの実際

2単位：後期1コマ	2年
分島　芳子	

[到達目標]
カウンセリングが様々な対人援助場面でどの様に実践されているのか、その実際を学ぶ。
実際の事例を通して、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要するもの等に関する知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とする。

[履修の条件]
カウンセリングに関する基礎的な知識と理論の概要をすでに学習していることを前提とする。
体験型の授業ですので積極的な授業参加が出来る人を求めます。

[講義概要]
カウンセリングが実際にはどの様なプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながら知識の整理をします。後半は医療、教育、産業等の臨床場面での事例素材により、カウンセリングの実際を学びます。講義と共に適時、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討ではグループデスカッションを取り入れ、対人援助場面での臨床心理学的な専門性とはなにかの理解を深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
学習の目標と概観、授業の進め方、評価、参考文献の紹介等
第2回　カウンセリングとは何か。
カウンセラーに求められる基本的な態度
第3回　カウンセリングの対象と目的、方法

第4回　カウンセリングの過程①
　　カウンセリングの開始まで。
　　インテーク面接、予備面接
第5回　カウンセリングの過程①−2
　　インテーク面接の実際
第6回　カウンセリングの過程②
　　初期と中期にまつわる問題
第7回　カウンセリングの過程③
　　終期にまつわる問題
第8回　様々な臨床場面での実際を学ぶ①
　　医療領域：精神医学的な基礎知識の必要性
第9回　様々な臨床場面での実際を学ぶ②
　　医療領域：他職種との連携を考える
　　事例検討
第10回　様々な臨床場面での実際を学ぶ③
　　教育領域：カウンセリングの目的を再び考える
第11回　様々な臨床場面での実際を学ぶ④
　　教育領域：事例検討
第12回　様々な臨床場面での実際を学ぶ⑤
　　産業領域：カウンセリングの対象を再び考える
第13回　様々な臨床場面での実際を学ぶ⑥
　　産業領域：事例検討
第14回　カウンセリングにおける実際問題
　　他職種連携および地域連携
第15回　まとめ
　　カウンセリングとは何かを再考する。
第16回　試験

［成績評価］
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

［成績評価（備考）］
課題提出：毎回授業後にリアクションペーパー（①授業で興味を持ったところ・感想。②疑問点　③質問・要望等）を提出。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回授業で扱ったテーマ・事例に関して、自分でその内容を振り返り知識を整理し考察を深めること。カウンセリングに関しては様々な文献が出ています。それぞれ興味のある所から自己学習し学び深めてほしい。
本科目では各授業回に事前学習1時間、事後学習3時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することにより、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する実践的な知識と技能の基本を身につけることができる。

［テキスト］
特に定めない。必要に応じてテキストを配布する。

［参考文献］
カウンセリング初歩
氏原寛、東山紘久著　ミネルヴァ書房
心理療法序説
河合隼雄緒　岩波現代文庫
精神分析的心理療法の手引き
鑪幹八朗監修　誠信書房
臨床面接のすすめ方−初心者のための13章−
M. ハーセン、V.B. ヴァンハッセル　編　深澤道子監訳　日本評論社

［備考］
小グループでの討論、ロールプレイングなど、体験学習を行います。他の受講者に迷惑がかかりますので遅刻しないように心がけること。

心理学実験

2単位：後期2コマ	2年
松田　崇志、栗田　明子	

［到達目標］
①客観的に計測できる「行動」を指標として，人間の心の働きを科学的に捉える方法を理解する。
②心理学の代表的な実験を実施・体験することにより，実験の計画立案ができるようになる。
③小グループおよびペアで，実験データの実施・収集，統計的検定によるデータ処理，結果の適切な解釈および実験レポートの作成という過程を経験することによって，科学論文を作成する技能を身につける。

［履修の条件］
①「心理学研究法Ⅰ（データ解析）」「心理学研究法（統計基礎）」「臨床心理フレッシュマンゼミ」を履修済みであることが望ましい。
②グループ編成を行うため，必ず初回から受講すること。また，全ての授業への出席，積極的な授業参加を求める。そのため，5回以上欠席した場合は単位を認めない。ただし，やむを得ない事情がある場合は，担当教員に相談すること。

［講義概要］
本授業では、代表的な心理学実験をいくつか取り上げて、小グループ、またはペアで実際に実験を行い、データを集計し、統計ソフトでデータ解析を経て、結果を読み取る力を身に付ける。そしてレポート作成するまでの流れを体験的に学ぶ。授業はパワーポイントを用いて行うことがある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，レポートの書き方，講義の進め方・参考文献の紹介
第2回　ミュラー・リヤー錯視　実験の手続き説明、実験、データ集計
第3回　ミュラー・リヤー錯視　実験結果の統計検定、解説
第4回　パーソナルスペース　実験の手続き説明、実験、データ集計

第5回　パーソナルスペース　実験結果の統計検定、解説
第6回　鏡映描写　実験の手続き説明、実験、データ集計
第7回　鏡映描写　実験結果の統計検定、解説
第8回　ミュラー・リヤー錯視・パーソナルスペースのレポートのフィードバック
第9回　ストループ効果　実験の手続き説明、実験、データ集計
第10回　ストループ効果　実験結果の統計検定、解説
第11回　対人魅力　実験の手続き説明、実験、データ集計
第12回　対人魅力　実験結果の統計検定、解説
第13回　SD 法によるイメージの評定　実験の手続き説明、実験、データ集計
第14回　SD 法によるイメージの評定　実験結果の統計検定、解説
第15回　まとめと最終レポート提出

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
各実習のレポート提出に加え、各実習への参加状況、授業でのディスカッションの参加・貢献度によって評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
統計基礎・データ解析の知識、心理学分野におけるレポートの書き方の知識が必須となるため、必ず復習しておくこと。また各実験実施後には、次週までにデータ入力が課題となる場合がある。本科目では各授業回に事後学習4時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，レポートのフィードバックに関しては，授業内で適宜コメントしたり，添削したレポートを返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

[テキスト]
特に定めない。授業内で必要に応じてテキストを配布する。

[参考文献]
①B. フィンドレイ著「心理学実験・研究レポートの書き方　学生のための初歩から卒論まで」北大路書房　1996年（本体価格:1,300円+税）
②西口利文・松浦均編「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版　2008年（本体価格:2,200円+税）
③日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編集）「認定心理士資格準拠実験・実習で学ぶ心理学の基礎」　金子書房　2015年（本体価格:2,500円+税）
④小河妙子・斉藤由里・大澤香織「心理学実験を学ぼう!」金剛出版　2010年（本体価格:2,200円+税）
⑤宮原英種・宮原和子監修「心理学実験を愉しむ」ナカニシヤ出版　2003年（本体価格:2,400円+税）

[備考]
①詳細はオリエンテーションで伝えるが、授業内で実験の実施・データ収集を行う関係上、遅刻・欠席は厳禁である。
②全ての課題に対してレポートを提出しないと単位は認められない。
③受講者数などによって、実験種目を変更する場合がある。

いのち学序説

2単位：後期1コマ	1〜2年
石居　基夫	

[到達目標]
今日の「いのち」をめぐる諸問題に目を向け、キリスト教の視座に立ってそれらを捉え、思索するための基礎的知識と方法を獲得することを目標とする。

[履修の条件]
特にないが、授業内でのディスカッション／グループでの課題（発表）等に熱心に取り組む者に限る。

[講義概要]
現代社会における「死といのち」の諸問題を見すえ、キリスト教の視座からこれに取り組んでいくことを学んでいく。授業は、講義とクラスのディスカッションによって進められる。

■授業計画
第1回　イントロダクション・いのち学の概要、グループワークについての説明
第2回　いのちのはじまりについて
第3回　いのちの喜び
第4回　労苦と苦難
第5回　病・障がいを生きる
第6回　人間の自己理解
第7回　科学・医療と「いのち」①
第8回　科学・医療と「いのち」②
第9回　他者とともに生きる
第10回　求められる和解
第11回　いのちは誰のものか
第12回　死後の世界、死者とともに生きる
第13回　自然の中にあって
第14回　いのちと宗教
第15回　いのち学とは
第16回　「いのち」の問い

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の学びをノートによって確認1時間。またグループ学習は、平均して個別の準備に1時間、グループごとの取り組みとして平均して毎週2時間を必要とする。合計毎週4時間の合計60時

間。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーについては、次回授業においてそれに対応をして応答する。各グループでの発表時にはコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を養うことに関わる。キリスト教的人間理解を広く学ぶこと、また個別研究をグループで行う。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会・新共同訳)

[参考文献]
森岡正博『生命学をひらく』、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』、小澤竹俊『13歳からの「いのちの授業」』など、授業のなかで紹介する。

人間・いのち・世界 I

2単位：前期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

[到達目標]
人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。

[履修の条件]
キリスト教概論、聖書入門などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。キリスト教学科の2年次必修科目。

[講義概要]
関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教(キリスト教)という地平から探っていく。

■授業計画
第1回　イントロダクション・人間、また宗教に関して学ぶ。
第2回　人間とは何か①
第3回　人間とは何か②
第4回　世界とは何か①
第5回　世界とは何か②
第6回　生きることの意味と価値
第7回　わたしがわたしであること
第8回　心とからだ
第9回　自然の中で
第10回　働くこと
第11回　性と結婚
第12回　人間の罪
第13回　宗教と国家①
第14回　宗教と国家②
第15回　神を信じるということ
第16回　人間・いのち・世界について

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることに4時間。合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーや提出物について次回授業内で応答する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3. 総合的・実践的な学習能力」に関わ理、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会・新共同訳)

[参考文献]
パスカル『パンセ』、サン・テグジュペリ『星の王子様』など、授業内で紹介する。

人間・いのち・世界 II

2単位：後期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

[到達目標]
現代と宗教の関係について考えるための基礎的な視点と考え方に触れ、現代世界における宗教の持つ意味を深く探求する力を獲得する。

[履修の条件]
キリスト教概論、聖書入門などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。キリスト教学科の2年次必修科目。「人間・いのち・世界　I」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
この授業では宗教が持っている役割、その問題性や可能性を探りながら、「現代社会」と「いのち」の問題を深く考察していく。

■授業計画
第1回　イントロダクション
第2回　現代日本と宗教①
第3回　現代日本と宗教②
第4回　科学・理性時代と宗教
第5回　情報化社会と人間
第6回　マテリアリズムの世界
第7回　ニヒリズムと宗教
第8回　歴史を生きること

第9回　戦争と平和
第10回　安らかな死のために
第11回　世界の宗教①
第12回　世界の宗教②
第13回　宗教と哲学
第14回　文化の中のスピリチュアリティー
第15回　宗教の否定
第16回　現代世界と宗教について

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることに4時間。合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーや提出物については次回授業の中で応答する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3. 総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会・新共同訳)

[参考文献]
授業内で紹介する

キリスト教の倫理

2単位：前期1コマ	2〜4年
田島　靖則	

[到達目標]
自由、平等、博愛といった近代以降は自明とされてきた価値観もまた、西欧キリスト教の精神的土台の上に成立した観念である。しかし、そういった近代的価値観の成立は一朝一夕に成ったものではない。本講義は、近現代の人間観を構成するキリスト教的価値観の成立を、歴史的経過を追いながら学び、現代を生きる私たちを支えるキリスト教的人間観について考えてみたい。

[履修の条件]
キリスト教の基礎知識を前提とした講義であるため、1年次で履修すべきキリスト教科目の単位取得者を対象とする。

[講義概要]
キリスト教の価値観に基づいて建国されたアメリカ合衆国においても、「平等」についての考え方は1960年代までは優生思想のパラダイムを脱することは出来なかった。本講義においては、アフリカ系米国人の公民権運動を中心として、それ以前のキリスト教倫理の視点とそれ以後の視点の違いを検証する。また合わせて、人種差別を受けたアフリカ系米国人の多くが、なぜ抑圧者の宗教であったキリスト教を受け入れたのかについても考えたい。アフリカ系米国人の公民権運動は、マーティン・ルーサー・キング Jr. 牧師と、マルコム X の主張を軸として学びを進める。

■授業計画
第1回　絵本「ちびくろさんぼ」はなぜ廃刊になったのか?
アフリカ系米国人を誕生させた奴隷制度について
米国の国民的画家、ノーマン・ロックウェルの描くアフリカ系米国人の姿
映画「アミスタッド」
第2回　アフリカ系米国人はなぜ、アメリカ合衆国独立宣言(1776年)によって庇護されなかったのか?
「ジム・クロー法」の成立まで
第3回　アフリカ系米国人のアイデンティティー
ブッカー T. ワシントン、W. E. B. デュボイスの思想
第4回　デイヴィッド・ウォーカーの指摘
アフリカ系米国人キリスト教徒の誕生
アフリカン・メソジスト・エピスコパル教会の創設
第5回　米国の教育と人種隔離政策
リトルロックのセントラル高校の事例
ミシシッピ大学の J. メレディスの事例
第6回　ローザ・パークス事件(1955年)とキング牧師
モンゴメリー・バス・ボイコット運動
映画「グローリー」
第7回　非暴力主義の源泉、マハトマ・ガンジーの「サティヤグラハ」思想
マーティン・ルーサー・キング Jr. 牧師の生い立ちとキリスト教思想
キング牧師の「非暴力部隊」とその「入隊誓約」
第8回　バス・ボイコット運動から統合教育運動、フリーダムライド運動へ
映画「ミシシッピー・バーニング」
第9回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽1
ビリー・ホリディ「Strange Fruit」
もう一人の黒人指導者、マルコム X.
映画「マルコム X」
第10回　マルコム X の「民族的威信」と「黒人民族主義」
マルコム X のキング牧師批判
第11回　キング牧師は「アンクル・トム」なのか?
「左の頬をも向けなさい式」は正しい方法か?
第12回　アフリカ系米国人と犯罪
ロドニー・キング事件
第13回　現代の憎悪犯罪(ヘイト・クライム)
第14回　社会の縮図であるアメリカ合衆国の軍隊
民族主義と宗教
第15回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽2
マヘリア・ジャクソン「Joshua fit the battle of Jericho」「Let the church roll on」「Come on children, let's sing」
第16回　レポート提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価（備考）]
講義期間中に実施する「小レポート（20％）」と受講後に提出する「レポート（80％）」の完成度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
絵本「ちびくろさんぼ」、ハリエット・ビーチャー・ストウ「アンクルトムの小屋」は事前に読んでおくこと。各自が好みのアフリカ系米国人に関する芸術（文学、音楽）について調べ、授業中にディスカッションできる知識を得ておくことが望ましい。各講義の前後に予習復習を行うこと。合計15回の講義で60時間程度の準備学習時間が求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
「小レポート」は、翌週の講義内で数名の提出物についてその内容を発表し、ディスカッションの資料としたい。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この講義で取り上げる事例は、すべて「他者との出会い」と「他者理解」をテーマとしている。

[テキスト]
テキスト購入は不要

[参考文献]
ジェイムズ・H. コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコム X』日本基督教団出版1996年

英語特別プログラム（English for Special Purposes）

1単位：後期1コマ	1〜2年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
学生のニーズにあわせて授業を計画します。

[履修の条件]
(1)留学、あるいはインターンシップ海外インターンシップのための準備、学生のニーズに合わせて行う。
(2)次の手続きを経て、履修が認められる。
・履修希望者は、次の学年はじめのオリエンテーション期間中に担当教員に申し出、履修内容、履修計画等を提出する。
・履修届最終期限前に教養部の教授会で承認を得て、履修届をする。
(3)通常の授業（1コマについて、90分授業を少なくとも13回）と同じかそれ以上の教員との学習、そのための予習・復習の学習が必要である。
(4)学習状況が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

[講義概要]
学年度始めの履修計画に基づいて、1コマについて少なくとも週1回の指導を受け、勉強を続けていく。

■授業計画

第1回　Orientation/Needs Assessment
第2回　First reading
第3回　Homework/Second reading
第4回　Homework/Third reading
第5回　Homework and discussion/Fourth reading
第6回　Homework/Fifth reading
第7回　Homework/Sixth reading
第8回　Homework/Seventh reading
第9回　Homework/Next reading
第10回　Homework and discussion/Next reading
第11回　Homework and discussion/Next reading
第12回　Homework and discussion/Next reading
第13回　Homework and discussion/Next reading
第14回　Homework and discussion/Next reading
第15回　Homework and discussion/Next reading
第16回　Final project
　　Writing, presentation, etc.

[成績評価]
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（70％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
先生の提供するプリントを事前によく読んでおくこと。本科目では、各授業回に1時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で15時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業に内容によって、個人的指導、など。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
学生の履修計画に基づいて、適切なテキストを担当教員が選択する。

[参考文献]
必要な時に授業内で情報提供する。

外国の言語と文化　（フィリピノ語）

1単位：後期1コマ	1〜4年
原島　博	

[到達目標]
本講座を通じて、フィリピンへの海外研修、海外インターンシップA（フィリピン）で使えるフィリピノ語の日常表現を習得することに加え、フィリピン社会・文化を理解することを目標とします。

[履修の条件]
語学学習は継続することが大切ですので、最後までついてきてほしい。フィリピンへの海外研修、海外インターンシップへ参加を予定している学生は履修してください。

[講義概要]
フィリピン共和国は、100以上の言語と1100の島から成り立つ、東南アジアの多民族、多言語国家であります。マレー半島から人々の移動、定住する前から先住民がすでに現在のフィリピン諸島には暮らしていました。欧米の植民地主義の過程でスペイン、米国、日本の支配を受けました。今日において日本とフィリピンの経済関係は密接な関係にあります。文化の面においても日本のアニメやＪポップも普及しています。また、フィリピン人は国際結婚、看護師・介護士として近年来日しています。授業では、フィリピノ語学習を通して、社会や文化についても学んでいきたいと思います。

■授業計画
第1回　あいさつ：Magangdang umaga po.
第2回　呼びかけと自己紹介：Kumusata ka?
第3回　別れのあいさつ：Sige. Mauuna na ako.
第4回　相手についてたずねる：Sino siya? Ano siya?
第5回　ほめる表現：Masarap!
第6回　形容表現：Mainit ba sa Maynila?
第7回　時間の表現：Anon oras na? Ala una na ngayon.
第8回　欲求を伝える：Gusto kong kumain ng adobo.
第9回　用事を伝える：May miting ako mamayang hapon.
第10回　所有をたずねる：Kanino ang kotse na iyon?
第11回　依頼の仕方：Paki sabi lang sa kaniya.
第12回　～しましょう：Magsine tayo ng iwojima karano tegami.
第13回　まとめ1
第14回　まとめ2
第15回　プレゼンテーション（1）
第16回　プレゼンテーション（2）

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で学習した単元を確実に理解し、活用できるようにしてほしい。繰り返しの練習が結果につながる。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
学んだことをオーラルプレゼンテーションしてもらい、その内容に応じてその場でコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力を高めることに該当する。アジアの一員である日本人として、フィリピノ語を学ぶことを通して、コミュニケーションスキルを身に付ける。歴史や文化を学ぶことを通してフィリピン人の理解を深め、日本とフィリピンを取り巻く国際関係についての理解を深める。

[テキスト]
『ゼロからはじめるフィリピン語』澤田公伸、下平英輝著　三修社　2007年
各自で購入のこと。

[参考文献]
『ニューエクスプレス　フィリピン語』山下美智子著　白水社　2010年
『ゼロからはじめるフィリピン語』澤田公伸、下平英輝著　三修社　2007年
『フィリピン語文法入門』大上正直著　語研　2003年
『フィリピン語単語2000』山下美智子　白水社　1989年
『現代フィリピンを知るための61章』大野拓司、寺田勇文編著　2007年
『フィリピンの辞典』「東南アジアを知るシリーズ」同朋会、1992年

海外研修Ｂ（欧米）

2単位：集中	1～4年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
海外研修は、フィールドを海外に移して、日本と海外の国で生じている人間社会の諸問題の背景を理解し、制度、政策、実践の在り方を学ぶことを目標とします。

[履修の条件]
海外研修に参加する学生は、担当教員の指示に従い、事前および事後の学習会（5回程度）に参加することが条件とされます。参加者は本科目の所定の課題を終了することによって、単位修得が可能です。諸外国の人間社会の課題や実践から学ぶ点は多く、日本の社会の課題や対応を国外から見ることのできる貴重な機会です。参加希望者が多い場合は、上級生を優先することもあります。参加者は、帰国後に報告書作成および報告会を企画・実施することとする。なお実施は年度末にかかるため、履修登録及び単位取得は次年度になります。4年生は参加可能ですが単位の取得はできません。

[講義概要]
2018年度は下記の海外研修プログラムの実施を予定しています。
総合人間学の視点（キリスト教人間学、社会福祉、臨床心理等を含む）から学べる研修内容となります。
ノルウェー研修：2019年3月に実施を予定したい。
詳細については、別途開催される説明会に参加してください。予定が変更する場合は、掲示およびポータルで連絡します。

■授業計画
第1回　海外研修の説明会
第2回　事前学習1
第3回　事前学習2
第4回　事前学習3
第5回　事前学習4
第6回　事前学習5
第7回　研修先ーオリエンテーション

第8回　研修先−見学・講義
第9回　研修先−見学・講義
第10回　研修先−見学・講義
第11回　研修先−見学・講義
第12回　研修先−見学・講義
第13回　研修先−見学・講義
第14回　研修のまとめと振り返り
第15回　研修報告会の開催
第16回　研修報告書の作成

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
研修中の役割遂行、報告会の企画・実施、報告書の作成が条件となります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研修に先駆けて事前学習会を開催して、必要な学習を行う。研修中においても振り返りの時間を確保する。研修後の報告書作成、学内報告会の企画・開催機会を持つ。

[試験・レポート等のフィードバック]
研修に先駆けて事前学習会を開催します。ブックレポートや調べ学習に対して、参加者同士がフィードバックを行う。研修実施後に報告会の実施、報告書の作成を通して、経験の共有を図ります。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー1〜4に該当します。海外研修は、ディプロマポリシーを包括する学びの機会であります。海外の国々の自然、文化、宗教、歴史の中で現在直面する社会における人々の困難性をについて学び、対人援助者となる立場から、海外の現場での取り組みを包括的に学ぶ。日本との類似点、相違点を認識し、人間を総合的に理解し援助する力を養う。

[テキスト]
各研修担当教員が指示します。

[参考文献]
適宜紹介します。

食といのちと環境 I

2単位：前期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
前期は農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

[到達目標]
さまざまの文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

[履修の条件]
特にありませんが、アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査（学内の植生、近隣の農業など）、また必要に応じて軽い作業（除草、ガーデニング）もします。軍手を各自用意すること。

[講義概要]
日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ではすでに縄文時代から行われ始めていたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教（神道）の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ　やま　あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切に使わせていただくかということがこれからの時代にもっとも求められています。福島の原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命1ヶ月と宣告された方（アルコール依存症、家庭崩壊など）が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　日本と米作り　自然との適応と文化
第3回　稲作文化と神道　農業と祭、儀礼
第4回　森と農業　その密接な関係と歴史
第5回　環境汚染と地球　微生物と土
第6回　原発と自然エネルギー　両立をはばんできたものと今後
第7回　福島と農業　「農業、やめますか?続けますか?」
第8回　自然農業の可能性　最高かつ手がかからない農業を考える。
第9回　有機農法とその歴史　その間違えた方向性について
第10回　アフリカと農業　過去、現在、そして将来
第11回　植林文化と日本　そのユニークな取り組み
第12回　砂漠化の現状と将来　アフリカ、中国、そしてアメリカを中心として
第13回　いのちの尊厳と死　だれしもが迎える「その時」をより豊かにするために
第14回　葬儀についての課題　その歴史と現状
第15回　平穏死について　救急医療との矛盾
第16回　予備日

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
積極的な講義の参加(ディスカッション)を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題図書などを事前事後に読むこと。基本的に課題図書を宿題(予習)として2時間程度、復習として2時間を目安とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
適宜、講義の中でレポートを課しますが、フィードバックを毎回行います。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
正木高志『木を植えましょう』南方新社

[参考文献]
山田勇『世界森林報告』岩波新書
長沼毅『鉄といのちの物語』ウェッジ選書
前田達雄、真崎明『命の恩人大山倍達』蕗書房

食といのちと環境 II

2単位：後期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
後期は、実際にいろいろな場所に出かけることをします。オリエンテーションには必ず出席すること。また適宜掲示をしますから、確認をしてください。

[到達目標]
食といのちの尊さを学ぶ。またその先には環境問題を視野に入れる。南アルプス、甲府のスモモ園、ブドウ園での農作業(雑草取り、間引き、収穫等)。地域の農家との交流をしながら日本、世界の農業、環境について考えていく。また南アルプス、山梨、あるいは会津のクリスチャン農家に分宿し対話を通して、日本の農業と環境(原子力の影響等)について考える。また、会津の特別講演を通していのちの大切さについて学ぶ。

[履修の条件]
食といのちと環境Ⅰを履修していることが望ましい。希望者にはアジア学院(栃木西那須野)や、福島県の会津農民福音学校に参加する。賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家の分宿してそれぞれの農家の方々と交流する。学内の講義と併行して積極的に体験型のモデルを提供するので、できるだけその機会を活用することに関心がある学生の履修を期待します。前期に引き続き、学内の自然環境について、できるだけ野外に出て見学、軽作業を実施します。

[講義概要]
前期の「食といのちと環境Ⅰ」に引き続いて、「食」「いのち」「環境」のキーワードに基づいて講義をします。また南アルプスの農耕放棄地への植林(すもも)、アジア学院の農業体験、またブッチャリングを通して、日本の農業、そして世界の農業へと視野を広げていくことを講義以外に希望者には情報を与えます。毎年、行われている会津農民福音学校に参加することも奨励します。日本では現在あまり知られてはいないが、世界ではガンジー、シュバイツァーと並び称された賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家では分宿してそれぞれの農家の方々と交流することも希望者には情報を提供する。
オリエンテーションには改めて全体構造を把握します。学内の植生について常に心を配りつつ、その変化を記録していきます。
聖書の中から食、いのち、環境とかかわることを探しみんなで共有しつつ、日本だけではなく、アジア、アフリカ、世界にも目を向けてみるようにします。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　講義の全体構造について、特に課外活動についての説明を行う。
第2回　アフリカの農業について　飢餓とのたたかい
第3回　アジア学院(栃木県西那須野)農業研修、アジア・アフリカの研修生のチャレンジ
第4回　アメリカの農業について　土地利用と森林伐採の矛盾
第5回　世界の農業の趨勢　「水戦争」と「土地」
第6回　大学内園芸、近隣の農地を視察

第7回　近郊の農家の状況についての学習
第8回　日本の林業についての現状について
第9回　植林の文化　砂漠化と森と水
第10回　農業自給率と将来　日本の現状と TPP について
第11回　世界の環境問題について
第12回　南アルプスの自然農法のチャレンジ
第13回　青森の「奇跡のりんご」について　その苦労と効果
第14回　会津農民福音学校の歴史と現在
第15回　まとめ　今後の地球と食といのち、そして環境
第16回　予備日

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
発表や、野外活動などは積極的に評価していく。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の事前学習での準備。オリエンテーションには必ず参加すること。実習に関しては、天候、農家との協議により掲示をしますから、日程、場所などを確認してください。各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表などを通して、そのフィードバックをコメントシートなどを利用して積極的に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
富山和子『日本の米』中公新書

[参考文献]
正木高志『木を植えましょう』南方新社

ソーシャルワーク実習指導 I

2単位：後期1コマ	2年
髙山　由美子、加藤　純、山口　麻衣、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳも履修登録すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習（24日間、180時間以上）を行うための準備を行う。

■授業計画
第1回　実習のオリエンテーション
　　実習の目的の理解
第2回　利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、必要な指導を受け、円滑な人間関係を形成する
第4回　実習身上書の作成
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントする支援、そのあり方を評価する
第7回　多職種の連携・協働、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　社会福祉士としての職業倫理を学ぶ
第9回　施設の就業規則の理解と組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　実習先の施設・機関の理解
第13回　実習スーパービジョンの意義と理解
第14回　実習目標の設定
第15回　実習記録の意義と実際
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク実習指導 II

2単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、山口　麻衣、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。
ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅰと並行して履修する。週に1回帰校して、少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画
第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　実習先の施設・機関の理解
第4回　実習先の利用者の理解
第5回　実習分野と地域社会の理解
第6回　実習分野における政策・制度の理解
第7回　実習分野における相談援助
第8回　実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回　利用者との関わり方の確認
第10回　利用者の支援計画をたててみる
第11回　巡回指導
第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　実習の自己評価
第16回　−

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜指示する。

ソーシャルワーク実習指導 III

2単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、山口　麻衣、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。
ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅰの履修と並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画
第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　実習先の施設・機関の理解
第4回　実習先の利用者の理解
第5回　実習分野と地域社会の理解
第6回　実習分野における政策・制度の理解
第7回　実習分野における相談援助
第8回　実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回　利用者との関わり方の確認
第10回　利用者の支援計画をたててみる
第11回　巡回指導
第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書(総括レポート)の作成
第15回　実習の自己評価
第16回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜指示する。

ソーシャルワーク実習指導Ⅳ

1単位：後期1コマ	3～4年
髙山　由美子、加藤　純、山口　麻衣、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美	

[到達目標]
ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を理解する。
自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。
ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
社会福祉士のための実習を終えた者が履修する科目である。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅲのいずれかを履修する年度に必ず履修すること。
授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門Ⅰ、Ⅱ(2014年以降入学者は社会福祉入門、社会福祉の基礎)、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。

[講義概要]
少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画
第1回　実習の達成度の確認
第2回　実習評価の確認
第3回　実習内容の振り返り
第4回　実習記録の振り返り
第5回　実習報告書の確認
第6回　社会福祉の理論と実践の統合
第7回　専門職としての自覚
第8回　実習と実習指導の総括
第9回　－
第10回　－
第11回　－
第12回　－
第13回　－

第14回　－
第15回　－
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計8回の授業で32時間必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行った他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

精神保健福祉援助演習（専門）I

2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉の現場で、利用者、スタッフ、サービス運用などを適切に観察し、観察したことを言語化し、記録し、考察できるようになる。
精神保健福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として精神障害者等を支援することができるようになる。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格取得を目指す学生が履修する科目である。
社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、精神保健福祉実習指導Ⅰ、のいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
精神保健福祉実習、精神保健福祉実習指導Ⅱ、同Ⅲを並行履修すること。
特に指定されたコマ以外の授業はすべて出席すること。

[講義概要]
少人数（概ね10人～15人）の演習形式の授業を行う。また、小グループに分かれての実技指導を行う。
総合的かつ包括的な相談援助及び医療と協働・連携する相談援助について具体的な事例をもとに学ぶ。また、ロールプレイなどによって知識と技術を身につける。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　実習指導とは、実習指導を受けるとは
第3回　個人を対象としたソーシャルワーク
第4回　個人を対象としたソーシャルワーク
第5回　観察訓練
第6回　観察したものを伝達する訓練
第7回　グループを対象としたソーシャルワーク
第8回　グループを対象としたソーシャルワーク
第9回　ケアプランの立て方
第10回　ケアプランの立て方
第11回　チームアプローチとネットワーキング
第12回　チームアプローチとネットワーキング
第13回　感染症について学ぶ
第14回　実習記録の書き方
第15回　実習報告書、実習評価表の記入
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅲ等ですでに学んだことを復習しておき、授業に備える。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々

回の講義で行う。課題については、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。履修者には配布する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

精神保健福祉援助演習（専門）II

2単位：後期1コマ	4年
鈴木　あおい	

[到達目標]
精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別の体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。ソーシャルワーカーとして、自身の課題について深く理解し、適切に対処できる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
精神保健福祉実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを履修済みであること。
精神保健福祉実習を履修する年度に必ず履修すること。授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳを履修済みであること。

[講義概要]
少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、グループ指導及び個人指導を受ける。
精神保健福祉実習の体験を踏まえて、事例検討を行い、また、ロールプレイなどの実技指導を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　精神保健福祉実習における体験の振り返り
第3回　精神保健福祉実習における課題の発見
第4回　入院、急性期の利用者や家族への相談援助の実際
第5回　退院支援、地域移行、地域支援に向けた相談援助の実際
第6回　利用者の理解とニーズ把握、支援計画の作成の実際
第7回　利用者とその家族の権利擁護及び支援の実際
第8回　多職種連携とチームアプローチ
第9回　ピアサポート、リカバリー支援の実際
第10回　アルコール依存等への支援の実際
第11回　教育・就労支援の実際
第12回　経済的支援、住居支援の実際
第13回　精神科リハビリテーションの実施
第14回　危機介入の実際
第15回　社会福祉の理論と実践の統合、全体のまとめ
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業における授業への貢献度を評価する。実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。テーマで沿って出された課題の復習を行うこと。文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポート課題、実習報告、実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

2単位：後期1コマ	3年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。次年度に精神保健福祉実習を行う者が履修する。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、全てを「良」

以上の成績で履修済みであり、かつ、そのうちの4分の3以上の科目が「優」以上であること。

2資格めの実習への準備の授業であるため、3年次前期の履修希望アンケートへの回答、事前説明会への参加等、手続きに沿って許可を得た者のみ3年次後期に履修できる。精神保健福祉分野における実習を希望する理由が明確であることが求められる。

原則として、精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門講義科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であること。

[講義概要]

少人数（概ね5～10人）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　精神保健医療福祉の現状
第3回　精神保健医療福祉の利用者の理解
第4回　精神保健福祉分野における施設・事業者の理解
第5回　精神保健福祉分野における機関・団体の理解
第6回　精神障害者を取り巻く地域社会の理解
第7回　見学実習、現場体験
第8回　精神保健福祉援助に関する具体的な知識と技術
第9回　精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務
第10回　個人のプライバシー保護、守秘義務、個人情報保護法の理解
第11回　実習記録の内容と方法
第12回　実習計画の作成
第13回　利用者との関わり方について
第14回　実習指導、スーパービジョンについて
第15回　全体のまとめ
第16回　－

[成績評価]

試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]

参加型授業における授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
実習の準備教育が授業ごとにすすめられるので、ステップごとに復習すること。精神保健福祉分野の施設・機関に関する法律、制度、施設基準、サービス内容、利用者、などについて十分調べること。実習先施設・機関の法人理念、施設概要などは各自で調べること。

[試験・レポート等のフィードバック]

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]

『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]

適宜授業の中で紹介する。

精神保健福祉援助実習指導 II

2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]

精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

[履修の条件]

精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。

ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅲ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを並行履修すること。

精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であることが強く推奨される。

[講義概要]

少人数（概ね10人前後）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画

第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　入院時の患者と家族への相談援助
第4回　急性期の利用者の理解
第5回　多職種との協働と連携の理解
第6回　利用者との関係の構築
第7回　実習先機関のスタッフ等との関係の構築
第8回　利用者の理解とニーズの把握
第9回　利用者の支援計画の作成
第10回　利用者との支援関係の形成
第11回　巡回指導

第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　全体のまとめ
第16回　総括

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

［ テキスト ］
『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

［ 参考文献 ］
適宜授業の中で紹介する。

精神保健福祉援助実習指導 III

2単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

［ 到達目標 ］
精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

［ 履修の条件 ］
精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。

ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰを並行履修すること。

精神保健福祉士の指定科目のうち、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」以外の専門科目が履修ずみ、あるいは並行履修中であることが強く推奨される。

［ 講義概要 ］
少人数（概ね10人前後）の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画
第1回　実習直前の確認事項
第2回　実習目標と実習計画の確認
第3回　退院支援と家族への相談援助
第4回　地域移行支援について
第5回　多職種との協働と連携の理解
第6回　利用者との関係の構築
第7回　実習先機関のスタッフ等との関係の構築
第8回　利用者の理解とニーズの把握
第9回　利用者の支援計画の作成
第10回　利用者との支援関係の形成
第11回　巡回指導
第12回　実習の評価
第13回　実習分野における相談援助と自己覚知
第14回　実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　全体のまとめ
第16回　総括

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業における授業への貢献度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
適宜授業の中で紹介する。

ソーシャルワーク実習Ⅰ

4単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、加藤　純、山口　麻衣、浅野　貴博、宮内　珠希、岸　千代、下ノ本　直美、廣瀬　圭子	

[到達目標]
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
　ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳも履修登録すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

■授業計画
第1回　実習のオリエンテーション
　　実習施設・機関の理解等
第2回　利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、必要な指導を受け、円滑な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントする支援、そのあり方を評価する
第7回　多職種の連携・協働、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　社会福祉士としての職業倫理を学ぶ
第9回　施設の就業規則の理解と組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　地域社会へのアウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習記録の作成
第15回　実習の自己評価
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク実習Ⅱ

3単位：通年1	4年
金子　和夫、原島　博、市川　一宏	

[到達目標]
ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。

履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅴに履修登録し、実習報告書を作成すること。

[講義概要]
原則として、福祉系の施設や機関において24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画

第1回　実習のオリエンテーション
　　実習施設・機関の理解
第2回　利用者との援助関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
第7回　多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
第9回　組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　アウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成
第15回　実習の自己評価
第16回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
実習目標の達成度などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク実習 III

4単位：通年1コマ	3〜4年
髙山　由美子	

[到達目標]
ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

[履修の条件]
社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。
履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅴに履修登録し、実習報告書を作成すること。

[講義概要]
原則として、福祉系の施設や機関において24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画

第1回　実習のオリエンテーション
第2回　利用者との援助関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
第7回　多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
第9回　組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　アウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成
第15回　実習の自己評価
第16回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
実習目標の達成度などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

精神保健福祉実習

4単位：前期1コマ	4年
福島　喜代子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉援助実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーカー実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉実習指導Ⅰ全てを「良」以上の成績で履修済みであること。
精神保健福祉実習指導Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉援助演習(専門Ⅰ)を並行履修すること。精神保健福祉援助演習(専門Ⅱ)も履修登録すること。
その他、履修条件については、講義概要の国家資格(社会福祉士資格、精神保健福祉士資格)についての該当ページを参照すること。精神医学、精神保健学は履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
精神保健福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、2カ所以上の施設・機関において、合わせて24日、210時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。
なお、社会福祉士の受験資格取得のための実習(ソーシャルワーク実習Ⅰ)の履修を終えた者は、必要とされる実習時間が60時間免除される。

■授業計画
第1回　入院時あるいは急性期の患者さんやその家族への相談援助を経験する。
第2回　入院中の患者さんとの関係を構築する。
第3回　退院、地域移行・地域支援の相談援助を経験する。
第4回　多職種や地域の関係機関との協働と連携、チームアプローチを経験する。
第5回　患者さんの日常生活や社会生活状の問題に対する相談援助を経験する。
第6回　障害福祉サービス事業所等における利用者との関係の構築
第7回　利用者のニーズの把握、支援計画の作成
第8回　利用者やその家族との支援関係の構築
第9回　利用者やその関係者への権利擁護
第10回　利用者やその関係者へのエンパワーメント
第11回　精神保健福祉士としての職業倫理、法的義務の理解
第12回　スタッフの就業規定等の理解、組織の一員としての役割と責任の理解
第13回　組織の経営や、サービスの管理運営の実際
第14回　地域へのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の理解
第15回　実習先施設・機関における実習指導及び巡回指導
第16回　総括

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習後は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個

別指導でフィードバックを行っていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

インターンシップゼミ

2単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
インターンシップ生としてふさわしい、倫理観と態度を身につける。インターンシップの目標をたて、インターンシップ先の理念や事業内容、環境等について学ぶ。インターンシップ後の振り返りを通じて気づいた自身の課題について理解し、今後のキャリアについて考える。

[履修の条件]
インターンシップⅠを並行履修すること。インターンシップゼミのみの履修は認められない。

[講義概要]
インターンシップの目的について考え、インターンシップ先を選定し、その理念や事業内容、環境等について学び、インターンシップ計画を立てる。また、インターンシップ生としての倫理観や態度についてグループワーク等を通じて学ぶ。インターンシップ後の振り返りを行い、気づいた自身の課題について理解し、今後のキャリアについて考える。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　インターンシップの目的とは
第3回　インターンシップ先の分野、組織について
第4回　インターンシップ先の選定
第5回　インターンシップ先の理念と事業内容
第6回　インターンシップ先の分野をめぐる環境、制度政策の理解
第7回　インターンシップ計画をたてる
第8回　インターンシップ生としての倫理、態度
第9回　インターンシップ日誌について
第10回　インターンシップ報告書について
第11回　インターンシップの評価
第12回　インターンシップの振り返り①
第13回　インターンシップの振り返り②
第14回　インターンシップ報告会
第15回　今後のキャリアについて考える
第16回　インターンシップ報告書の提出

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（70%）

[成績評価（備考）]
・インターンシップゼミへの参加状況50%、報告会への参加20%、報告書30% で評価する。
・オリエンテーション、報告展示に欠席した場合、日誌や報告書が未提出であった場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。特に、インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題や提出資料を基に、毎回進捗状況についてコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

インターンシップⅠ

1単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップゼミと並行履修すること。インターンシップⅠのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画
第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③

第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　インターンシップ⑮
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

インターンシップ II

1単位：前期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップ Ⅰを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップ Ⅰと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップ Ⅱのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画
第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　インターンシップ⑮
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

インターンシップ III

1単位：前期1コマ	4年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップⅠⅡを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップⅠⅡと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップⅢのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　インターンシップ⑮
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

インターンシップ IV

1単位：前期1コマ	4年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
大学における学びや将来希望するキャリアに関連した就業体験（インターンシップ）を行い、職業意識の育成および、実社会に触れることを通じて大学での学びを深める。

[履修の条件]
インターンシップⅠⅡⅢを履修後、さらにインターンシップを続ける際に履修する科目である。よって、インターンシップゼミおよびインターンシップⅠⅡⅢと並行履修すること、または履修済みであることを条件とする。インターンシップⅣのみの履修は認めない。

[講義概要]
社会福祉法人、企業、NPO 団体、ボランティアグループ等において、5日間のインターンシップを行う。事前学習や振り返り等は、別途開講する「インターンシップゼミ」にて行う。

■授業計画

第1回　インターンシップ①
第2回　インターンシップ②
第3回　インターンシップ③
第4回　インターンシップ④
第5回　インターンシップ⑤
第6回　インターンシップ⑥
第7回　インターンシップ⑦
第8回　インターンシップ⑧
第9回　インターンシップ⑨
第10回　インターンシップ⑩
第11回　インターンシップ⑪
第12回　インターンシップ⑫
第13回　インターンシップ⑬
第14回　インターンシップ⑭
第15回　インターンシップ⑮
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
インターンシップの評価は、インターンシップ先の評価、教員の評価、学生の自己評価の3者を総合して行う。ただし、別途開講される「インターンシップゼミ」での課題等が未提出の場合は、不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。インターンシップ先が決まったら、活動先について事前学習を進めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ先からの報告書をもとにコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。職業人としての基本的知識・技術を学ぶことにより、将来の仕事選択を最良の形で効果的に進めることができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

海外インターンシップ前ゼミ

2単位：後期1コマ	3年
原島　博	

[到達目標]
海外インターンシップに参加するにあたり必要な心構え、テーマの設定、インターンシップ計画作成、その他の事前準備を行います。

[履修の条件]
自分の持っている知識や技術を活かして海外のNPOおよびNGOの仕事を経験することに積極的に取り組む意志があることを前提条件とします。「海外インターンシップ」を履修する学生は、本科目は必修となります。7月に選考（TOEIC、志望動機書、面接）を行い、許可された学生が最終的に履修が可能となります。科目「国際社会福祉概説」「社会福祉と国際協力」「多文化ソーシャルワーク」など履修しておいてください。

[講義概要]
海外インターンシップ前ゼミでは、海外インターンシップを行う国の社会（歴史、政治、経済、文化）について基礎的な知識を身につけ、インターン先機関/施設の概要を学びます。また、履修者各自がテーマ及び実習目標を設定し、実習計画の作成を行います。2018年度の海外インターンシップは、フィリピンとアメリカを対象に行います。海外インターンシップに向けた英語科目の履修も条件とします。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　海外インターンシップ先の国もしくは地域について調べる。
第3回　海外インターンシップ先の国もしくは地域について調べる。
第4回　インターンシップのテーマを選択する。
第5回　インターンシップのテーマを選択する。
第6回　インターンシップの目標設定を行う。
第7回　インターンシップの目標設定を行う。
第8回　インターンシップの実施計画書の作成を行う。
第9回　インターンシップの実施計画書の作成を行う。
第10回　異文化社会適応訓練　その1
第11回　異文化社会適応訓練　その2
第12回　海外インターンシップ計画の発表を行う。（使用言語：英語）
第13回　海外インターンシップ計画の発表を行う。（使用言語：英語）
第14回　出発前オリエンテーションを行う。
第15回　出発前オリエンテーション
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
課題について予習、復習を行う。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
個別指導をとおして必要なフィードバックを行う。インターンシップ計画作成を課題として、それに対するコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
海外インターンシップは総合的な実践学習能力を身に付けることをねらいとする。他者とのコミュニケーションを通じて、グローバルな視点から社会づくりに貢献できる人材を養成する。海外インターンシップ前ゼミは、そのために必要な準備の機会である。実際のインターンシップを実施するための計画、外国語でコミュニケーションができるよう準備を行う。

[テキスト]
「海外インターンシップ・ガイド」を使用します。

[参考文献]
適宜紹介します。

海外インターンシップA（アジア）

2単位：後期1コマ	3年
原島　博	

[到達目標]
総合人間学の視点から1ヶ月間にわたる海外のインターンシップとして現場実習を行います。異文化社会に入り、多様な人々の生

活、心、価値観を尊重できるようになることを目標とします。人びとの直面する困難を理解し、対応できるようになるための準備の機会となることを成果とします。また、実戦的な英語学習を通じて、日常的に活用できるコミュニケーションスキルを身につけます。

[履修の条件]
TOEIC（英語）の模擬試験と面接を行い（7月）履修の可能性について判断します。後期開講科目「海外インターンシップ前ゼミ」を同時に履修することが条件となります。また、実習は英語で行うことになりますので、指定された英語科目を履修してもらうことを条件とする場合があります。

[講義概要]
2018年度は、2019年2月中旬から3月中旬の1カ月間の現場実習をフィリピンで行います。フィリピンには、開発途上国に共通に見られる現象としての貧困、社会的排除、健康、環境、宗教など幅広い社会的課題が存在します。主な実習先は、低所得者、子ども、女性、障害者、民族的少数者などを支援する施設、機関を考えています。現地で実習先機関との調整は交流協定校のAsian Social Institute（ASI）が窓口になります。実習の一日の流れは、午前中は、英語レッスン（30時間を目安）を受講します。そして、午後から実習先で働くことになります。（英語によるコミュニケションが十分な学生ついては、英語レッスンを免除する場合があります。）実習記録の作成、週末にはスーパービジョンを受けることができます。実習終了時には、実習報告会を開催し、学びを共有します。帰国後は、学内で報告会を開催し経験したことをプレゼンテーションします。最後に報告書を作成して終了します。

■授業計画

第1回　フィリピン社会の現状に関するレクチャー
第2回　実習先のスーパーバイザーとの打ち合わせ
第3回　実習先での実習（1週目）
　　英語レッスン
第4回　大学（ASI）にてスーパービジョン（1回目）
第5回　実習先での実習（2週目）
第6回　実習先での実習（2週目）
第7回　大学教員による個別スーパービジョン（2回目）
第8回　実習先での実習（3週目）
第9回　大学教員による個別スーパービジョン（3回目）
第10回　実習先での実習（4週目）
第11回　大学教員による個別スーパービジョン（4回目）
第12回　実習のまとめ作業
第13回　ケース・プレゼンテーションと実習評価
第14回　帰国後の振り返り
第15回　報告会の開催
第16回　報告書作成と提出

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習記録を毎回作成して、実習先のスーパーバイザーと大学のスーパーバイザーに提出すること。また、毎週1回持たれるグループスーパービジョンと個別スーパービジョンに必ず参加すること。実習の最後には、ケースプレゼンテーションを実施するので、しっかり準備しておく必要があります。

[試験・レポート等のフィードバック]
インターンシップ期間中に記録を書き、その記録に対してスーパーバイザーがコメントする。インターンシップ終了時の終了時評価において、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
異文化社会において自己理解を深めるとともに豊かな人間性を身に付ける。さまざまな条件の下に生きる一人ひとりの人間のいのちと価値理解の上に、他者を理解し支えるために必要な問題発見力、分析、解決に至る方策を他の人々とともに探る。個人の痛みを癒し、人権を守り、人間生豊かな人生を送ることを支援することができるような援助者となれるよう、その原体験の機会を得る。

[テキスト]
1.「INTERNATIONAL INTERNSHIP HANDBOOK」ルーテル学院大学作成マニュアル
2. スーパーバイザーから指示された書籍、もしくは、プリントなど用いる。

[参考文献]
適宜紹介する。

海外インターンシップB（欧米）

2単位：後期1コマ	3年
ジャン・プレゲンズ	

[到達目標]
総合人間学の視点から1ヶ月間にわたる海外のインターンシップとして現場実習を行います。異文化社会に入り、多様な人々の生活、心、価値観を尊重できるようになることを目標とします。人びとの直面する困難を理解し、対応できるようになるための準備の機会となることを成果とします。また、実戦的な英語学習を通じて、日常的に活用できるコミュニケーションスキルを身につけます。

[履修の条件]
TOEIC（英語）の模擬試験と面接を行い（7月）履修の可能性について判断します。後期開講科目「海外インターンシップ前ゼミ」を同時に履修することが条件となります。また、実習は英語で行うことになりますので、指定された英語科目を履修してもらうことを条件とする場合があります。

[講義概要]
2018年度は、2019年3月初旬から4月初旬の1カ月間の現場実習をアメリカで行います。アメリカには、国際的に共通に見られる現象としての貧困、社会的排除、健康、環境、宗教など幅広い社会的課題が存在します。主な実習先は、低所得者、子どもと家族、移民などを支援する施設、機関を考えています。現地で実習先機関との調整は交流協定校のConcordia University Irvine（CUI）が窓口になります。インターンシップの一日の流れは、午前中は、英語レッスン（30時間を目安）を受講します。そし

て、午後や週末を利用してインターン先で働くことになります。(英語によるコミュニケーションが十分な学生ついては、英語レッスンを免除する場合があります。)実習記録の作成、週末にはスーパービジョンを受けることができます。インターン終了時には報告会を開催し、学びを共有します。帰国後は、学内で報告会を開催し経験したことをプレゼンテーションします。最後に報告書を作成して終了します。

■授業計画

第1回　アメリカ社会の現状に関するレクチャー
第2回　インターン担当者との打ち合わせ
第3回　インターンシップ(1週目)
　　英語レッスン
第4回　大学(CUI)にてスーパービジョン(1回目)
第5回　インターンシップ(2週目)
第6回　インターン先でのスーパービジョン
第7回　大学(CUI)にてスーパービジョン(2回目)
第8回　インターンシップ(3週目)
第9回　大学(CUI)にてスーパービジョン(1回目)(3回目)
第10回　インターンシップ(3週目)
第11回　インターン先の担当者による評価
第12回　インターンシップのまとめ作業
第13回　ケース・プレゼンテーションと実習評価
第14回　帰国後の振り返り
第15回　報告会の開催
第16回　報告書作成と提出

[成績評価]

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

実習記録を毎回作成して、実習先のスーパーバイザーと大学のスーパーバイザーに提出すること。また、毎週1回持たれるグループスーパービジョンと個別スーパービジョンに必ず参加すること。実習の最後には、ケースプレゼンテーションを実施するので、しっかり準備しておく必要があります。

[試験・レポート等のフィードバック]

実習記録を毎回作成して、実習先のスーパーバイザーと大学のスーパーバイザーに提出すること。また、毎週1回持たれるグループスーパービジョンと個別スーパービジョンに必ず参加すること。実習の最後には、ケースプレゼンテーションを実施するので、しっかり準備しておく必要があります。

[ディプロマポリシーとの関連性]

異文化社会において自己理解を深めるとともに豊かな人間性を身に付ける。さまざまな条件の下に生きる一人ひとりの人間のいのちと価値理解の上に、他者を理解し支えるために必要な問題発見力、分析、解決に至る方策を他の人々とともに探る。個人の痛みを癒し、人権を守り、人間生豊かな人生を送ることを支援することができるような援助者となれるよう、その原体験の機会を得る。

[テキスト]

1.「INTERNATIONAL INTERNSHIP HANDBOOK」ルーテル学院大学作成マニュアル
2. スーパーバイザーから指示された書籍、もしくは、プリントなど用いる。

[参考文献]

適宜紹介する。

臨床心理実習前演習

2単位：後期1コマ	2年
高城　絵里子、石川　与志也	

[到達目標]

①臨床心理実習Ⅰ・Ⅱの準備として、各自の関心や目標を定め、適切な実習計画を立てる。
②実習に取り組む姿勢と、実習に必要となる知識・技術を養う。

[履修の条件]

①2019年前期に臨床心理実習Ⅰを行う予定の学生は2,3年次後期に本講を履修すること。臨床心理実習Ⅱを希望する学生は3年次後期に本講を履修すること。
②履修に当たっては、対人援助の仕事を将来の選択肢に入れていることを原則とする。
③「心理療法概説」、「カウンセリングの理論」、「カウンセリング実技の基本」、「カウンセリングの実際」、「臨床心理の倫理」の5科目(合計10単位)を履修済み、あるいは併行履修することを条件とする。
④「精神保健福祉実習」を履修する学生は、この科目は履修できない。科目等履修生による履修や聴講も不可とする。
⑤履修を希望する者は事前課題を担当教員に提出すること。課題の内容によっては履修不可となることもありうる。

[講義概要]

本科目は「臨床心理実習Ⅰ」、「臨床心理実習Ⅱ」の準備段階として位置づけられる。実習先に関する情報を得ることから始め、実習に取り組む姿勢と実習に必要な知識・技能を習得する。その上で、各自の関心にあわせて実習目的を立て、実習計画の作成に取り組む。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　実習とは何か、臨床心理実習の本学における位置づけを理解する
第2回　臨床心理実習の意義と目的を理解する
第3回　実習の進め方と実習先の概要を理解する
第4回　実習先が提供している援助内容と、職員の役割を理解する
第5回　実習先の見学①観察学習による個別の実習先の理解
第6回　実習先の見学②観察学習による個別の実習先の理解
第7回　実習先の見学③観察学習による個別の実習先の理解
第8回　実習先の見学④観察学習による個別の実習先の理解

第9回　自身の関心を定め、実習先を決定する
第10回　実習先の特徴と自身の関心にあわせた実習目標を定める
第11回　対人援助場面において対象者を理解しようとする姿勢を学ぶ
第12回　対人援助の際のかかわり方の基本を学ぶ
第13回　実習記録の書き方を学び、練習する
第14回　実習中のマナーと実習先での指導の受け方を学ぶ
第15回　実習記録以外の実習関連書類を整える
第16回　実習関連書類を完成させ、提出する

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（70%）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法とは、毎回のディスカッション・小レポートの評価および実習先見学態度に関する評価を指す。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習、復習）を必要とする。合計15回の授業時間で60時間となる。準備学習では、「心理療法概説」、「カウンセリングの理論」、「カウンセリング実技の基本」、「カウンセリングの実際」、「臨床心理の倫理」の5科目で学習した内容の復習、実習先に関するHP等での情報収集、授業内で出された小レポート課題を求める。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の小レポートは次回授業時にフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

[備考]
成績評価欄の「課題提出」とは実習関連書類の提出を指す。
また、後の実習に欠席なく臨むことが必要となるため、本講では特に出席を重視する。

臨床心理実習Ⅰ

2単位：前期1コマ	3年
高城　絵里子、石川　与志也	

[到達目標]
①大学で学んでいる臨床心理の理論や技術、価値観が、実践の場でどのように生かされているかを理解する。
②実習を通してこれまで学んだ臨床心理の理論や技術を実践の場で活用するにあたっての疑問や手ごたえを感じ、さらなる自身の学習に向けて目標を設定する。

[履修の条件]
①臨床心理実習前演習を履修して、「良」以上の成績を収めていることを履修の条件とする。
②履修に当たっては、対人援助の仕事を将来の選択肢に入れていることを原則とする。
③科目等履修生による履修や聴講は不可能である。
④本実習の定員は10名とする。

[講義概要]
「臨床心理実習前演習」の内容を踏まえて、各自学外での実習へ取り組む。授業時間内ではそれぞれ実習について報告し、意見や疑問、感想を話し合うグループスーパーヴィジョンを行う。また、毎回の実習記録を担当教員に提出し指導を受ける。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、「臨床心理実習前演習」のおさらい
第2回　実習先への挨拶と実習関連書類の提出
第3回　実習記録の書き方を復習する
第4回　各実習先で、実習オリエンテーションを受ける
具体的な実習目標と実習計画を実習先と話し合い、各自のスケジュールで実習を開始する
第5回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第6回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第7回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第8回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第9回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第10回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第11回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第12回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第13回　実習報告とグループスーパーヴィジョン、実習記録の添削
第14回　最終実習報告書の作成の仕方を学び、実際に作成する
第15回　各実習先での実習のまとめ、実習報告書の提出
第16回　各実習先での実習のまとめ、実習報告書の提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法とは、授業内グループスーパーヴィジョンへの参加態度および実習への参加状況を指す。
課題提出には毎回の実習記録と実習報告書が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
a)「臨床心理実習前演習」で学習した内容をあらかじめ復習しておくことを勧める。
b)毎回の実習終了後その日のうちに実習記録を作成し、実習先と大学担当教員へ提出すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回提出する実習記録については授業内で教員によるフィードバックを行う。
最終課題である実習報告書については、提出後教員からフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場における実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

[備考]
5日以上、もしくは30時間以上の実習を行う。実習時期は実習先の状況に合わせて調整するが、例年、ある期間に集中して実施する方法や定期的に通う方法など、幅を持たせて実施している。本講では通常の授業への出席に加え、各自が計画した実習日程へすべて出席することを求める。

臨床心理実習 II

2単位：集中	3〜4年
植松　晃子、高城　絵里子、石川　与志也	

[到達目標]
以下の5点が学習目標であるが、「患者さんの訴えに耳を傾けて聴く」ことが実習の中心的到達目標となる。
1. 病む人の心を理解する。
2. 精神医学に対する理解を深める。
3. 患者さん・実習に参加して同級生との関わりを通して自己理解を深める。
4. 医療機関、特に精神科医療機関の機能と役割を知り、そこで働く人の役割を知る。
5. 医療の現場で働くにあたっての自分の長所と限界を知る。

[履修の条件]
①臨床心理実習前演習を履修して、「良」以上の成績を収めていることを履修の条件とする。
②4年次に履修すること。
③履修に当たっては、対人援助の仕事を将来の選択肢に入れていることを原則とする。
④他学科の学生や科目等履修生による履修や聴講は不可能である。
⑤「ターミナルケアとグリーフワーク」「精神障害者の支援システム」「キリスト教カウンセリング」「精神保健」「精神医学」を履修済みあるいは並行履修することを履修の条件とする。
⑥実習前にテキストを熟読しブックレポートを提出することを履修の条件とする。
⑦本実習の履修定員は4名とする。

[講義概要]
夏期休業中の5日間、精神科専門病院での実習を行う。
患者さんを訪問し、その「逐語記録」を記録し、それをもとにスーパーヴィジョンを実施する。1日のスケジュールは下記の通り。
9：00−9：30　配属病棟での「申し送り」に出席
9：30−15：30　患者さん訪問(うち1時間程度昼休み)
15：30−17：30　グループスーパーヴィジョン
帰宅後当日の実習記録を作成し、翌日のグループスーパーヴィジョンでの検討資料として持参すること

■授業計画

第1回　オリエンテーション：1)病院実習の目的、2)患者さん訪問に関して注意すること、3)自己紹介　4)病院スタッフの紹介、病院見学、病棟への配属
第2回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第3回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第4回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第5回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第6回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第7回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第8回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第9回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第10回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第11回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン
第12回　1)患者さん訪問
　　2)病院長講義：スーパーヴィジョン
第13回　1)患者さん訪問
　　2)スーパーヴィジョン

第14回　1）患者さん訪問
　　2）スーパーヴィジョン
第15回　まとめ、実習報告書の作成
第16回　実習報告書提出

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（25%）、小テスト（0%）、課題提出（25%）、その他の評価方法（50%）

［ 成績評価（備考） ］
その他の評価方法とは、実習へ取り組みおよびグループスーパーヴィジョンへの参加態度を指す。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
テキスト・参考資料を事前に熟読し、精神医学についての基礎的知識を得ておくこと。
「臨床心理実習前演習」で学習した内容をあらかじめ復習しておくことを勧める。
毎回の実習終了後その日のうちに実習記録を作成し、翌実習日のグループ・スーパーヴィジョンで提出すること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
実習記録については翌日のグループ・スーパーヴィジョン内で教員によるフィードバックを行う。
最終課題である実習報告書については、提出後教員からフィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場における実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

［ テキスト ］
白井幸子「看護にいかすカウンセリング」医学書院　¥1,890

［ 参考文献 ］
白井幸子「臨床にいかす心理療法」医学書院　¥2,310
柏木哲夫・柏木道子「いのちの豊かさ：人として生まれ、人として生きる」いのちのことば社
岸本年史監修「STEP 精神科（第2版）」海馬書房
ハナ・グリーン（著）佐伯わか子、笠原嘉（翻訳）「デボラの世界－分裂病の少女」みすず書房

旧約聖書原典講読

2単位：前期1コマ	2年
江本　真理	

［ 到達目標 ］
ヘブル語聖書を音読し、辞書をひきつつ、その意味をくみ取ることができるようになること。

［ 履修の条件 ］
「ヘブル語」を履修済みまたは同等の力を有する者。毎回準備をしてクラスに出席すること。

［ 講義概要 ］
「創世記」を読む。ヘブル語原典を味わうことがねらい。最初はヘブル語原典を講読する際の約束事・諸注意について確認し、正確に辞書をひき、単語の持つニュアンスをくみ取りながら、文法、文脈に留意しつつ読み進めていく。参加者が順番に本文を読んで私訳する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　ヘブル語聖書（ビブリア・ヘブライカ）講読のための基礎知識、約束事について　参考文献の紹介
第2回　創世記1章
第3回　創世記1章（続き）
第4回　創世記1章（続き）
第5回　創世記2章
第6回　創世記2章（続き）
第7回　創世記2章（続き）
第8回　創世記3章
第9回　創世記3章（続き）
第10回　創世記3章（続き）
第11回　創世記4章
第12回　創世記4章（続き）
第13回　創世記4章（続き）
第14回　創世記5章
第15回　創世記5章（続き）
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（50%）

［ 成績評価（備考） ］
授業内での教師の質問に対する回答、教師の指示に対する反応。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
毎回、割り当てられた箇所の音読、辞書を用いて単語の分析と意味を調べ、私訳を作成してクラスに出席すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
発表や提出課題について、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することにより、旧約聖書に対する理解と探究をより深めていくための初歩的・基本的スキルを身につけることができる。

［ テキスト ］
①ヘブル語聖書：*Biblia Hebraica Stuttgartensia*
②辞書：William L. Holladay, *A Concise Hebrew and Aramaic*

Lexicon of The Old Testament
※Amazon（アマゾン）で購入の場合、①はペーパーバック版が約2,700円より、②は約4,500円より

［参考文献］
初回授業の際に紹介します。

［備考］
クラスには、ヘブル語聖書、辞書のほかに、各自が学んだ文法書も持参することが望ましい。

新約聖書原典講読

2単位：前期1コマ	3〜4年
李　明生	

［到達目標］
新約聖書ギリシア語本文を、辞書を用いて読むことに習熟すること

［履修の条件］
新約聖書原典講読を履修するにはギリシア語が単位取得済みであることが必要。

［講義概要］
新約聖書原典（Nestle27版もしくは28版）をテキストとして用いて、マルコによる福音書（抜粋）、テサロニケの信徒への手紙1（抜粋）を読む。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、ギリシア語聖書の基礎知識、参考文献の使い方等について
第2回　マルコによる福音書　1章
第3回　マルコによる福音書　2章
第4回　マルコによる福音書　4章
第5回　マルコによる福音書　6章
第6回　マルコによる福音書　8章
第7回　マルコによる福音書　14章
第8回　マルコによる福音書　14章つづき
第9回　マルコによる福音書　15章
第10回　テサロニケの信徒への手紙1序論、1章
第11回　テサロニケの信徒への手紙1　1章つづき
第12回　テサロニケの信徒への手紙1　2章
第13回　テサロニケの信徒への手紙1　3章
第14回　テサロニケの信徒への手紙1　4章
第15回　テサロニケの信徒への手紙1　5章
第16回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（70%）

［成績評価（備考）］
授業内で割り当てられた箇所の翻訳、積極的な授業参与

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回割り当てられた箇所の分析・私訳を準備すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、ギリシア語文献の読解能力を身に付けることができる。

［テキスト］
Nestle−Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECA, 27版あるいは28版

［参考文献］
岩隈・土岐　共著「新約聖書ギリシア語構文法」、キリスト教図書出版社　2002年
田中・松平　共著「ギリシア語入門」（新装版）岩波書店　2012年
An Intermediate Greek−English Lexicon：Founded upon the Seventh Edition of Liddell and Scott's Greek−English Lexicon, Oxford Univ Press, 1945
その他適宜指示する。

ヘブル語

8単位：通年2コマ	2〜3年
大串　肇、江本　真理	

［到達目標］
ヘブル語初級文法の取得を目標とする。辞書を使って原典を読めるようになることを目指す。後期は実際に聖書本文を翻訳し、文法事項を確認する。

［履修の条件］
毎日予習復習するなど積極的に参加すること。

［講義概要］
初級文法を解説し、適宜練習問題を解いて基本事項を確認する。

■授業計画
第1回　ヘブル語とは何か
第2回　文字と発音について
第3回　名詞概説
第4回　練習問題
第5回　冠詞の用法と練習問題
第6回　接続詞ワウの用法と練習問題
第7回　形容詞概説
第8回　練習問題
第9回　代名詞概説
第10回　練習問題

第11回　代名詞語尾概説
第12回　練習問題
第13回　動詞概説
第14回　練習問題
第15回　カル形完了形（強変化）
第16回　練習問題
第17回　カル形完了形（弱変化）
第18回　練習問題
第19回　カル形未完了形（強変化）
第20回　練習問題
第21回　カル形未完了形（弱変化）
第22回　練習問題
第23回　ワウ継続法概説
第24回　練習問題
第25回　命令形、願望形、要求形概説
第26回　練習問題
第27回　動詞の代名詞語尾変化概説
第28回　練習問題
第29回　不定詞と分詞概説
第30回　練習問題
第31回　動詞の派生形概観
第32回　練習問題
第33回　ニフアル形（強変化）
第34回　練習問題
第35回　ニフアル形（弱変化）
第36回　練習問題
第37回　ピエル形（強変化）
第38回　練習問題
第39回　ピエル形（弱変化）
第40回　練習問題
第41回　プアル形（強変化）
第42回　練習問題
第43回　プアル形（弱変化）
第44回　練習問題
第45回　ヒフイル形（強変化）
第46回　練習問題
第47回　ヒフイル形（弱変化）
第48回　練習問題
第49回　ホフアル形（強変化）
第50回　練習問題
第51回　ホフアル形（弱変化）
第52回　練習問題
第53回　ヒトパエル形（強変化）
第54回　練習問題
第55回　ヒトパエル形（弱変化）
第56回　練習問題
第57回　文章構成法概説
第58回　練習問題
第59回　ヘブル語聖書本文概説
第60回　総合練習問題1
第61回　総合練習問題2
第62回　総合練習問題3

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
与えられた宿題や課題を行う。特に復習が大事。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計60回の授業で240時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
小テストについては採点後、講義内でフィードバックを行う。課題については、次回の講義の際、コメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
世界三大宗教キリスト教、ユダヤ教、イスラム教思想に共通する旧約聖書原典を読む上で必須となるヘブル語基本文法を学び、最古の古典を通じて世界の文化宗教歴史を重んじ、人間のいのちの尊さ、多様な生き方を知り、自己理解を深め、豊かな人間性を身に着ける基礎を習得する。

［テキスト］
Gary D.Pratico etc.,
Basic of Biblical Hebrew Grammar：second edition,Zondervan

［参考文献］
講義のとき指示する。

ギリシア語

8単位：通年2コマ	2〜3年
挽地　茂男	

［到達目標］
新約聖書のギリシア語本文を読む

［履修の条件］
1回目の授業から文法の学習が始まりますから、1回目の授業に必ず参加すること。

［講義概要］
新約ギリシア語の文法をマスターし、新約聖書の本文を難易度を上げつつ講読していく。

■授業計画

第1回　アルファベット
第2回　アクセント
第3回　直説法現在能動態
第4回　第二変化、語順、可動的ヌン
第5回　第一変化
第6回　冠詞、形容詞
第7回　第一変化男性名詞、前置詞
第8回　後接辞、人称変化、エイミの直説法現在
第9回　指示代名詞
第10回　直接法現在中態、受動態
第11回　直接法未完了過去能動態
第12回　直接法未完了過去中態、受動態
第13回　直説法未来能動態、中態
第14回　直説法第一不定過去能動態、中態

第15回　直説法第二不定過去能動態、中態
第16回　直説法不定過去受動態、直説法未来受動態
第17回　第三変化
第18回　現在分詞、分詞の用法
第19回　不定過去分詞能動態と中態
第20回　不定過去分詞受動態、独立属格
第21回　接続法
第22回　不定法現在、不定法不定過去
第23回　合音動詞
第24回　流音動詞
第25回　第三変化の形容詞
第26回　数詞、前置詞句
第27回　疑問代名詞、関係代名詞
第28回　命令法
第29回　完了時制
第30回　形容詞の比較級、格の用法
第31回　ミ動詞(1)
第32回　ミ動詞(2)
第33回　ミ動詞(3)、希求法
第34回　ギリシア語本文講読の準備
第35回　ヨハネ福音書1：1−18
第36回　ヨハネ福音書1：19−34
第37回　ヨハネ福音書1：35−51
第38回　ヨハネ福音書2：1−22
第39回　ヨハネ福音書2：23−3：21
第40回　ヨハネ福音書3：22−36
第41回　ヨハネ福音書4：1−26
第42回　ヨハネ福音書4：27−45
第43回　ヨハネ福音書4：46−5：18
第44回　ヨハネ福音書5：19−40
第45回　ヨハネ福音書5：41−6：15
第46回　ヨハネ福音書6：16−35
第47回　ヨハネ福音書6：36−50
第48回　ヨハネ福音書6：51−71
第49回　マルコ福音書1：1−15
第50回　マルコ福音書1：16−1：35
第51回　マルコ福音書1：36−2：5
第52回　マルコ福音書2：6−2：17
第53回　マルコ福音書2：18−3：8
第54回　マルコ福音書3：9−4：2
第55回　マルコ福音書4：3−12
第56回　マルコ福音書4：13−34
第57回　マルコ福音書4：35−5：20
第58回　マルコ福音書5：21−34
第59回　マルコ福音書5：35−6：6
第60回　マルコ福音書6：7−18
第61回　マルコ福音書6：45−7：13
第62回　マルコ福音書7：14−：37

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
成績は達成度と、授業への取り組みの姿勢および参加度を考慮して評価します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計60回の授業で240時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
テキストの練習問題の解答、およびギリシア語聖書本文を講読を進めながら、文法事項の確認をする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

[テキスト]
J.G. メイチェン『新約聖書ギリシャ語原典入門』新生宣教団、2600円。Kurt Aland, Erwin Nestle et al. ed., Novum Testamentum Graece, Nestle−Aland 28th edition, Deutsche Bibelgesellschaft Stuttgart, 2012. (3,507円)〔ネストレ版〕

[参考文献]
必要に応じて授業内で指示します。

[備考]
欠席をするとすぐに授業ついて行けなくなりますから、しっかりと決心をして参加して下さい。

社会福祉英専門書講読

2単位：後期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
Global North で発展したソーシャルワークの歴史、方法の概要を把握するとともに、Global SouthS の視点からもシャルワークを捉えたい。

[履修の条件]
英語のテキストブックを読むことを前提に授業を履修してもらいたい。

[講義概要]
In this Very Short Introduction, Sally Holland and Jonathan Scourfield explain what social work is and look at its rich historical development. Reflecting international human stories of social problems and social work relationships, as well as the philosophies behind the practice and the evidence about what works throughout the world, they look at the various definitions, history, and debates about purpose and effectiveness, theory, and methods.Including wide ranging examples of social work practice around the world and within particular population groups, they reflect the international variation of social work theory and practice, as well as highlighting all of the main controversies and debates.

■授業計画

第1回　授業の概要についてのオリエンテーション
第2回　1 What is social work?
第3回　1 What is social work?
第4回　2 The politics of social work
第5回　2 The politics of social work
第6回　3 Social work with individuals and families
第7回　3 Social work with individuals and families
第8回　4 Social work with groups
第9回　4 Social work with groups
第10回　5 Community social work
第11回　5 Community social work
第12回　6 Does it work and how do we know?
第13回　6 Does it work and how do we know?
第14回　展開1）
第15回　展開2）
第16回　まとめ

［成績評価］

試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］

ワークに必要な課題を出すので、指示に従って、進めてもらいます。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］

課題について、授業内においてフィードバックを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］

ソーシャルワークのユニバーサルな視点から対人援助に必要な価値、知識、技術を英語テキストを活用して学ぶ。これは全人的な高度なヒューマンケアに必要な専門性を身に付けるうえで有用である。

［テキスト］

Social Work：A Very Short Introduction（Very Short Introductions）
Holland, Sally/ Scourfield, Jonathan, Oxford University Press 2015

臨床心理英専門書講読 A

2単位：前期1コマ	2〜4年
中村　有希	

［到達目標］

心理療法には様々な学派があるが、本講義では、精神分析的、心理力動的な心理療法に触れることのできる専門書を講読する。特に初めて心理療法に触れる学生のためにも、前期では本書の講読を通じて、ⅰ）心理療法の基本概念を学び、ⅱ）主要な心理療法家をおさえていく。

［履修の条件］

前期、後期の両方の履修が望ましいが、前期のみ、後期のみの履修も可。

［講義概要］

わが国の心理療法の著作には理論書が多く、実践技法や技術を記した著作は少ない。今回取り上げるMichael NicholsとThomas Paulino Jr.編著の「Basic Techniques of Psychodynamic Psychotherapy」（力動的心理療法の基本技術）は、心理療法の基本技術を学ぶのに適切な書である。本書の購読により、心理面接には「技術（technique）」が必要であることが理解できる。本書は全13章で構成されている。前期は第1章および第2章と第3章の一部を講読する。

■授業計画

第1回　Chapter1：Introduction（はじめに）p.1–3
第2回　Chapter1：Introduction（はじめに）p.3–6
第3回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Overview of the Basic Techniques（基本技術の概観）p.6–8
"Suggestion"（提案）
第4回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Overview of the Basic Techniques（基本技術の概観）p.8–11
"Catharsis"（カタルシス）"Manipulation"（操作）
第5回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Overview of the Basic Techniques（基本技術の概観）p.11–14
"Confrontation"（直面化）"Clarification"（明確化）
第6回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Overview of the Basic Techniques（基本技術の概観）p.14–16
"Interpretation"（解釈）
第7回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Overview of the Basic Techniques（基本技術の概観）p.14–16
"Interpretation"（解釈）
第8回　Chapter1：Introduction（はじめに）
Establishing the Analytic Atmosphere（分析的雰囲気の確立）p.17–19
第9回　Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.21–22
第10回　Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.22–25
"Prepsychoanalytic　Theories"（前精神分析的理論）
第11回　Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.22–25
"Prepsychoanalytic　Theories"（前精神分析的理論）
第12回　Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.25–28

"Psychoanalytic Theories"（精神分析的理論）
第13回 Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.25–28
"Psychoanalytic Theories"（精神分析的理論）
第14回 Chapter2：Suggestion：History and Theory（提案：歴史と理論）
Theory of Suggestion（「提案」の理論）p.25–28
"Psychoanalytic Theories"（精神分析的理論）
第15回 Chapter3：Suggestion：Clinical Application（提案：臨床的適用）
Definitions（定義）p.57–60
第16回 試験および試験解説

［成績評価］
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
受講者は、担当となった箇所を日本語訳し、講義当日に翻訳した資料を持参すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、自然・社会、文化環境に対して、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

［テキスト］
Nichols, M.P. & Paulino, T.J.（Eds.）（1986）. Basic Techniques of Psychodynamic Psychotherapy：Foundations of Clinical Practice. New York：Gardner Press.

［参考文献］
小谷英文（2018）精神分析的システムズ心理療法ー人は変われるー PAS心理教育研究所出版部
その他は逐次、講義内で紹介する。

［備考］
テキストは各自購入可能。必読箇所は配布する。

臨床心理英専門書講読 B

2単位：後期1コマ	2〜4年
中村　有希	

［到達目標］
心理療法には様々な学派があるが、本講義では、精神分析的、心理力動的な心理療法に触れることができる専門書を購読する。特に初めて心理療法に触れる学生のためにも、本書の購読により、ⅰ）心理療法の技術の様々を知り、ⅱ）技術がどのように実践的に利用されているかについて知ることが目的である。

［履修の条件］
前期、後期の両方の履修が望ましいが、後期のみの履修も可。

［講義概要］
わが国の心理療法の著作には理論書が多く、実践技法や技術を記した著作は少ない。今回取り上げるMichael Nichols と Thomas Paulino Jr. 編著の「Basic Techniques of Psychodynamic Psychotherapy」（力動的心理療法の基本技術）は、力動的心理療法の基本技術を学ぶのに適切な書である。本書の購読により、心理面接には「技術（technique）」が必要であり、具体的に面接の中でどのように使われているのかを知ることができる。本書は全13章で構成されている。後期は第4章以降「カタルシス」「明確化」「解釈」について講読する。

■授業計画
第1回 Chapter4 Catharsis：History Theory（カタルシス：歴史・理論）
History p.79–81
第2回 Chapter4 Catharsis：History Theory（カタルシス：歴史と理論）
History p.81–83
"Catharsis in Drama and Ritual"（演劇や儀式におけるカタルシス）
第3回 Chapter4 Cathersis：History and Theory（カタルシス：歴史と理論）
History p.83–85
"Catharsis Method of Breuer and Freud"（ブロイラーとフロイトのカタルシス的方法）
第4回 Chapter5 Catharsis：Clinical Application（カタルシス：臨床的適用）p.103–105
第5回 Chapter5 Catharsis：Clinical Application（カタルシス：臨床的適用）
Conditions that Produce Catharsis（カタルシスを生み出す条件）p.103–105
第6回 Chapter5 Catharsis：Clinical Application（カタルシス：臨床的適用）
Techniques for Eliciting Catharsis（カタルシスを導く技術）p.109–111
"Emotional Focusing"（感情への焦点化）
第7回 Chapter5 Catharsis：Clinical Application（カタルシス：臨床的適用）
Techniques for Eliciting Catharsis（カタルシスを導く技術）p.111–112
"Supporting Spontaneous Emotional Expression"（自然な感情表現のサポート）
第8回 Chapter10 Clarification：History and Theory（明確化：歴史と理論）
Source of the Concept and Technique of Clarification p.237–239
"Rogerian Clarification"（ロジャース派の明確化）
第9回 Chapter10 Clarification：History and Theory（明確化：歴史と理論）

Source of the Concept and Technique of Clarification p.239–242
"Ego Psychology and Clalification"（自我心理学と明確化）
第10回 Chapter 11 Clarification：Clinical Application（明確化：臨床適用）
A Definition of Clarification（明確化の定義）p.265–267
第11回 Chapter 11 Clarification：Clinical Application（明確化：臨床適用）
Clarification and the Psychic Surface p.267–269
第12回 Chapter 11 Clarification：Clinical Application（明確化：臨床適用）
The Purpose of Clalification p.269–270
Clinical Application p.270–272
第13回 Chapter 12 Interpretation：History and Theory（歴史と理論）p.287–289
第14回 Chapter 12 Interpretation：History and Theory（歴史と理論）
Making Interpretations（解釈をする）p.301–306
第15回 Chapter 12 Interpretation：History and Theory（歴史と理論）
Making Interpretations（解釈をする）p.301–306
第16回 試験と試験解説

［成績評価］
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
受講者は、担当となった箇所を翻訳し、講義当日に翻訳した資料を持参すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、自然・社会、文化環境に対して、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

［テキスト］
Nichols, M.P. & Paulino, T.J.（Eds.）（1986）. Basic Techniques of Psychodynamic Psychotherapy：Foundations of Clinical Practice. New York：Gardner Press.

［参考文献］
小谷英文（2018）精神分析的システムズ心理療法ー人は変われるー PAS心理教育研究所出版部
その他は逐次、講義内で紹介する。

［備考］
テキストは各自購入可能。必読箇所は配布する。

臨床心理英語論文読解Ⅰ

2単位：前期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

［到達目標］
心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。はじめに、研究論文がいかに構成されているかを学び、また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようにする。

［履修の条件］
2年生以上が履修できる。受講生が翻訳やワークを分担するため欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。前年に臨床心理フレッシュマンゼミを受講し、心理学の専門書や論文に触れてていることが望ましい。受講していない場合や聴講の希望がある場合には事前に相談のこと。

［講義概要］
英語論文を分担して読んでいく予定である。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。

■授業計画
第1回 オリエンテーション
：心理学の研究論文の構成・特徴についての解説と授業で読む論文の紹介
第2回 論文を読み構造を掴む1
第3回 論文を読み構造を掴む2
第4回 論文を読み構造を掴む3
第5回 論文を読み構造を掴む4
第6回 論文を読み構造を掴む5
第7回 英語論文を読む1
第8回 英語論文を読む2
第9回 英語論文を読む3
第10回 英語論文を読む4
第11回 英語論文を読む5
第12回 英語論文を読む6
第13回 英語論文を読む7
第14回 英語論文を読む8
第15回 英語論文を読む9
第16回 課題提出

［成績評価］
試験（0％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（100％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
各自、積極的な予習復習を求めます。自分の担当箇所でなくても毎回翻訳をし、授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通していってください。担当者は翻訳の修正版を翌週までに提出します。本科目では各授業回に4時間の準備

学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
各自が分担した箇所の翻訳を事前に提出し、授業中にフィードバックする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分る内容の理解を深めることができる。

［ テキスト ］
適宜紹介する

［ 参考文献 ］
適宜紹介する

臨床心理英語論文読解 II

2単位：後期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

［ 到達目標 ］
臨床心理英語論文読解 I で理解した内容を踏まえて、心理学の英語論文の構成や内容を理解しながら読めるようになることを目指す。

［ 履修の条件 ］
2年生以上が履修できる。受講生が翻訳やワークを分担するため欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。前年に臨床心理フレッシュマンゼミを受講し、心理学の専門書や論文に触れてていることが望ましい。受講していない場合や聴講の希望がある場合には事前に相談のこと。

［ 講義概要 ］
英語論文を分担して読んでいく予定である。後半は、受講者の関心のある英語論文のアブストラクトを発表する形式で、様々な英語論文に触れる。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　英語論文の読解1
第3回　英語論文の読解2
第4回　英語論文の読解3
第5回　英語論文の読解4
第6回　英語論文の読解5
第7回　英語論文の読解6
第8回　英語論文を読解7
第9回　英語論文を読解8
第10回　英語論文を読解9
第11回　文献発表1
第12回　文献発表2
第13回　文献発表3
第14回　文献発表4
第15回　文献発表5
第16回　課題提出

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各自、積極的な予習復習を求めます。自分の担当箇所でなくても毎回翻訳をし、授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通していってください。また後半の文献発表は関心のあるテーマの英語論文を自分で検索して準備することが必要になります。充分に予習してください。担当者は翻訳の修正版を翌週までに提出します。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
各自が分担した箇所の翻訳を事前に提出し、授業中にフィードバックする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分る内容の理解を深めることができる。

［ テキスト ］
適宜紹介する

［ 参考文献 ］
適宜紹介する

ソーシャルワーク演習 I

2単位：前期1コマ	1年
原島　博、市川　一宏、金子　和夫、浅野　貴博	

［ 到達目標 ］
社会問題と社会福祉について考える。
人々が直面する課題を、個人的な課題としてだけではなく、社会的な課題として理解する力を習得する。
具体的な課題を、個人的な課題としてではなく、社会的な課題としてとらえる力を得る。
地域福祉の基盤整備と開発を考察できるようになる。

［ 履修の条件 ］
社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習 I 、精神保健福祉実習開始前に履修することが求められる。

［ 講義概要 ］
少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例などを活用

し、それぞれの課題を、個人的な課題としてではなく、社会的な課題としてとらえ、情報の収集・整理して伝達し、課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ。
毎回の課題について、グループ討議に参加することが求められる。自分で調べ学習を行い考察を深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　授業のねらいと学び方
第2回　危機状態にある相談援助の事例の理解の仕方
第3回　危機状態にある相談援助の事例を社会的な課題としてとらえ、地域福祉の基盤整備と開発の方法を知る
第4回　社会的排除（事例の背景の理解）
第5回　社会的排除（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）
第6回　児童・高齢者虐待（事例の背景の理解）
第7回　児童・高齢者虐待（ニーズ把握とネットワーキング）
第8回　家庭内暴力（事例の背景の理解）
第9回　家庭内暴力（ニーズ把握と地域アセスメント）
第10回　低所得者（事例の背景の理解）
第11回　低所得者（地域福祉の計画、サービス評価）
第12回　ホームレス（事例の背景の理解）
第13回　ホームレス（社会資源の活用・調整・開発）
第14回　グループごとのまとめ
第15回　全体のまとめ
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（40％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（60％）

［ 成績評価（備考） ］
出席を重視する。毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業への参加姿勢、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
毎回の課題について、社会問題としてとらえることを意識して、自分で調べ学習を行うこと。
授業後に、討議内容、講義内容を復習し、ソーシャルワーカーとしてどのように社会資源の基盤整備を行い、調整し、開発できるかについて考察すること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回あるいは次々回以降の授業時に行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして総合的・実践的な学習能力を身につける。また、他者との意見交換等をとおして他者への理解と自身の思いを言語化する力を身に付ける。

［ テキスト ］
授業時に示す。

［ 参考文献 ］
授業時に示す。

ソーシャルワーク演習 II

2単位：後期1コマ	1年
原島　博、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

［ 到達目標 ］
相談援助に係る基礎的な知識と技術を身につける。具体的な相談事例について、総合的・包括的な援助の過程を理解する。

［ 履修の条件 ］
社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ、精神保健福祉実習履修前に履修が求められる。ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済みであることが望ましい。

［ 講義概要 ］
少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例等をもとに、総合的・包括的な援助について考察し、知識と技術を身につけていく。グループダイナミクスを活用しながら学びを深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　アウトリーチ
第3回　インテーク、契約
第4回　アセスメント
第5回　プランニング
第6回　支援の実施
第7回　チームアプローチ
第8回　ネットワーキング
第9回　社会資源の活用・調整・開発
第10回　モニタリング
第11回　効果測定、終結とアフターケア
第12回　グループ発表
第13回　グループ発表
第14回　全体のふりかえり
第15回　全体のまとめ
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（40％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（60％）

［ 成績評価（備考） ］
出席を重視する。毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業への参加姿勢、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。前期に履修するソーシャルワーク演習Ⅰの終盤で、ソーシャルワーク演習Ⅱの担当テーマが定まる。テーマを担当する教員のもと、前期の終盤に集まるので、出された夏休みの課題に取り組むこと。後期の授業開始後も、グループごとに、メンバー全員で役割分担し、自分の分担（調べ学習、整理、まとめ、集約など）を責任をもって果たすこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回あるいは次々回の講義で行う。レポートについては、発表時にコメントを行う。発表時のコメントをもとに最終レポートの提出を求める。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を履修することで、他者理解を深め、自己表現のためのコミュニケーション能力を伸ばし、最終的にグループとして人前で学んだことを発表する能力を身につける。

[テキスト]
授業時に示す

[参考文献]
授業時に示す

ソーシャルワーク演習Ⅲ

2単位：前期1コマ	2年
髙山　由美子、福島　喜代子、山口　麻衣、浅野　貴博、廣瀬　圭子、市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、大曲　睦恵	

[到達目標]
ソーシャルワーカーとして、必要となる相談援助の基礎技術を身につける。特に、コミュニケーション技術及び面接技術、マッピング技法を習得する。また、自己覚知を深め、自分が将来活動する分野を選択し、必要な基礎知識を得る。

[履修の条件]
原則として、社会福祉士や精神保健福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。精神保健福祉士の受験資格を目指す者も、履修が求められる。
ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉入門の3科目を、「良」以上の成績で履修ずみであること。
社会福祉原論Ⅰを良以上の成績で履修ずみであるか、並行履修中であること。社会福祉原論Ⅱを良以上の成績で履修ずみであるか、後期履修予定（良以上の成績）であること。社会福祉の基礎を良以上の成績で履修済みであるか、並行履修中であること。

[講義概要]
少人数の演習で、相談援助の基礎となる技術について、ロールプレイなどの実技指導を中心に学ぶ。講義、アンケート、個別面接などを通して実習分野や将来活動する分野を決定する支援を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　ソーシャルワーク実習と実習指導の理解
第3回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その1）
第4回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その2）
第5回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その3）
第6回　自己覚知（自分を知る）
第7回　基本的なコミュニケーション技術の習得（自己紹介と実習目的の説明）
第8回　基本的なコミュニケーション技術の習得（生活施設で利用者と関わる）
第9回　実習記録の書き方
第10回　基本的な面接技術の習得（傾聴と共感的反映、信頼関係の構築）
第11回　基本的な面接技術の習得（明確化、家族関係図の記入）
第12回　基本的な面接技術の習得（明確化、エコマップの記入）
第13回　基本的な面接技術の習得（細分化、時間の流れの中で利用者を理解する）
第14回　分野別学習
第15回　分野別学習
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
コミュニケーション技術、面接技術などについて、授業後にふりかえりを行い、そのポイントを復習しておくこと。『実習の手引き』を読むこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］
『実習の手引き』ルーテル学院大学、履修者全員に配布する。

［参考文献］
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク演習Ⅳ

2単位：前期1コマ	3年
髙山　由美子、福島　喜代子、山口　麻衣、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

［到達目標］
社会福祉の現場で、利用者、スタッフ、サービス運用などを適切に観察し、観察したことを言語化し、記録し、考察できるようになる。
社会福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として利用者を支援することができるようになる。

［履修の条件］
社会福祉士や精神保健福祉士を目指す学生が履修することを原則とする。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、のいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の実習前に求められる科目である。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、Ⅲと並行履修することが求められる。
授業はすべて出席すること。

［講義概要］
原則として、少人数（概ね10人～15人）の演習形式の授業を実施し、実技指導も行う。
事例をもとに、具体的な相談援助場面や、相談援助過程を想定し、実技指導を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　実習指導とは、実習指導を受けるとは
第3回　個人を対象としたソーシャルワーク
第4回　個人を対象としたソーシャルワーク
第5回　観察訓練
第6回　観察したものを伝達する訓練
第7回　グループを対象としたソーシャルワーク
第8回　グループを対象としたソーシャルワーク
第9回　ケアプランの立て方
第10回　ケアプランの立て方
第11回　チームアプローチとネットワーキング
第12回　チームアプローチとネットワーキング
第13回　感染症について学ぶ
第14回　実習記録の書き方
第15回　実習報告書、実習評価表の記入
第16回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（60%）、その他の評価方法（40%）

［成績評価（備考）］
参加型授業への貢献度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅲ等ですでに学んだことを復習しておき、授業に備える。
相談援助の専門家として、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、実際の現場で実践できるようにする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］
『実習の手引き』ルーテル学院大学。

［参考文献］
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク演習Ⅴ

2単位：後期1コマ	3年
市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、髙山　由美子	

［到達目標］
ソーシャルワークの理論と実践を統合して理解する。
ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。

［履修の条件］
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰあるいは精神保健福祉援助実習後に履修する。本演習は「ソーシャルワーク演習Ⅵ」と連続して履修しなければならない。なお、3年前期にゼミ（演習）の所属希望調査を行うので掲示等に注意すること。
卒業論文を執筆する者は、原則として指導教員のゼミ（演習）に所属する。

[講義概要]
少人数の演習で、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。各演習のテーマに基づき、ソーシャルワークの実践について具体的に学ぶ。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図る。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　地域住民に対するアウトリーチ
第3回　地域住民のニーズ把握
第4回　地域福祉計画
第5回　ネットワーキング
第6回　社会資源の活用・調整・開発
第7回　サービス評価
第8回　実習体験の一般化
第9回　実習体験の一般化
第10回　実践的な知識と技術の習得
第11回　実践的な知識と技術の習得
第12回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第13回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第14回　発表
第15回　発表
第16回　課題提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業の中で適宜紹介する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク演習Ⅵ

2単位：前期1コマ	4年
市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、髙山　由美子	

[到達目標]
ソーシャルワークという相談援助の理論と方法が、理論、技術、価値で体系化されたもので、ミクロ・レベルの個人だけでなく、家族集団からマクロ・レベルの社会までを対象にした高い専門性のものであることを理解し、現場実践の観察力、分析力、応用力、専門スタッフに対するスーパービジョン力を習得する。

[履修の条件]
4年次を対象とし、「ソーシャルワーク論 Ⅴ」を履修済みであることが必要。体験学習と討論形式を採用するため、事前準備として文献による学習が求められる。

[講義概要]
ソーシャルワークの中でも、技術の習得を主にし、理論的に把握したあと、適格に実践に生かせることができるように、スーパービジョンの実際を通して学習させる。
演習ごとのテーマに沿って課題に取り組む。

■授業計画
第1回　社会福祉士の役割と意義
第2回　相談援助の概念と範囲
第3回　相談援助の理念
第4回　スーパービジョンの概念と範囲
第5回　相談援助の権利擁護の意義
第6回　相談援助に係る専門職の概念と範囲
第7回　専門職理念と倫理的ジレンマ
第8回　総合的かつ包括的な援助と他職種連携
第9回　事例分析・相談援助の実際(権利擁護も含む)
第10回　実践モデル・人の包括的理解のためのツール
第11回　ニーズ・緊急性把握(アセスメント)
第12回　ソーシャルワークの専門性の理解
第13回　アセスメント：児童および女性とその家族の理解
第14回　ソーシャルアクション・ネットワーキング
第15回　まとめ
　　専門職として果たす役割・機能
　　実践と理論の関連性
第16回　課題提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業の中で適宜紹介する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ

2単位：後期1コマ	4年
髙山　由美子、金子　和夫、市川　一宏、福島　喜代子、原島　博、山口　麻衣、浅野　貴博、廣瀬　圭子、加藤　純	

[到達目標]
大学生活の最終学期において、これまで一般教養科目、専門科目、実習関連科目で学んだ思想・理論・知識・技術等を、卒業後の実践の場に活かせるようにすることを目標とする。

[履修の条件]
「ソーシャルワーク演習Ⅴ」、「Ⅵ」から引き続き履修する。日程、教室などは掲示を行うので注意して従うこと。

[講義概要]
本講義は、大学生活の最終学期において、社会福祉の理論と実践の統合、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験準備、就職支援、キャリア形成などを行う。4年生全体を対象とした講義形式の授業と卒業ゼミを単位としたグループ授業の組み合わせで展開する。

■授業計画
第1回　受験体験と心得
第2回　キャリア形成ゼミ①
第3回　保健医療サービス
第4回　社会福祉原論
第5回　社会保障論
第6回　キャリア形成ゼミ②
第7回　福祉行財政と福祉計画
第8回　権利擁護と成年後見制度
第9回　医学一般
第10回　公的扶助論
第11回　地域福祉論
第12回　心理学
第13回　社会学
第14回　障害者福祉論
第15回　キャリア形成ゼミ③
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
成績評価の「その他」は、特に「理論と実践の統合」や「キャリア形成ゼミ」等においてフィードバックが求められるので、その内容で評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
これまで学んだ専門科目や実習関連科目等の内容をあらためて学習し、さらに、卒業後の進路・分野に関する研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパに対するフィドバッを必要に応じて次回以降の講義内容おいて行う。
・講義内小テストの解答　・解説は、授業内に行う。
・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメンする。

[テキスト]
テキストは使用しない。

[参考文献]
参考文献は、これまでの講義課目あるいは実習先等で提示された文献を参照すること。さらに、国家試験関係では、多くの出版社から「講座」としてテキストが出版されている。また、卒業後の進路関係についても、進学・就職に向けた専門的な文献が数多く出版されており、自分で使いやすいものを利用すること。

神学初級演習

2単位：後期1コマ	1年
宮本　新	

[到達目標]
キリスト教人間学コースにおいて学ぼうとするものの問題関心を深め、大学でのレポートや論文作成などの取り組みについての基礎力を獲得する。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースで学ぶ者は選択必修だが指導に従って履修してほしい。

[講義概要]
キリスト教や宗教、現代社会におけるスピリチュアリティー、死といのちの問題などキリスト教人間学コースで扱う幅広い領域のなかで、自らの関心をテーマとして選び、学びを深め、さらに論文やレポートの形にまとめていく基礎的力を身につける。問題関心を育て、大学での学びとしての読書法、研究ノートの作り方、議論

の仕方などを実践的に学び、レポートや論文にまとめていくための基本的な技術を習得する入門ゼミである。授業は、主としてキリスト教学科の「課題研究」に取り組むために、その方法論を教授するものである。「課題研究」を履修しようとする学生には必修の課目となっている。大学レベルでのレポート・論文の書き方を習得することを希望するものがこの授業を取ることは有益である。

■授業計画

第1回　イントロダクション：大学での学び、特にキリスト教学関連での学びの方法について。またこの授業で取り上げる課題について説明。
第2回　問題関心からの出発
第3回　資料収集の仕方と読書
第4回　大学における読書①
第5回　大学における読書②
第6回　先行研究との対話
第7回　具体的な課題の設定
第8回　議論の仕方①（演繹法・帰納法）
第9回　議論の仕方②（弁証法）
第10回　本文の構成①
第11回　本文の構成②
第12回　脚注および文献表の書き方
第13回　題名の決め方
第14回　執筆の実際
第15回　まとめ
第16回　大学におけるレポートの実際

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
毎週、読書（1時間）と課題をノートに行うこと（1時間）で4時間ずつ、合計60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
課題ノートを毎回確認し、教員によるコメントを返す。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的、実践的な学習能力」及び「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に関わり、課題を発見し、問題を分析して理解を深め、具体的な意見形成とその表現としての論述の仕方について学ぶ。

［ テキスト ］
なし。

［ 参考文献 ］
クラスに紹介する。

キリスト教特講ゼミⅠ

2単位：前期1コマ	2年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

［ 到達目標 ］
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

［ 履修の条件 ］
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

［ 講義概要 ］
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識2
第10回　神学の基礎知識3
第11回　神学の基礎知識4
第12回　神学の基礎知識5
第13回　神学の基礎知識6
第14回　教会と神学
第15回　学びのまとめ
第16回　神学の学びについて

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミII

2単位：後期1コマ	2年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識2
第10回　神学の基礎知識3
第11回　神学の基礎知識4
第12回　神学の基礎知識5
第13回　神学の基礎知識6
第14回　教会と神学
第15回　まとめ
第16回　神学とは

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミIII

2単位：前期1コマ	3年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学と歴史
第9回　神学と歴史2
第10回　神学と歴史3
第11回　神学と歴史4
第12回　神学と歴史5
第13回　神学と歴史6
第14回　神学と教会
第15回　神学とは
第16回　神学の歴史的課題

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅣ

2単位：後期1コマ	3年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学と歴史
第9回　神学と歴史2
第10回　神学と歴史3
第11回　神学と歴史4
第12回　神学と歴史5
第13回　神学と歴史6
第14回　神学と教会
第15回　神学とは
第16回　神学の歴史的課題

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅤ

2単位：前期1コマ	4年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学と実践
第9回　神学と実践2
第10回　神学と実践3
第11回　神学と実践4
第12回　神学と実践5
第13回　神学と実践6
第14回　神学と教会
第15回　神学とは
第16回　神学の実践的課題

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミVI

2単位：後期1コマ	4年
石居　基夫、ジェームズ・サック、大串　肇、江口　再起、宮本　新	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学と実践
第9回　神学と実践
第10回　神学と実践
第11回　神学と実践
第12回　神学と実践
第13回　神学と実践
第14回　神学と教会
第15回　神学とは
第16回　神学の実戦的課題

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など毎週4時間、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

臨床心理フレッシュマンゼミ

2単位：後期1コマ	1年
加藤　純、松田　崇志	

[到達目標]
1）自らの関心や疑問から心理学研究としてのテーマを設定する方法を身につける。
2）設定したテーマにしたがって文献を調査し、その内容をレポートとしてまとめるまでの過程を体験的に理解する。
3）グループ・ディスカッションの中で、自分のテーマを説明し意見を求める力を養う。
以上を通して、文献研究を進める力を身につける。

[履修の条件]
臨床心理コース必修科目である。
臨床心理コース2年次編入生も原則として履修すること。
その他のコース希望者や希望コース未定者も履修できる。
3年次編入生には別途履修について説明する。

[講義概要]
大学では、知識を与えられる学習ではなく、自ら調べる学習が大切です。この授業では、自らの心理学的関心や疑問を研究可能なテーマとして設定し、文献研究とグループワークを経てレポートを作成するまでの過程を体験的に学びます。図書館でコンピュータを用いた文献検索をしますが、スマートフォンでも文献検索が可能です。レポートはコンピュータ上で作成することを勧めます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　研究の必要性（研究はどのような役に立つのか）
　文献研究とは何か。
第2回　研究論文の構成を理解する。
　自分の疑問を研究につなげよう（研究テーマの例示）。
第3回　インターネットで研究論文を見つける方法（1）
　CiNii（サイニー）を使って研究論文を検索する方法を学ぶ。
第4回　インターネットで研究論文を見つける方法（2）
　検索した論文の書誌情報を記録する（論文の著者・出版年・題名・掲載箇所）。
第5回　文献を探した結果の報告
　ひとつの論文をまとめたレポートの書き方（1）（表紙の書き方，レポートの構成）
第6回　ひとつの論文をまとめたレポートの書き方（2）（引用と要約の違い，注の付け方）
第7回　図書館で本を検索する方法
　a）書籍のいろいろ。
　b）OPAC を使って図書館で本を検索する方法。
第8回　★　第1回レポート提出　★
　複数の文献で調べた内容をワークシートにまとめる。
第9回　複数の文献を用いたレポートの書き方。
第10回　比べて書く（類似点を示す文・相違点を示す文）
第11回　数値データを示す文。
　具体例を示す文・一般論を示す文。
第12回　先行研究の内容を短く紹介する文。

第13回　事実について述べる文・認識について述べる文。
　　先行研究を批評する=考察を整理する。
第14回　★　第2回レポート提出　★
　　レポートの成果発表。
第15回　第2回レポートへのコメント。まとめ。
第16回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
レポートは第1回の研究論文一つをまとめたレポートと、第2回の複数の研究論文をまとめたレポートの2つです。
提出課題は文献検索の結果報告などです。その他はグループ・ディスカッションなど授業への取り組み方です。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回の授業の内容を踏まえて、各自、文献研究を進めてください。毎回の課題を終えて教室に持参していることを前提に授業を進めます。レポートに用いることに決めた文献はプリントして毎回の授業に持参してください。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)が必要です。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題のいくつかは提出を求めます。提出された課題は確認をして随時返却します。
第1回レポートと第2回レポートは、提出の翌週にコメントを記して返却します。第1回レポートは再提出を求めることがあります。第2回レポートは加筆修正して期末試験期間中に最終レポートとして提出してください。最終レポートはメールボックスを通して返却します(手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください)。レポートをメールで提出された場合、メールへの返信によりコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
総合的・実践的な学習能力　に該当します。この科目では、支援が必要な課題や支援方法について自分自身で問を設定し、文献を調べ、調べた結果を他者に伝える力を養うことを目指します。

[テキスト]
特に定めない。下記の参考文献の中から自分に合っていると思うものを身近なところに置いて、授業の進行に合わせて関連する箇所を読むこと。その他、レポートや論文の書き方に関する書籍を探してみても良い。

[参考文献]
田中共子編(2009)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
石黒　圭(2012)『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門　第3版』慶応義塾大学出版会
梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書
浜田麻理他(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

卒業演習プレゼミナール

1単位：後期1コマ	3年
谷井　淳一、松田　崇志	

[到達目標]
①卒業論文のテーマの設定の仕方を学ぶ。
②卒業論文の書き方の基本を学ぶ。
③卒論に良く使う統計分析に関する理解を深める。

[履修の条件]
臨床心理コースまたは子ども支援コースの3年生で、来年度、心理学的方法論に基づいて卒業論文を作成するつもりの学生。但し、卒論は書かないが卒業演習のゼミには参加したい場合もできるだけ履修すること。心理学研究法Ⅰ、心理学研究法Ⅲ、心理学基礎実験(2018年度からは、心理学実験)、質問紙調査法、などを履修済みか並行履修していることが望ましい。3年前期の6月頃にゼミ配属の説明会を実施するのでそれに出席し、ゼミ配属が決定していることを前提とする。4年生では必修科目はないので、卒論を書かない場合もどこかのゼミに所属することが望ましい。本学では、卒業論文は必修科目にしていないが、将来、大学院に進学することを考えている学生は、必修に準ずると考えて、履修してほしい。学部の段階で卒業論文の作法を会得しておかないと大学院進学ならびに進学後の研究に支障がでるので、学部の勉強の集大成として取り組んでほしい。

[講義概要]
卒業論文のテーマを選ぶために先行研究の選び方と、論文の読み方、卒業論文の執筆の仕方、引用文献の表示の仕方などを学ぶ。1つの論文を精読し、どのように論を展開しているか、どのような統計分析を用いて結論を出しているかを理解する。

■授業計画
第1回　文献研究の方法
第2回　引用文献の書き方
第3回　卒業論文の書き方1
第4回　卒業論文の書き方2
第5回　よく使われる統計手法の理解1
第6回　よく使われる統計手法の理解2
第7回　良く使われる統計手法の理解3
第8回　自分の興味を研究計画につなげる方法
第9回　1単位なので8回で終了
第10回　1単位なので8回で終了
第11回　1単位なので8回で終了
第12回　1単位なので8回で終了
第13回　1単位なので8回で終了
第14回　1単位なので8回で終了
第15回　1単位なので8回で終了
第16回　1単位なので8回で終了

[成績評価]
試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自で主体的にすすめてください。授業ごとに文献検索または復習時間が4時間必要となる。8回分で合計32時間の準備学習が必要である。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートに関しては、ゼミ配属後、各担当教員ごとにフィードバックを実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた、仮説を実証する考え方に関して、さらに理解を深める。

[テキスト]
とくになし。プリントを配布する。

[参考文献]
とくになし。

卒業演習 I

2単位：後期1コマ	3年
植松　晃子、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石川　与志也、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、加藤　純	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習 I・II・III」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。3年生前期の6月頃にコース毎にゼミ配属の説明会がありますので必ず出席してください。説明会ののち希望調査を行い、ゼミの担当教員が前期の間に決まります。臨床心理コース担当教員の「卒業演習」を希望する場合は、「心理学研究法 I」、「心理学研究法 III」、「心理学基礎実験」、「質問紙調査法実習」を履修済みか並行履修することが必要です。そのため、後期の時間割では、担当教員が開設している「卒業演習 I」の曜日時間に履修をすることになります。子ども支援コースで本科目を履修したい学生は、子ども支援コース担当教員にご相談下さい。

[講義概要]
ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。

■授業計画
第1回　イントロダクション
第2回　テーマの設定の仕方1
第3回　テーマの設定の仕方2
第4回　テーマの設定の仕方3
第5回　文献研究1
第6回　文献研究2
第7回　文献研究3
第8回　研究企画書の作成1
第9回　研究企画書の作成2
第10回　研究企画書の作成3
第11回　研究テーマの発表1
第12回　研究テーマの発表2
第13回　研究テーマの発表3
第14回　研究の総括1
第15回　研究の総括2
第16回　研究の総括3

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習 II

2単位：前期1コマ	4年
植松　晃子、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック、加藤　純	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
先行研究にあたり学術論文の取り組みについて学びを深め、テーマに即した議論の深め方や専門分野における方法論に具体的に習熟し、論文執筆のための論述を展開する力を養う。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けます。

[講義概要]
原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめます。
論文やプレゼンテーションの構成を考え、計画に基づいて研究と調査を実施し、結果の分析を行い、考察を経て論文を完成させる。また、執筆に伴う新たな課題の整理方法についても学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④
第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　研究指導⑬
第15回　研究指導⑭
第16回　まとめ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習 III

2単位：後期1コマ	4年
植松　晃子、加藤　純、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、ジェームズ・サック	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。還

俗的に「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」と同じ教員に指導を受けます。

[講義概要]
卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④
第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　研究指導⑬
第15回　研究指導⑭
第16回　まとめ

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示がありま す。

卒業論文

4単位：通年1	4年

市川　一宏、金子　和夫、福島　喜代子、原島　博、髙山　由美子、山口　麻衣、植松　晃子、加藤　純、高城　絵里子、田副　真美、谷井　淳一、石居　基夫、大串　肇、上村　敏文、ジェームズ・サック

[到達目標]
卒業論文を作成することにより、大学における専門科目および一般教養科目その他学習の総合として、一定の分野において自分の研究をし、それをまとめて発表できる能力を持つことを目標とする。

[履修の条件]
「卒業演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」、又は「ソーシャルワーク演習Ⅴ、Ⅵ」において指導教員の指導のもと論文の作成方法を学ぶこと。

[講義概要]
指導教員の指導のもと、学生ごとのペースで研究を進める。論文執筆に関しては、各コースから示される「執筆要項」に従うこと。ゼミでの発表、2回の中間発表会で、その時点での研究の進展具合を報告する。特別な事情のない限り、2回の中間発表ができなかった場合は、卒業論文の提出はできない(ただし、ゼミ論として、指導教員に提出することは可能である)。提出前に指導教員に読了してもらい、定められた日までに卒業論文を提出する。(指導教員によって卒業論文の提出時期が異なるので注意すること。)

■授業計画
第1回　個別履修指導
第2回　個別履修指導
第3回　個別履修指導
第4回　個別履修指導
第5回　個別履修指導
第6回　個別履修指導
第7回　個別履修指導
第8回　個別履修指導
第9回　個別履修指導
第10回　個別履修指導
第11回　個別履修指導
第12回　個別履修指導
第13回　個別履修指導
第14回　個別履修指導
第15回　個別履修指導
第16回　個別履修指導
第17回　個別履修指導
第18回　個別履修指導
第19回　個別履修指導
第20回　個別履修指導
第21回　個別履修指導
第22回　個別履修指導
第23回　個別履修指導

第24回　個別履修指導
第25回　個別履修指導
第26回　個別履修指導
第27回　個別履修指導
第28回　個別履修指導
第29回　個別履修指導
第30回　個別履修指導
第31回　個別履修指導
第32回　まとめ

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

[成績評価(備考)]
中間発表、最終発表、口頭試問等による合議評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は学生が主体的に進めるものである。その中にあって、論文テーマは受講する演習に関連するものであることが望ましく、指導教員とよく相談の上、論文執筆を進める。指導教員その他の先生からのコメントや情報提供などを自分のものとしながら進めることが大切である。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

世界の宗教 I

2単位：前期1コマ	2〜4年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格に対応します。

[到達目標]
各宗教の発生と歴史について基本的な考えについて概観する。それぞれの宗教が何を根本的に主張しているかを客観的に学んでいきます。三大宗教としてのキリスト教、イスラーム、仏教を中心に、古代からさまざまな地域における宗教を学び、それぞれの特徴を学ぶことにより敬意を持って理解を深めることができるようになることを目標とします。

[履修の条件]
世界の宗教に関心がある学生はどなたでも参加して下さい。意欲的な学生の参加を希望します。初回のオリエンテーションには必ず出席をする事。

[講義概要]
それぞれの宗教がその起源から今日にいたるまで、どのような価値観を形成してきたのかについて概観します。また前期は特に宗教史の視点から歴史的にどのような変遷を遂げて来たのかに注目して講義を進めていきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　全体構造を俯瞰する。
第2回　世界の先史・未開社会の宗教　宗教とは何か
第3回　古代宗教　その定義と現在
第4回　ユダヤ人の宗教(1)　伝統と現代
第5回　ユダヤ人の宗教(2)　その教えと誤解
第6回　キリスト教(1)　初代教会とその発展
第7回　キリスト教(2)　日本、アジア、アフリカへの宣教
第8回　イスラーム教(1)　基本構造とその教え
第9回　イスラーム教(2)　アジア、欧米への進展
第10回　ヒンズー教　インドの社会における宗教
第11回　仏教(1)　根本思想と時代背景
第12回　仏教(2)　中国、チベット、そして日本への広がり
第13回　中国人の宗教　道教を中心として
第14回　日本人の宗教　神道を中心として
第15回　まとめ　宗教と人間について考える
第16回　予備日

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発表を重視します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各宗教について、事前事後にしっかりとフォローすること。予習は課題図書を2時間、復習には2時間を目安にします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各主要な三大宗教を中心として、理解を深めるために、適宜簡単な小テストを講義の終わりに実施する。また、基本用語を整理するためにレポートを課す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。本学の「ルターの宗教改革の精神」に基づき、比較宗教の視座から、特にキリスト教を基軸として、他の宗教との相違、共通点を深く認識し、理解すつことが出来る。

[テキスト]
岸本英夫編『世界の宗教』大明堂

[参考文献]
藤原聖子『世界の教科書でよむ宗教』ちくまプリマー新書
橋爪大三郎『世界は宗教で動いている』光文社新書
村上和雄、棚次正和『人は何のために「祈る」のか』祥伝社

佐藤順『幸福への八つの態度』アンカークロス社

[備考]
発表を適宜課します。

世界の宗教 II

2単位：後期1コマ	2〜4年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
世界の宗教の教義を中心に学びます。それぞれの宗教が何を根本的に主張しているかを客観的に学んでいきます。その上で、それぞれの宗教の相違と共通点についての理解を深めます。

[履修の条件]
世界の宗教Ⅰを受講していること。宗教史、世界の宗教に関心がある学生はどなたでも参加して下さい。意欲的な学生の参加を希望します。初回のオリエンテーションには必ず出席をする事。講義中で、一度は必ず、発表をしてもらいますので、オリエンテーションの際、説明をして割り振りをします。

[講義概要]
前期の講義から、応用編として、それぞれの宗教の中においてどのような変化をとげ、あるいは分派などが生じてきたかについてその状況を学びます。普遍的な部分と、変化してきたこと、変化せざるをえなかったことなどについて、深く学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　一神教と多神教　その特徴と反目と今後
第3回　旧約聖書の世界観　創世記を中心として
第4回　ユダヤ人の宗教(1)　「ユダヤ教」の発端
第5回　ユダヤ人の宗教(2)　「ユダヤ教」の思想
第6回　キリスト教とギリシャ・ローマの世界　パウロの宣教
第7回　キリスト教とヨーロッパ　イタリア、フランス、ドイツへの展開
第8回　イスラーム教　中東の多様性と複雑性
第9回　イスラーム教　アジア、アフリカへの展開とその矛盾
第10回　ヒンズー教　その多様性と根源
第11回　根本(原始)仏教　日本仏教との対比において
第12回　大乗仏教(北伝仏教)の特徴と展開
第13回　老荘思想と儒教
第14回　日本人の宗教観　時代性とその変化
第15回　まとめ
第16回　予備日

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発表等、積極的な講義との関わりを重視します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各宗教について、事前事後にしっかりとフォローすること。予習は課題図書を2時間、復習には2時間を目安にします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各主要な三大宗教を中心として、理解を深めるために、適宜簡単な小テストを講義の終わりに実施する。また、基本用語を整理するためにレポートを課す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。本学の「ルターの宗教改革の精神」に基づき、比較宗教の視座から、特にキリスト教を基軸として、他の宗教との相違、共通点を深く認識し、理解することが出来る。

[テキスト]
岸本英夫編『世界の宗教』大明堂

[参考文献]
武祐一郎『絶対的平和主義とキリスト教』新教出版社
中田考『イスラーム　生と死と聖戦』集英社新書

[備考]
発表を適宜課します。

文化史

2単位：前期1コマ	1〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
日本文化を中心に概説的に、また大陸、外国との関係、交流にも関心を持ちつつ学んで行きます。総合的な文化的、国際的見地を養う事ができることを目標としています。

[履修の条件]
特にありませんが、広く文化に興味を持つことを希望します。積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で課題を提出していただきます。内容は文化に関することであればテーマは問いません。事前に内容について個別に協議します。

[講義概要]
日本文化史を中心に学びつつ、古代においては朝鮮半島、中国との関係、あるいはシルクロードを通りはるかペルシア等、中東との関係を、国風文化においては、源氏物語や日記文学を取り上げつつ平安の世界を学び、中世の武家文化は特に折形の殿中礼法の初歩を実技とともに取り上げます。また、近現代においては欧米文化との交渉、交流史を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：
　　全体構造と日本の文化概説
第2回　古代文化史　縄文と弥生　新しい考古学の成果等をふまえて
第3回　古代文化史　大陸、朝鮮半島との交渉
第4回　中古文学の世界(1)万葉集と日本文化
第5回　中古文学の世界(2)源氏物語にみられる音楽、文化
第6回　中古文学の世界(3)日記文学　女流文化の中核
第7回　香の文化　その起源と発展について
第8回　武家文化　武家礼法(折形)　伊勢流と小笠原礼法
第9回　茶道の世界とキリスト教
第10回　能楽の世界(1)　能の起源と思想
第11回　能楽の世界(2)　キリシタン能の歴史とその可能性
第12回　道の文化　武士道とキリスト教
第13回　歌舞伎、文楽の世界　庶民の文芸の勃興について
第14回　江戸文化　武家と民衆文化
第15回　明治、大正の文化：プロテスタンティズムとデモクラシー
第16回　予備日15回の講義を振り返り、質疑応答を行う。

[成績評価]

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

日本史を高校時代に選択していない場合は、高校レベルの教科書、参考書で各時代について復習をしておくこと。予習として2時間、復習として2時間程度を確保する。

[試験・レポート等のフィードバック]

講義に関してのフィードバックを次回に反映させる。

[ディプロマポリシーとの関連性]

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。いろいろな文化を学ぶことにより、より他者を理解することが出来る。キリストの心を文化の視点から、とくに日本文化の中でどのような可能性があるかを共に考察してゆく。

[テキスト]

特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

[参考文献]

網野善彦「日本の歴史」岩波新書
観世清和『新訳風姿花伝』PHP
中野剛志『日本思想史新論』ちくま新書
桜井徳太郎『日本人の生と死』岩崎美術社
坂部慶夫『聖書のことばと茶のこころ』淡交社

比較文化論

2単位：後期1コマ	3〜4年
上村　敏文	

[科目補足情報]

「宗教文化士」の受験に対応します。

[到達目標]

日本文化を中心として、アジア、アフリカ、欧米の文化とを比較研究していきます。領域としては、文学、音楽、美術、建築、演劇などさまざまのジャンルが交差的に関係してきますが、基本的にはそれぞれが最も関心のある領域を深めることを最大限の目標とします。各自の関心に応じてそれぞれの分野を深めて行く事が求められます。自分の関心と照らし合わせて複合的にさまざまな文化を楽しく学んでいくことができることを目標としています。

[履修の条件]

積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で発表を課します。内容は比較文化に関することであれば選択するテーマは何でも構いません。発表前に内容について個別に協議します。

[講義概要]

日本文化を基調として、古代から現代までの特徴ある文化体系を学びながら、並行的に人類発祥の地としてのアフリカの文化から地中海世界、インド、アジア、ヨーロッパなど広範な地域について比較文化的に学びます。「宗教を一つの社会文化現象」と把握する立場から、特にアフリカの伝統的宗教、キリスト教、イスラーム教の関係について比較、対比して歴史的、宗教学的な考察を加えて行きます。現在、アフリカにおいて何故、キリスト教、イスラーム教が急速に伸びているのかを日本、アジアの状況と比較する事により検討していきます。併せて、馴染みの少ないイスラーム文化についても学んで行きます。より身近になりつつあるテーマとして、当然知っておくべき事項を学び、中近東やアジア、アフリカなどで起きていることなどを客観的に学んでいきます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　講義の全体構造と到達目標を明らかにする。
第2回　比較文化方法論(1)　宣教師と文化観察からのスタート
第3回　ラフカディオ・ハーンの見聞した日本
第4回　日本文化と欧米との遭遇　キリシタン時代
第5回　ポルトガルがもたらした日本文化　能楽との関係
第6回　「安土桃山時代」における西洋社会の影響
第7回　アジアの文化と宗教　中東との交渉　シルクロード
第8回　中国の文化と宗教　儒教と道教
第9回　韓国の文化と宗教　基督教を中心として
第10回　インドの文化と宗教　アーリアの侵入と土着文化
第11回　ネパールの文化と宗教　仏教の発祥と現代
第12回　ハワイ、ブラジル社会と日系人　キリスト教受容
第13回　国際社会における日本　「無宗教」と神道、武士道
第14回　幕末における欧米との接触　使節団と欧米
第15回　明治維新　文明開化と「日本主義」
第16回　予備日

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
世界史、日本史の幅広い基本的な知識は必要です。弱点がある場合は高校時代の教科書などで適宜補強しておくことが望ましい。講義を通して、各種の新聞を読むことを奨励します。予習、復習に各2時間程度を確保すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表などのフィードバックを次回の講義等で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に外套する。比較文化の方法論を学ぶことにより、より他者、異文化を理解することが出来るようになる。ミッションスクールとして、キリスト教精神のルーツを比較文化、比較宗教の視点から考察を深めていく。

[テキスト]
特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

[参考文献]
シュペングラー『西洋の没落』五月書房
島岡由美子『我が志アフリカにあり』朝日新聞社
笹森建美『武士道とキリスト教』新潮新書
松原久子『驕れる白人と闘うための日本近代史』文春文庫
井上章一『日本人とキリスト教』角川ソフィア文庫

日本における死生学

2単位：前期1コマ	4年
石居　基夫	

[到達目標]
日本人の伝統的死生観に学び、現代日本の死と生に関する問題を考察する力を養う。

[履修の条件]
特になし。通年で履修することが望ましい。

[講義概要]
日本の宗教・文化に一貫して流れる死生観を取り上げ、日本人にとってこの問題をめぐる霊的ニーズのあり方に一つの焦点を当てていきたい。
日本人の霊性は聖書的信仰とどのように出会うのか。
前期の「Ⅰ」では、日本の伝統的な死生観の形成に付いて、歴史的な視点から見ていくことが大きなテーマとなる。

■授業計画

第1回　イントロダクション　日本人の死生観
第2回　古事記(神道)に見る死生観①
第3回　古事記(神道)に見る死生観②
第4回　日本の仏教受容と死生観①
第5回　日本の仏教受容と死生観②
第6回　日本的な美意識と死生観①
第7回　日本的な美意思と死生観②
第8回　死の問題を考えること
第9回　山岳信仰と死生観
第10回　民間信仰と死生観
第11回　輪廻、生まれ変わりの思想
第12回　祖先儀礼
第13回　伝統的死生観と現代①
第14回　伝統的死生観と現代②
第15回　まとめ
第16回　日本人の死生観について

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
日頃から、新聞や雑誌、小説などの題材をとおして「死と生」に関する現代的な問題に関心を持つように務める。授業の復習と読書やノート作成に毎週各授業4時間、合計60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーには次回の授業で応答する。提出のレポートの返還。

[ディプロマポリシーとの関連性]
日本人の死と生についての理解を歴史的に学ぶことによって、「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
加藤周一他『日本人の死生観　上・下』(岩波新書)、
その他、授業内で参考文献を紹介する。

キリスト教と死生学

2単位：後期1コマ	4年
石居　基夫	

[到達目標]
キリスト教の死と生、また復活の思想の形成とその神学的考察の意味を理解し、キリスト教がこの死といのちについて、現代の私たちに何をメッセージとしているか深く考察する。

[履修の条件]
特にないが、前期の「死生学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
前期の「Ⅰ」で学んだ、日本の伝統的な死生観にもとづき日本の実践的な死者儀礼について理解を深めつつ、日本のキリスト教における死や葬儀をめぐる問題、課題にせまる。キリスト教における死や死者に対する聖書的理解、また具体的な思想の展開を

追うことを大きなテーマとしながら、私たちの経験する「死」という出来事にある問題の理解を深める。

■授業計画

第1回　イントロダクション・死と生についてキリスト教史における課題と理解を深めることについて
第2回　旧約聖書の死の理解①
第3回　旧約聖書の死の理解②
第4回　新約聖書の死の理解①
第5回　新約聖書の死の理解②
第6回　教会教父たちの死の理解①
第7回　教会教父たちの死の理解②
第8回　中世神学における死の理解
第9回　宗教改革の神学における死の問題
第10回　ルターと「死の問題」
第11回　近現代神学における死の理解
第12回　現代における「いのち」へのまなざし
第13回　キリスト教と葬儀
第14回　日本の葬儀とキリスト教
第15回　まとめ
第16回　死と復活の思想と現代を生きること

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
キリスト教の歴史を含めた総合的な予習、授業内で紹介した聖書や図書の読書など復習に各授業4時間、合計60時間とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーなどについては次回の授業において応答する。またレポートは返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。キリスト教についての歴史的理解を深めつつ、特に死と生の理解を通し理論と実践を関連づける力を身につける。

[テキスト]
聖書(日本聖書協会・新共同訳)

[参考文献]
ヨハネ・パウロⅡ世『いのちの福音』など、必要に応じて、クラスにおいて紹介する。

キリスト教カウンセリング

2単位：後期1コマ	3〜4年
河村　従彦	

[到達目標]
一般的なカウンセリングとキリスト教カウンセリングの異同を理解し、キリスト教の神学と理念に基づく心理援助のあり方を学ぶ。将来、心理援助に関わることも視野に、自己洞察を深めることを目的とする。

[履修の条件]
特になし

[講義概要]
講義形式で授業を進めるが、随時ディスカッションを行う。キリスト教や心理援助の知識(information)を受け取るにとどまらず、自分ならどう考えるか、自らのスタンスを模索し構築する(formation)ための時間とする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、キリスト教カウンセリングの意味と特徴
第2回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎①　〜聖書の人間観、臨床心理学との異同
第3回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎②　〜聖書の人間観、自立してゆく人間
第4回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎③　〜聖書の人間観、信仰発達論
第5回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎④　〜キリスト論的視座
第6回　キリスト教カウンセリングの神学的基礎⑤　〜宣教論的視座　▼ビデオ視聴　「See You in the Morning」
第7回　援助者の資質　〜自己の人格形成の評価、自己洞察の深化
第8回　キリスト教カウンセリングの基本的姿勢　〜基本スタンス、プロセス、解決
第9回　スピリチュアリティ　〜存在の根拠への目線
第10回　ターミナルケア　〜たましいへの究極の援助
第11回　苦難の理解　〜神学的理解に基づく援助
第12回　悲嘆の理解　〜喪失への寄り添い
第13回　諸領域への対応　〜薬物依存、自死、DV
第14回　神さまイメージ理論　〜神さまイメージの内在化と援助の可能性
第15回　総括と振り返り
第16回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。参考図書の講読とともに、学期末の課題・レポート作成に役立つように、自己洞察について与えられた「気づき」は、ノートにまとめておくことを勧める。

[試験・レポート等のフィードバック]
リポートについては提出後の授業で講評、さらに個々人のペーパーにコメントを加えて返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当す

る。キリスト教理念に土台を置いた心理の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、総合的な人間理解に立って、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。

[テキスト]
特に指定しない。講義ノートを配布

[参考文献]
『現代キリスト教カウンセリング・第1巻～キリスト教カウンセリングとは何か』(三永恭平他監修、日本基督教団出版局　2800円+税)
『子供服を着たクリスチャン』(ディビッド・シーモンズ著、イムマヌエル出版局、1500円+税)
『ヨブ記に見る試練の意味』(河村従彦著、いのちのことば社、2017年、1300円+税)
『なぜ私だけが苦しむのか』(ハロルド・クシュナー著、岩波現代文庫、1080円+税)
『神さまイメージ豊かさ再発見～聖書から心理臨床まで』(河村従彦著、イムマヌエル出版事業部、1500円+税)
その他、授業の中で提示する。

キリスト教の歴史 I

2単位：前期1コマ	3年
石居　基夫	

[到達目標]
キリスト教史の古代・中世の主な流れとテーマを学び、それによって現代の教会をより深く理解すること。

[履修の条件]
「文化とキリスト教 I/II」を履修したことが望ましい。本講義は「キリスト教の歴史 II」の前に履修することが条件です。

[講義概要]
この講義は、初代教会から宗教改革の前夜であるルネッサンスまでを辿る。ほぼ1500年に及ぶ教会史を辿るので、扱うテーマは多様である。古代教会の歴史は公会議と教義の発展が中心となり、特に三位一体の教義とキリスト論を代表的な問題として取り上げる。中世の歴史の中心課題は修道院制度や教会の東西分裂を検証する。イスラムとキリスト教の中世史を検証し、十字軍の歴史も学ぶ。ルネッサンスの人文主義の教会に対する影響を紹介する。そして、宗教改革を予告した神学者についても学ぶ。

■授業計画
第1回　コース説明と教会の始まりーエルサレム教会と異邦人への伝道(教科書、序～4章)
第2回　迫害の時代(5章～12章)
第3回　帝国の教会とニカイア公会議(13章～17章)
第4回　諸公会議の時代(18章～25章)
第5回　初代教会の教父たち(18章～25章)
第6回　キリスト論論争(27章)
第7回　初代教会の振り返り
第8回　中世の時代のオリエンテーション(26章)
第9回　ローマ帝国の再建と教会の堕落(28章)
第10回　教会刷新運動(29章)
第11回　イスラムの嵐(30章)
第12回　中世キリスト教の開花と崩壊(31章～32章)
第13回　宗教改革の前夜とルネサンス(33章～34章)
第14回　海外への宣教：スペインとポルトガル(35章～36章)
第15回　初代から中世までの振り返り
第16回　－

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(ー%)、その他の評価方法(ー%)

[成績評価(備考)]
積極的な質疑と応答

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史　上巻　ー初代教会から宗教改革の夜明けまで』というテキストを授業の進行に伴って、扱う部分を読み進めることを含め週4時間の予習・復習で、合計60時間。

[試験・レポート等のフィードバック]
小試験や授業内でリアクションによって、理解度を確認しつつ、その都度応答していく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して歴史的思考と分析の力をつける。

[テキスト]
フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史　上巻　ー初代教会から宗教改革の夜明けまで』、新教出版社、2002。

キリスト教の歴史 II

2単位：後期1コマ	3年
石居　基夫	

[到達目標]
キリスト教の宗教改革の時代から現代までの主な流れとテーマを学び、それによって現代の教会史をより深く理解すること。

[履修の条件]
「文化とキリスト教 I/II」を履修したことが望ましい。本講義は「キリスト教の歴史 I」の後に履修することが条件です。

[講義概要]
この講義は、宗教改革から現代に至る教会の歴史を辿る。特に宗教改革の発端となったルターの神学に注目しつつ、プロテスタント諸教派の形成の歴史にふれる。更にカトリック改革にも目を向け、正統主義と経験主義を学ぶ。19世紀からの近・現代に於ける北アメリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなどのキリスト教運動、又

はキリスト教の地理的拡張と宣教について学習する。この時代に影響を及ぼしたプロテスタント神学、カトリック神学と東方教会の神学の発展について検証する。

■授業計画

第1回　講義の紹介と宗教改革の時代の背景（教科書1章）
第2回　マルティン・ルターの宗教改革（2章～4章）
第3回　改革派と急進改革（5章～6章）
第4回　ジャン・カルヴァンの宗教改革（7章）
第5回　英国の宗教改革（8章）
第6回　北欧の宗教改革と宗教改革の広がり（9章～11章）
第7回　カトリックの宗教改革（12章）
第8回　正統主義と敬虔主義の時代（18章～20章、23章）
第9回　啓蒙主義と世界観の変化（21章）
第10回　北米の宣教的遺産、第一・第二大覚醒とリバイバリズム（24章～25章）
第11回　19世紀のプロテスタント神学の思潮（27章～28章）
第12回　19世紀のカトリック教会と近代主義（29章）
第13回　19世紀の世界的宣教と地理的拡張（30章）
第14回　20世紀のドイツの教会闘争の時代：バルトとボンヘッファー（34章）
第15回　戦後：第二バチカン公会議とエキュメニズムの時代（30章、33章）
第16回　期末レポート

［ 成績評価 ］

試験（80%）、レポート（－%）、小テスト（20%）、課題提出（－%）、その他の評価方法（－%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史　下巻　－宗教改革から現代まで』というテキストを用意。授業の進行に伴い、指定された箇所を読み進めることを含め予習・復習に4時間ずつ、合計60時間。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

小試験、授業内でのリアクションペーパーなどによって、理解度を確認し、授業内で対応して授業を進める。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3. 総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して歴史的思考と分析の力をつける。

［ テキスト ］

フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史　下巻　－宗教改革から現代まで』、新教出版社、2003。

聖書入門Ⅰ（旧約）

2単位：前期1コマ	2年
徳野　昌博	

［ 到達目標 ］

旧約聖書は、「古典の中の古典」と言われる書物の一つ。単に古いから、「古典」というのではなく、今日に至るまで読み継がれ、人間の存在そのものを支える思想を提供しているからこそ「古典」。そこに湛えられている、時代を超え、民族を超え、文化を超えて、届けられている使信（メッセージ）を正しく聞き取ることを目標とする。

聖書の語る「天地創造の神」、つまり、世界の支配者であり、歴史の導き手である主なる神について考えたい。さらに、その神に創造され、生かされて生きているとされる人間について、その尊厳、自由について考えることができるようにしたい。それは自己理解の深化に通じることだから。

［ 履修の条件 ］

聖書、キリスト教、イスラエル民族の歴史に関心を持つ者、持たなくても知りたいと思う者はだれでも。履修登録した者は授業への全出席を心掛けること。『聖書』は必携。

［ 講義概要 ］

本講義では、旧約聖書の成立過程と、そこに含まれる39の文書の内容を把握すること。旧約聖書の文書から、できるだけ多くの箇所を取り上げて、読み、その背景を探ると共に、イスラエル民族の歴史を学び、そこに登場する人物を知り、また文書の書き手、編集者の視点、神学に迫りつつ、その使信を聞き取っていく。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、講義の進め方、ヘブル語聖書、参考文献の紹介、試験について。旧約聖書とはそもそも何か。その構造、構成について説明。
第2回　旧約聖書を開いてみよう。そして、最初の文書、『創世記』の冒頭に位置する「創造物語」を読んで、そのメッセージについて考えよう。
第3回　旧約聖書の一方の主人公はイスラエルの民。その始祖、父祖とされる「族長」たち（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ）の物語を紐解き、それぞれの人物を知ろう。
第4回　旧約聖書の中心、あるいは、土台とも言える文書が、冒頭に位置する『創世記』から、順に『申命記』までの五つの文書、「モーセ五書」とも言われるそれぞれの文書について説明し、さらに元になる資料の説明と成立の背景について学ぶ。
第5回　イスラエルの民の歴史における大事件の一つ、「出エジプト」との事件と、その立役者モーセについて学ぶ。そして、モーセが神から授かったとされる「十戒」とその内容について学ぶ。
第6回　イスラエル民族、「出エジプト」後の歩みについて学ぶ。カナン定着と、モーセの後継者ヨシュアの働き。そして「士師」たちの時代。
第7回　「士師」たちの時代を経て、イスラエルは王国となる。その意味と影響について学ぶ。初代の王サウル、二代目ダビデ、三代目ソロモンについて、それぞれの人物像。
第8回　王国の分裂とその経緯について、そして、その後の北

と南の王国それぞれの歩みについて学ぶ。北イスラエル王国の200年間と、滅亡後、「失われた北の十部族」と言われるようになった理由や、南ユダ王国の335年間について学ぶ。
第9回　滅びゆく二つの王国と、イスラエルの民の歴史における二つ目の大事件である「バビロン捕囚」について、そして滅亡後、南王国がディアスポラ（離散の民）となる理由について学ぶ。
第10回　捕囚からの解放、エルサレムへの帰還、神殿の再建、時の指導者たち、エズラやネヘミアについて学ぶ。
第11回　中間時代、ギリシャ時代、ローマ時代、イエスの誕生へ
第12回　時系列的には前後するが、王国時代に登場した預言者について学ぶ。
預言者とはいったい何者か？　預言者のエリヤ、エリシャ、アモス、ホセアは、どういう状況で、何を語ったのか？
第13回　預言者イザヤ、エレミヤは何を語ったか？　エゼキエルは何を語ったか？第二イザヤは何を語ったか？　聖書本文に当たりつつ、その真相に迫る。
第14回　旧約聖書の中で文学作品とされる文書から。ヨブ記、詩篇、箴言、コヘレトの言葉、雅歌について学ぶ。
第15回　続きとして、ルツ記、ヨナ書、哀歌、ダニエル書について学ぶ。
講義のまとめ。
第16回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
試験の点数が評価に大きく、決定的に影響する。「その他の評価方法」とは、授業態度。授業へは「皆勤」を望み、学習への意欲を見せて欲しい。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
事前に授業で取り上げる文書について、聖書そのものに目を通し、著作年代、その時代背景、著者等について、できる範囲で予習し、授業で配付された資料は必ず読み返して、復習するように。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
期末に試験を実施するが、事前に、試験の前々週の授業の最後に模擬試験問題を配布。各自の宿題として回答を作成。翌週、試験の前週の授業の中で、ディスカッション形式で、答合わせをし、理解度を各自で検証するようにする

［ディプロマポリシーとの関連性］
人間を包括的にとらえる「心と福祉と魂の高度な専門家」を養成することを目的とし、その目的を実現するために、「キリスト教的人間理解」を基盤とするゆえに、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を涵養する上で、この科目を履修することは有益であると考える。

［テキスト］
授業では、『新共同訳聖書』を用いる。しかし、各自が持っているいずれの版、どの言語の聖書でも持ち込み可。比較検討することは有益であるから。

［参考文献］
折りに触れ、随時紹介する。

聖書入門 II（新約）

2単位：後期1コマ	2年
徳野　昌博	

［到達目標］
新約聖書そのものについて理解を深めること。そして、そこに収められている27の文書について基礎的な知識を修得すること。また、新約聖書の中心とも言えるイエス・キリストについて、どういう存在で、何を語り、何をしたのか等、新約聖書の証言に基づいて、正しく理解することを目標とする。

［履修の条件］
聖書必携。15回の講義、皆勤（全出席）を当然のこととし、真摯な受講を期待する。遅刻、早退、中抜けはしないように心掛けること。

［講義概要］
新約聖書の代表的、また重要な文書や言葉について説明する。福音書については個別に取り上げ、その本文を読みつつ、特徴や背景について学ぶ。またイエスの弟子とされる十二使徒たちの働きやパウロの生き方、その教えについて、本文を読みつつ、学ぶ。またイエス・キリストや使徒たちの働きによって誕生したキリスト教会、キリスト教、新約聖書について学ぶ。

■授業計画
第1回　イントロダクション。授業内容、成績評価、試験についての説明。教科書は定めないが、準ずるものとしての参考図書の紹介等々。
第2回　新約聖書の基礎と起源について。
第3回　今回から第6回までは、「イエスとは誰か」をキーワードに、四つの「福音書」をテキストに学ぶ。まずは『マルコによる福音書』。この福音書の語るイエスについて学ぶ。と同時に、そもそも「福音書」なる文学類型（ジャンル）について、そして、『マルコによる福音書』の特徴について考える。
第4回　『マタイによる福音書』の語るイエスについて、特に「山上の説教」に代表されるイエスの教えについて学ぶ。また、『マタイによる福音書』の特徴について考える。
第5回　『ルカによる福音書』の語るイエスについて学ぶ。また、同福音書に記されているイエスの「たとえ話」を取り上げて学ぶ。たとえ話を学びつつ、この福音書の特徴について考える。
第6回　『ヨハネによる福音書』の語るイエスについて学ぶ。特に、この福音書に特徴的な表現や、この福音書が書かれた時代背景について注目しつつ…。
第7回　使徒ペトロ、その人となりと、彼の背後にある初期のキリ

スト教会について。
第8回　今回から第11回までは、パウロという人物がキーワードとなる。まずは、その生涯と回心について学ぶ。
第9回　パウロの教えと働き　①
パウロの同労者ルカの書いた『使徒言行録』を読みつつ、パウロの宣教旅行の足跡をたどりつつ、その宣教内容について学ぶ。
第10回　パウロの教えと働き　②
パウロの書いた『ローマの信徒への手紙』、『ガラテヤの信徒への手紙』を読みつつ、彼の人間救済の神学について学ぶ。
第11回　パウロの教えと働き　③
パウロの書いた『コリントの信徒への手紙』の一と二を読みつつ、教会の牧師、指導者としてのパウロの姿と教会の実態を学ぶ。
第12回　イエスの十字架と復活　その出来事に言及している新約聖書の文書、その箇所を読みつつ、その真相に迫る。
第13回　イエス復活後の弟子たちの歩みとキリスト教会の誕生と成長
第14回　新約聖書の、パウロの手紙以外の諸文書
特に「公同書簡」、「牧会書簡」と呼ばれる文書について、読みつつ、学び、当時の教会の実情を知る。
第15回　新約聖書の、パウロの手紙以外の諸文書　②
『ヨハネの黙示録』
第16回　試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
試験の点数が評価に大きく、決定的に影響する。「その他の評価方法」とは、授業への真摯な出席とそこでの積極的な取り組みである。授業へは、「皆勤」を望む。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
新約聖書の通読を心掛けよう。特に、授業で取り上げる箇所については、予習として、熟読をしておく。また復習として、授業で配付された資料を読みなおしておく。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末に試験を実施するが、事前に、試験の前々週の授業の最後に模擬試験問題を配布。各自の宿題として回答を作成。翌週、試験の前週の授業の中で、ディスカッション形式で、答合わせをし、理解度を各自で検証するようにする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
人間を包括的にとらえる「心と福祉と魂の高度な専門家」を養成することを目的とし、その目的を実現するために、「キリスト教的人間理解」を基盤とするゆえに、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を涵養する上で、この科目を履修することは有益であると考える。

[テキスト]
授業では、新共同訳の新約聖書（日本聖書協会出版）を用いるが、それ以外で、各自が持っている聖書があれば、それも可。

[参考文献]
必要に応じて、授業内で提示・紹介する。

旧約聖書精読

2単位：前期1コマ	3〜4年
後藤　由起	

[到達目標]
ヘンデル作曲「メサイア」はイザヤ書40章の言葉で始まり、ニューヨークの国連本部の壁にはイザヤ書2章の言葉が刻まれています。預言者たちが語った言葉は、現代を生きる私たちに何を語りかけているのでしょうか。この講義では旧約聖書の預言書を精読し理解を深めるとともに、その宣教の使信を探ることを目標とします。

[履修の条件]
特にありません。旧約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。

[講義概要]
旧約聖書の預言書を釈義しながら精読します。講師による講義と学生によるディスカッションを中心とし、適宜、パワーポイント等の教材を用います。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　預言と預言者について
第2回　ホセア　ホセアの結婚と神の愛
第3回　アモス　アモスの見た5つの幻
第4回　イザヤ1　回顧録「預言者の召命」
第5回　イザヤ2　回顧録「インマヌエル預言」
第6回　イザヤ3　審判預言と現在批判
第7回　イザヤ4　終末とメシア預言
第8回　エレミヤ1　召命と告白録
第9回　エレミヤ2　審判預言と現在批判
第10回　エレミヤ3　エレミヤの受難
第11回　エレミヤ4　救済預言と新しい契約
第12回　エゼキエル　枯れた骨の復活
第13回　第二イザヤ1　帰還と慰めの預言
第14回　第二イザヤ2　苦難のしもべ
第15回　ヨナ　悔い改め
第16回　試験レポート

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

[成績評価（備考）]
リフレクションペーパーとディスカッション参加度50％、試験レポート50％

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッション準備も含め各授業回に4時間の準備学習（予習・復習など）を必要とする。合計15回の授業と試験準備で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
ディスカッションやリフレクションペーパーについて、適宜口頭でコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、現代社会と人間存在について思考を深めるとともに、全人的なケアにあたって精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

［ テキスト ］
新共同訳聖書

［ 参考文献 ］
講義中に適宜紹介する。

［ 備考 ］
毎回、新共同訳聖書を持参すること。

新約聖書精読

2単位：後期1コマ	3〜4年
後藤　由起	

［ 到達目標 ］
はるかな時を超え、現代を生きるわたしたちに語りかけ続ける聖書。この講義では新約聖書を精読し、その宣教使信を聞き取ることを目標とします。

［ 履修の条件 ］
特にありません。新約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。

［ 講義概要 ］
マルコによる福音書を釈義しながら精読し、その意図を聞き取ります。
講師による講義と学生によるディスカッションを中心とし、適宜、パワーポイント等の教材を用います。

■授業計画
第1回　イントロダクション　オリエンテーションとマルコによる福音書緒論
第2回　マルコによる福音書1：1–45　イエスの活動の始め
第3回　マルコによる福音書2：1–3：35　カファルナウムでの活動
第4回　マルコによる福音書4：1–34　神の国のたとえ
第5回　マルコによる福音書4：35–6：6a　奇跡物語とナザレでの活動
第6回　マルコによる福音書6：6b–8：26　ガリラヤでの宣教1
第7回　マルコによる福音書6：6b–8：26　ガリラヤでの宣教2
第8回　マルコによる福音書8：27–10：52　受難予告と苦難への備え1
第9回　マルコによる福音書8：27–10：52　受難予告と苦難への備え2
第10回　マルコによる福音書11：1–12：44　エルサレムでの活動1
第11回　マルコによる福音書11：1–12：44　エルサレムでの活動2
第12回　マルコによる福音書13：1–37　黙示的説教
第13回　マルコによる福音書14：1–15：47　イエスの受難1
第14回　マルコによる福音書14：1–15：47　イエスの受難2
第15回　マルコによる福音書16：1–20　イエスの復活
第16回　試験レポート

［ 成績評価 ］
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（50％）

［ 成績評価（備考） ］
リフレクションペーパーとディスカッション参加度　50％、試験レポート　50％

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッション準備も含め各授業回に4時間の準備学習（予習・復習など）を必要とする。合計15回の授業と試験準備で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
ディスカッションやリフレクションペーパーについて、適宜口頭でコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、自らの存在と他者との対話、社会と世界観について思考を深めるとともに、全人的なケアの精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

［ テキスト ］
新共同訳聖書

［ 参考文献 ］
講義中に適宜紹介する。

［ 備考 ］
毎回、新共同訳聖書を持参すること。

旧約聖書の人間観

2単位：後期1コマ	3年
大串　肇	

[到達目標]
旧約聖書は神のみならず、人間について語っています。人間の本質は変わっていません。男も女も、からだ、魂、心をもった人間です。旧約聖書はその姿をいきいきと、立体幾何学的に描き出しています。その人間像とはどのようなものなのか。旧約聖書の人間理解について学ぶことを目標にします。

[履修の条件]
特にありません。

[講義概要]
旧約聖書の人間理解の上で、重要なキーワードや聖書箇所を取り上げながら展開します。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　男と女
第3回　人間が生きる意味
第4回　人間が死ぬ意味
第5回　苦難と困窮
第6回　人間の欲望と魂
第7回　からだと弱さ
第8回　強められた人間
第9回　霊と心はどこにあるのか。
第10回　分別のある人間−意志の座1）
第11回　分別ある人間ー感情2）
第12回　分別ある人間ー理性3）
第13回　分別ある人間ー記憶4）
第14回　人間の定めとは何かー旧約聖書の希望
第15回　まとめ　人間の業と神の業
第16回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（100%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
配布されたプリントに基づいて聖書を自分で読み返す。予め指定された聖書箇所を読む。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題レポートについては講義時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
旧約聖書に描かれている自然、文化、宗教、歴史を学び、その人間像を通して、いのちの価値を重んじながら自己理解を深め、豊かな人間性を身に着ける。

[テキスト]
新共同訳聖書　講義中にプリントを配布します。

[参考文献]
講義中に指示します。

新約聖書の人物像

2単位：後期1コマ	3年
挽地　茂男	

[到達目標]
新約聖書に登場するイエスに出会った人々を通して、イエスと出会うということ、イエスを理解するということの本質は何かを確認します。

[履修の条件]
新約聖書に興味のある人。

[講義概要]
新約聖書の人々が、イエスをどのように理解していったのか、また、キリスト教史の始まりにおいて人々が何を大切にし、何を問題にして教会の信仰と歴史を形成していったのかを学びます。各人物について、各1〜2回の授業時間を使って、新約聖書と周辺史料を参照しながら、学んでいきます。授業は講義形式で行いますが、適宜、視覚教材を用います。

■授業計画
第1回　オリエンテーション―聖書の人物をどう見るか
第2回　悪霊レギオンに憑かれた男
第3回　長血の女とヤイロの娘
第4回　重い皮膚病患者
第5回　徴税人レビ
第6回　弟子ペトロ
第7回　弟子ユダ
第8回　弟子トマス
第9回　ザカリヤとエリサベト
第10回　洗礼者ヨハネ
第11回　二人のヨセフ―旧約のヨセフ
第12回　父ヨセフ
第13回　母マリア
第14回　シメオン
第15回　マグダラのマリア
第16回　ニコデモ

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
レポートを中心に、授業における参加態度等を含めて、総合的に評価します。授業の出席は厳しく取り扱います。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で扱う人物に関する聖書の箇所を、考えながら熟読するこ

と。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
授業時の質問に答える。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

［テキスト］
『旧新約聖書』（いずれの訳でもよい）

［参考文献］
授業の進度に応じて紹介します。

［備考］
授業中の私語と惰眠は厳禁にします。

聖書に見るジェンダー

2単位：後期1コマ	3〜4年
梁　熙梅	

［到達目標］
人はだれも幸せに生きる権利があります。女性でも男性でも、身体的・精神的にハンディーがあってもなくても、貧しいか豊かであるかを問わず、人は尊い存在です。けれども、わたしたちが生きる社会、国、世界はこの権利を犠牲にするように強い、とくに弱い立場にいる人を犠牲に強いる場合が多いです。この授業では、自分のアイデンティティを確かなものにする学びをしながら、いくつもの仕組みの中に失われている自分を探す作業をします。そして、他者や他の自然とも共に生きるように作られた、本来人が歩むべき道が示されることを目指します。さらには、家、社会、国、世界の構造的仕組みの暴力性を暴くとともに、平和と自由の道をも開くことを目標とします。

［履修の条件］
クラスに出席し、クラスディスカッションに積極的に参加すること。

［講義概要］
ジェンダー及び性（セックス）についてより具体的に学びます。そして、自分の中に位置づけられているジェンダー概念に気づく学びをします。さらには、家や社会の中でシステム化されてしまっているがゆえに、歪められ失われている人権、または正義について考えます。そして、関連のある聖書テキストをいくつか選び、ともに考えながら学びます。このような学びを通して、本来の人間のあり方、多様性、神と人間の関係について深く考察していきます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。コースの目的、シラバスの説明、授業の進め方、課題についてなど。
第2回　ジェンダーとはなにか
第3回　家父長制・父権制とはなにか
第4回　多様な性とジェンダーとの関係
第5回　プリンセスストーリとジェンダー
　　〜シンデレラ・コンプレックス〜
第6回　聖書に見るジェンダー
第7回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第8回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第9回　悪女と善女は誰が決める?
　　〜眠り姫物語〜
第10回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第11回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第12回　聖書のテキストを取り上げて考察する
第13回　残された問題についてディスカッション
第14回　「共に生きる」ということの考察
第15回　生命共同体としての人間の関わり
第16回　まとめ

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
出席とディスカッションへの積極的な参加と授業の中で出される課題提出とレポート提出。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業の中で示された参考文献や聖書箇所をよく読んでくること。学んだことを自分のものにできるようにしてくること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
考えを深めてディスカッションできるように、授業の中で、次回の授業のために準備してくる課題を伝えます。クラスで挙げられたテーマの中から一つ選んでレポートを提出するようにします（最終評価）。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディスカッションへの積極的な参与により、自己理解を深められる。それによって、他者を理解し受け入れられる豊かな人間性を身につけ、他者と他自然との共存の大切さを深め、他者の思いや考えの理解と共感、さらには自己思索と思いを言葉化し、状況に応じて適切な発言ができること。

［テキスト］
聖書（新約・旧約）がおさまっているもの。

［参考文献］
山口里子「あなたらしい聖書の学び」新教出版社、2009
山口里子「虹は私たちの間に」新教出版社、2008
絹川久子「ジェンダーの視点で読む聖書」日本基督教団出版局、2003
絹川久子「女性たちとイエス」日本基督教団出版局、1997
若桑みどり「お姫さまとジェンダー」ちくま新書、2003
高柳富夫「今、聖書を読む：ジェンダーによる偏見と原理主義克服を目指して」梨の木舎、2004

ニューサム、リンジ編「女性たちの聖書注解」新井・山内監修、新教出版社、1998
エリザベス・シュスラー・フィオレンツァー「フェミニスト聖書注解」絹川・山口（里）日本語監修、日本基督教団出版局、2002

［ 備考 ］
受講生の関心、経験、希望によってシラバスが変更される場合があります。

美術史

2単位：前期1コマ	2〜4年
真下　弥生	

［ 到達目標 ］
芸術作品の歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的な視点を培い、美術作品、主に造形芸術作品を鑑賞・分析する力を養う。

［ 履修の条件 ］
・高校レベルの歴史（世界史、日本史等）を履修していることが望ましいが、未履修者も歓迎する。好奇心および柔軟な思考をもって、楽しみながら学ぶ姿勢を歓迎する。
・後期「キリスト教美術特講」は、この講義を踏まえた内容となる。
・理由なく遅刻、早退をしないこと。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。

［ 講義概要 ］
古今東西の美術作品（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）を幅広く題材に取り、美術表現を複眼的かつ批判的に分析する視点を培う。作品の検討にはスライドを使用する。
また、美術研究は実作に触れることが非常に重要なので、学外での見学を予定している。日程は授業開始後に、受講生と相談の上決定する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、デモンストレーション：ひとつの作品をさまざまな視点から見る
第2回　「美術」とは何か：その多様性、他の芸術表現との比較
第3回　造形芸術表現分析の視点1・絵画/平面作品を題材に：構図・表現−まず観察すること
第4回　造形芸術表現分析の視点2：主題
第5回　造形芸術表現分析の視点3：史的背景、コンテキスト
第6回　造形芸術表現分析の視点4：素材
第7回　造形芸術表現分析の視点5：見せ方、展示方法、環境
第8回　造形芸術表現分析の視点6：総合演習
第9回　彫刻1/立体作品
第10回　彫刻2
第11回　建築1
第12回　建築2
第13回　工芸
第14回　非欧米圏の美術
第15回　現代美術
第16回　学期末試験

［ 成績評価 ］
試験（50%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

［ 成績評価（備考） ］
講義内容に関する試験を学期末に実施する。
レポートは、学期中に各自美術館等の展覧会に行き、その内容や感想を総合的に記述する。執筆要綱は学期中盤に配布・説明する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
原則として、次回の授業の詳しい内容を事前に予告しないため、事前学習は要さないが、授業に集中し、主体的かつ批評的に作品を見る視点を養うこと。また、興味を持った展覧会に、積極的に足を運ぶことを勧める。
試験・レポート課題作成前には、講義のノートを見直し、これまで学んだことを復習すること。
本科目では、各週平均4時間の準備学習（フィールドワーク、予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
試験・レポートの採点時に、分析・批評の手法や内容についてコメントを付して返却する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」さまざまな文化圏の造形表現を通して、それぞれの作品に流れる歴史の蓄積と制作者の息遣いに触れ、踏み込んだ人間理解と共感を深める。
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」作品をさまざまな角度から把握・分析し、そこから導き出される客観的事実を踏まえて自身の意見を培い、またそれを自分の言葉で表現する。

［ テキスト ］
なし（参考図書リストおよびプリントを必要に応じて配布する）

［ 参考文献 ］
なし（第1回の講義で紹介する）

［ 備考 ］
授業計画の内容や順序は、受講生の関心等に合わせて変更する可能性がある。

キリスト教美術特講

2単位：後期1コマ	2〜4年
真下　弥生	

［ 到達目標 ］
キリスト教に関わる美術/主に造形芸術表現を、歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的視点

を培いつつ鑑賞・分析する。

[履修の条件]
・高校レベルの歴史（世界史、日本史等）を履修していることが望ましいが、未履修者も歓迎する。好奇心および柔軟な思考をもって、楽しみながら学ぶ姿勢を歓迎する。
・前期「美術史」を履修していること。前期で学んだことを踏まえた内容となるが、未履修者は相談に応じる。
・理由なく遅刻、早退をしないこと。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。

[講義概要]
前期で培った美術作品（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）への分析的観点を活用しつつ、主に西洋における、キリスト教に関わる美術作品に焦点をあてて学ぶ。作品の検討はスライドを使用する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、デモンストレーション：複眼的にキリスト教美術を見る（前期復習）
第2回　美術とは何か、そして「キリスト教美術」とは何か、キリスト教美術の特徴・他の宗教美術との比較、キリスト教美術の持つ「問題」
第3回　キリスト教美術の時間軸概説1：主に西洋美術の流れ
第4回　キリスト教美術の時間軸概説2
第5回　キリスト教美術の時間軸概説3：日本のキリスト教美術
第6回　キリスト教美術における素材
第7回　建築1（教会建築）
第8回　建築2（教会建築）
第9回　物語とキリスト教美術1（「物語」とは何か、旧約聖書物語）
第10回　物語とキリスト教美術2（旧約聖書物語）
第11回　物語とキリスト教美術3（新約聖書物語：イエスの生涯）
第12回　物語とキリスト教美術4（新約聖書物語：降誕物語）
第13回　物語とキリスト教美術5（聖人伝説）
第14回　現代社会とキリスト教美術1
第15回　現代社会とキリスト教美術2
第16回　学期末試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
講義内容に関する試験を学期末に実施する。
レポートは、学期中に各自キリスト教美術に関する展覧会/教会建築を見学し、その内容や感想を総合的に記述する。執筆要綱は学期中盤に配布・説明する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
原則として、次回の授業の詳しい内容を事前に予告しないため、事前学習は要さないが、授業に集中し、主体的かつ批評的に作品を見る視点を養うこと。また、興味を持った展覧会やキリスト教に関わる建築に、積極的に足を運ぶことを勧める。
試験・レポート課題作成前には、講義のノートを見直し、これまで学んだことを復習すること。
本科目では、各週平均4時間の準備学習（フィールドワーク、予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験・レポートの採点時に、分析・批評の手法や内容についてコメントを付して返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」キリスト教圏を主に、さまざまな文化圏の造形表現を通して、それぞれの作品に流れる歴史の蓄積と制作者の息遣いに触れ、踏み込んだ人間理解と共感を深める。
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」作品をさまざまな角度から把握・分析し、そこから導き出される客観的事実を踏まえて自身の意見を培い、またそれを自分の言葉で表現する。

[テキスト]
なし（参考図書リストおよびプリントを必要に応じて配布する）

[参考文献]
なし（第1回の講義で紹介する）

[備考]
授業計画の内容や順序は、受講生の関心等に合わせて変更する可能性がある。

キリスト教文学特講

2単位：後期1コマ	1〜2年
黒木　章	

[到達目標]
人間の姿は戦争でもっとも赤裸々に現れるといわれる。大岡昇平の『野火』と遠藤周作の『沈黙』は現今の“私だけの神”というグローバルな問題をいち早く提起したものと考えて精読したい。

[履修の条件]
特にない。不安の時代のただなかにあって人間と神（信仰）の問題を根底的に考えてみたい人の積極的参加を期待する。

[講義概要]
問題を歴史的・社会的視点でグローバルに捉えるために、アウシュヴィッツの犠牲者であるエリ・ヴィーゼルの『夜』と『昼』、エティ・ヒレスムの『日記』にも触れながら「神とは何か」「信仰とは何か」を考える。

■授業計画
第1回　導入。扱う2作品の問題点を簡単に指摘し、受講上の注意等行う。
第2回　『野火』読解。

第3回　同上。
第4回　同上。
第5回　同上。
第6回　同上。
第7回　同上。
第8回　同上。
第9回　同上。『沈黙』読解。
第10回　同上。
第11回　同上。
第12回　同上。
第13回　同上。
第14回　同上。
第15回　同上。
第16回　－

[成績評価]
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（10％）

[成績評価（備考）]
学期の途中で小レポート（1500字程度）を2回課す。これは上記「課題提出」として成績評価に含める。
または口頭での質疑応答になる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①授業には扱う作品を読了し、自分なりの課題や問題意識を持って参加すること。
②読解のためのポイントを事前に理解したり把握するためにほぼ毎回プリントを配布するので予・復習に生かすこと。本科目では、各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
小レポートは必ずコメントをつけて返却する。それによって各人の深化・発展を求める。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。キリスト教大学における科目であることを意識して、本学でなければ取組めない問題設定とやや専門的な読解力を習得することで現代人の共通課題である各人の主体性確率とグローバルな思考によるコミュニケーション力を鍛える。

[テキスト]
『野火』：新潮文庫　『沈黙』：新潮文庫
エリ・ヴィーゼル『夜・夜明け・昼』とエテイ・ヒスレム『日記』をはじめ周辺の資料等は印刷物で配布する。

[参考文献]
その都度指示する。

[備考]
ほぼ毎回余白をとった印刷物を配布する。予復習に生かすとともに、余白部分に書き込みをすることで自分の講義ノートを完成できるようにする。

キリスト教音楽実技 I

2単位：通年	1〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
希望する鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につける。

[履修の条件]
ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはJ.S. バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。通年での履修。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　実技演習
第15回　実技演習
第16回　実技試験
第17回　実技演習
第18回　実技演習
第19回　実技演習
第20回　実技演習
第21回　実技演習
第22回　実技演習
第23回　実技演習
第24回　実技演習
第25回　実技演習
第26回　実技演習
第27回　実技演習
第28回　実技演習

第29回　実技演習
第30回　実技演習
第31回　実技演習
第32回　実技試験

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

[成績評価(備考)]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分して取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分程度の練習を重ねれば各レッスンにおよそ4時間の準備で臨み、15回の授業(レッスン)で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例)ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J.S. バッハオルガン曲集」(ペータース)等

[参考文献]
特になし

キリスト教音楽実技 II

1単位：前期1コマ	2〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
キリスト教音楽実技Ⅰをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

[履修の条件]
すでにキリスト教音楽実技Ⅰを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S. バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　実技演習
第15回　実技演習
第16回　実技試験

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

[成績評価(備考)]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分程度の練習を重ねれば各レッスンにおよそ4時間の準備で臨み、15回の授業(レッスン)で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待

できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例)ピアノ:「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等
オルガン:「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J.S. バッハオルガン曲集」(ペータース)「ブクステフーデオルガン曲集」(ハンセン)
「パッヘルベルオルガン曲集」(ベーレンライター)等

[参考文献]
特になし

キリスト教音楽実技 III

1単位:後期1コマ	2〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

[到達目標]
キリスト教音楽実技Ⅱをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

[履修の条件]
すでにキリスト教音楽実技Ⅱを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S. バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

[講義概要]
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　実技演習
第15回　実技演習
第16回　実技試験

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

[成績評価(備考)]
平常点:毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分程度の練習を重ねれば各レッスンにおよそ4時間の準備で臨み、15回の授業(レッスン)で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例)ピアノ:「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等
オルガン:「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J.S. バッハオルガン曲集」(ペータース)「ブクステフーデオルガン曲集」(ハンセン)
「パッヘルベルオルガン曲集」(ベーレンライター)等

[参考文献]
特になし

日本の宗教 I

2単位:前期1コマ	3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

[履修の条件]
基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

[講義概要]
現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　古事記　序文の構造について
第3回　古事記と日本書紀の共通点と相違
第4回　古事記本文　国生み神話（天地開闢）
第5回　古事記本文　黄泉と中国
第6回　古事記本文　「罪と罰」　スサノヲノミコト
第7回　出雲神話と歌　万葉の世界
第8回　オオクニヌシと建国
第9回　天孫降臨とニニギノミコト
第10回　伊勢神宮とその流儀
第11回　海の民（海人族）と伊勢神宮
第12回　神武東征と「初代天皇」（古事記中巻）
第13回　オオモノヌシと三輪　「最古の神社」
第14回　ヤマトタケルと草薙の剣
第15回　壬申の乱と古事記、万葉集の世界
第16回　予備日

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
積極的に講義とディスカッションに参加すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。予習、復習に各2時間をかけること。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
倉野憲司『古事記』岩波書店（ワイド版文庫本を勧めます）。
中西進『万葉集（1）』講談社文庫

[参考文献]
網野善彦『海民と日本社会』新人物文庫
唐木順三『日本人の心の歴史』筑摩書房
所功『伊勢神宮』講談社学術文庫
島田裕巳『神道はなぜ教えがないのか』ベスト新書
村松剛『死の日本文學史』中公文庫

日本の宗教 II

2単位：後期1コマ	3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士に対応します。

[到達目標]
とくに神道、仏教の理解を深める。一昨年は伊勢神宮は20年に一度の式年遷宮でした。人生のうちに2、3回体験できるわけですが、実際にその雰囲気を味わうことはなかなかない機会です。各自、それぞれできるだけ自分自身でフィールドワークができるように指導します。また、キリスト教信仰と、日本文化、宗教といかに共存していくことができるのかできないのかを考える機会となることを期待する。

[履修の条件]
日本宗教の源流を受講していること。あるいは、担当教員から許可を得ていること。宗派、教派を超えてグローバルな社会にあって、諸宗教の理解を深めたいと思う気持ちがある方はどなたでも参加してください。それぞれの宗教に対しての敬意は、最低限の必要条件です。対話と学びのうちに理解を深めていく姿勢を大切にします。

[講義概要]
ひきつづき古事記を基調としながら、日本の宗教風土を幅広く学んでいきます。今年は、古事記の他に、万葉集、古今集など、和歌の世界の中に見ることができる宗教性ということに注目していきます。また、仏教の伝来が、どのように日本の社会にインパクトを与えたか、そして変容したのかを考察する。また神道の世界観がとくに中世においてどのように変化したのか、しなかったのかを多角的に学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　古事記　中巻　神武東征を中心として
第3回　丹波王朝との遭遇と曲折
第4回　万葉集の成立と風土
第5回　万葉集の多様な社会
第6回　万葉集と自然
第7回　ヤマトタケルの世界とその広がり
第8回　古今集の仮名序　その根本と和歌
第9回　雅樂の成立と構造について
第10回　仏教公伝と、日本社会の変質
第11回　神仏習合のプロセスと矛盾
第12回　仏教に傾斜していく日本社会
第13回　「日本仏教」の成立とその特徴
第14回　仏教、儒教との対比における神道論の形成と展開
第15回　まとめ
第16回　予備日

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
講義における積極的関わりを重視します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記、日本書紀、万葉集などに口語でよいので日頃から親しむこと。予習復習に各2時間程度を確保すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーなどを使用して、講義の理解を深めていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
「古事記」岩波文庫

[参考文献]
日本書紀、万葉集

キリスト教の信仰

2単位：前期1コマ	4年
宮本　新	

[到達目標]
キリスト教教理の概要を系統的に習熟する。

[履修の条件]
キリスト教の伝統的な教理を体系的に学ぶ意欲がある人。

[講義概要]
神学においては伝統的に主題別の系統だった教理の学び方がある。これにならいキリスト教教理の概要を系統的に取り上げ、さらにそれを現代社会の様々な出来事との関連について学びます。

■授業計画

第1回　概論
第2回　神学の方法
第3回　神学の資料
第4回　聖書の神
第5回　キリスト教の世界観
第6回　イエス・キリストについて
第7回　イエス・キリストについて
第8回　信仰論
第9回　聖霊論
第10回　教会論
第11回　洗礼と聖餐
第12回　人間理解
第13回　救いについて
第14回　終末について
第15回　まとめ①
第16回　まとめ②

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
レポート評価。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディカッションや質問についてはクラスでさらなる討議、フィードバックなどを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

[テキスト]
適時、印刷物の配布。

[参考文献]
適時、紹介します。

社会福祉入門

2単位：後期1コマ	1年
髙山　由美子	

[到達目標]
①我が国の社会福祉制度の成り立ちを理解する。
②社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。

[履修の条件]
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験を希望している学生は履修すること。
3・4年次で「ソーシャルワーク実習」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(良)以上で単位取得済みであることが必須条件となる。
編入生で上記について希望している場合は「社会福祉の基礎」を履修済みであること。

［講義概要］
本講義では、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉法をはじめとする、社会福祉関係各法制度の枠組みを学ぶ。さらに、各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　到達目標、講義概要、評価について
　　社会福祉入門を学ぶための準備
第2回　社会福祉法制度の歴史についての理解
第3回　社会福祉法制度の背景と社会福祉の定義についての理解
第4回　社会福祉法の理解①
第5回　社会福祉法の理解②
第6回　社会福祉法の理解③
第7回　社会福祉法の理解④
第8回　社会福祉法の理解⑤
第9回　社会福祉法の理解⑥
第10回　社会福祉法の理解⑦
第11回　生活保護法の理解①
第12回　生活保護法の理解②
第13回　児童福祉法の理解①
第14回　児童福祉法の理解②
第15回　各法の要点整理とふりかえり
第16回　定期試験

［成績評価］
試験（70％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業で取り上げる法制度に関連する出来事（ニュースや法制度の動向等）などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

［テキスト］
必要な資料は適宜配布する。
いずれの出版社のものでもよいが、必ず『社会福祉小六法』の最新版を購入すること。
配付資料（すでに授業で取り上げたものも含めて）と『社会福祉小六法』は毎回の授業に必ず持参すること。

［参考文献］
『国民の福祉と介護の動向2018/2019年版』（厚生統計協会）

ソーシャルワーク論Ⅲ

2単位：後期1コマ	2年
福島　喜代子	

［到達目標］
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、グループワークの知識と技術を理解する。相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、グループ支援ができるようになる。

［履修の条件］
原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。ただし、これらの科目を履修していなくとも、グループへの支援に興味がある者は履修をすることができる。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」履修前に、この科目を履修することが求められている。

［講義概要］
2人以上の利用者を対象にする場面で、意図的に介入するソーシャルワークの一方法であるグループワークの理論と実際を学ぶ。
授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、実際にソーシャルワーカー役と参加者役になってもらい、グループワークを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画
第1回　授業方針、グループ、グループワークとは
第2回　グループの持つ力
第3回　グループワークの実際、記録の仕方
第4回　グループの力動
第5回　グループの目的、種類
第6回　開始期のグループワーク（参加促進、ルールづくり）
第7回　作業期のグループワーク（相互作用の促進、凝集性）
第8回　作業期のグループワーク（葛藤体験、直面化）
第9回　終結期のグループワーク（評価、移行支援）
第10回　グループワークの実際（家族支援）
第11回　準備期のグループワーク（構造、プログラム活動）
第12回　開始期のグループワークの実際（児童）あそび・動きの要素
第13回　作業期のグループワークの実際（障害者）芸術療法
第14回　作業期のグループワークの実際（高齢者）回想法
第15回　終結期のグループワーク（SHG）
第16回　試験

［成績評価］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（40％）

［成績評価（備考）］
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。参考図書の該当部分を読むこと。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとしてどのようにグループ支援を行うのかについて考察をすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助のうち、特にグループを支援する力を身につけることができる。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版。(前期ですでに購入した者はそれを使用)

[参考文献]
「福祉グループワークの理論と実際」ミネルヴァ書房。
「グループワーク入門」ロナルド・トーズランド、ロバート・ライバス著、野村豊子監訳、福島喜代子他訳、中央法規出版

ソーシャルワーク論 IV

2単位：後期1コマ	4年
西原　雄次郎	

[到達目標]
①4年前期までに学んだソーシャルワークに関する各科目の知識を、具体的な事例等を通して総合的・統合的に学習する。
②具体的な個別援助技術実践の場を想定して体験的に学ぶ。
③ソーシャルワーカーとして巣立つ際の基本的なセンスを習得する。

[履修の条件]
①社会福祉士受験資格取得のためには必修科目である。
②4年生の後期に履修することが条件である。

[講義概要]
①社会福祉現場における個別援助の実際を体験的に学習することを中心に進める。
②ソーシャルワーク面接の実際や、事例検討の実際等を学ぶ回には必ず出席し、体験することや議論することに参加することが必須である。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/相談援助の理念/権利擁護
第2回　ケースワークと面接①　概要の説明
第3回　ケースワークと面接②　ロールプレイ(録音)
第4回　ケースワークと面接③　VTR 等を観る(逐語録の提出)
第5回　ケースワークと面接④　逐語録から学ぶ
第6回　事例検討①　事例検討の進め方
第7回　事例検討②　事例検討の実際1(討議記録の提出)
第8回　事例検討③　事例検討の実際2(討議記録を通して考える)
第9回　事例検討④　事例検討の実際3(まとめ)
第10回　相談援助の対象　…自力解決が困難な生活問題に直面している人…
第11回　ソーシャルワークと記録
第12回　ソーシャルワークの諸理論　…人と環境との交互作用…
第13回　ソーシャルワーク実践と他職種との連携
第14回　ソーシャルワーク実践と倫理
第15回　まとめと総括的な質疑応答
第16回　試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
成績評価の「その他」30%は、各授業時に提出するリアクション用紙への記入内容や、各回の提出物の内容、及び、討議等への参加度を総合的に評価して行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①授業に応じて逐語録の作成や、フィードバックの提出を求める。
②各回の授業時の自身の言動を振り返り、次回への課題を明確にして授業に臨んでもらいたい。
③予習・復習には各授業回の前後に2時間、15回で計60時間を要する。

[試験・レポート等のフィードバック]
①リアクション用紙に対するフィードバックは次回の授業時に行う。
②課題レポートについてはそれぞれの授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本科目は、卒業前の総括的な学習を行う科目であり、「3. 総合的・実践的な学習能力」を育てることを中心とし、ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4の全てを意識しつつ授業を展開する。

[テキスト]
各授業毎に配布する担当教員作成のプリントを用いて授業を行う。
市販のテキストは使用しない。

[参考文献]
大塚達雄他『ソーシャルケースワーク論』ミネルヴァ書房
各社から出版されている「社会福祉士養成講座」(本学図書館に配架されているもの)を、必要に応じて紹介する。

ソーシャルワーク論Ⅴ

2単位：前期1コマ	4年
髙山　由美子	

［到達目標］
相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族（ミクロレベル）、グループや組織（メゾレベル）、地域や社会（マクロ・レベル）までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につける。

［履修の条件］
原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」「同Ⅴ」を履修済みであること。また、原則として、「ソーシャルワーク論Ⅳ」と並行履修すること。
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。社会福祉の国家資格の取得を目標としないものは、既習科目に関わらず履修することが可能である。

［講義概要］
大学生活の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　授業の方針　ソーシャルワークとは何か
第2回　ソーシャルワークの歴史
第3回　社会福祉士の役割と意義
第4回　相談援助の理念
　　自己決定、ノーマライゼーション、意思決定支援
第5回　相談援助専門職の倫理1
第6回　相談援助職の倫理2
第7回　相談援助職の概念と範囲
第8回　相談援助の展開過程1
第9回　相談援助の展開過程2
第10回　相談援助におけるアウトリーチ
第11回　相談援助におけるネットワーク構築
第12回　相談援助における社会資源の活用・調整・開発
第13回　相談援助における個人情報の保護
第14回　相談援助の実際1
第15回　相談援助の実際2
第16回　－

［成績評価］
試験（30％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

［成績評価（備考）］
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業でのさまざまな課題提起に対して、ソーシャルワーク専門職という視点から考えること。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポートについては、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

［テキスト］
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法Ⅰ』『同Ⅱ』中央法規出版　（ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。）

ソーシャルワーク論Ⅵ

2単位：後期1コマ	4年
福島　喜代子	

［到達目標］
相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族（ミクロレベル）、グループや組織（メゾレベル）、地域や社会（マクロ・レベル）までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につえる。

［履修の条件］
　原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」「同Ⅴ」を履修済みであること。また、原則として、「ソーシャルワーク論Ⅳ」と並行履修すること。
　社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。社会福祉の国家資格の取得を目標としないものは、既習科目に関わらず履修することが可能である。

［講義概要］
大学生活の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。

■授業計画

第1回　相談援助の理念、価値
第2回　総合的・包括的な相談援助とジェネラリスト・ソーシャルワーク
第3回　多様な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ
第4回　多様な実践モデルとアプローチ：機能的アプローチ
第5回　多様な実践モデルとアプローチ：問題解決アプロー

チ
第6回　多様な実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ
第7回　多様な実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ
第8回　多様な実践モデルとアプローチ：認知再構成アプローチ
第9回　多様な実践モデルとアプローチ：行動マネジメントアプローチ
第10回　多様な実践モデルとアプローチ：家族システムズアプローチ
第11回　ソーシャルワークと記録
第12回　スーパービジョン、コンサルテーション
第13回　ケア会議、ケースカンファレンス
第14回　社会資源の活用・調整・開発
第15回　総合的・包括的な相談援助とジェネラリスト・ソーシャルワークのまとめ
第16回　－

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするために、モデルやアプローチを活用するときに、どのようにすれば良いか考えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポートについては、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

［ テキスト ］
新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法Ⅰ』『同Ⅱ』中央法規出版　（ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。）

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

2単位：後期1コマ	3〜4年
福島　喜代子	

［ 到達目標 ］
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に関する知識と技術を得る。
ソーシャルワーカーとして、精神障害のある人も含めて支援できるようになる。

［ 履修の条件 ］
精神保健福祉士の取得を目指していなくても、ソーシャルワークの整理をしたい人、ソーシャルワーク実践スキルを身につけたい人は履修が勧められる。また、精神障害のある人への支援について学びたい人も履修することができる。
　精神保健福祉士の指定科目である。精神保健福祉士を目指している者は、「ソーシャルワーク論Ⅰ」、「ソーシャルワーク論Ⅱ」、「ソーシャルワーク論Ⅲ」を履修済み、あるいは並行履修していること。

［ 講義概要 ］
相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に直接役に立つ知識と技術を身につける。講義、プリント教材、視聴覚教材を用いながら、具体的なソーシャルワークスキルを学ぶ。

■授業計画
第1回　授業方針、包括的アセスメント
第2回　ケースワークとケアマネジメントの関係の整理
第3回　認知療法
第4回　行動分析
第5回　家族システムズアプローチ
第6回　動機づけ面接
第7回　デイケア
第8回　IMR（リカバリーと病気の自己管理）
第9回　アルコール・薬物依存症者への支援（その1）
第10回　アルコール・薬物依存症者への支援（その2）
第11回　自殺危機初期介入スキルの基礎
第12回　成年後見制度と日常生活自立支援事業
第13回　医療観察保護法
第14回　チームアプローチ、ネットワーキング
第15回　包括的・総合的な支援
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業で紹介するさまざまな知識とスキルを、精神に障害のある人の支援でど

のように実践していくのかについて考察を深めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。試験については授業内でコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、精神障害のある人を包括的・総合的な援助を行うことができる。

[テキスト]
『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ Ⅱ』中央法規出版
初回授業時に注文数を確定し、取り寄せる。

[参考文献]
『動機づけ面接法−基礎・実践編』ミラー, ウイリアム・ロルニック, ステファン著、星和書店。

介護概論

2単位：前期1コマ	1〜2年
下ノ本　直美	

[到達目標]
①介護の役割と範囲を理解し、身体的・精神的な変化についての観察力や対処法の知識を得、福祉実践者としての基礎を身に付ける。
②介護の目的、技能および展開過程を理解し、高齢者や障害者に対する援助の視点を学ぶ。
③介護の実践的課題について理解を深め、社会福祉士としての資質向上を目指す。
④社会の変化に伴う介護概念の変化を理解する。

[履修の条件]
毎回配布されるレジュメに沿って講義が進められる。基本的に講義形式であるが、ディスカッションへの積極的な参加と各自の意見・質問を求める。講義中盤に行われる小テストは必ず受講すること。

[講義概要]
超高齢社会を迎えたわが国において、介護ニーズは多様化、重度化し、介護に関する基礎知識を学ぶことは社会福祉士をめざす者はもちろん一社会人としても重要である。
この講義では介護に関する基礎知識を学ぶと共に介護問題の背景、介護の歴史、介護の原理、倫理を踏まえ介護過程の展開までを学んでいく。
この授業は講義形式であり、介護技術の習得を目指すものではない。介護技術については適宜映像等を通して学んでいく。介護問題における時事問題などディスカッションを交え学んでいく。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　講義の目的と意義について。講義の進め方と受講に関する注意点。テキストと参考文献の紹介。
わが国の介護制度、介護の歴史を写真資料等を基に学ぶ。
第2回　介護の概念と範囲
介護福祉制度の広がり、時代とともに変化する介護の概念について理解する。
第3回　介護の理念
介護の原則を学ぶ。これからの社会に求められる利用者の権利擁護としての介護、介護の価値について学ぶ。介護の専門性の理解し介護福祉士の義務規定についても述べる。
第4回　利用者の理解（介護を必要とする人間の理解）
生活面、心理面、社会面、身体面から全人的理解の視点を介護と関連付けて学ぶ。多様な家族形態における介護の視点を学ぶ。
第5回　介護各論①
介護予防と自立に向けた介護。ICF の視点に基づく介護を理解する。
地域包括ケアシステムの中で、介護予防の取り組みについて学ぶ。
投資的社会システムとしての介護予防システムの推進を学ぶ。
第6回　介護各論②
家事における自立支援
生活者として自立的に生きる人間を支援する生活介護について考察を行う
生活行為の連続性について学ぶ。
第7回　介護各論③
身支度・移動・睡眠の介護
人間が生活するうえで欠かせない基本的な動作を行為ごとに分析し、さまざまな活動の場での介護を学ぶ。
第8回　介護各論④
食事・口腔衛生の介護
人間の生命活動を維持するための摂食に関する介護を学ぶ。
第9回　介護各論⑤
入浴・清潔・排せつの介護
体の清潔のみではない入浴や清潔の意義を知り、人が生きていく上で欠かせない排泄のメカニズムを理解したうえで排泄の介護を学ぶ。介護をおこう上での留意点についても学ぶ。
小テスト
第10回　住環境ケア
日常生活における心地よい生活を支える居住環境を介護の視点から考える。住環境整備について学ぶとともに、住宅問題を理解する。
第11回　認知症ケア①
認知症とは何か、認知症を引き起こす脳の疾患と障害について学び、原疾患による症状の特徴、認知症介護の困難さについて症状等を通して学ぶ。
第12回　認知症ケア②
認知症当事者と家族について、動画等を視聴しながら理解を深める。認知症ケアにおけるコミュニケーションの方法について学ぶ。
第13回　介護過程①
介護過程の概要　アセスメントからケアプラン作成ま

での流れを学ぶ。
第14回　介護過程②
介護過程の展開技法　グループワークにて事例を用いてケアプラン作成する。
第15回　終末期ケア
14回の講義を通して学んだ基本的知識の集大成として、死に行く人へのケアをめぐる概念を学ぶ。全人的かかわりと人権尊重を踏まえた終末期ケアの必要性について学ぶ。最終回講義には必ず出席すること。
第16回　試験

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
その他の評価方法として、毎回のフィードバック用紙への評価や、授業への参加度、グループディスカッション時の参加度など総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習・準備学習として、次回予定の講義内容についてテキストを参考に自分なりの考えを持って臨むこと。各講義毎に約2時間を要する。
また、テキスト以外に講義毎に配布する資料を確認し、復習することを薦める。各講義毎に約2時間を要する。
本科目では各授業回に4時間の予習復習を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義はじめに前回のリアクションペーパーでの質問に対するコメントと、意見交換を行う。毎回の講義内容に対する質問を求める。試験は基本時間60分で行う。講義中盤で行う小テストは、講義の後半40分を使い、本試験に順ずる形式で行う。小テストを受験できなかった場合は、別に課題を儲けレポート提出を求める。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に関連する。「介護」の価値・知識・技術を学ぶことは、社会福祉の専門職として総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるために必要である。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度−11章〜14章」中央法規

[参考文献]
「ICFを取り入れた介護過程の展開」黒澤貞夫編著　建帛社

高齢者福祉の諸問題

2単位：前期1コマ	2年
山口　麻衣	

[到達目標]
高齢社会の課題や、孤立、介護、健康、経済的貧困等の高齢期の問題の現状と要因を学び、高齢者福祉の諸問題とその要因に関して知識を得て、問題解決策を自分なりに考えええる能力を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
本講義は、特に履修の条件はなく、どのコースの学生も広く受講をすすめる。社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる高齢者福祉論の前提となる諸問題を検証するものであり、原則として社会福祉士を目指す者は履修が望ましい。

[講義概要]
超高齢社会となった日本が直面する課題はなにか。グローバル・エイジングの課題は何か。孤立、家族介護を含む介護の問題、健康問題、認知症高齢者、経済的貧困等の問題の現状と要因は何か。複雑に関連する、高齢者福祉の諸問題について、社会老年学の視点から学び、どのように問題を解決していけばいいのか、授業のなかで互いに考え、学びあえるような参加型の講義としたい。自分なりにテーマを決めて、主体的に学ぶこと、積極的に授業に参加し、調べたことや自分の意見をのべることを重視する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　【高齢者問題の所在】（日本において、どのような高齢者に関する問題があるのか?概要を理解する。高齢期の諸問題に対するアプローチの視点を理解する）
第2回　【1】日本における人口の高齢化と高齢社会（日本における人口の少子高齢化が社会にどのような影響を与えているのか、高齢社会でどのような問題を生じているのか?）
第3回　【2】グローバル・エージング（地球規模での高齢化、国、地域間の国際比較、地域格差からわかること、日本における多文化共生と高齢者福祉）
第4回　【3】高齢者の生活・暮らし・生きがい・幸福観・老い（豊かな老後、幸福な老い、サクセスフル・エイジングとは?ライフコース、人生100歳時代の人生設計・生きがいとは?）
第5回　【4】高齢者ケアの諸問題（8050問題、介護難民、介護担い手問題、介護離職問題、外国人介護者の問題、家族関係、家族などのケアラー支援、認知症高齢者のケア、徘徊老人問題など）
第6回　【5】高齢者虐待（施設での虐待、養護者による虐待、介護殺人、身体的虐待、精神的虐待、性的虐待、ネグレクト、経済的虐待、セルフネグレクトなど）
第7回　【6】高齢期の貧困・経済状況（生活困窮、経済格差、下流老人、ホームレス問題、生活保護、年金問題、ライフコースの視点からみた貧困など）
第8回　【7】高齢期の就労・生涯学習・社会参加・居場所（定年、働き方、ワーク・ライフ・ケアバランス、ボランティア、

地域貢献、生涯学習、世代間交流など）
第9回　【8】高齢期の孤独・孤立（孤独死、孤立、自殺、うつ、虚弱と閉じこもりなど）
第10回　【9】高齢期の健康問題（介護予防、医療、心と体の健康、寝たきり、加齢・老化・虚弱・フレイル、保健・医療・福祉、地域包括ケア）
第11回　【10】地域格差：都市部と過疎地域の高齢者の生活課題（都市部のマンション、団地などの問題、ごみ屋敷問題、過疎地の問題、山間地における限界集落、コンパクトシティ、まちづくりなど）
第12回　【11】高齢期の住まいと交通・移動・テクノロジー（サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、移住、一人暮らし、買い物難民、テクノロジー、見守りシステムなど）
第13回　【12】終末期（死にゆくこと、在宅死、尊厳死、安楽死、遺言、エンディングノート、看取り、相続・お墓問題、ターミナルケア、グリーフケアなど）
第14回　【高齢者の諸問題とその解決方法】（個別発表とグループ討議）
第15回　全体のまとめ（高齢者の諸問題間のつながりや関連性、問題解決にむけて、対人援助職が取り組むべき課題を検討する。）
第16回　レポート課題提出

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

［成績評価（備考）］
その他の評価として、毎回の講義におけるフィードバック、討論や発表、質問などの授業への参画を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
それぞれの関心にあわせた期末レポート作成にむけて、関係文献を自主的に学習していくことが求められる。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。課題レポートについては、途中の段階で助言するとともに、レポート返却時に個別にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。高齢者個人の生活上の困難だけでなく、高齢社会全体の課題も含めて、多角的、総合的な人間理解する。個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるための知識を得る。

［テキスト］
新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規

［参考文献］
東京大学高齢社会総合研究機構（編著）（2017）『東大がつくった高齢社会の教科書：長寿時代の人生設計と社会創造』、内閣府『高齢社会白書』厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

高齢者福祉論

2単位：後期1コマ	2年
山口　麻衣	

［到達目標］
本講義では、福祉にとどまらず、社会参加、社会保障、就労、保健、医療等の高齢者福祉政策を理解し、地域における様々な高齢者福祉領域での実践事例からの学びを通して、高齢者福祉政策の課題や高齢者支援のあり方の課題に気づき、どうすべきかの対処策を考察することができるよう知識を得て、考察するスキルを高めることを到達目標とする。

［履修の条件］
本講義は、社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる。原則として、高齢者福祉の諸問題の履修が望ましい。

［講義概要］
介護保険、入所施設、在宅福祉、生活保護・年金等の経済保障、老人保健・医療とねたきり予防、介護予防、住宅対策、就労対策・生きがい対策・生涯教育、権利擁護システム、ケアマネジメント等の高齢者援助について、高齢者福祉政策を体系的に包括的に学ぶ。なお、今日、高齢者福祉制度は、高齢者の権利、地方自治体への権限の委譲と格差の拡大、担い手の広がりとセーフティネットの不明確化、保健医療福祉、産業、環境との連携とそれを妨げる現状等の課題をもっており、本講義では、今後の高齢者福祉のあり方を学習する。

■授業計画
第1回　＜オリエンテーション＞
　高齢者福祉の諸問題で学んだ高齢者の生活ニーズをふまえ、介護保険、老人福祉法に基づく高齢者福祉、そして所得保障、保健・医療保障、就労保障、住宅保障、社会参加促進とバリアフリー等について、体系を学習する。
第2回　＜高齢者福祉制度の歩み＞
　高齢の貧困者を対象とする施設収容を内容とした老人福祉法成立以前の養老事業について学習する。特に、恤救規則、救護法、生活保護法における高齢者保護の仕組み、収容主義から入所者の生活重視への転換、施設収容中心主義から在宅福祉への拡大について、学習する。
第3回　＜老人福祉法以降の取り組み＞
　①寝たきり高齢者へのサービスから始まり、対象を拡大する在宅福祉サービスの展開、②老人医療費無料化から老人保健法の成立と保健医療の展開、③ゴールドプラン等の計画の展開、④社会福祉士・介護福祉士制度と専門性の強化、⑤各種のバリアフリー法の展開等について、法律をたどり学習する。
第4回　＜介護保険制度の現状と課題＞
　介護保険制度の成立背景と保険者、被保険者、給付、給付の受給手続、介護支援専門員等の専門職、

利用負担、介護保険事業計画等の内容について検討する。また、2005年制度改革による新予防給付、地域支援事業の創設、地域包括支援センターの設立、さらにその後の改正について学習し、介護保険制度の現状と課題を学習する。

第5回　＜在宅福祉サービスの意義と内容＞

①在宅福祉サービスの展開要因、②点在する利用者に対応する、組み合わせの必要、利用者とサービスをつなぐシステムを必要とする等の在宅福祉サービスの特徴、③利用支援・利用啓発サービス、予防・福祉増進サービス、在宅ケア、「住まい」を強化するサービス、滞在型サービス、生活環境改善サービスという在宅福祉サービスの内容、④在宅福祉サービスの基本的視点について考察する。

第6回　＜在宅福祉サービスの現状と課題＞

事例研究を通して、個々の在宅福祉サービスを取り上げ、その意義と問題点を検討し、認知症高齢者を含む高齢者への地域包括ケアの視点から、在宅サービスのあり方を学習する。

第7回　＜入所施設の現状と役割＞

社会福祉施設は、①契約型施設の登場、②通所型施設の登場、③相談型施設の登場、④小規模施設の登場、⑤住宅型施設の登場、⑥保健医療と福祉の接点、⑦滞在型施設と多様化してきた。高齢者を対象とする入所施設も、バリアフリー、生活の場の尊重、個室化が進められ、地域にある施設としてのあり方を期待されている。これらの動向を学習する。

第8回　＜入所施設における処遇と役割＞

食事ケア、入浴ケア、排泄ケア等のケアにおける質の担保のための具体的な取り組み、入所間際の利用者への対応、認知症利用者への対応等を、事例を通して学習する。

第9回　＜生活保護・年金等の経済保障＞

生活保護制度における基本原理、運用の原則、8扶助、最低生活基準等の基本的内容と高齢者世帯の受給状況について学習する。また年金制度体系と基礎年金、職域年金の内容について検討し、少額年金者、無年金者の課題について学習する。

第10回　＜老人保健・医療と介護予防、うつ予防＞

高齢者に対する保健医療制度の展開と現状について学習する。また、介護予防、うつ予防について、具体的な内容を考察する。

第11回　＜住宅対策＞

ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン21を通して、住宅対策の展開過程を考察する。また、高齢者の居住の安定確保に関する法律の背景と内容、そして課題について学習する。

第12回　＜就労対策・生きがい対策・生涯教育＞

①高齢者就労の必要性、目的および意義、高齢者の就労確保のための施策と展望、②社会参加活動支援の展開、ボランティアおよび学習活動の内容、今後の展望について学習する。

第13回　＜高齢者の権利＞

憲法13条（幸福追求権）、憲法14条（平等権）、憲法25条（生存権）に基づく基本的人権、社会福祉法による利用者の権利、そして以下の具体的権利について考察する。①プライバシーの保護、②選択の権利、③手続き的権利、④成年後見、地域福祉権利擁護事業、⑤苦情対応システム

第14回　＜虐待予防・対応＞

①高齢者虐待の定義、②高齢者虐待の実態、③市町村の役割等の高齢者虐待の防止対策、④基本的方針（ア. 発生予防から虐待を受けた高齢者の生活の安定までの継続的な支援、イ. 高齢者自身の意思の尊重、ウ. 虐待を未然に防ぐための積極的なアプローチ、エ. 虐待の早期発見・早期対応、オ. 高齢者本人とともに養護者を支援する、カ. 関係機関の連携・協力によるチーム対応）について学習する。

第15回　＜高齢者に対する処遇＞

①高齢者の生活問題が、身体的、精神的、社会的要因が複雑に関連していること等、高齢者の基本的ニーズを検討し、個別的な援助技術、②ケアマネジメントの必要性とプロセス、実際の援助過程、③認知症高齢者への援助について学習する。

第16回　期末試験

［ 成績評価 ］

試験（50％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］

その他の評価としては、毎回の授業でのフィードバック、質問や討議・発表など積極的な授業参加で評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

テキストの学習は前提とされるが、それだけでなく、授業ごとに配布される資料、視聴覚教材を参照し、関係文献を自主的に学習していくことを望みたい。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。介護保険制度の概要を理解し、地域包括ケアシステムの課題は何かを学び、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるための知識を得る。

［ テキスト ］

新・社会福祉士養成講座『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規

［ 参考文献 ］

厚生の指標『社会福祉と介護の動向』

障害者福祉の諸問題

2単位：前期1コマ	2年
髙山　由美子	

[到達目標]
障害児者福祉諸制度の基礎となる理念・考え方を習得する。
わが国の障害者福祉をめぐる状況は大きな転換期に差しかかっている。この様な時期こそ、受講者各自が、歴史的経緯や基本理念を改めて明確にして、現状とこれからを見通す視点を持つことが必要である。したがって本講義では受講者一人ひとりがそのような素養を身に付けることができるようにすることを目標に授業を進める。

[履修の条件]
2年生以上であれば、各自の履修プランにしたがって受講可能。
後期開講の『障害者福祉論』を履修予定の人は、本科目の履修を薦める。

[講義概要]
本講義では、障害者の各ライフステージを念頭におき、障害福祉のあり方や施策等の基盤にある考え方と今日的動向をふまえ、1回ごとにテーマを設定する。障害者福祉サービスに関する具体的な制度等については「障害者福祉論」で取り扱う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション／障害者福祉の歴史的概観
第2回　障害者福祉の理念
第3回　障害者の権利条約の意義
第4回　障害者差別解消法の意義
第5回　障害者のライフサイクルと障害者福祉
第6回　障害児・者とその教育
第7回　障害者と就労支援
第8回　障害者と地域生活1　−親及び当事者による運動−
第9回　障害者と地域生活2　−自立生活運動−
第10回　障害者と地域生活3　−地域移行−
第11回　障害者と地域生活4　−触法障害者への支援−
第12回　地域生活を支える社会資源
第13回　障害者福祉と権利擁護
第14回　障害者にとっての自立と支援者の役割
第15回　まとめ
第16回　定期試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
成績評価の「その他」20％は、各授業時のフィードバック用紙への記入内容や、授業への参加度を総合的に評価して行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
障害者福祉に関する諸制度は大きく変化している状況にあるので、日々の報道はもちろん、図書館に備えられている各専門雑誌を常にチェックするようにしてもらいたい。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の今日的動向を理解し、対人援助の専門職に必要な価値、知識等を身に付ける。

[テキスト]
テキストは特に用いない。必要な資料は授業時に適宜配布する。

[参考文献]
『自立生活運動と障害文化−当事者からの福祉』、全国自立生活センター協議会編、現代書館、2001年
『障害者はどう生きてきたか戦前戦後障害者運動史』増補改訂版、杉本章著、現代書館、2008年
『障害者福祉の世界』第4版、佐藤久夫・小沢温著　有斐閣、2012年

障害者福祉論

2単位：後期1コマ	2年
髙山　由美子	

[到達目標]
①社会福祉士・精神保健福祉士養成課程カリキュラムに対応する障害者福祉の基本的な知識を獲得する。
②障害者の生活実態を踏まえ、相談援助の基本となる関連法制度を理解する。
③障害者福祉の基本理念と制度の展開過程をふまえて障害者福祉の課題を理解する。

[履修の条件]
社会福祉士・精神保健福祉士の受験科目である。「障害者福祉の諸問題」を履修済みであることが望ましい。履修学年の目安は2年次である。3年次以降、障がい福祉分野での実習を希望している場合は実習前に必ず履修しておくこと。

[講義概要]
授業は、配布資料やテキスト等を中心とした講義であるが、テーマによっては討議等の意見交換も行いながら、大きな変革期にある障害福祉の全体像について理解を深める。「障害者福祉の諸問題」で学んだ内容と重なる部分もあるが、繰り返しの学びを通して「障害者福祉」の理解を深めていただきたい。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　到達目標、講義概要、評価等
　　障がい福祉に関するこれまでの学びのふりかえり
第2回　障がい福祉の基本理念を理解する①

第3回　障がい福祉の基本理念を理解する②
第4回　統計から見る障がい者の動向と生活状況
第5回　障がい福祉制度の発展過程の理解
第6回　障害者の権利条約の理解
第7回　障害者基本法と関連する法律の理解
第8回　障がい福祉施策と計画の理解
第9回　障害者総合支援法の理解①
第10回　障害者総合支援法の理解②
第11回　障害者総合支援法の理解③
第12回　さまざまな障がいと関連法制度の理解
第13回　障がい福祉にかかわる専門職と関係機関の理解
第14回　障がい当事者の活動と権利擁護の理解
第15回　ふりかえりとまとめ
第16回　定期試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業で取り上げる出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

[テキスト]
必要な資料は適宜配布する。
テキストは授業時に提示する。
いずれの出版社のものでもよいが、最新版の『社会福祉小六法』を用意すること。
配布資料(すでに授業で取り上げたものも含めて)、テキスト、『社会福祉小六法』は毎回の授業に持参すること。

[参考文献]
『障害者白書(2018年版)』(内閣府編)
『障害者総合支援法とは』(東京都社会福祉協議会)

保健医療サービス

2単位：後期1コマ	3年
廣瀬　圭子	

[科目補足情報]
保健医療サービスとは、医療サービスと社会サービスから構成されたものである

[到達目標]
①社会福祉と保健医療との関係を理解する。
②保健医療サービスの供給システムの概要を理解する。
③保健医療ソーシャルワークの概要を理解する。

[履修の条件]
社会福祉の主要科目、とりわけソーシャルワークの方法論系科目ならびに社会保障論を履修していること。

[講義概要]
現在の社会福祉は、分野を問わず、保健医療とのかかわり合いが大きくなっている。そのためソーシャルワーカーは、医療との連携をはかりながら、社会福祉の視点・立場から事象をとらえ、考察し、実践していくことが求められる。
授業では、社会福祉士ならびに精神保健福祉士指定科目(共通科目)のシラバスに盛り込まれた内容を網羅しつつ、保健医療の歴史的変遷と基本的性質、保健医療ソーシャルワークの理論、医療福祉に関する課題に触れながら、能動的に保健医療と連携するソーシャルワーカーの姿勢や専門性に関する知識の獲得を目指す。

■授業計画
第1回　保健医療制度の変遷と社会福祉専門職の役割
第2回　医療法改正の概要と保険医療サービスの今日的課題
第3回　医療供給体制(1)～医療施設の機能と類型～
第4回　医療供給体制(2)～地域包括ケアシステムと在宅医療～
第5回　医療保障と診療報酬制度(1)
第6回　医療保障と診療報酬制度(2)
第7回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務(1)
第8回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務(2)
第9回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務(3)
第10回　医療ソーシャルワーカーの役割と業務(4)
第11回　介護保険制度と介護報酬の概要
第12回　保健医療従事者との連携方法と医療基礎知識(1)
第13回　保健医療従事者との連携方法と医療基礎知識(2)
第14回　保健医療従事者との連携方法と医療基礎知識(3)
第15回　地域における社会資源と連携の実際
第16回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(15%)、その他の評価方法(15%)

[成績評価（備考）]
その他の評価方法には、受講姿勢やグループワークへの参加態度が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートは、評価をつけた上で返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。わが国における保険医療サービスを学ぶとともに、保険医療を必要とする利用者や家族への支援方法を身に付けることができる。

[テキスト]
社会福祉士養成講座編集委員会編（2017）『新・社会福祉士養成講座《17》保健医療サービス　第5版』中央法規　2,200円

[参考文献]
小山秀夫・堀越由紀子・笹岡真弓編（2016）『保健医療サービス（改訂版）』ミネルヴァ書房

[備考]
毎回、テキストを持参すること

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

2単位：前期1コマ	2年
福山　和女	

[到達目標]
精神保健福祉の領域で、人々が直面している諸問題現象について、観察力、理解力、分析力を習得する。
精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な科目、「精神保健福祉論」の前段として、2年次を対象とする。講義と討議の形式をとるため、事前準備が必要である

[講義概要]
精神保健福祉相談援助の基盤から精神科ソーシャルワーカーの専門性や役割について考える。精神保健福祉の分野において、社会福祉の視点やソーシャルワークの理論や技術が必要であることを十分理解する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　精神保健福祉士を取り巻く環境
第3回　精神保健福祉法等の制度理解
第4回　精神保健福祉分野の社会資源の種類と限界
第5回　精神保健福祉分野の支援対象者の理解
第6回　相談援助の概念と範囲
第7回　専門領域：精神障害の概念、理念、支援方法
第8回　専門領域：障害の概念、理念、支援方法
第9回　専門領域：高齢者の理解、支援方法
第10回　専門領域：児童の理解、支援方法
第11回　チーム医療体制の現状と人権尊重
第12回　精神保健福祉分野の協働の必要性
第13回　チーム支援体制の現状と社会正義
第14回　権利擁護とノーマライゼーション
第15回　まとめー精神保健福祉士の役割と意義
第16回　まとめー精神保健福祉士の専門性の意義

[成績評価]
試験（30％）、レポート（30％）、小テスト（20％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストや参考文献から、該当する理論や技術について予習・復習することを薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーを各授業で書くことを条件とし、そのフィードバックを授業中の話し合いで取り上げて、検討する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。人の尊厳を専門家の価値観として理解することを学ぶとともに、精神障害の人々への理解と配慮について包括的な知識を得る。

[テキスト]
新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉論』中央法規　2,700円+税

[参考文献]
厚生省大臣官房保健福祉部精神保健福祉課監修『精神保健福祉士法詳解』ぎょうせい、（1998）

[備考]
出席日数、学期中のレポートの提出、デモンストレーションなどで総合的に評価する。
参加態度、意見交換、フィードバックなどの質と量を加味する。

精神保健福祉に関する制度とサービス

2単位：後期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目である。

[到達目標]
精神保健福祉に関わる制度及びサービスの枠組みについて学

ぶことを通して、精神保健福祉士に求められる役割と業務の実際を理解する。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、”主体的に” 学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

[履修の条件]
2年次を対象にする。

[講義概要]
本科目では、精神保健福祉実習に臨むにあたって必要とされる、精神保健福祉関係法制度及びこれに基づく諸サービスに関する基礎的な知識を習得することを目的とする。その上で、授業全体を通し、ソーシャルワーカーとして精神保健福祉士に求められる役割を考える。授業は講義を中心に進められるが、グループでのディスカッションも適宜取り入れる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　DVD 鑑賞とグループディスカッション
第3回　精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①
第4回　精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②
第5回　精神保健福祉法の概要①
第6回　精神保健福祉法の概要②
第7回　小テスト①
第8回　精神保健福祉法の概要③
第9回　精神保健福祉法の概要④
第10回　精神病床の機能分化
第11回　小テスト②
第12回　精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①
第13回　精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②
第14回　精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③
第15回　小テスト③
第16回　※定期試験はなし

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（75%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（25%）

[成績評価（備考）]
グループでのディスカッション等における授業への貢献度を評価する。また、無断での遅刻・欠席に関しては厳しく対応する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考文献・資料を読んで授業に参加すること。各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。小テスト（※計3回）に備えて復習を欠かさないようにすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テスト（※計3回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、精神保健福祉関係法制度に関する基礎的な知識を身に付けることができ、精神保健福祉実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている精神保健福祉士養成講座の『精神保健福祉に関する制度とサービス』を参照のこと。

[参考文献]
①最新版の『社会福祉小六法』
②『国民の福祉と介護の動向（2017～2018）』（厚生労働統計協会）
※その他の参考文献・資料については、適宜紹介する。

精神障害者の生活支援システム

2単位：後期1コマ	2年
小高　真美	

[到達目標]
精神障害者のリカバリーに焦点を当て、生活支援のための方法や精神保健福祉士など専門職の役割について、多角的な視点を持って理解を深めることを目指す。

[履修の条件]
精神保健福祉士の受験資格を取得するための必須履修科目である。
資格の取得を考えていない人の履修も歓迎する。

[講義概要]
講義だけでなく、演習やグループ討議、外部講師（精神障害者を支援する地域の事業所等の利用者や職員）による講演なども通じて、精神障害者の生活支援について包括的に学習する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　精神障害とスティグマ
第3回　精神障害の概念
第4回　精神障害者の生活とリカバリー
第5回　精神科医療および生活支援に関わる制度等の変遷
第6回　精神障害者の生活を支援するとは―事例検討
第7回　地域生活支援のための相談援助の実際
第8回　生活支援にかかわる専門職とチームアプローチ
第9回　精神障害者の居住支援
第10回　精神障害者の就業支援
第11回　精神障害者の家族支援
第12回　生活支援と危機介入
第13回　生活支援の実際
第14回　今後の課題と展望
第15回　まとめ
第16回　試験

[成績評価]
試験（60%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、

その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業内容について、テキストや参考資料等の該当箇所に目を通して予習・復習する。予習・復習に必要なテキスト該当箇所や資料等は、講義ごとに適宜指示する。予習・復習時間は1回につき、4時間程度となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
課題レポートは授業時間内にグループディスカッションあるいはクラスで発表し、他の受講生や教員からのフィードバックを受ける。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。精神疾患や精神障害のある人たちへのスティグマの理解やアンチスティグマへの行動、また疾患からのリカバリーの理念に基づく実践の理解などを主軸に学習を進める。また、事例検討や当事者による体験なども伺うことで、生活支援における専門的、包括的な理解を促進する。

［テキスト］
日本精神保健福祉士養成校協会（編集）『新・精神保健福祉士養成講座　第7巻　精神障害者の生活支援システム　第2版』中央法規　2,916円（税込）

［参考文献］
講義ごとに適宜紹介する。

［備考］
授業では、授業資料およびテキストの両方を用いる。

SST

2単位：前1後1コマ	2〜4年
正田　久子	

［科目補足情報］
※前期・後期とも同一内容の授業

［到達目標］
1. SST（社会生活技能訓練）の原理、原則を理解する
2. SST の目的は、障がいを持つ当事者が望む生活のあり方を実現するために必要なソーシャルスキルの学習を支援することにある。授業では当事者のスキルアセスメント、希望する目標に沿った課題設定、SST による行動学習の指導など一連のプロセスを実践的に学び、現場の対人支援で活用できるようにすることを目指す。また、グループワークについての学びは、各種のグループ活動の運営に応用することを期待する。

［履修の条件］
障がいを持つ当事者個人やグループへの具体的な関わり方、行動学習の指導方法などをグループワーク形式で意見交換をしながら体験的に学ぶ。従って出席を重視し、授業においては積極的な参加を求める。

［講義概要］
SST は Social Skills Training の頭文字を取った省略名。ソーシャルスキルとは、社会生活の中で人と適切な関わりができる能力のことであり、コミュニケーションを主体とする対人行動能力と状況を判断して対処の仕方を考える能力とから成る。

SST は1970年台初頭に、統合失調症を病む当事者が日常生活に必要な適切な行動を学習してストレスを軽減し、再発・再入院を予防するためにアメリカで考案された。日本への導入も、当初は精神科入院病棟、作業所、精神保健福祉センターなど、主に精神保健福祉分野であった。その後、90年台に入って認知療法が取り入れられて認知行動療法として発展し、現在では学校教育、発達障がい児・者のデイケア施設、刑務所、少年院などの矯正施設、犯罪者の更生をサポートする更生保護施設、家庭内暴力の被害者、引きこもりの家族の支援など、社会生活上の困難を持つ幅広い年齢層の人々を対象に実践されている。SST の効果は実証研究により確認されており、実践は世界各国に広がっている。

授業では当事者の主体的な参加を促しながら進める支援の原則、説明と同意、当事者の将来への希望に沿った目標の設定、練習課題の設定、スキル学習の指導、効果の測定、支援に関わるその他の関係者たちとの連携方法などをロールプレイを交えて実践的に学ぶ。

SST は集団を対象とした「グループ SST」、1対1で行う「ひとり SST」及び共通の悩みを抱える家族を対象とした「家族 SST」とがあり、これらを組み合わせると効果が高まる。授業では主に「グループ SST」と、「いつでも、どこでも」手軽に実施できる便利さが特徴の「ひとり SST」の指導方法を学び、対人支援のスキルを高めることを目指す。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、評価の基準
第2回　講義：SST の理論、原則
　　演習：ウォーミングアップ体験
第3回　講義：SST 成立の背景、基礎理論、SST の実際（視聴覚教材使用）
　　演習：ウォーミングアップ体験
第4回　講義：ウォーミングアップの意義
　　演習：ウォーミングアップの実践
第5回　講義：説明と同意
　　演習：説明と同意を得る実践
第6回　講義：個人目標の設定（ニーズの把握とアセスメント）
　　演習：個人目標と練習課題の設定のための面接実践
第7回　講義：行動練習の順序
　　演習：「個人 SST」実践
第8回　講義：フィードバックについて学ぶ
　　演習：「個人 SST」実践
第9回　講義：グループワーク
　　演習：「グループ SST」実践
第10回　講義：認知の修正を学ぶ
　　演習：「グループ SST」実践
第11回　講義：「問題解決法」
　　演習：グループ SST（「問題解決法」の展開）
第12回　演習：グループ SST（「問題解決法」の展開）
第13回　演習：グループ SST（当事者の事例から学ぶ）

第14回　演習：グループ SST・個人 SST（復習）
第15回　講義：SST の効果の評価、関係者との連携方法
第16回　講義：まとめ

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（70%）

［ 成績評価（備考） ］
SST 指導の実践30%、ウォーミングアップを指導20%、意見を積極的に発言して、グループに参加する20%

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
配布する参考文献リストの文献を読み、授業内で展開する実践の意味、意図を理解するようにする。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
レポートについては、授業内に適宜口頭でコメントする

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的、実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することにより、ソーシャルワーカーとしての実践的な知識と対人支援技能を身につけることができる

［ テキスト ］
資料を随時配布する

［ 参考文献 ］
『基本から学ぶ SST　−精神の病からの回復を支援する』前田ケイ著　星和書店
『ソーシャルワークにおける SST の方法』福島喜代子著　相川書房
『精神障害と回復』R.P. リバーマン著　星和書店
『学校における SST 実践ガイド』佐藤正二　佐藤容子編　金剛出版

権利擁護と成年後見制度

2単位：後期1コマ	1〜2年
金子　和夫	

［ 到達目標 ］
民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などを概観し、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

［ 履修の条件 ］
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて履修すること。国家試験を受験しない学生は「法学」を参照すること。

［ 講義概要 ］
民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度やそれに係る機関・専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。

■授業計画
第1回　ガイダンス（相談援助の必要な法律問題）
第2回　憲法の基本原理（基本的人権を中心に）
第3回　行政法（行政処分と不服申立て）
第4回　民法（契約と消費者保護）
第5回　民法（国家賠償を含む損害賠償）
第6回　民法（夫婦と DV 防止法）
第7回　民法（親子と児童虐待防止法）
第8回　民法（扶養・相続と高齢者虐待防止法）
第9回　民法（権利能力、行為能力）
第10回　成年後見制度（制度の概要）
第11回　成年後見制度（任意後見を含めた動向）
第12回　成年後見制度（その実際）
第13回　権利擁護制度（専門機関）
第14回　権利擁護制度（専門職）
第15回　権利擁護制度（権利擁護制度の実際）
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（80%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事や TV ニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

[テキスト]
『ポケット六法』(平成30年版)(有斐閣、2,000円、税込)
その他講義資料を配布する。

[参考文献]
憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。
川井健『民法入門』(有斐閣)
石川他『はじめての行政法』<有斐閣アルマ>(有斐閣)
『権利擁護と成年後見制度』(中央法規)
『法学』(全国社会福祉協議会)

[備考]
授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

公的扶助論

2単位:後期1コマ	2年
江幡　五郎	

[科目補足情報]
貧困による格差・差別は厳然としてある。それらを生む背景・思想はどのようなものなのか。また、現代での貧困についても学ぶ。貧困はあなたの隣にあることを忘れてはならない。

[到達目標]
相談に携わる者に絶対的に欠かせないものは公的扶助制度(生活保護制度)及び各種の貧困対策関する知識である。実務として使いこなすことができることを目指す。

[履修の条件]
本科目は「公的扶助論」としているが、社会福祉士等の国家試験の受験科目「低所得者に対する支援と生活保護制度」と同じ内容であるため、国試を目指す人は必ず履修する必要がある。

[講義概要]
実務にも役立つものとレジュメと資料を毎回配布するのでファイルしておくこと。生活保護制度における自立支援制度、生活困窮者自立支援等も解説するほか、関連するホームレス自立支援、子ども貧困対策、新聞記等の紹介、報道番組のVTR(DVD)の放映等と現役ケースワーカーと元ホームレス(元生活保護受給者)による特別授業も行うことにしている。

■授業計画

第1回　・貧困とは何か　・貧困に実態と貧困によってもたらされる問題及び課題　・社会保険制度と公的扶助制度の関係
第2回　・公的扶助制度の意義と役割　・ナショナルミニマムと生活保護との関係　・公的扶助制度の範囲等
第3回　・英国とわが国における生活困窮者救済制度の変遷とその思想　・現行生活保護法の経緯
第4回　・生活保護法における基本原理～解釈と運用～
第5回　・生活保護法の四つの基本原則～解釈と運用～
第6回　・生活保護の行財政
第7回　・生活保護の内容　・金銭給付と現物給付　・保護の基準とはなにか　・扶助の種類と内容　・生活保護施設等
第8回　・改正生活保護法の内容①
第9回　・改正生活保護法の内容②　・最低生活費の仕組みと計算　・保護の要否判定　・収入認定の仕組み等
第10回　・被保護者の権利と義務①　・不服申立制度の意義　・不服申立制度と裁判との関係等
第11回　・被保護者の権利と義務②　・事例に学ぶ不服申立と生活保護をめぐる裁判の実際　・低所得者施策(対策)の種類と内容等
第12回　・改正生活保護法と生活困窮者自立支援法の関係　・改正生活保護法における自立支援　・生活困窮者自立支援法　・その他の公的扶助
第13回　・現役ケースワーカーによる特別講義～福祉事務所における生活保護制度の運用の実際(仮題)～
第14回　・(元)生活保護受給者による特別講義(予定)
第15回　・講義全般のまとめと振り返り　・生活保護制度の課題と方向性
第16回　・定期試験の実施

[成績評価]
試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
試験の配点は、選択式問題が60～65点程度、小論文式問題が35～40点程度としている。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回配布のレジュメ及び関連資料をファイルしておくこと。授業前にテキスト及びレジュメ等により予習し授業後もレジュメ等により復習すること。本科目では各授業回に、4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーは, 原則として翌週には個人ごとコメントを入れフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。多くの相談は生活の困難さ(経済的問題)を抱えている。生活困難を解決するためには、公的扶助論を身につけることである。授業では、とくに「現場」での実践的な能力をつけることに力点をおいている。

[テキスト]
生活保護のてびき平成29年度版　第一法規(7月中旬出版予定)　税別360円(予定価格)

[参考文献]
低所得者に対する支援と生活保護制度(公的扶助論)　中央法規　税別2,200円
改正生活保護法・生活困窮者自立支援法のポイント　中央法規　税別2,400円

[備考]
参考文献の書籍は必ずしも購入しなくてもよい。必要により大学の図書館等で目を通しておくことでも差しつかえない。

就労支援サービス

2単位：後期1コマ	3年
金子　和夫、江幡　五郎	

[到達目標]
障がい者や生活困窮者の自立支援の一つとなる就労支援制度、および、それに係わる関係機関や専門職の役割、活動、連携等について理解し、社会福祉士国家試験、公務員採用試験等に対応するとともに、相談援助職として必要な知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士国家試験受験資格の指定科目（三科目中1科目選択）であり、受験資格取得希望者は必ず履修すること。精神保健福祉士受験希望者も必ず履修すること。

[講義概要]
本講義は、わが国の雇用・就労政策・法規全般を理解する中で、相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度、および、それに係る国や地方自治体の役割、さらには、関係機関・専門職について理解するとともに、就労支援の関連分野について学ぶ。

■授業計画
第1回　障害者雇用施策の概要
第2回　障害者雇用施策における就労支援制度
第3回　障害者就労支援における国・自治体の役割
第4回　職業リハビリテーション機関の役割、連携
第5回　サービス事業所・支援施設の役割、連携
第6回　障害者福祉施策における専門職の役割
第7回　教育施策との連携
第8回　低所得者支援の対象像
第9回　自立支援を必要とする保護者の増加
第10回　生活保護受給者における自立支援制度Ⅰ
第11回　生活保護受給者における自立支援制度Ⅱ
第12回　福祉事務所における低所得者等に対する就労支援サービス
第13回　低所得者支援における連携と実際
第14回　今後の展望
第15回　雇用・就労の動向と施策
第16回　試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
成績評価の「その他」の内容は、基本的に毎回の授業内容の理解度や質問等について「リアクションペーパー」を提出してもらうが、その記入内容で評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
近年の雇用情勢の厳しさが指摘される中で、雇用状況一般、および、障がい者や生活困窮者を取り巻く様々な問題が、新聞やTV ニュース等で取り上げられている。そうした動向に関心を持ちその収集に努めながら問題を理解すること。また、講義資料を中心に毎回復習しながら、不明な点はまず自ら調べることが大切である。
なお、福祉事務所における生活保護受給者等への就労支援サービスは、福祉事務所職員を招き特別授業を行う予定としている。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
新・社会福祉士養成講座『就労支援サービス』（最新版）（中央法規）

[参考文献]
障害者福祉関係、公的扶助関係のテキスト、専門書が多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。それ以外に下記の文献もあるので参考にすること。
『社会福祉援助技術論Ⅰ』（全国社会福祉協議会）ほか

更生保護制度論

2単位：後期1コマ	2年
西原　雄次郎	

[到達目標]
①我が国の更生保護制度の概要を理解し、その中でソーシャルワーカーがどの様に貢献しているかを知り、今後のあるべき方向について一定の意見を形成する事が出来るようにする。
②司法福祉という考え方との関連についても理解する。

[履修の条件]
①2～4年生で各自の履修プランにしたがって自由に履修可能である。
②社会福祉士国家試験の出題範囲の科目である。

[講義概要]
①更生保護制度を中心に、司法における福祉活動の全体を概観する。
②犯罪・司法統計や犯罪事例等を活用して、巷間に流布されて

いる間違った常識ではなく、出来るだけ正確な知識の習得に資することを前提に講義を展開する。
③新聞や雑誌に掲載されている関連情報を積極的に活用する。

■授業計画

第1回　更生保護制度と司法福祉1
　　オリエンテーション‥司法福祉の中の更生保護
第2回　更生保護制度と司法福祉2
　　先駆者の実践から学ぶ①
第3回　更生保護制度と司法福祉3
　　先駆者の実践から学ぶ②
第4回　近年の犯罪統計から学ぶ
第5回　更生保護制度の概要Ⅰ…刑事司法と更生保護制度
第6回　更生保護制度の概要Ⅱ…少年司法と更生保護制度
第7回　更生保護制度の概要Ⅲ…更生保護を担う機関
第8回　更生保護制度の概要Ⅳ…更生保護制度の担い手①
第9回　更生保護制度の概要Ⅴ…更生保護制度の担い手②
第10回　更生保護制度と高齢累犯者
第11回　更生保護制度と累犯障がい者
第12回　更生保護と被害者支援
第13回　死刑制度を考える
　　…更生保護の視点でどう考えたら良いのか…
　　…ライファーズ…
第14回　各種虐待事件と司法福祉
　　民事司法と司法福祉
第15回　まとめ
第16回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
成績評価の「その他20％」は、各授業時に提出されるリアクション用紙への記入内容や、授業への参加度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
①日常の社会福祉の学習の中には出てこない専門用語が数多く使われるので、下記テキストを参照して事前・事後学習をすることが不可欠である。
②各授業前後に4時間の予習・復習が必要であり、合計で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
①リアクション用紙に記載された内容に対するフィードバックは、次回の授業時に行う。
②その他の質問等への対応も授業時を中心に行う。
③試験は、講義中に提供された知識・考え方を問うものである。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本講義を通して、受講者は、本学のディプロマポリシーに記された「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」の一端を身に付けることになる。

［テキスト］
中央法規出版発行『更生保護制度』をテキストとして使用する。。

［参考文献］
①授業の都度担当者が作成した補足資料を配布する。
②法務省による『犯罪白書』『犯罪被害者白書』等と、最高裁判所、法務省、厚生労働省等のホームページで公開されている各種通知や最新の統計資料を用いる。
③日々の新聞等の犯罪報道に注意し、更生保護・司法福祉の視点で読む努力をしてもらいたい。

人体の構造と機能及び疾病

2単位：前期1コマ	2年
市川　雅子	

［到達目標］
社会福祉士や精神保健福祉士、及び公認心理師などの試験を受ける際に必要な医学知識を主に、人体の基本的な構造と働き、重要な疾患や障害、我が国の保健医療対策や統計などについて理解する。

［履修の条件］
社会福祉士と精神保健福祉士、及び公認心理師などを受験する予定の学生と、医学について広く学びたい学生を対象とする。
初回授業までに各自でテキストを購入しておくこと。

［講義概要］
社会福祉士及び精神保健福祉士は、福祉の専門職として、そして臨床心理士や公認心理師は心理の専門職として、医師や看護師などの医療職とともにチーム医療の中で大きな役割を担っている。しかし、疾病や障害を抱えた人と関わっていくため、医学的な基礎知識を持つことは必要かつ重要なことである。また、医療機関のみならず福祉施設やNPOなどで働く場合でも同様のことが言える。将来、そのような分野で働く際に必要な、心身機能と身体構造、そして基本的な医学知識をこの講義で取り扱っていく。しかし、それはまた、一般の日常生活の中でも役立つことも含まれ、将来専門職として働かない場合でも、この講義を受けることによって得るものは多いと考える。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　人の成長、発達、老化
第2回　人の成長、発達、老化
　　人体の構造と機能1：血液
第3回　人体の構造と機能1：循環器系・腎泌尿器系
第4回　人体の構造と機能2：呼吸器系・消化器系・神経系
第5回　人体の構造と機能3：内分泌系・生殖器系・支持運動器官・皮膚感覚器系
第6回　疾病の概要1：生活習慣病、悪性新生物、脳血管疾患
第7回　疾病の概要2：心疾患、高血圧、糖尿病、
第8回　疾病の概要3：呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患、腎泌尿器疾患

第9回　疾病の概要4：骨関節疾患、目と耳の疾患、感染症
第10回　疾病の概要5：神経疾患、難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療
第11回　障害の概要1：視覚・聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害
第12回　障害の概要2：認知症、高次脳機能障害
第13回　障害の概要3：精神障害
第14回　リハビリテーションと国際生活機能分類（ICF）
第15回　公衆衛生と統計
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（70％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業のスピードがかなり早いため、テキストをあらかじめ読んでおくことが望ましい。また、覚えることも多いので復習し自分なりに授業内容をまとめること。
本科目では、各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
講義内で行う小テストの解答と解説、総評については、テスト終了直後に解答＆解説集のプリントを配布し、次回の授業初めにも行う。
前期テストに関しては、テスト終了後に解答＆解説集のプリントを配布する。なお、採点した小テスト及び前期テストは、後日各自に返却する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって、人間の体の働きを知り、基本的な医学知識を身につけることができる。

［ テキスト ］
新・社会福祉士養成講座1
人体の構造と機能及び疾病［第3版］（2015年2月改訂）　中央法規出版
＊もし、2018年3月までに、第4版が出た時には、第4版をテキストとするが、第3版も使用できるよう配慮する予定。

［ 参考文献 ］
①国民衛生の動向2017/2018
②プリント：必要に応じて配布する。

［ 備考 ］
小テストは、講義の進行状況をみながら講義枠内で行う。
今年度から、初回授業よりテキストを使うので、各自必ず準備をしてくること。
更に、小学校から高校までに習う生物の基本的な知識は理解しているものという前提で授業を進めるので、不安がある場合には市販の参考書などで見直しておくこと（特に、遺伝と遺伝子）。

精神保健

2単位：後期1コマ	1年
海老島　健	

［ 到達目標 ］
心理職・福祉職に必要な精神保健の知識を獲得する

［ 履修の条件 ］
履修登録を行った者

［ 講義概要 ］
教科書に沿って進めていきます。

■授業計画
第1回　精神保健の概要と課題
第2回　精神の健康とその要因
第3回　精神の健康への関与と支援
第4回　精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（1）
第5回　精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（2）
第6回　精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（1）
第7回　精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（2）
第8回　精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（1）
第9回　精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（2）
第10回　精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割（1）
第11回　精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割（2）
第12回　精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（1）
第13回　精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（2）
第14回　地域精神保健に関する諸活動
第15回　諸外国の精神保健活動の現状及び対策
第16回　試験

［ 成績評価 ］
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
教科書の該当箇所を読む。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
試験の解答は紙面にて公表する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、精神保健に関わる現代社会の問題を知り、人間の好ましいあり方について検討することを通して、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

［テキスト］
新・精神保健福祉士養成講座「精神保健の課題と支援」（中央法規・2,700円）

精神疾患とその治療

2単位：後期1コマ	2年
海老島　健	

［到達目標］
心理職・福祉職に必要な精神医学の知識を獲得する

［履修の条件］
履修登録を行った者

［講義概要］
教科書に沿って進めていきます。

■授業計画

第1回　精神医学の定義、歴史
第2回　精神障害の原因と分類
第3回　主要な精神・神経症状
第4回　精神障害の診断と検査
　診断の進め方・面接と問診・心理的検査・医学的検査について学ぶ
第5回　治療とケア
　古典的治療法・薬物療法について学ぶ（向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化）
第6回　治療とケア
　心理療法・リハビリテーションについて学ぶ
第7回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（1）
　（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）
　器質性精神障害について学ぶ
第8回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（2）
　アルコール・精神作用物質による精神障害について学ぶ
第9回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（3）
　統合失調症および妄想性障害について学ぶ
第10回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（4）
　感情（気分）障害について学ぶ
第11回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（5）
　心因性精神障害・人格障害・性的異常について学ぶ
第12回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（6）
　小児期・思春期精神障害について学ぶ①
第13回　精神疾患総論　主要な精神障害の特徴とその対応（7）
　小児期・思春期精神障害について学ぶ②
第14回　医療機関との連携（1）
　精神保健福祉法について学ぶ
第15回　医療機関との連携（2）
　精神医療における倫理的問題について学ぶ
第16回　試験

［成績評価］
試験（100％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
教科書の該当箇所を読む。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
試験の解答は紙面にて公表する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、精神医学的立場から精神疾患を捉えなおし、その治療のアウトラインを知ることができる。

［テキスト］
新・精神保健福祉士養成講座「精神疾患とその治療」（中央法規出版・2,700円）

［参考文献］
柄澤昭秀「精神医学入門」（中央法規出版・2,200円）

［備考］
授業内容が変更される場合があります。

ターミナルケアとグリーフワーク

2単位：後期隔週2コマ	2〜4年
加藤　純	

［到達目標］
ターミナルケアとグリーフワークにおける人の尊厳の保持の必要性、人の生き方の尊重など、理論と方法を習得するプロセスを経て、理解力を深める。

［履修の条件］
コースを問わず2年生から4年生を対象とします。この科目は現場実習の準備教育または事後教育の一環として組み入れているため、実習やインターンシップに参加を予定している学生・参加した学生は、ぜひ履修してください。講義の他に、体験学習や討論形式を採用するため、事前準備・事後学習として文献による学習が求められます。

［講義概要］
開講方法）おおよそ隔週で1回につき2コマ開講します。2018年度の開講予定日は、9月26日、10月10日・17日、11月14日・21日・28日、12月12日、2019年1月16日です。
授業内容）人との関わりを取り上げ、人の尊厳の保持について、

宗教的、哲学的、心理的、社会的、芸術的、精神的、物理的、身体的側面から考えます。喪失体験や喪の作業を中心に実践でのさまざまな専門家による、生と死について、人の生きざまについて理解させる。このような人たちに出会う機会を通して、人の理解や存在価値について考えます。
下記の授業日程は変更される場合があります。初回授業の際に授業日程表を配布します。

■授業計画

第1回　喪失とソーシャルワーク体験
第2回　特養におけるターミナルケア（常勤医の立場から）
第3回　スピリチュアルニーズとスピリチュアルケア
第4回　音楽による看取りのケア
第5回　最近の喪失の概念の発展について
第6回　喪失体験者のたどるプロセス
第7回　死に直面した人への精神的援助
第8回　震災による喪失と支援（仮題）
第9回　患者の知る権利と告知
第10回　ホスピスにおけるソーシャルワーク
第11回　芸術表現と芸術療法Ⅰ
第12回　芸術表現と芸術療法Ⅱ
第13回　子どもの死別体験とグリーフサポート
第14回　子どもからみならっていること
第15回　まとめの必要性
第16回　最終レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（10%）

［成績評価（備考）］
出席日数、学期中のレポートの提出などで総合的に評価する。
課題提出は毎回の授業へのフィードバック。
その他には、参加態度、意見交換を含む。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
テキストや参考文献などにより予習・復習することを薦めます。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
各回のフィードバックおよび期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はフィードバック用紙やレポートに明記してください）。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目では、人のいのちと生き方を尊ぶ基本姿勢と、全人的なケアに必要な知識について学びます。

［テキスト］
これまでの講義をまとめたテキスト（1冊1,000円、残部少）を、学生支援センターで購入できます。

［参考文献］
各講師から追加資料として、参考文献が提示されます。

［備考］
2018年度から隔年開講とします。2019年度は開講しません。
2018年度の次は2020年度に開講します。

聴覚障害者のコミュニケーション

2単位：後期1コマ	1〜4年
中野　佐世子	

［到達目標］
聴覚障害者の抱える問題を通して、様々な障害を持つ人々の二次的・三次的な障害についても気づき、考える力を身につける。
聴覚障害者（重複障害者を含む）との基本的なコミュニケーション方法を知る。
手話で挨拶や自己紹介などの表現ができる。

［履修の条件］
聴覚障害者（重複障害者を含む）とのコミュニケーション手段（手話、口話他）について高い関心があり、受講生同士のコミュニケーションを積極的に取れる学生を対象とする。1回目から出席すること。

［講義概要］
今日本で、どのような人達が「障害者」に認定されているのか。
その中で聴覚障害者はどの様な問題を抱えているか。
コミュニケーションとは、まず相手のことを正しく知り、理解することから始まる。
この講義では様々な障害者の多様なコミュニケーション手段を実践し、その障害の本質を学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の方針、講義の内容、進め方、使用するテキストについて）
　　手話とは
第2回　障害（障碍・障がい）とは
　　障害の概念、歴史的変遷
第3回　障害者とは　現在日本で認定されている障害の種類
　　＜街の中にある色々なマークから、自身の認識を振り返る＞
第4回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅰ
　　読話、発語
第5回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅱ
　　筆談、補聴器
第6回　聴覚障害者とのコミュニケーション手段Ⅲ
　　手話、指文字
第7回　手話通訳者を取り巻く環境から考える聴覚障害者の現状
　　（教育、労働、家庭生活）
第8回　視覚障害とは　視野狭窄、色弱、視力障害
　　ユニバーサルデザイン
第9回　視覚障害者への接し方　（ガイドヘルプ、食事の仕方等）

DVDの視聴
第10回　視聴覚障害者（盲ろう者）とは
見えなくて聞こえないという障害の重さと可能性
第11回　視聴覚障害者とのコミュニケーション手段
指点字、ブリスタ、触手話、触指文字他
DVDの視聴
第12回　肢体不自由者とは
見える障害と見えない問題
DVDの視聴
第13回　知的障害、発達障害の特性
（ダウン症、自閉症、アスペルガー、学習障害他）
DVDの視聴
第14回　知的障害者、発達障害者とのコミュニケーション
第15回　まとめ
先天性障害者と中途障害者の抱える問題の相違点
太平洋戦争中の障害者
補助犬法（盲導犬、聴導犬、介助犬）
第16回　試験

［成績評価］
試験（40%）、レポート（30%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

［成績評価（備考）］
毎回講義後に考察・感想をリアクションペーパーに記載する。
それらをもとに習熟度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回手話の実技を行う。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーにコメントを記載し、ぞの内容を次回の講義時に全体に向けてフィードバックする

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、聴覚障害者や聴覚の重複障害者とのコミュニケーション姿勢や技術を身に付けることができる。

［テキスト］
講義の初めにテキスト（非売品、中野作成）の申し込みを受け付ける。

［参考文献］
「手話ソングブック1」すずき出版　中野佐世子共著
「手話ソングブック2」　〃
「手話ソングブック3」　〃
「手話ゲームブック」　〃

［備考］
講義は必ず初回から出席すること。

社会福祉特講 A

2単位：後期1コマ	4年
髙山　由美子、浅野　貴博、廣瀬　圭子	

［到達目標］
社会福祉士国家試験受験科目のうち、専門科目についての必要な知識を獲得する。

［履修の条件］
社会福祉士国家試験の受験を予定していること。

［講義概要］
社会福祉士国家試験の受験に必要な知識を獲得することを目的として、社会福祉士の国家試験科目の中から、専門科目を中心に取り上げる。
なお、取り上げる科目の順序は変更する場合がある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　社会福祉士国家試験受験の心構え
第2回　小テスト（模擬試験）①
第3回　小テスト（模擬試験）②
第4回　相談援助の基盤と専門職
第5回　相談援助の理論と方法①
第6回　相談援助の理論と方法②
第7回　高齢者に対する支援と介護保険制度
第8回　児童や家庭に対する支援児童・家庭福祉制度
第9回　福祉サービスの組織と経営
第10回　就労支援サービス
第11回　社会福祉調査
第12回　更生保護制度論
第13回　小テスト（模擬試験）③
第14回　小テスト（模擬試験）④
第15回　小テスト（模擬試験）⑤
第16回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
評価は授業内に実施する小テストと授業への参加状況によって行う。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。
社会福祉士国家試験に合格するためには講義以外での自主的な学びが不可欠であるので、自身の受験勉強計画をしっかりと立て、継続的な学びをしていることを前提に出席すること。
次回取り上げる科目については、必ず予習をしておくこと。

［試験・レポート等のフィードバック］
授業時の質問等については適宜対応し、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識と技術、課題解決力を身につける。

[テキスト]
指定しない

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

[備考]
「その他」として、授業での回答を求める。

社会福祉特講 B

2単位：後期1コマ	4年
古寺　久仁子、浅野　貴博、廣瀬　圭子、大曲　睦恵	

[到達目標]
精神保健福祉士国家試験に合格できる力を付ける。
精神保健福祉士として活動するときに必要な法律、制度、技術を整理し、理解する。

[履修の条件]
4年生で、精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の者。
毎回、事前学習を行い、授業に参加する者。

[講義概要]
精神保健福祉士国家試験の「専門科目」について、過去問の回答状況、理解できていること、理解できていないことを確認しながら、講義を行う。
精神保健福祉士として活動するときに必要となる法律、制度、技術について整理し、理解を深める。

■授業計画

第1回　授業の方針、模擬試験
第2回　模擬試験
第3回　精神疾患とその治療（精神医学）1
第4回　精神保健福祉に関する制度とサービス1<歴史>
第5回　精神保健福祉相談援助の基盤1<医療機関>
第6回　精神疾患とその治療（精神医学）2
第7回　精神保健福祉の理論と相談援助の展開1　地域移行、地域定着
第8回　精神保健の課題と支援（精神保健）1<家族、学校問題、発達障害者支援法>
第9回　精神障害者の生活支援システム1<居住支援、就労支援>
第10回　精神保健福祉に関する制度とサービス2<社会保障、相談支援事業所、更生保護制度>
第11回　精神保健福祉相談援助の基盤2<多職種連携、医療機関における精神障害者リハビリテーション>
第12回　精神障害者の生活支援システム2<精神保健福祉相談員、精神保健福祉センター、精神医療審査会、精神保健審議会>
第13回　精神保健福祉の理論と相談援助の展開2<精神保健福祉士法、自殺対策基本法>
第14回　精神保健の課題と支援（精神保健）2<勤労、現代社会　ひきこもり等>
第15回　ふりかえり
第16回　試験

[成績評価]
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
参加型授業への貢献度を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要となる。合計15回の授業で60時間必要となる。授業までに、指定した過去問を自分で解答してみること。また、授業後、正答できなかった問題については、その内容と理由について再確認し、復習すること。精神保健福祉に関係する法律、制度、サービス、統計、疾病等の確認をすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実施してきた過去問に対するフィードバックは、必要に応じ講義の中で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、精神保健福祉士に必要な知識を包括的・総合的に復習し、統括していくことになる。それにより、学習をすすめられるようになる。

[テキスト]
『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』、『精神保健福祉士国家試験受験ワークブック（専門科目編）』、最新版。中央法規出版。予定。（授業開始時に周知する。）

[参考文献]
『精神保健福祉白書』中央法規出版。
その他、推薦図書を授業内で紹介する.

社会福祉と国際協力

2単位：前期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
本科目は、国際協力を実践する上で必要な社会・経済開発理論、知識や価値感を習得します。また、国境を越えた社会福祉開発課題の解決への取り組みについて事例検討することで、ワーカーの役割を理解することができるようになります。

[履修の条件]
授業では、資料、ビデオなどの視聴覚教材以外に、人数を考慮してワークショップ形式を取り入れていくので、グループ活動への

積極的な参加を条件とします。国際協力の実践を社会福祉の視点から学びたいと考えている学生諸君の参加を期待します。海外インターンシップで実習を考えている場合は、必ず履修してください。

[講義概要]
「社会福祉と国際協力」では、対象社会の単位を地球社会(Global Society)と位置づけています。地球社会では、一日1ドル以下の収入で生活する家族、ストリートチルドレン、児童労働、予防できる感染症による死亡、民族紛争、環境破壊など反福祉的状況が存在しています。世界人口70億人の内、3分の2を占める人々は開発途上国に暮らしています。雇用、保健、栄養、教育、居住環境など、基本的な生活ニーズを満たせないこれらの人々の福祉は、国境を越えて暮らす先進国社会の私達の課題でもあります。いくつかのテーマを取り上げ、現場での取組みと日本の国際協力のあり方について NGO スタッフの講義も含まれています。21世紀の福祉は「国家」という枠組みから「世界」という枠組みに移行し、国際主義を再構築することが人類には求められています。是非、「福祉国家」を超え、「福祉世界」の思想と国際協力の在り方を一緒に考えてみましょう。

■授業計画
第1回　授業の概要及び進め方
第2回　地球社会と人権
第3回　「開発」という概念の変遷
第4回　人間の安全保障
第5回　持続可能な開発と目標
第6回　貧困問題と国際協力
第7回　健康問題と国際協力
第8回　難民問題と国際協力
第9回　ストリートチルドレン問題と国際協力
第10回　人身売買と国際協力
第11回　災害と国際協力
第12回　実践事例の検討
第13回　実践事例の検討
第14回　実践事例の検討
第15回　まとめ
第16回　社会福祉の国際協力について

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対してコメントするとともに、授業の中でフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
グローバルな課題に対して、人間の尊厳、相互理解、地球規模の共生社会を国際福祉の視点か考える。事例検討を通して問題、分析、解決の方法を学び、国際協力の理解を深める。グループワークを通じて、参加者同士のコミュニケーション能力を高める機会を提供する。

[テキスト]
授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介します。

[参考文献]
適宜紹介します。

社会保障論 I

2単位：前期1コマ	2年
金子　和夫	

[到達目標]
社会保障制度の全体像を説明でき、かつ、少子高齢社会の進展と社会保障制度の改正を関連づけることができるようにする。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅱ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

[講義概要]
社会保障の歴史を中心に、理念・範囲・機能について概観し、次に、社会保障給付費を中心に社会保障の財政について、また、社会保障の各制度の概要などについても説明するとともに、今日の社会保障制度に大きな影響を与える少子高齢社会の状況を明らかにする。その後、社会保障の各論としての労災保険制度、雇用保険制度、生活保護制度などについて、また、民間保険の概要などについて指摘する。

■授業計画
第1回　社会保障の展開(外国での発展過程)
第2回　社会保障の展開(日本での発展過程)
第3回　社会保障の理念・範囲・体系
第4回　社会保障の財源と費用
第5回　少子高齢社会の動向
第6回　少子高齢社会と労働環境
第7回　社会保険以外の制度(生活保護制度など)
第8回　社会保険以外の制度(社会手当制度など)
第9回　労災保険制度(概要)
第10回　労災保険制度(保険給付)
第11回　労災保険制度(課題)
第12回　雇用保険制度(概要)
第13回　雇用保険制度(保険給付)
第14回　雇用保険制度(課題)
第15回　民間保険
第16回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
少子高齢社会や人口減少社会、社会保障財政、労災保険や雇用保険、生活保護や社会手当などについては、新聞記事や TV ニュースなどで数多く見受けられるので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
テキストは使用せず、講義資料を配布する。

[参考文献]
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>(中央法規)
『社会保障』<新社会福祉学習双書>(全国社会福祉協議会)
『保険と年金の動向』(厚生統計協会)
『厚生労働白書』(日経印刷)
『社会保障入門』(中央法規)
『はじめての社会保障』(有斐閣)
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

[備考]
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

社会保障論 II

2単位：後期1コマ	2年
金子　和夫	

[到達目標]
少子高齢社会の進展に伴い、制度改正が継続的に行われ、かつ、制度内容が複雑・多岐にわたっている社会保険制度の概要を説明できるようにする。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験、公務員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅰ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

[講義概要]
社会保障制度の中心となる年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要およびそれらの問題点・課題について指摘する。年金保険制度は、全国民を対象とする国民年金、民間企業の一般被用者を対象とする厚生年金保険、医療保険制度は、地域住民対象の国民健康保険、民間企業の被用者を対象とする健康保険を中心に、そして介護保険制度について述べる。

■授業計画
第1回　年金保険制度の概要
第2回　国民年金保険制度
第3回　厚生年金保険制度
第4回　その他の年金関連制度
第5回　年金保険制度の動向・課題
第6回　医療保険制度の概要
第7回　健康保険制度
第8回　国民健康保険制度
第9回　高齢者医療制度
第10回　医療保険・医療制度の動向・課題
第11回　介護保険制度の概要
第12回　介護保険制度における保険給付
第13回　介護保険制度の財源と負担
第14回　介護保険制度の動向・課題
第15回　各国の社会保障制度の概要
第16回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
年金保険、医療保険、介護保険は、少子高齢社会・人口減少社会の進展において重要な政策課題であり、新聞記事や TV ニュースで取り上げられない日はないので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
テキストは使用せず、講義資料を配布する。

[参考文献]
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>(中央法規)
『社会保障』<新社会福祉学習双書>(全国社会福祉協議会)
『保険と年金の動向』(厚生統計協会)
『厚生労働白書』(日経印刷)
『社会保障入門』(中央法規)
『はじめての社会保障』(有斐閣)
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

[備考]
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

地域支援技法Ⅰ

2単位：前期1コマ	4年
山口　麻衣、和田　敏明、秋貞　由美子、長島　明子	

[到達目標]
地域住民とともに地域の課題について考え調査しまとめるプロセスを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

[履修の条件]
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②後期に開講される「地域支援技法Ⅱ」を合わせて受講すること。「地域支援技法Ⅰ」のみの受講は認めない。
③この科目は、「地域支援技法Ⅱ」とあわせて、土曜日3限および4限で、7月～1月のうち15回不定期に開講する。また、これ以外の日程でグループ学習が行われる場合もある。その授業すべてに出席できること。詳細日程は4月に提示する。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業につくことを目指していること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

[講義概要]
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、3市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域の社会資源や福祉課題について考え、小グループに分かれて実際に地域で展開されている活動を調査し、まとめて発表する。

■授業計画
第1回　これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割
第2回　地域で役立つ社会資源を発見する
第3回　地域の福祉課題を考える(1)
第4回　地域の福祉課題を考える(2)
第5回　地域でサポートするときの人とのかかわり方を学ぶ(1)
第6回　地域でサポートするときの人とのかかわり方を学ぶ(2)
第7回　地域で実際に展開されている活動を知る(1)
第8回　地域で実際に展開されている活動を知る(2)
第9回　地域の福祉課題を調査する−ヒアリング項目を考える(1)
第10回　地域の福祉課題を調査する−ヒアリング項目を考える(2)
第11回　フィールドワーク−現地調査(1)
第12回　フィールドワーク−現地調査(2)
第13回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる(1)
第14回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる(2)
第15回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる(3)
第16回　報告会にむけてヒアリングの結果をグループでまとめる(4)

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法の内訳は、フィールドワークへの参加状況30%、授業・報告会への貢献度30% である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、またはフィールドワークに欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
三鷹市・小金井市・武蔵野市の3市の福祉行政および社会福祉協議会の事業について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに

地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーとしての知識と技術を体験的に学ぶ。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

地域支援技法 II

2単位：後期1コマ	4年
山口　麻衣、和田　敏明、秋貞　由美子、長島　明子	

[到達目標]
地域住民とともに「新たな支えあい活動」を企画開発することを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

[履修の条件]
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②前期に開講される「地域支援技法Ⅰ」を合わせて受講すること。「地域支援技Ⅱ」のみの受講は認めない。
③この科目は、「地域支援技法Ⅰ」とあわせて、土曜日3限および4限で、7月～1月のうち15回不定期に開講する。また、これ以外の日程でグループ学習が行われる場合もある。その授業すべてに出席できること。詳細日程は4月に提示する。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業につくことを目指していること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

[講義概要]
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、3市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域の社会資源や福祉課題について考え、小グループに分かれて実際に福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画し、まとめて発表する。

■授業計画

第1回　地域の福祉課題について調査結果を報告する(1)
第2回　地域の福祉課題について調査結果を報告する(2)
第3回　地域福祉の推進に向け活動の計画をたてる手法を学ぶ(1)
第4回　地域福祉の推進に向け活動の計画をたてる手法を学ぶ(2)
第5回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(1)
第6回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(2)
第7回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(3)
第8回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(4)
第9回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(5)
第10回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(6)
第11回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(7)
第12回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(8)
第13回　福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動を企画する(9)
第14回　「新たな支えあい」活動企画発表会(1)
第15回　「新たな支えあい」活動企画発表会(2)
第16回　課題提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法の内訳は、活動企画演習への参加状況30%、授業・報告会への貢献度30%である。
なお、4回以上授業を欠席した場合、または活動企画演習に欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
三鷹市・小金井市・武蔵野市の3市の福祉行政および社会福祉協議会について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーとしての知識と技術を体験的に学ぶ。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

福祉行財政と福祉計画

2単位：集中	3年
金子　和夫、市川　一宏	

[到達目標]
福祉専門職として理解しておかなければならない、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について説明できるよう

にする。また、社会福祉士国家試験や公務員採用試験などに対応するとともに、地域において活動できる知識を身につける。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格の指定科目であり、受験希望者は必ず履修すること。また、将来公務員その他行政関連の組織・団体・機関を目指す者も履修してほしい。

[講義概要]
前半では、福祉行財政の実施体制である国・都道府県・市町村、その他関係組織・団体・専門職の役割や関係、および、福祉政策において重要な課題となる福祉財政についてその現状や問題点、課題を理解する。後半では、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について学び、福祉計画の運営全般を理解する。

■授業計画
第1回　福祉行政における国・地方自治体の役割
第2回　福祉行政と地方分権
第3回　福祉の財源（国と地方自治体）
第4回　福祉の財源（保険料、民間の財源）
第5回　福祉行政の組織の役割（福祉事務所他）
第6回　福祉行政の組織の役割（児童相談所他）
第7回　福祉行政における専門職の役割
第8回　福祉行財政の動向
第9回　福祉計画の意義と目的
第10回　福祉計画における住民参加の意義
第11回　福祉行財政と福祉計画の関係
第12回　福祉計画の主体と種類
第13回　福祉計画の策定過程・策定方法と留意点
第14回　福祉計画の評価方法・福祉計画の実際
第15回　まとめ
第16回　試験

[成績評価]
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目に限らず、社会福祉の専門科目で学ぶ専門機関や専門職に関心を持つとともに、新聞記事やTVニュースなどで福祉行財政について調べ、かつ、関係する自治体の策定する福祉計画について、その策定過程を含めて調べてみること。また、テキストや配布された資料により必ず予習・復習をすること。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

[テキスト]
市川・宇野・野口編『福祉行財政と福祉計画』MINERVA社会福祉士養成テキストブック9（ミネルヴァ書房、最新版）

[参考文献]
『福祉行財政と福祉計画』（中央法規）
『概説　福祉行財政と福祉計画』（ミネルヴァ書房）
上記以外にもテキストが出版されており、また、行財政についても多くの文献があるので、自分で使いやすい文献を利用すること。

福祉サービスの組織と経営

2単位：後期1コマ	3年
山口　麻衣	

[到達目標]
①福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論を学び、福祉サービスに係る多様な組織や団体の経営や連携について理解を深める。

[履修の条件]
原則的には3, 4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
ソーシャルワークとして働く上で、組織に属しながら、多職種・多機関との連携を含め、組織のマネジメントや人的資源のマネジメントに携わることも多く、マネジメントを理解する重要性が指摘されている。講義では、モチベーション、リーダーシップなどの組織論を学びながら、福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治体など）の経営の実際やサービスの質の向上にむけた課題について、学生自身が単に知識を習得するだけでなく、将来、組織で働くことを意識して考えるような授業展開としたい。

■授業計画
第1回　講義の目的と意義、福祉サービスにおける組織と経営
第2回　福祉サービスに係る多様な組織（1）法人とは、社会福祉法人
第3回　福祉サービスに係る多様な組織（2）NPO法人、その他の法人
第4回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（1）戦略・事業計画
第5回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（2）組織・経営
第6回　福祉サービスと経営に係る基礎理論（3）管理運営
第7回　福祉サービスと経営に係る基礎理論（4）集団力学・リーダーシップ
第8回　福祉サービス提供組織の経営と実際　経営体制
第9回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（1）サービス管理
第10回　福祉サービスの管理運営の方法と実際（2）リスク管理

第11回　福祉サービスの管理運営の方法と実際(3)人事・労務管理
第12回　福祉サービスの管理運営の方法と実際(4)人材育成
第13回　福祉サービスの管理運営の方法と実際(5)財務管理
第14回　福祉サービスの管理運営の方法と実際(6)情報管理
第15回　全体のまとめ
第16回　期末試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として、授業での回答を求める。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
復習として復習のためのまとめシートをやること、予習・復習として教科書を読むこと、自分のテーマにあわせて、参考文献を読むことを薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。福祉サービスの組織と経営に関する学びを深めることにより、福祉サービスに関する本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
社会福祉士養成講座編集委員会偏(2017)『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営』第5版, 中央法規.

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

社会福祉調査

2単位：後期1コマ	3〜4年
山口　麻衣	

[到達目標]
①社会福祉に従事する専門家に必要な社会福祉援助技術の一つである社会福祉調査に関する基礎知識を養う。
②社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。

[履修の条件]
原則的には3、4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
本講義では、まず、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、統計法の概要も含め、社会調査法の基本を学ぶ。さらに、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。その上で、社会福祉調査における量的調査法と質的調査法ついて、具体的な調査方法や分析方法を学ぶ。

■授業計画
第1回　講義の目的と意義、社会福祉と社会調査
第2回　社会福祉調査の概要(目的・意義・課題)
第3回　統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護
第4回　社会福祉調査における量的調査法の概要
第5回　量的調査における仮説構築と検証、サンプリング
第6回　量的調査における測定、変数と尺度、質問紙作成方法
第7回　量的調査におけるデータ分析・IT 活用方法(1)
第8回　量的調査におけるデータ分析・IT 活用方法(2)
第9回　集団比較実験計画法・シングル・システム・デザイン
第10回　社会福祉調査における質的調査法の概要
第11回　質的調査の手法、面接法・観察法、フィールドワークなど
第12回　質的調査における記録の方法と留意点
第13回　質的調査のデータの整理と分析
第14回　ニーズ調査、プログラム評価、アクションリサーチ、参加型調査
第15回　ミックス法、社会福祉調査の展望、全体のまとめ
第16回　期末試験

[成績評価]
試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として授業での積極的な参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストの予習・復習を薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。社会福祉に関する調査方法の基本を学ぶことにより、福祉ニーズや実態の把握し、実証的に分析し、実践の解決策への示唆を提言できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
塩谷有二・杉澤秀博・武田丈編(2010)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック　社会調査の基礎』初版, ミネルヴァ書房. 2,730円

[参考文献]
社会福祉士養成講座編集委員会編(2013)『新・社会福祉士養成講座5　社会調査の基礎』第3版, 中央法規. 2,376円,『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』, 春秋社, 2,625円.
その他の参考文献は授業で紹介する。

福祉実践調査

2単位：前期1コマ	4年
山口　麻衣	

[到達目標]
①実際に調査のプロセスを体験することを通じて、社会福祉調査・分析のスキルを学ぶ。
②将来、現場実践において何らかの社会福祉調査を行う際の基本的知識とスキルを習得する。

[履修の条件]
原則的には社会福祉調査を履修した者が本講義の履修対象だが、その他の人は個別に相談。実践への調査スキルの活用が目的なので幅広く履修してほしい。特に、実践におけるアクション・リサーチの手法を学びたい学生、量的・質的調査や実践調査の一連の流れを自分で実際に体験してみたい学生が履修することを薦める。調査スキルを学ぶため、卒業論文やゼミ論等において何らかの調査を実施することを考えている学生や将来大学院進学を考えている学生にも薦める。

[講義概要]
地域における福祉実践において、アクション・リサーチや当事者参加型の調査を実践に活用する重要性が高まってきた。ニーズ調査やプログラム評価も実践に欠かせない。福祉専門職として、実践に調査スキルを有することが期待されている。本講義では、アクションリサーチや参加型調査の手法の演習、量的・質的調査演習など、受講生の研究関心も考慮しながら、福祉実践調査の具体的な内容について学ぶ。実際の調査演習による体験的な学びを重視する。

■授業計画
第1回　講義の目的と意義・アクション・リサーチと参加型調査の概要(1)
第2回　アクション・リサーチと参加型調査の概要(2), 実践的な調査のプロセス
第3回　グループディスカッション(1)アクション・リサーチの調査デザイン
第4回　グループディスカッション(2)プログラム評価・実践評価の調査デザイン
第5回　調査演習(1)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第6回　調査演習(2)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第7回　調査演習(3)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第8回　調査演習(4)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第9回　調査演習(5)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第10回　調査演習(6)(アクションリサーチ・実践調査・プログラム評価・実践評価・量的/質的方法)
第11回　データ分析演習(1)
第12回　データ分析演習(2)
第13回　グループディスカッション(3)討議と発表
第14回　グループディスカッション(4)討議と発表
第15回　全体のまとめ(最終報告会)
第16回　全体のまとめ(レポート)

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として、授業・演習での発表・主体的取り組みを求める。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
自分のテーマにあわせて、参考文献を読むことを薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。福祉実践調査の具体的な内容について演習により体験して学ぶことにより、実践力、分析力を養い、将来、調査スキルを実践に活用できるようになるためのスキルと知識を得る。

[テキスト]
笠原千絵・永田祐編著(2013)『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』春秋社, 2625円.

[参考文献]
武田丈(2015)『参加型アクションリサーチ(CBPR)の理論と実践　社会変革のための研究方法論』世界思想社4300円　ストリンガー(2012)『アクション・リサーチ』星雲社　4000円,　塩谷有二・杉澤秀博・武田丈編(2010)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック⑤　社会調査の基礎』初版, ミネルヴァ書房. 2,730円
社会福祉士養成講座編集委員会編(2010)『新・社会福祉士養成講座5　社会調査の基礎』第3版, 中央法規. 2,376円,
その他の参考文献は授業で紹介する。

地域開発総論

2単位：前期1コマ	4年
金子　和夫、原島　博、山口　麻衣、市川　一宏	

[科目補足情報]
オムニバス方式

[到達目標]
①地域課題や地域福祉に従事者間の多様な連携、ネットワークなどを総合的・多面的に理解する。
②多文化共生の地域社会づくりと生活基盤の開発する力を養う。

[履修の条件]
地域福祉開発コースの学生は最終年度に履修すること。

[講義概要]
これまでの学びを統合し、誰もが地域でその人らしく安心して暮らす事ができる多文化共生の地域社会づくりと生活基盤を開発する力を養う。オムニバス方式で、地域福祉、地域開発方法、国際開発、地域人材育成の4つのテーマごとに、具体的な実践事例、地域事例をもとに、地域の様々に課題にどう取り組んでいるのか、困難を伴う課題は何か、どう対処しているのかなどを体系的に学ぶ。

■授業計画

第1回　講義の目的と意義、
【地域開発方法論1】地域の福祉実践課題を考える
第2回　【地域開発方法論2】地域で暮らす人の思いやニーズを把握する方法
第3回　【地域開発方法論3】地域で暮らす人を支える多様な人々（住民、ボランティア、NPO など）の間での連携を促す手法
第4回　【地域開発方法論4】地域におけるプログラム開発法
第5回　【地域福祉論1】生活困窮者自立支援
第6回　【地域福祉論2】社会的擁護
第7回　【地域福祉論3】地域包括支援システム、介護保険の総合事業
第8回　【国際開発論1】人間開発（HD）と持続可能な開発目標（SDGs）
第9回　【国際開発論2】地域開発（Community Development）と参加型開発（Participatory Development）
第10回　【国際開発論3】国際協力の役割と仕組み（国連・政府・NGO・市民社会）
第11回　【国際開発論4】国際協力と地域開発実践：エンパワメント、ガバナンス、キャパシティ・ビルディング
第12回　【地域人材育成論1】地域で活躍する社会福祉士・精神保健福祉士
第13回　【地域人材育成論2】地域を見守る民生委員・児童委員
第14回　【地域人材育成論3】地域福祉行政を担う公務員
第15回　【地域人材育成論4】新聞で見る地域福祉に係わる人たち
第16回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
「その他」では、授業への積極的な参加（質疑応答）、毎回のリアクションペーパーの内容などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
自分の関心やテーマにあわせて、関連文献、新聞等を読むこと。また、授業で配布された資料で復習する。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。現代における地域福祉・地域課題の最前線を学ぶことにより、地域社会における問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行ができるような知識、技術を得るとともに、地域社会の人たちとの協働作業を創り、参与できるような学習能力を身につける。

[テキスト]
特に指定しない

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

社会福祉特講 C

2単位：後期1コマ	3年
金子　和夫	

[到達目標]
地方自治体の公務員試験の受験、特に論文試験や面接試験に合格するために必要な能力を養成する。具体的には調査に必要な能力、文章作成に必要な能力、質問に対する応答やディベートに必要な能力を身に付け、質問やテーマに的確に応えることができるようになる。

[履修の条件]
3年次で、来春に地方公務員試験、特に福祉職採用試験の受験を予定している者。
毎回事前学習・事後学習を行い、授業中にディスカッションができる者。
提出課題を毎回提出できる意欲のある者。

[講義概要]
日本で、あるいは、特定の地方自治体で、さらには諸外国で、今日何が起きているのかを、政治・経済・社会・文化・スポーツなど、多様な側面において新聞その他さまざまなツールで確認す

る。さらに、その影響が地方自治体にどのようにかかわってくるのかを、考え、議論し、文章化する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　今日本で何が起きているかー政治・経済に焦点を当てて
第3回　今日本で何が起きているかー社会・文化・スポーツに焦点を当てて
第4回　今世界で何が起きているかー政治・経済に焦点を当てて
第5回　今世界で何が起きているかー社会・文化・スポーツに焦点を当てて
第6回　第2回から第5回までの課題を振り返り検証する
第7回　今地方自治体で何が起きているかー政策に焦点を当てて
第8回　今地方自治体に何が起きているかー財政に焦点を当てて
第9回　今地方自治体に何が起きているかー住民生活に焦点を当てて
第10回　今地方自治体に何が起きているかー福祉に焦点を当てて
第11回　特定の地方自治体の政策を調べるー刊行された計画などから
第12回　特定の地方自治体の財政を調べるーホームページなどから
第13回　特定の自治体の住民生活を調べるー住民の生活や福祉についてホームページや各種計画などから
第14回　地方自治体の進もうとする方向について考える
第15回　これまでのフィードバック(1)
第16回　これまでのフィードバック(2)

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業中に議論されるテーマへの発言において、積極的な発言態度、着眼点、知識・技術、論理性などを総合的に勘案しながら評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、地方自治体に関する資料や、国内外を問わず社会状況に関する新聞記事を読み、それに関するまとめや感想を提出してもらう。また、記事から見出しを、あるいは、見出しから記事を記述するなど、論述試験に向けた論文作成能力を養う。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、地方自治体におけるものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる、そのために他者との協働作業を創り、参与できる、さらにそれを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を得る。

[テキスト]
使用しない。ただし新聞は毎日読むこと。

[参考文献]
用語辞典などが参考になる。

[備考]
厳しいことを求めるかもしれないが、形式にとらわれず楽しく進めたい。

保育原理と保育士の専門性

2単位：前期1コマ	2年
山梨　有子	

[到達目標]
保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。
保育の専門性について理解する。

[履修の条件]
履修の条件は特にありません。

[講義概要]
保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。
保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。
上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。
基本的には講義形式だが、一部題材によっては、DVD や画像を活用する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　授業のねらい、方針について
第2回　現在の保育の周辺状況
第3回　日本の保育の思想と歴史
第4回　諸外国の保育の思想と歴史
第5回　保育の意義①　児童の最善の利益とは
第6回　保育の意義②　保育所保育の理念と概念
第7回　保育の意義③　保育の社会的意義
第8回　保育所保育指針における保育の基本①　養護と教育の一体性・環境を通して行う保育
第9回　保育所保育指針における保育の基本②　発達過程に応じた保育
第10回　保育所保育指針における保育の基本③　保護者との密接な連携
第11回　保育の目標と方法①　保育の目標
第12回　保育の目標と方法②　生活と遊びを通して総合的に行う保育
第13回　保育の目標と方法③　保育の計画と評価

第14回　保育の現状と課題
第15回　保育士の専門性とは
第16回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(10%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。
課題レポートについては、次の授業の際にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。
この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

[テキスト]
指定しない。適宜資料を配布する。

[参考文献]
①宍戸健夫・阿部真奈美編『戦後保育50年史第1巻保育思想の潮流』日本図書センター　6,000円
②厚生労働省編『保育所保育指針』(2017)

児童福祉論

2単位：後期1コマ	2年
加藤　純	

[到達目標]
児童福祉に関する法令を自分で調べ理解し、実際の支援場面に結びつける力を身につけます。具体的には、法令の条文の見つけ方と示し方、条文の内容を理解する力を養います。力を養う方法の一つとして社会福祉士国家試験や保育士試験の過去問題を使います。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験受験資格を得るのに必要な指定科目です。
1.「児童福祉の諸問題」を履修していなくても本科目を履修できます。
2. いずれのコースであっても履修できます。
3. 過密スケジュール下での履修はお薦めしません。3~4年次に履修すると理解しやすく、受験対策上も効果的でしょう。
4. 科目等履修生も履修できます。法令や制度の学習に慣れるまで少し苦労するかもしれません。ご相談ください。

[講義概要]
児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な領域について、制度や機関、職員に関する法令を学びます。授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。後半になるに従い、要点の説明のみになりますので、各自で条文を見つけて理解するように努めて下さい。また、授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をしますが、後半は過去問題を列挙するだけにしますので各自で取り組んでください。

■授業計画
第1回　法令を学ぶ重要性。オリエンテーション(授業の目的・内容・日程・課題)。
第2回　児童福祉に関する法令の体系。
第3回　法令の条文の所在地の示し方(条・項・号の規則と例外)。
第4回　児童福祉法の理念と対象。児童福祉施設の種類。
第5回　児童相談所の設置。
第6回　児童相談所の職員。
第7回　社会的養護(児童養護施設と乳児院の目的や対象について児童福祉法を調べる)
第8回　社会的養護(児童養護施設と乳児院の設備・職員・支援について児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を調べる)
第9回　ひとり親家庭への援助(母子及び父子並びに寡婦福祉法)
第10回　ひとり親家庭への援助(母子生活支援施設、児童扶養手当)
第11回　子育て支援(健全育成)
第12回　子育て支援(児童委員、市町村の相談機関)
第13回　子育て支援(母子保健)
第14回　児童福祉施設の利用・措置経路(市・町村・都道府県の分担)
第15回　児童福祉施設などへの措置経路(児童相談所を中心に)
まとめ
第16回　期末試験

[成績評価]
試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
「その他の評価方法」は、過去問への取り組みや六法活用のための工夫など授業への取り組みに関する自己評価。すべての授業に出席することを前提として、欠席は減点材料とします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
1)小テストと期末試験の際は『社会福祉小六法』を必ず持参して活用して解答して下さい。そのため授業中に『六法』に付箋を付けたり、印を付けたり、書き込みをしたり、使いやすい状態にしておくことをお勧めします。
2)授業中に配布する資料に社会福祉士の過去の出題例を掲載します。授業後に、各自で六法を活用して解答例を作成してください。
本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)が必

要です。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内小テストの解答と解説は、小テストの翌週に行います。期末試験は採点後返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性　に該当します。この科目では、ソーシャルワーカーとしての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として特に法律や制度に関する知識を身につけることを目指します。

[テキスト]
1. ミネルヴァ書房の『社会福祉六法』ではなく『社会福祉小六法』をお勧めします。2016年度に児童福祉法が大幅に改正されました。できる限り最新版を用意してください。第2回の授業までに準備し、毎回持参してください。
2. 授業中に資料を配付します。なお、遅刻や欠席により入手できなかった配布資料は各自の責任で入手してください。

[参考文献]
政策の最新動向を知るために、財団法人厚生統計協会編『国民の福祉の動向』を推薦します。最新版は11月頃に発行されます。

レクリエーションとグループリーダー

2単位：後期1コマ	2年
山崎　律子	

[到達目標]
レクリエーションの基本概念の把握から、レクリエーション活動の意義を理解した上で指導の基本を演習活動を実施する事により習得する。

[履修の条件]
人と関わる活動や仕事を希望する学生。
授業数の2/3以上の出席をすること。
積極的な授業参加を希望。

[講義概要]
授業の前半は、レクリエーションを理解するだけでなく、実践を通してレクリエーション活動の楽しさを実感する。さらにレクリエーション活動の意義・役割および現在の趨勢を知る。授業の中盤は、レクリエーション活動の実践に向けての企画方法を学び、グループに分かれてレクリエーション活動の体験演習を実践・考察する。さらにレクリエーション活動の体験演習をフィードバックしながら指導技術を習得する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　この授業の目的と進め方　授業で使用する参考文献の紹介
第2回　レクリエーションの概念基本的理解
第3回　レクリエーション活動の体験　集団ゲーム（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第4回　レクリエーション活動の体験　高齢者を対象とした内容（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第5回　レクリエーション活動の体験　障害者を対象とした内容（レクリエーション活動の企画・運営を踏まえて）
第6回　レクリエーション活動の企画と運営　その基本的理解
第7回　レクリエーション活動の企画と運営　基本を踏まえた上で体験演習に向けての企画書作成
第8回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第9回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第10回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第11回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第12回　レクリエーション活動体験演習　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第13回　レクリエーション活動の指導法　企画書の内容に従ったレクリエーション活動を役割分担を明確にして実施する
第14回　レクリエーション活動の指導法　演習で学んだレクリエーション活動を指導する際　注意をしなければならない事をまとめる
第15回　まとめ、質疑応答、フリーディスカッション　レクリエーション活動を今後　自分の生活や仕事にどのようにどのように取り入れていくかを具体的に考える。
第16回　予備日

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
講義内容の確認として提出されたリアクションペーパーの評価
グループでの体験学習の企画書を評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回、次週の授業の思慮を配布する。
本科目では、各授業回に4時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。
担当した活動の企画書を演習実施前に提出をすること。実施後に評価をして企画書を再提出する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修する事で、私達が生きる喜びを感じて歩んでいく

ために必要な　知識・技能・態度をレクリエーションの考え方から学ぶ。

［テキスト］
資料を配布する。

［参考文献］
1. 余暇問題研究所編著　現代人とレジャー・レクリエーション　不昧堂出版　1977
2. 髙橋和敏・川向妙子編著　図解ゲームの指導事典　不昧堂出版　1986
3. 余暇問題研究所編　アメリカの公園・レクリエーション行政　不昧堂出版　1999
4. 髙橋和敏・山崎律子編　たのしい要介護シニアの運動・スポーツ　ミネルヴァ書房　2002
5. 山崎律子著　参加したくなる介護現場のレクリエーション　中央法規　2015

障害者・障害児心理学

2単位：後期1コマ	2年
楠見　友輔	

［到達目標］
①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。
②障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
③障害と自己を関係づけて論じることができる。

［履修の条件］
授業初回までに各自でテキストを購入しておいてください。なお、参考文献に指定した図書に関しては、授業初回までに購入しなくても支障はありません。

［講義概要］
障害者と関わる施設における実習や将来障害者と関わる仕事に就く際に必要となる、障害（児・者）に関する知識と理解を深めることを目指します。障害理解に終わりや正解はなく、立場や歴史文化の違いによって著しくその捉え方も異なります。そこで、今後のキャリア発達の中で障害とは何かについて学び続けるための、基礎的な知識や態度を身につけることが求められます。受講者の人数によりますが、基礎的事項を講義形式で説明した後で、毎回30～50分程度のグループディスカッションと質疑応答の時間を設けます。

■授業計画

第1回　【オリエンテーション】
本科目の進め方や評価の仕方についての説明、障害者・障害児心理学を学ぶことの目的や意義について概説をします。
キーワード：国際生活機能分類（ICF）、障害者心理と仕事

第2回　【特別支援教育とインクルーシブ教育】
わが国の特別支援教育システムの歴史、世界のインクルーシブ教育におけるわが国の特別支援教育の位置づけについて議論を行います。
キーワード：特別支援教育、インクルーシブ教育、障害理解教育、自立活動、合理的配慮、発達保障・共生教育論争

第3回　【視覚障害の理解と支援】
視覚障害の定義と種類や知覚の特徴、視覚障害児の学習や視覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：視覚機構と視機能、弱視と盲、墨字と点字、情報アクセシビリティ

第4回　【聴覚障害の理解と支援】
聴覚障害の定義と種類やコミュニケーションの特徴、聴覚障害児の学習や聴覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：聴覚機構と聴機能、難聴と聾、口話と手話、拡大・代替コミュニケーション

第5回　【肢体不自由の理解と支援】
肢体不自由の定義と種類、肢体不自由児の学習・発達や肢体不自由者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：肢体不自由に関する疾患、バリアフリー、脳性まひ、医療的ケア

第6回　【知的障害の理解と支援】
主に知的特別支援学校に在籍することの多い、自閉症スペクトラム障害（DSM−5）や広汎性発達障害（ICD−10）、染色体異常（ダウン症等）、学習障害等の発達や学習、社会参加を理解し、ニーズに応じた支援の在り方についての議論を行います。
キーワード：広汎性発達障害、自閉症スペクトラム障害、ダウン症、学習障害、知能検査、二次障害

第7回　【まとめ①：障害の種類と理解】
視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害等に関する概念の整理を行い、日本における障害理解の状況についての議論を行います。また、第6回目までに扱うことのできなかった言語障害、情緒障害、重度障害、重複障害等の障害の特徴やニーズと支援を学習します。
キーワード：言語障害、情緒障害、重度障害、重複障害、マイノリティ

第8回　【精神障害の理解と支援】
精神障害の特徴、精神障害者の社会参加を理解し、治療や支援についての議論を行います。
キーワード：外因性、心因性、内因性、心理療法、薬物療法

第9回　【健康障害（病弱）の理解と支援】
病弱の定義や病弱児が抱えやすい心理発達的課題について学びます。入院・通院治療中のケアや退院後における心理的支援の在り方について議論します。
キーワード：健康障害（病弱）、生活の質（QOL）、心的外傷後ストレス症候（PTSS）

第10回　【障害者の社会参加と法制度】
障害者を取り巻く制度や法についての知識を獲得し、社会的公正についての議論を行います。
キーワード：障害者総合支援法、障害者差別解消

法、障害者基本法、障害者雇用促進法、平等と公正
第11回 【障害当事者と家族】
障害児・障害者自身の障害の受容、家族の障害の受容と理解、家族の障害者からの自立、専門家の家族との接し方についての議論を行います。
キーワード：障害受容、障害児の親、障害児の同胞、自立
第12回 【障害の捉え方（様々なモデル）】
障害に関する多様なモデル、「しょうがい」という言葉のニュアンスなど、歴史文化的な視点から障害全般の捉え方についての議論を行います。
キーワード：社会モデル、医療モデル、慈善モデル、肯定モデル、「しょうがい」の表記
第13回 【障害者とアイデンティティ】
障害当事者が自己と障害をどのように複雑に意味づけているか、健常児・者との交流場面において障害児・者がどのように自他関係を意味づけるかという社会的アイデンティティについて議論を行います。
キーワード：アイデンティティ、交流、カバリング・パッシング、カミングアウト
第14回 【まとめ②：障害と社会】
障害者が自律的に家族・地域・社会の中で生活していくために、どのような支援があるとよいか、自分に何ができるかについての議論を行います。
キーワード：自立生活運動、当事者主権、当事者性、成年後見制度
第15回 【障害理解と自己理解】
受講者自身と障害との関係、障害という概念を通して自己を見つめなおすと健常や障害がどのように捉えられるかを考え、障害という概念自体の問い直しを行います。
キーワード：障害理解、他者理解、自己理解
第16回 【最終試験】

［成績評価］
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（0％）

［成績評価（備考）］
10回分の課題提出（4点×10回）と最終試験（60点満点）の合計によって評価を行います。何らかの事由によって課題提出や試験への参加が困難な場合には事前に授業者に相談をしてください。（詳細は第1回授業で説明します）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
第1～5回、7～11回の授業において次回授業の予習を兼ねた課題を出します。次回授業の初めに課題の解説と回収を行います。最終試験のフィードバックは行いません。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することによって、将来的に障害児・者に対する理解や支援を進んで行うことができるための基礎となる知識や態度を習得することができる。

［テキスト］
田中新正・古賀精治（2013）『新訂　障害児・障害者心理学特論』放送大学大学院教材

［参考文献］
太田信夫（2017）『シリーズ　心理学と仕事15　障害者心理学』北大路書房

家族心理学

2単位：前期1コマ	2～4年
堀　肇	

［到達目標］
①家族機能が衰退し、厳しい状況下にある現代家族の実態を客観的に認識することによって家族問題への関心と学びの意欲を引き出す。
②家族問題の原因を単純な因果関係論ではなく、システム論的に考えることができるようになること。
③家族心理学・家族療法などの理論を応用して家族への臨床的アプローチができるよう実践的な技術を身につける。

［履修の条件］
①家族への心理的・社会的援助に関心を持つ学生だけでなく、日頃から親子・兄弟・夫婦など、家族内の人間関係のあり方に関心を持ち積極的に学びたいと考えている学生の履修を期待する。
②心理学やカウンセリング関係の基礎科目を履修していることが望ましい。

［講義概要］
・家族心理学（family psychology）は、心理学としては比較的新しい学問分野であるが、近年、家族の心理構造や援助法などを理解するための有効な手段として注目されている。本講義においては、家族心理学の理論モデルとなっているシステム論（システムズ・アプローチ）に準拠して学びを進めるが、システムだけでなく家族成員の個別性にも注意を払い、家族援助についてバランスのとれた標準的な学習内容となっている。

■授業計画
第1回　家族イメージ（オリエンテーションを含む）
第2回　現代日本の家族の実態
第3回　家族心理学と家族システム論
第4回　家族の心理構造①（境界）
第5回　家族の心理構造②（連合）
第6回　家族の心理構造③（勢力）
第7回　家族の発達段階（ライフサイクル）
第8回　家族問題の諸相①（恋愛と配偶者の選択）
第9回　家族問題の諸相②（結婚・離婚）
第10回　家族関係の諸相③（晩婚・非婚）
第11回　家族関係の諸相④（親子関係）
第12回　家族関係の心理査定（アセスメント）

第13回　家族関係の治療①（家族療法の技法）
第14回　家族関係の治療②（家族療法の技法）
第15回　家族関係の治療③（家族変化と愛）
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（80％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
①次回授業に配布する参考資料等を予め読んでくる。
②前回授業の概要を授業時に確認する。
③本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、家族の心理構造の理解を深め、家族成員が円滑なコミュニケーションを行い、良き家族関係を形成する能力を身に着けることが可能となる。

［ テキスト ］
特定の教科書は使用しないが、授業時に講義概要と参考資料を適宜配布する。

［ 参考文献 ］
①平木典子・中釜洋子著『家族の心理』サイエンス社1,500円
②榎本博明編著『家族心理学』ブレーン出版1,200円
③堀　肇著『心の部屋を空けて』フォレストブックス1,200円
④堀　肇著『今、家族を考える』クリスチャン新聞連載記事
⑤日本家族心理学会監修『家族心理学事典』金子書房3,800円
⑥河合隼雄著『家族関係を考える』講談社　756円

子どもと教育

2単位：前期1コマ	3年
崔　善愛	

［ 到達目標 ］
こどもをひとりの人格として尊重する感性を習得する。いじめや差別に苦しむ人の立場に身を置き、問題の所在を考え、問うことができるようにする。また、多様な生き方に出会い、自分とは異なる思想や個性をうけいれられるようにする。どのようにして健やかな教育の場を子どもたちに与えられるのか、そのあるべき姿を見いだせるようにする。

［ 履修の条件 ］
なし

［ 講義概要 ］
こどもたちの抱える問題は、その家庭や教育環境と切り離せない。学校でのいじめ問題も社会の縮図ととらえ、具体的で象徴的な問題を取り上げる。とくに学校での思想信条・表現の自由とマイノリティーの人権に重きをおく。
日本の近代教育史である「教育勅語」から「教育基本法」、そして「子どもの権利条約」をたどる。法律や条約が社会でどう生かされているか、あるいは生かされていないかを、新聞やDVDなどを利用しつつ、ディスカッションする。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、講義の概要と進め方、
第2回　日本の近代教育史①
第3回　日本の近代教育史②　「教育勅語」
第4回　教育基本法「改正」前と後
第5回　戦争と教育①
第6回　戦争と教育②
第7回　学校における思想・信条の自由
第8回　学校における内心・表現の自由
第9回　教科書問題（過去と未来）
第10回　「子どもの権利条約」①成立するまで
第11回　「子どもの権利条約」②子どもの人権宣言
第12回　「子どもの権利条約」とわたし
　　レポートと発表
第13回　前12回のレポートと発表のフィールドバック
第14回　教育の力、マイノリティーの人権と教育
第15回　まとめ・発表
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（25％）、小テスト（25％）、課題提出（25％）、その他の評価方法（25％）

［ 成績評価（備考） ］
討論への姿勢（50％）、コメント用紙やレポート（50％）など総合的に判断する。テストはしない。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
講義で発題されたものを、次の講義までに自ら新聞や書籍などで考えを深め、意見をまとめ、発表できるようにする。各授業ごと、4時間の準備学習（予習・復習など）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィールドバックを次回の講義内容において行う。課題レポートについては、授業の中でコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。さらに「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を授業での活発な発表、討論で身につけることができる。

［ テキスト ］
適宜、資料を配布する。

［ 参考文献 ］
山住正巳著「日本教育小史」（岩波新書）、崔善愛著「自分の国

を問いつづけて」(岩波ブックレット)、中野光・小笠毅編著「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書)

子どもと家族の国際問題と支援

2単位：後期1コマ	3年
原島　博	

[到達目標]
子どもをめぐる家族を取り巻く複雑な地域性や国際関係の構造を理解することができる。また、国内社会および国際社会の変化によって生じる子ども家族への影響について考察し、問題解決方法について批判的意見を持つことができるようになる。

[履修の条件]
グループ討議への参加や提示された課題を行うことを条件とする。

[講義概要]
今日、世界経済や国際関係が要因となり、子どもや家庭の脆弱性が高まっている。子どもや家族の安全を守る地域社会の機能が低下している。子どもの人身売買や紛争により子どもが家族から引き離され、子どもたちが戦争に徴用される場合もある。また二つの国家間にまたがる国際結婚の子どもの認知や夫婦間の法的課題なども広がりを見せている。複雑化する国際的な環境の中で、子どもと家族に生じている問題を取り上げてその原因および生じている問題を子どもの権利の立場から考察し、問題解決について検討してみたい。

■授業計画

第1回　授業のオリエンテーション
　　子どもと家族の国際問題と支援
第2回　社会変化と家族の変容、そして子どもへの影響
第3回　人身売買：
　　性的搾取と強制労働
第4回　児童虐待とストリートチルドレン
第5回　エイズ孤児と社会的養護
第6回　少年兵と紛争予防
第7回　難民の子どもと家族
第8回　子どもの早婚と教育
第9回　国際養子縁組
第10回　子どもの誘拐　－日本とアメリカの間で起こったこと(日本と米国)
第11回　国際結婚と国際児問題ー日本、韓国、中国(アジア)
第12回　認知および国籍問題
第13回　母子の国際移動問題
第14回　子どもの権利
第15回　まとめ(1)
第16回　まとめ(2)

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーにコメントするとともに、授業でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
子どもと家族についてテーマとして、子どもの権利の視点から、そこに生じる問題の発見、文分析、解決につして事例検討を行う。子どもと家族の国際的な問題を理解する上で、それぞれの国や地域の人々を取り巻く自然環境、文化、宗教などは重要な側面としてとらえる必要がある。支援者の立場として、異なる環境における個人の痛みや普遍的な人権の立場に立ち、国際社会で生じている課題に対していかに共生社会の形成が可能かについて学ぶことができる。

[テキスト]
授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介します。

[参考文献]
適宜紹介します。

子どものプレイセラピー

2単位：後期1コマ	3〜4年
加藤　純	

[科目補足情報]
1学科5コース制の科目は2単位ですが、旧3学科の科目としては1単位です。

[到達目標]
1. 子どもの遊びをコミュニケーションとして捉えられるようになる。
2. 子どもの言葉や遊びを反映できるようになる。
3. 理論と実践を結び付けて考えられるようになる。

[履修の条件]
1. 履修の条件は定めません。
2. 人間福祉心理学科5コースおよび臨床心理学科では専門科目として履修可能です。
3. 社会福祉学科やキリスト教学科では専門科目以外の卒業に必要な単位として履修可能です。
4. 小グループで討議をします。遅刻すると他の参加者に迷惑を掛けます。事例や資料を読むなど授業外の時間を必要とするので、意欲を持って履修してください。
5. 旧カリキュラムの科目として履修する場合、第8回まで出席した時点で1単位を認定します。

[講義概要]
子どもと遊びを通して関わる方法について学びます。事例に関するディスカッションを中心に、ロールプレイも用います。

子どもが安心して遊べる空間を提供する方法、子どもが遊びの中で表現していることを理解するための理論、子どもの遊びを外から観察する方法と遊びに参加する方法などについて学びます。事例検討を通して、理論と実践の結び付け方を学びます。

■授業計画

第1回　実践と理論を結びつける重要性。オリエンテーション（目的・内容・日程・課題）。
第2回　子どもの言葉を反映する。
第3回　ヴァージニア・アクスラインによる遊戯療法の八原則。
第4回　子どもの行動を反映する。
第5回　子どもの遊びの象徴的な意味を理解する。
第6回　子どもの遊びの象徴的な意味への応答の方法。
第7回　子どもの遊びを反映する。
第8回　安心して遊べる空間の作り方。
第9回　子どもの遊びに参加する（役割理論）。
第10回　プレイセラピーの主要理論。
第11回　プレイセラピーの事例を読む。
第12回　親子合同面接の事例を読む（親子関係や子どもの発達課題を理解するための理論）。
第13回　親子合同面接の事例を読む（親子関係や子どもの発達を支援するための理論）。
第14回　絵によるコミュニケーション。
第15回　比喩を用いた支援。
第16回　期末レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

［成績評価（備考）］
ディスカッションへの参加状況に関する自己評価など。授業は全て出席することを前提とするので、欠席は減点材料とします。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業に関する理解を深めるため、事前または事後に参考文献を読んで下さい。授業中には各文献の一部しか紹介できません。文献のうち関心を持った一冊を通して読むことをお勧めします。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください）。

［ディプロマポリシーとの関連性］
全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当します。この科目では、対人援助職としての全人的なケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する理論と実践を結び付ける力を身につけることを目指します。

［テキスト］
授業中に資料を配ります。

［参考文献］
バージニア　M. アクスライン（岡本浜江訳）『開かれた小さな扉（新装版）』日本エディタースクール出版部
河合隼雄編著（1990）『事例に学ぶ心理療法』日本評論社
D.M. ドノヴァン、D. マッキンタイア（西澤哲訳, 2000）『トラウマをかかえた子どもたち』誠信書房

虐待への対応

1単位：後期1コマ	3〜4年
加藤　純	

［到達目標］
1. 子どもへの虐待やネグレクトに該当するかどうかの判断は、捉える人の立場や価値観と結びついていることを理解する。
2. 虐待やネグレクトという視点を含めて子どもや家族の課題についてアセスメントする力を養う。
3. 児童相談所や児童養護施設で実践されている子どもや家族への支援方法について知る。

［履修の条件］
1. 履修の条件は定めません。コース・学科を問わず履修できます。
2. 小グループで討議をするので、遅刻すると他の参加者に迷惑を掛けます。また、事例や関連資料を読むなど授業外の時間を必要とするので、充分な学習意欲を持って履修してください。
3. 人間福祉心理学科および臨床心理学科では専門科目として履修できます。
4. 社会福祉学科およびキリスト教学科では専門科目以外の卒業に必要な単位として履修可能です。

［講義概要］
1. 虐待やネグレクトという言葉について、支援が必要な状況に気付き認識するための手掛かりだと考えます。問題に名前を付けることがアセスメントではなく、支援が必要な状況を様々な視点から捉えることがアセスメントです。アセスメントの視点として社会構築主義、システム論、リスク論などを紹介します。
2. 児童相談所や児童養護施設で親や子どもを支援した事例などについて小グループで検討します。
3.「子どものグリーフワーク」と同じコマに開講します。両方の科目を履修しても良いですし、一方の科目のみ履修しても良いです。
4. 後期の第1週の授業で「子どものグリーフワーク」と「虐待への対応」2科目のオリエンテーションをします。第2週から第8週が「子どものグリーフワーク」、第9週から第15週が「虐待への対応」です。
5. 履修登録サイトの限界により同じコマで2科目の登録ができません。集中講義の一覧から、科目名を探して登録して下さい。

■授業計画

第1回　心のきずとは何か（グリーフ・トラウマ・ストレス）。オリエンテーション（「子どものグリーフワーク」と「虐待への対応」の目的・内容・日程・課題）。
第2回　子どもへの虐待・ネグレクトとは何か（社会問題としての構築の歴史）
第3回　子どもへの虐待の認識と対応の歩み（社会構築主義からみた児童虐待の事例）

第4回　児童相談所に関する法令：保護者支援と子どもの保護
第5回　児童相談所による家族への援助事例を読む（家族システム論による課題理解と支援）
第6回　児童養護施設における子どもへの援助（虐待を受けた子どもへの心理療法）
第7回　児童養護施設における家族への援助：親子関係の再構築のためのソーシャルワーク過程
第8回　家族再統合とリスクアセスメント
第9回　期末レポート
第10回　ー
第11回　ー
第12回　ー
第13回　ー
第14回　ー
第15回　ー
第16回　ー

［成績評価］
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

［成績評価（備考）］
事例検討、期末の自己評価など。授業には全て出席することを原則としますので、欠席は減点材料となります。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
事例についてグループディスカッションできるように、必ず事前に読んできてください。専門書や論文だけでなく、新聞やテレビ、インターネットなどで虐待や関連するニュースをできるだけ読むようにしてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計7回半の授業で30時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください）。

［ディプロマポリシーとの関連性］
全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当します。この科目では、対人援助職としての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する知識を身につけることを目指します。

［テキスト］
授業中に資料を配ります。

［参考文献］
授業では、下記の文献の内容を紹介します。
上野加代子・野村知二（2003）『〈児童虐待〉の構築』世界思想社教学社
M. Durrant（1991）“Residential Treatment.” W. W. Norton.
衣斐哲臣（1997）「体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

子どものグリーフワーク

1単位：後期1コマ	3〜4年
加藤　純	

［到達目標］
1）子どもが体験しているさまざまな喪失について気付く力を養う。
2）子どもにとって喪失体験が持つ意味や影響について理解する。
3）喪失を体験した子どもへの支援方法について理解する。

［履修の条件］
1. 1学科5コース制になってから開講された科目です。いずれのコースの学生も履修できます。3学科制の学生は履修できません。
2. 履修条件は特に定めませんが、「児童福祉の諸問題」「発達心理学」などを学んでおくことをお勧めします。
3.「虐待への対応」と同じコマに開講します。両方の科目を履修しても良いですし、一方の科目のみ履修しても良いです。
4. 後期の第1週の授業で「子どものグリーフワーク」と「虐待への対応」2科目のオリエンテーションをします。第2週から第8週が「子どものグリーフワーク」、第9週から第15週が「虐待への対応」です。
5. 履修登録サイトの制約により同じコマに2科目の履修登録ができません。集中講義の一覧から、科目名を探して登録して下さい。

［講義概要］
子どもが体験しているさまざまな喪失体験について講義や映像資料などを通して学びます。また、遊びやグループ活動など支援の具体例について紹介します。

■授業計画
第1回　心のきず（グリーフ・トラウマ・ストレス）。オリエンテーション（「子どものグリーフワーク」と「虐待への対応」の目的・内容・日程・課題）
第2回　子どもが体験する喪失の多様性
第3回　子どもは死をどのように理解するか（映像資料）
第4回　喪失を体験した子どもが取り組む心理的課題
第5回　喪失を体験した子どもとのコミュニケーション
第6回　サポートグループの意義と進め方
第7回　グループ・ファシリテーションのスキル
第8回　遊戯療法の事例を読む
第9回　－
第10回　－
第11回　－
第12回　－
第13回　－
第14回　－
第15回　－
第16回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
ディスカッションや演習への参加についての自己評価。授業はすべて出席することを前提としますので、欠席については減点材料となります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
子どもの喪失に関心を持って、ニュースやドラマ、映画などを見てください。テーマに関する専門書や論文だけでなく、ぜひ児童文学や小説などを読んでください。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計7回半の授業で30時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの返却を希望する場合はレポートに明記してください）。

[ディプロマポリシーとの関連性]
いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性　に該当します。また、子どもの喪失体験を理解し全人的にケアするために必要な専門性を身に付けることを目指します。

[テキスト]
授業中に資料を配付します。

[参考文献]
適宜、関連する文献を紹介します。

家族療法

2単位：後期1コマ	2〜4年
石井　千賀子	

[到達目標]
子どもや、若者、中高年が直面する悩みを、家族療法の視点から捉え、家族が回復力・レジリエンスを高めるような援助の糸口を、授業を通して見いだすことを目指す。

[履修の条件]
リーディングを事前に読み込んで授業に出席すること。
日常生活で自分自身が家族や周囲の人々と、どう関わっているのかについて関心をもつこと。また、授業と並行して、自分が作り出す小さな変化が、その人たちとの関係改善にどのような影響をもたらすか、関心を持ち続けること。その変化にまつわる気づきを、毎週授業の終わりに提出するリアクションペーパーに記すこと。

[講義概要]
さまざまな社会問題が山積みされるなか、それらを解決するために家族の果たす役割に大きな期待が寄せられている。家族療法の授業では子どもや、若者、中高年などが訴える問題を、家族システムの視点から捉え、援助の糸口を見つけることについて、講義・体験学習・討議を行う。また、自分自身が生まれ育った家族のなかで、意識せずに身につけてきた対人関係についても振りかえる。後半にはリフレクティング・プロセスによるロールプレイを行い、家族がもつレジリエンスを高めるような援助の一端を、全員で体験する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、授業のねらい、家族問題の変遷、災害時における家族支援
第2回　家族療法の歴史と理解、個人療法と家族療法との比較
第3回　家族システムの概念、家族を捉える三つの視点
第4回　1）文脈・歴史の視点：ジェノグラムを通して
第5回　1）文脈・歴史の視点：家族ライフサイクルを通して
第6回　1）文脈・歴史の視点：家族造形法を通して
第7回　2）言動・コミュニケーションの視点：コミュニケーションに見られる家族の特徴的パターンをなぞる
第8回　2）言動・コミュニケーションの視点：コミュニケーションのパターンとは異なり、例外的にうまくいったやりとりが見られたか探す
第9回　2）言動・コミュニケーションの視点：必要に応じてコミュニケーション・スキルの心理教育を、家族に行う
第10回　2）言動・コミュニケーションの視点：自己表現しつつ相手の言い分に耳を傾けて、互いを尊重しあうコミュニケーションをコーチできるように，まず各自が日常生活のなかで実践する
第11回　2）言動・コミュニケーションの視点：援助プロセスのなかでコミュニケーションの変化により、対象家族内に変化のさざ波が広がることに気づく
第12回　3）ものの見方・考え方の視点：家族のレジリエンスに注目する。援助者の考え方を再考する
第13回　3）ものの見方・考え方の視点：変えられること、変えられないことを受け入れる冷静さをもつことを援助者自身が身につけ、さらに援助活動で用いる
第14回　三つの視点を援助者自身の日常に活かすことと、援助的関わりへの反映の広がりに気づく
第15回　ロールプレイ：今学期の学びを総動員して、ある家族への援助をリフレクティング・プロセスで行う
第16回　ロールプレイ：リフレクティング・プロセス、ふり返り、レポート提出

[成績評価]
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
授業のなかで、また日常生活のなかで、気づいたことを毎週リアクション・ペーパーに書いて提出するが、その内容を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業の1回目に配布する「授業の流れ」に明記されているテキストの予習箇所のリーディングを，毎回事前に読んで授業に出席すること。特に，各回の授業の内容の理解がレポートに直接反映されるので，自分の家族理解および疑問点を予習と復習で確認して授業に出席すること。その他に、日常生活のやり取りやアニメ・ドラマなどを題材に、授業で学んだ家族関係の捉え方・コミュニケーションの取り方等を具体的に応用してみること。そのために毎週準備学習に4時間かけること

[試験・レポート等のフィードバック]
毎週授業の最後に書いたリアクションペーパーは，教員がフィードバックを書いて次回の授業で各自に返却される．また，次回必要に応じてクラス向けに口頭でコメントし、講義の内容に反映される

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学のディプロマポリシーの1～4に該当する．この科目を履修することにより，特にそのなかでも，家族の視点から援助活動をするために，他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力を身につけることができる．

[テキスト]
石井千賀子・加藤麻由美「ミドルエイジの問題：家族療法の視点から」キリスト新聞社　2012　1500円+税

[参考文献]
P. ボス（中島・石井監訳「あいまいな喪失とトラウマからの回復：家族とコミュニティのレジリエンス」誠信書房　2015）
石井千賀子・辻井弘美「国際結婚では」in 野田文隆・秋山剛編著「あなたにもできる外国人へのこころの支援」岩崎学術出版社　2016
石井千賀子「家庭生活とカウンセリング」in 三永恭平他編「講座現代キリスト教カウンセリング：第2巻」日本基督教団出版局　2002
中釜洋子「家族のための心理援助」金剛出版　2008
石井千賀子・清水新二「自死と家族」in 日本家族研究・家族療法学会編「家族療法テキストブック」金剛出版　2013

[備考]
災害グリーフサポートプロジェクト（http://jdgs.jp）
あいまいな喪失（http://al.jdgs.jp）
なお，テキストが手に入りにくい時には，教員に相談すること

子ども支援キャリアデザイン

2単位：前期1コマ	1～3年
加藤　純	

[科目補足情報]
施設などの見学を土曜日に実施する可能性があります。

[到達目標]
1）子どもや家族を支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
2）将来の進路希望に向けて、本学の科目をどのように組み合わせて履修するか計画を立てられることを目指します。

[履修の条件]
コースを問わず履修できます。子ども支援コースに関心がある学生に特にお勧めします。

[講義概要]
子どもや家族の支援に関連する仕事や資格について解説します。
子どもや家族の支援についてイメージを作るために映像資料をみます。
さらに具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果を発表してもらいます。
教室での授業の他に、授業の一環として1～2回の施設見学を計画します。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　子ども支援に関連する本学の授業科目
第2回　子どもと家族を支援する社会福祉と臨床心理の仕事
　　子どもと家族に関する社会福祉と臨床心理の資格
第3回　保育所・学童保育・児童館での保育士の仕事と資格
第4回　保育所見学
第5回　保育所見学の振り返り
　　保育所での家族支援と保育カウンセラー、保育ソーシャルワーク
第6回　児童養護施設における仕事とソーシャルワーク実習
第7回　児童養護施設見学
第8回　児童養護施設見学の振り返り
第9回　児童養護施設における家族支援と心理療法
第10回　海外の子ども達を支援する仕事と本学での教育プログラム
第11回　子ども家庭支援センターにおける子育て支援
第12回　学校や教育相談におけるソーシャルワーカーやカウンセラーの仕事と資格
第13回　子どもと家族を支援する仕事について調べたこと（発表1）
第14回　子どもと家族を支援する仕事について調べたこと（発表2）
第15回　将来の進路設計と大学での学習計画。まとめ。
第16回　レポート提出。

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
レポート（50%）自分が目指したい仕事について調べ、どのような役割を持つ専門職か、その役割を果たすためにどのような知識や技術、価値観が必要かを説明してください。また、これから大学でどのように学んでいきたいかを記してください。
その他（50%）毎回の授業への参加および発表、発展的な学習の取り組み状況。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
児童福祉や児童臨床心理の仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）が必要です。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
期末レポートはメールボックスを通して返却します（手渡しでの

返却を希望する場合はレポートに明記してください)。レポートをメールで提出された場合、メールへの返信によりコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当します。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
汐見稔幸(2011)『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号

野外活動とキャンピング

2単位：前期1コマ	1〜4年
伊藤　光太郎	

[科目補足情報]
公益社団法人日本キャンプ協会公認「キャンプインストラクター」資格取得可能

[到達目標]
① 野外活動またキャンプの楽しさを体感する。
② ①を通して、指導者・支援者として子どもを対象とした野外活動またキャンプにたずさわる場合(引率などをする場合)の要点を学ぶ。
③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した技術を得る。
④ 本授業を通して、キャンプインストラクター資格を取得する(希望者のみ)。

[履修の条件]
・キャンパスキャンピング(キャンパス内にテントを張り、野外料理など含めキャンプを行う。)に参加すること
・キャンパスキャンピング実施日
[6月1日(金)午後から6月2日(土)
もしくは
6月8日(金)午後から9日(土)　いずれかの1泊2日]
※講師と履修学生のスケジュールを考え併せて決定する。
・アウトドアフードとキャンパスキャンピングで必要な食材費2500円と教材用具費2000円と合わせて4500円分の券を学生支援センター前の券売機で購入して履修登録の際に貼付すること。
・キャンプインストラクター資格希望者は, 本科目の履修後の試験期間に資格試験を実施する。テキストの購入(2000円)資格試験の受験料や資格登録費15000円のなど資格にまつわる費用が必要。※試験に合格しなかった場合は15000円は返金する。※テキストと併せて17000円を要する。資格取得は希望者のみであり、授業での説明を要することから、授業開始後(履修登録後)の検討また手続きで良い。

[講義概要]
キャンパス内でのアウトドア実技・演習中心の講義とする。野外活動(自然体験活動、組織や団体でのキャンプなど)の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全(野外におけるリスクマネジメント)・支援者の役割を学ぶ。キャンパス内にカマドを作り、それを利用して野外料理をし、雨天でも授業ができるようにシートで屋根を張るなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に会得する。
晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更があり得る。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、アイスブレイク
　授業フィールド紹介、ねらい、持ち物などの説明
　自己紹介など
第2回　火を学ぶ①
　かまどの作り方、薪作り・薪割りの方法、火起こしの基本
第3回　火を学ぶ②
　様々な火起こし、焚き火でスイーツ作り
第4回　アウトドアスキル①
　ロープワーク(ロープの結び方)、シートワーク(野外でのシートの使い方)
第5回　アウトドアスキル②
　基本的な道具でネイチャークラフト
第6回　ネイチャークラフトと焚き火
　いろいろな道具の使い方、キャンパスの剪定木で工作、火を使った工作　・キャンパスキャンピングの説明、組織(役割分担)
第7回　災害時教育プログラム
　災害時クッキング、サバイバル技術の演習
第8回　キャンパスキャンピング準備
　係ごとのミーティング、野外料理のメニュー作成、アクティビティの制作
第9回　キャンパスキャンピング
キャンパスにテントを設営し、キャンプを実施。テント設営・タープ設営・野外料理・キャンプファイアー(ランプでのキャンプファイアー)・学生トークナイト・朝食コンテスト・アクティブアクティビティー、などキャンププログラムを実施。
組織キャンプの実際。※内容は、授業の進度や天候ほかで変更の可能性があります。
第10回　キャンパスキャンピング
　※9回、10回、11回をキャンパスキャンピングに充てる。
第11回　キャンパスキャンピング
　※9回、10回、11回をキャンパスキャンピングに充てる。
第12回　キャンパスキャンピングフィードバック　グループ発表
第13回　こどもとキャンプ
　キャンプ概論、キャンプ組織論　などアウトドア活動の指導についての座学
第14回　試験説明　試験準備※実技を伴う試験のため、準備を要する。
第15回　試験
第16回　試験解説　焚き火ディスカッション

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(65%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(35%)

[成績評価(備考)]
試験解説を受け、自分の課題を認識していることを確認し、評価に加える。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
資料の理解、アウトドアスキルの確認と練習、用具管理や授業実施前準備などを内容とし、各授業回に4時間の準備学習を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
試験解説を通して自身の課題に気付き、それに対してコメントまた評価を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。野外活動またキャンプは、生きる力を育む機会と捉えられ、この科目を履修することで、・自然・命・ヒューマンスキル・安全また安心・他者理解、協力、共有　などを実践的かつ総合的に学び、自身が野外活動を指導する場面でより確かなスキルで自信をもって行動できるようになる。

[参考文献]
公益社団法人日本キャンプ協会発行
「キャンプ指導者入門」　価格：二千円(税込み送料別)
※キャンプインストラクター資格希望者は必須。資格試験受験前に NPO 法人東京都キャンプ協会から各自購入する。

[備考]
・軍手、雨具、帽子、など安全に活動するための用具や野外活動に適した服装が必要。
(基本的に、長袖・長ズボン・しっかりした靴で受講する。)
・特に雨具(レインウエア)は必須。初回授業でどのような雨具が良いかレクチャーする。
・屋外活動が多いため、虫除け、UV 対策、多目の水分など対策をすること。
・天候により、教室での授業になる場合や、授業内容の入れ替えなどがある。
・キャンパス裏庭にあたる屋外スペースをキャンプ広場として利用し、キャンパスの剪定木などを薪に利用するなどキャンパス環境の影響が大きく、それによる内容変更もありうる。

保育士特講Ⅰ

2単位：前期1コマ	1〜4年
原島　博	

[到達目標]
①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

[履修の条件]
・保育士「国家資格」取得を目指していること。
・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅱと合わせて通年で受講することが望ましい。
・第1回目の授業後、第2回目の授業前にテキストの販売を行うので、第2回目の授業前までに各自テキストを購入しておくこと。テキストを購入せずに第2回目以降の授業を受講することは認めない。

[講義概要]
保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　保育士試験に臨むにあたっての心構えと保育士資格を取得することの社会的メリット。
第2回　保育所保育指針　保育所保育指針の全体像と必要性についての学習
第3回　保育の心理学　科目(子どもの発達と各発達段階の特徴)の理解
第4回　保育の心理学　科目(乳幼児の身体機能、運動機能、生活、遊び)の理解
第5回　保育の心理学　科目(保育の発達援助と保育実践)の理解
第6回　保育原理　科目(保育の基本と子どもの発達及び保育の計画と評価)の理解
第7回　保育原理　科目(保護者支援と保育の現状と課題)の理解
第8回　子どもの保健　科目(子どもの発育・発達と疾病への対応)の理解
第9回　子どもの保健　科目(子どもの精神保健と事故の処置及び母子保健)の理解
第10回　子どもの食と栄養　科目(栄養の基礎知識と献立や調理の基本)の理解
第11回　子どもの食と栄養　科目(小児期の食生活と栄養)の理解
第12回　子どもの食と栄養　科目(保育現場の食育と配慮が必要な子どもの栄養)の理解
第13回　問題演習【発達編】　学習した4科目について復習と問題の解き方の演習
第14回　保育内容(保育実習理論)　科目(乳幼児期の言語発達と理論)の理解
第15回　絵画理論(保育実習理論)　科目(乳幼児期の絵画発達と理論)の理解
第16回　試験　受講科目の基礎的な理解度を確認する。

[成績評価]
課題提出(0%)、小テスト(0%)、試験(100%)、レポート提出(0%)、その他(0%)

[成績評価（備考）]
特になし。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業回に4時間の準備学習（予・復等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

[テキスト]
受講するには、下記の備考欄に記載する①〈テキスト通年セット〉または、②〈テキスト前期セット〉の購入が必須。尚、購入後の返金は行わない。

[参考文献]
特になし。

[備考]
①キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト通年（保育士特講Ⅰ・Ⅱ）セット〉17,496円（税込）
テキスト10冊（保育原理、教育原理、社会的養護、児童家庭福祉、社会福祉、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論、楽典）、法令集、問題集（11月刊行予定）。

②キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト前期（保育士特講Ⅰ）セット〉10,600円（税込）
テキスト5冊（保育原理、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論）、法令集。※問題集（11月刊行予定）は任意購入。

保育士特講Ⅱ

2単位：後期1コマ	1〜4年
原島　博	

[到達目標]
①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

[履修の条件]
・保育士「国家資格」取得を目指していること。
・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅰと合わせて通年で受講することが望ましい。
・前期に〈テキスト通年セット〉を購入していない学生は、第1回目の授業前に〈テキスト後期セット〉の販売を行うので、授業前までに各自購入しておくこと。テキストを持たずに授業を受講することは認めない。

[講義概要]
保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画
第1回　音楽理論　科目（試験範囲での音楽理論の概要）の理解
第2回　音楽理論　科目（音程とコードネーム）の理解
第3回　法令の読み方　（保育士試験関連の法令の基礎的な読み解き方）の理解
第4回　教育原理　科目（教育の意義と子ども観・教育思想）の理解
第5回　教育原理　科目（教育の実践と生涯学習）の理解
第6回　教育原理　科目（学校制度と教育制度）の理解
第7回　社会的養護　科目（社会的養護の基礎と歴史、児童の権利）の理解
第8回　社会的養護　科目（児童福祉施設と児童福祉法に基づく事業）の理解
第9回　社会的養護　科目（家庭的養護とソーシャルワーク）の理解
第10回　児童家庭福祉　科目（児童家庭福祉の現状と歴史）の理解
第11回　児童家庭福祉　科目（児童家庭福祉の法体系と費用、少子化対策）の理解
第12回　児童家庭福祉　科目（社会的養護サービスと障害児保育）の理解
第13回　社会福祉　科目（社会福祉の概要と法体系）の理解
第14回　社会福祉　科目（社会保障制度と地域福祉）の理解
第15回　問題演習【福祉系】学習した4科目（実習理論以外）について復習と問題の解き方の演習
第16回　試験　受講科目の基礎的な理解度を確認する。

[成績評価]
課題提出（0%）、小テスト（0%）、試験（100%）、レポート提出（0%）、その他（0%）

[成績評価（備考）]
特になし。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業回に4時間の準備学習（予・復等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を

学ぶことができる。

[テキスト]
受講するには、前期に〈テキスト通年（保育士特講Ⅰ・Ⅱ）セット〉を購入済みか、下記の備考欄に記載する①または②のセット購入が必須。前期に〈テキスト前期セット〉を購入し、法令集を既に持っている場合は、②のセット購入となる。尚、購入後の返金は行わない。

[参考文献]
特になし。

[備考]
①キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト後期（保育士特講Ⅱ）セット〉10,600円（税込）
テキスト5冊（楽典、教育原理、社会的養護、児童家庭福祉、社会福祉）、法令集。

②キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト後期（保育士特講Ⅱ）セット〉9,720円（税込）
テキスト5冊（楽典、教育原理、社会的養護、児童家庭福祉、社会福祉）。

※問題集（11月刊行予定）は任意購入。

心理学的支援法

2単位：前期1コマ	1年
高城　絵里子	

[到達目標]
①臨床心理学の基本的な内容や考え方を身につける
②人間関係や社会における臨床心理学的視点の重要性について考えを深める
③受身的に講義を聞くだけにとどまらない、主体的な学びのスタイルを身につける
④臨床心理学に対する関心を広げ、自身の今後の学習や研究の方向性を考える基盤として本講義で身につけた知識を活用する

[履修の条件]
①臨床心理コース1年次の必修科目である。臨床心理コースの1年生は必ず受講すること。
②ディスカッションやグループ課題など体験を重視した科目であるため、受講生の積極的な参加を求める。

[講義概要]
臨床心理学の基本的内容を概観するとともに、公認心理師・臨床心理士の職務とその支援について理解を深める。臨床心理学の知見や視点は公認心理師・臨床心理士として活用する以外にも非常に有用である。よって、心の健康に関する知識を身につけ、それぞれが卒業後を含めた人生の中で臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについても考えていきたい。
基本的に講義形式の授業になるが、毎回の授業の中でグループディスカッションや質疑応答、毎回のリアクションペーパーへの記入とフィードバックを実施することによって、学生の理解を丁寧に進めていく。また、一部の題材についてはグループ課題とし、グループごとに研究テーマの設定、文献調査および発表を経験することによって主体的な学びのスタイルを習得する。
本講では以下の内容を扱う。
1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
2. 訪問による支援や地域支援の意義
3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
4. プライバシーへの配慮
5. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
6. 心の健康教育

■授業計画

第1回　本講の目的、内容、評価に関するオリエンテーション
　　コミュニケーション実習「良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法」
第2回　臨床心理学とは何か
　　その定義と歴史
第3回　臨床心理士と公認心理師
　　①求められる役割と活動の実際
第4回　臨床心理士と公認心理師
　　②養成のための教育と訓練
　　ルーテル学院大学付属臨床心理相談センター見学、レポート作成
第5回　臨床心理士と公認心理師
　　③資格の倫理的問題とプライバシーへの配慮
第6回　心理学的支援の対象
　　①心の問題の理解～乳児期から児童期まで
第7回　心理学的支援の対象
　　①心の問題の理解～青年期から老年期まで
第8回　心理学的支援の対象
　　②予防と心の健康増進、心の健康教育
第9回　心理学的支援の方法
　　心理査定①‥心理査定とはなにか、心理査定面接の理解
第10回　心理学的支援の方法
　　心理査定②‥心理検査の基本とその考え方
第11回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接①‥その基本と考え方
第12回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接②‥代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
第13回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学的地域援助①‥訪問による支援や地域支援の意義
第14回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学的地域援助②‥心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育
第15回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学の研究
第16回　まとめ‥心の健康を守るためにできること
　　レポート作成

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、

その他の評価方法（30％）

［ 成績評価（備考） ］
課題提出は毎回のリアクションペーパー、および授業中に実施するワーク、小レポートの提出を指す。
その他の評価とは、授業およびディスカッション、グループ課題への参加に関する評価を指す。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回に事前学習2時間、事後学習2時間が必要。合計15回の授業で60時間となる。事前学習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた予習、および臨床心理士・公認心理師資格について各自あらかじめ調べておくことを勧める。
事後学習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察、グループ課題への取り組みを求める。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。
グループ発表については、授業内に適宜口頭でコメントする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3. 総合的・実践的な学習能力、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。臨床心理学的支援の基本的な理論と方法を学ぶこと、またグループによる文献調査と発表を通して、現在の心の問題に関する課題の発見と分析、解決への提言へとつなげる。授業内でのコミュニケーション実習、ディスカッション、グループワークを通して他者理解と自己表現のコミュニケーションを実践する。

［ テキスト ］
特に定めない。必要に応じて授業内でテキストを配布する。

［ 参考文献 ］
馬場禮子「臨床心理士への道」朝日出版社
日本臨床心理士資格認定協会監修「新・臨床心理士になるために（平成29年度版）」誠信書房

［ 備考 ］
受講生と教員との対話を重視するため、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。

臨床心理の倫理

2単位：前期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

［ 到達目標 ］
臨床心理学の専門的実践を導く職業的倫理の徹底した探究を行い、臨床心理学の専門家として自らの行為の判断、選択、実行の決断をするための基礎を身につけることを目標とする。

［ 履修の条件 ］
「心理学」等の基礎的な科目や「カウンセリングの実技の基本」「臨床心理学概説」などを受講した上で履修するのが望ましい。毎回出席すること。原則として欠席が3回を超えた場合は不可とする。やむを得ない事情がある場合は、担当教員に相談すること。また、遅刻二回で欠席一回換算とする。遅刻が授業時間の半分を超えた場合は欠席とする。

［ 講義概要 ］
臨床心理学の専門家として、能動的な選択であり決断である倫理的な行為を自らの責任のもとに行えるようになるために、臨床心理学の職業的倫理の基礎を学ぶことを目的とする。ディスカッションやワークショップへの積極的参加を重視する。

■授業計画
第1回　臨床心理の職業倫理とは何か
第2回　臨床心理学の専門家の仕事と倫理
第3回　汝自身を知れ：倫理的な行為の主体（1）
第4回　汝自身を知れ：倫理的な行為の主体（2）
第5回　臨床家の専門職アイデンティティの発達
第6回　患者/クライエントに対する尊敬
第7回　心理療法/カウンセリングの境界
第8回　内密性（守秘義務）
第9回　説明と同意（インフォームド・コンセント）
第10回　スーパーヴィジョン
第11回　心理療法/カウンセリングの終わり
第12回　専門家としての能力の向上および自らの能力の限界の認識
第13回　倫理に関わる実際問題（1）
第14回　倫理に関わる実際問題（2）
第15回　改めて、臨床心理の職業的倫理とは何か
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（10％）、課題提出（10％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
ディスカッションやワークショップへの取り組みを評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。
テキストおよび参考文献等の関連文献を自分で読み進めること。
また毎回の授業の復習を行い、臨床心理の倫理に関する知識と態度の基礎を整理すること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
臨床心理学の実践家としての職業倫理を学ぶ本科目は「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」を基盤とし、「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」にも該当する。
この科目を習得することで、臨床心理学の専門家になるための基盤として、上記4つのディプロマポリシーと関連する態度、知識、技術の基礎を身につけることができる。

［ テキスト ］
特に指定せず。適宜必要な資料を配布する。

［ 参考文献 ］
金沢吉展（2006）臨床心理学の倫理を学ぶ. 東京大学出版会.
小谷英文（2006）心理教育的介入の倫理. 小谷英文編著　現代のエスプリ別冊　心の安全空間−家庭・地域・学校・社会. 至文堂. pp.268−277.
小谷英文（2009）ダイナミックコーチング. PAS 心理教育研究所出版部.
Anderson, S.K. & Handelsman, M.M. (2010). Ethics for Psychotherapists and Counselors : A proactive approach. Wiley−Blackwell.
Gabbard, G.O. (2016). Boundaries and Boundary Violations in Psychoanalysis. Second Edition. American Psychiatric Publication.
Pope, K.S. & Vasquez, M. J. T. (2010). Ethics in Psychotherapy and Counseling : A Practical Guide 4th Edition. New Jersey : John Willy & Sons, Inc.
その他、適宜クラスで紹介する。

心理療法演習

2単位：後期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

［ 到達目標 ］
集団力学の基礎理解をもとに、集団精神療法の理論と技術の基礎を学ぶことを目標とする。

［ 履修の条件 ］
「臨床心理学概説」「心理療法概説」「カウンセリングの理論」「人格心理学」等を受講していることが望ましい。
演習クラスのため、原則として毎回出席すること。欠席が3回を超えた場合は不可とする。やむを得ない事情がある場合は、担当教員に相談すること。また、遅刻2回で欠席1回換算とする。遅刻が授業時間の半分を超えた場合は欠席とする。

［ 講義概要 ］
社会システムや家族システムが大きく変化し、個人の孤立が大きな課題となっている現代社会において、個人の心の安全空間を確保し、心を育み鍛える機会を提供する集団精神療法の可能性を体験的に学ぶ。講義に加え、グループ体験やシナリオ・ロールプレイなどのワークショップを行い、体験的な理解を重視する。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画
第1回　集団精神療法とは何か
第2回　集団精神療法の歴史
第3回　集団力学：集団サイズ
第4回　集団力学：リーダーシップと集団規範
第5回　集団力学：基底的想定グループとワークグループ（1）
第6回　集団力学：基底的想定グループとワークグループ（2）
第7回　集団力学：集団発達
第8回　集団力学と集団精神療法
第9回　個人心理療法と集団精神療法
第10回　シナリオ・ロールプレイ
第11回　集団精神療法の基本技法：モザイクメイトリックス技法
第12回　演習（1）
第13回　演習（2）
第14回　演習（3）
第15回　総括：現代社会における集団精神療法の意義
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

［ 成績評価（備考） ］
ディスカッションやワークショップへの取り組みを評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。
テキストおよび参考文献等の関連文献を自分で読み進めること。また、体験型の授業のときには自分なりのまとめのノートを作成すること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
主として、「3. 総合的・実践的な学習能力」および「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、集団力学および集団精神療法の基礎に関する知識および体験を通じた理解、さらに自己理解と他者理解とそれに関わるコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。

［ テキスト ］
小谷英文（2014）集団精神療法の進歩. 金剛出版.

［ 参考文献 ］
小谷英文編（2005）現代のエスプリ別冊『心の安全空間』. 至文堂.
小谷英文編（2009）現代のエスプリ『グループセラピィの現在』.

至文堂.
モートン・キッセン編（佐治守夫・都留春夫・小谷英文訳）（1976/1996）集団精神療法の理論：集団力学と精神分析学の統合. 誠信書房.
Rutan, J.S., Stone, W.N. and Shay, J.J. (2007). Psychodynamic Group Psychotherapy. Fourth Edition. New York：Guilford Press.

青年心理学

2単位：後期1コマ	1〜4年
石川　与志也	

［ 到達目標 ］
ライフサイクルにおける青年期のもつ意味を検討し、現代社会における青年期の発達課題と発達危機の理解を深めることを目標とする。青年期発達の基礎理論を理解し、現代社会における青年期の具体的な現象を分析・理解する能力を身につけることを目指す。

［ 履修の条件 ］
「心理学」等の基礎的な科目や「発達心理学」を受講した上で履修するのが望ましい。

［ 講義概要 ］
これまでの青年期発達に関する理論を学ぶとともに、従来とは異なる外観を見せる現代の青年期をいかに理解することが出来るのか、具体的な現象の分析を通して探究する。
講義と討論への積極的な参加を重視する。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画
第1回　青年期とは何か
第2回　青年期の現代的問題
第3回　発達危機：青年期危機説と青年期平穏説
第4回　発達位相：潜伏期
第5回　発達位相：前思春期
第6回　発達位相：青年期前期
第7回　発達位相：青年期中期
第8回　発達位相：青年期後期
第9回　発達位相：青年期の終わり；揺動的平衡論
第10回　青年期発達のブレイクダウン（1）：うつ
第11回　青年期発達のブレイクダウン（2）：引きこもり
第12回　青年期の心理療法（1）
第13回　青年期の心理療法（2）
第14回　『青年ルター』：マルチン・ルターの青年期
第15回　再び青年期とは何か
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

［ 成績評価（備考） ］
ディスカッションへの取り組みを評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では、各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
自分が関心を持った青年期の問題を、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
主に、「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、青年期の理解に関する専門的知識と態度の基礎および、現代の日本社会における青年期を分析し理解する能力が身に付く。

［ テキスト ］
特に指定せず

［ 参考文献 ］
小谷英文編（2005）現代のエスプリ別冊『心の安全空間』. 至文堂.
小谷英文編著（2008）ニューサイコセラピィ. 風行社.
小谷英文（2009）ダイナミックコーチング. PAS心理教育研究所出版部.
R・アンダーソン／A・ダーティントン編（鈴木龍監訳）（2000）思春期を生きぬく−思春期危機の臨床実践−. 岩崎学術出版社.
Blos, P. (1962). On Adolescence：Psychoanalytic Interpretation. New York：Free Press.
Blos, P. (1979). The Adolescent Passage：Developmental Issues. New York：International University Press.
Briggs, S. (2008). Working with Adolescents and Young Adults：A Contemporary Psychodynamic Approach. Second Edition. New York：Palgrave Macmillan.
E・H・エリクソン（小此木啓吾訳）（1973）自我同一性. 誠信書房.
Levy−Warren, M.H. (1996). The Adolescent Journey：Development, Identity Formation, and Psychotherapy. Northvale：Jason Aronson Inc.
Perret−Catipovic, M. &Ladame, F. (1998). Adolescence and Psychoanalysis：The Story and the History. London：Karnac Books.
H・S・サリヴァン（中井久夫他訳）（1990）精神医学は対人関係論である. みすず書房
その他、適宜授業内で紹介する。

心理学統計法

2単位：後期1コマ	1年
谷井　淳一	

［到達目標］
①心理学の論文を読んだり書いたりする際に必要な心理統計の初歩的知識を理解する。
②統計的検定の考え方を理解して、統計的に有意かどうかを判断できる。
③統計的検定についての基本的な例題に関して、適切な計算によって、有意な違いがあるかどうかを判断する力を養う。

［履修の条件］
臨床心理コースのコース必修科目であり、1年生の後期に必ず履修するように。子ども支援コースの学生の中で、心理学的研究手法を用いて卒論を書きたいと思っている場合も履修してほしい。2年生の心理学研究法Ⅰや心理学実験はこの科目の履修を前提にしている。また、授業には簡単な電卓を持ってきてほしい。

［講義概要］
心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。
そして、これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。

■授業計画

第1回　なぜ数値化して考える必要があるか
第2回　研究の企画・立案、尺度の水準、シグマの計算方法
第3回　代表値と散布度、平均値と分散、標準偏差
第4回　信頼性と妥当性
第5回　正規分布と標準得点
第6回　母集団とサンプリング
第7回　記述統計と推測統計
第8回　統計的検定の考え方、帰無仮説、有意水準
第9回　95％信頼区間、99％信頼区間
第10回　zを用いた検定
第11回　母平均と1つの平均値の差に関するt検定
第12回　2つの群の平均値の差に関するt検定
第13回　対応のあるt検定と対応のないt検定
第14回　相関分析
第15回　ノンパラメトリック検定
　　χ^2乗検定
第16回　まとめ・復習

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（20％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
復習を中心にして、授業で解説した例題は、4時間程度の学習をし、繰り返し練習して完全にマスターしてほしい。合計15回の授業で60時間の復習が必要である。

［試験・レポート等のフィードバック］
講義で実施した小テストについては、翌週に、解説を行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目の理解を前提にして、2年生以降、データ解析や心理実験での統計処理が可能になる。

［テキスト］
「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著　北大路書房。

［参考文献］
授業で指示をする。

質的研究法

2単位：前期1コマ	2〜4年
小倉　啓子	

［科目補足情報］
グループ実習で一つの理論を得るという学習。ディスカッションや協力への意欲が必要。

［到達目標］
①質的研究の意義と目的を理解する。②さまざな質的研究法の特色を知る。③修正版グランデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）における研究の考え方、データ収集法、データ解釈や結果のまとめ方など研究のプロセスを学ぶ。実際のインタビュー・データを用いて、データ解釈の方法を練習し、概念作成、カテゴリー化、モデル生成を体験する。卒論で用いる場合の基本的知識とスキルを身につける。④日常生活のなかや現場実践での経験を研究に結びつける意欲とスキルを養う。

［履修の条件］
①日常生活のなかに問いや驚きを感じることができること。②感じたことや考えたことを言葉にすること。③グループワークをするので、他の受講生と互いに協力したり、自分の意見を述べたりすること。④欠席が多いと授業内容がわからなくなるため、欠席をしないこと。

［講義概要］
この授業では前半は、対人援助領域に関わる心理学で用いられているさまざまな研究法を紹介する。研究協力者の選択、面接や観察などデータ収集に関する事項を学ぶ。具体的研究法として事例研究、ライフストーリーを学び、後半では臨床心理学をはじめ対人サービス部門における研究法として用いられることが増えているM-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）をとりあげ、その分析技法について解説し、研究例を紹介する。実際にデータを用いた分析までを体験してみる。宿題のひつとに、学生が日常生活のなかで感じたこと、知ったことを言語化する作業がある。複雑な現象を学生の関心に基づき、本質的に端的に捉え、他者に伝わる表現力を養うためである。

■授業計画

第1回　①受講者の研究的関心、本講義への期待を話し合う。②質的研究の意義についての講義
第2回　①質的研究の特色　②基本的な方法　③宿題：質的研究に役立つワーク
第3回　①宿題の報告　②データ収集：倫理的配慮・対象者の選定・インタビュー方法・観察方法・フィールドワークの方法　③宿題：質的研究に役立ワーク
第4回　①宿題の報告　②データ収集：相互にインタビューの練習と感想、課題　③データの記録と整理　④質的研究に役立つワーク
第5回　①宿題の報告
②ライフストーリー・研究例　事例研究・研究例
第6回　①宿題の報告
②M−GTA の基本：目的、適した研究、重要な分析技法
第7回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディング
第8回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディング
第9回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディングとカテゴリー化
第10回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディングとカテゴリー化
第11回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディングとカテゴリー化
第12回　①宿題の報告
②M−GTA の分析過程：データを使った練習・概念生成−オープンコーディングとカテゴリー化
第13回　①宿題の報告
②M−GTA の分析まとめ：データを使った練習・カテゴリー化・モデル化・ストーリーライン・結果図作成
第14回　①M−GTA の分析まとめ：モデル化・ストーリーライン・結果図作成・発表準備
第15回　①分析結果の発表と相互評価
第16回　まとめのレポート作成

［ 成績評価 ］

試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］

積極的な授業参加を測る項目は、準備学習の達成、グループ・ディスカッション、リアクション・ペーパー、課題達成、質問意欲、レポートの内容とする。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。従って、分析資料や参考文献を読んでくること、課題をまとめることなどの課題を行った上で授業を受けることになる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

①リアクション・ペーパー、宿題の報告に対して、その都度、コメントする。
②実習の際は、教室内を周り、学生の作業内容や質問に対して指導、コメント、評価する。
③分析のまとめ発表の際には、課題達成レベルや問題点についてレポート作成の参考になるようなコメントをする。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

ヒューマン・ケアに必要な資質は、現場で出会う課題の本質をとらえ、問題点の発見と適切な分析を行って改善・解決への提言を行い、自らも実践と研究の回路を歩むことである。本講義では人間への深い関心と共感に基づき、実践・研究に重要な問題の把握や分析力、コミュニケーション能力を養う。

［ テキスト ］

その都度、講義内容に即したレジュメを配布分析。

［ 参考文献 ］

『ライブ講義 M−GTA−実践的質的研究法』
木下康仁著、弘文堂、2,400円+税

心理学研究法Ⅰ（データ解析）

2単位：前期1コマ	2年
栗田　明子	

［ 到達目標 ］

心理学研究法Ⅲ（データ解析）は、以下の3つを到達目標とする。
1. 統計基礎の復習、2. エクセルで、データ入力、図表の作成、関数を使用出来ること、3. 統計ソフトを用いて、代表的な統計的検定を行い、その解釈が出来ること。

［ 履修の条件 ］

心理学研究法（統計基礎）を履修済みであること、ワード・エクセルで文書を作成出来ることが望ましい。パソコンに不慣れな者は、1年時にパソコンの授業を履修しておくことが望ましい。2年後期の心理学基礎実験で必要となるデータ処理技法を実習するものであり、2年前期で必ず履修して欲しい。

［ 講義概要 ］

記述統計や推測統計の理解を基礎にして、パソコン（エクセルおよび SPSS などの統計ソフト）を用いてデータ分析を行う。
なお、第1回の授業においては、第2回以降のクラス分け（4時限または5時限の2つに分ける）を行うので、4時限目の授業に全員必ず出席すること。なお、受講生の理解に応じて、シラバスの内容は若干変動する可能性がある。

■授業計画

第1回　データ解析の意義とオリエンテーション
第2回　エクセルによるデータ入力と関数の使い方
第3回　表とグラフの作成方法
第4回　統計基礎の復習
第5回　対応のない t 検定の理解と実習

第6回　対応のあるｔ検定の理解と実習
第7回　SPSSの使い方とSPSSを用いた対応のないｔ検定の結果の読み取り方
第8回　SPSSを用いた対応のあるｔ検定の結果の読み取り方
第9回　要因計画と分散分析の理解
第10回　1要因の分散分析（繰り返しのない）の理解と実習
第11回　SPSSを用いた1要因の分散分析（繰り返しのない）の結果の読み取り方
第12回　1要因の分散分析（繰り返しのある）の理解と実習
第13回　SPSSを用いた1要因の分散分析（繰り返しのある）の結果の読み取り方
第14回　SPSSを用いた2要因の分散分析と主効果・交互作用の結果の読み取り方
第15回　その他の代表的な検定の手法の理解
第16回　まとめとテスト

［成績評価］
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（35％）、その他の評価方法（15％）

［成績評価（備考）］
実習科目であるため、授業態度を重視する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。前回までの授業を理解したものとして進行していくので復習は必ずして欲しい。

［試験・レポート等のフィードバック］
授業内の提出物は、その場で返却するので合格するまで提出することが求められる。小テストはテストの翌週以降に返却する。必ずどこを間違えたか、内容を確認すること。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディプロマポリシーの3. 総合的・実践的な学習能力にあるように、「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。」を目指し、自分たちでデータをとり、分析をし、分析結果について考える作業を行なっていく。

［テキスト］
「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著　北大路書房

［参考文献］
「SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析」小塩真司著　東京書籍
「文科系学生のための新統計学」小野寺孝義・菱村豊著　ナカニシヤ出版

［備考］
飲食や途中退出、居眠りなどは厳禁。
授業内容については、毎回積み重ねの学習となる。理解出来なかったところがあったら、そのままにせず、教員かTAに申し出るようにすること。
必要に応じてパソコン室で自主学習を行うことを推奨する。

質問紙調査法

2単位：前期1コマ	3年
谷井　淳一	

［到達目標］
①質問紙調査の方法論を理解し調査のスキルを学ぶ。
②実際に調査票を作成し、調査実施、統計処理の一連の流れを学ぶ。
③統計処理としては、因子分析を使うので、因子分析の使用方法を副次的に学ぶことになる。

［履修の条件］
臨床心理コースで卒論に取り組むつもりの人は必ず履修してほしい。原則として3年前期で履修すること。「心理学研究法Ⅲ（データ解析）」「心理学実験」を履修済みまたは並行履修することが望ましい。特に調査や実験的手法を用いて卒業論文に取り組もうと考えている人は必ず履修すること。質問紙調査を学ぶ大切な科目であるので、できるだけ多くの学生が履修してほしい。
（編入生の履修時期）
3年への編入生は、できるだけ3年で履修すること。卒業論文のことを考えると、3年で履修しないと調査のイメージができず不利である。心理学研究法Ⅲ（データ解析）の履修後が望ましいが、3年への編入生は同時履修して頑張ってほしい。グループ作業が多いので、パソコン操作についてもある程度は何とかなる。しかし努力が必要である。

［講義概要］
心理学研究の方法には、観察法、実験法、面接法などがあるが、その中でも、質問紙調査法は中心となる研究法である。この授業では、グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを5-6人のグループを作って体験的に実習する。

■授業計画
第1回　質問紙調査とは
第2回　質問紙調査を用いた論文を読む
第3回　因子分析表の意味の理解
第4回　尺度概念の検討
第5回　尺度概念の精緻化
第6回　概念に沿った項目の作成
第7回　調査票の作成準備
第8回　調査票の完成
第9回　調査実施
第10回　データ入力とデータチェック
第11回　SPSSを用いた因子分析の方法
第12回　因子分析による質問紙項目の精選
第13回　因子数の決定と因子の命名
第14回　下位尺度得点の算出と男女別の平均値の求め方
第15回　レポートの書き方
第16回　まとめ・討論

［成績評価］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、

その他の評価方法（30％）

［ 成績評価（備考） ］
調査の実施、データ入力，その後のグループ作業など。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各段階ごとに課題があるので、それを確実に、すすめていくことが必要となる。文献探しから始まり、調査の実施、データ分析など、授業以外でも平均4時間、合計で60時間の準備学習が必要である。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
グループ学習なので、各段階で、グループごとの成果をチェックしながら学習をすすめる。質問があればそれに応える形でフィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた、仮説を実証する考え方を、実際に質問紙作成に取り組み、さらに理解を深める。

［ テキスト ］
プリントを配布する

［ 参考文献 ］
「社会心理学研究入門」末永俊郎編　東京大学出版会

心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）

2単位：前期1コマ	3〜4年
松田　崇志	

［ 到達目標 ］
1）心理学研究における実証的な研究法である面接法・観察法・実験法それぞれの特徴を理解する。
2）面接法・観察法・実験法の計画、実施、分析、まとめまでの一連の手続きを理解し，データを用いた実証的な思考方法ができるようになる。
3）研究における倫理を理解する。

［ 履修の条件 ］
発展的な内容であるため、「心理学基礎実験」，「心理学研究法（統計基礎）」，「心理学研究法Ⅲ（データ解析）」を履修済みであると望ましい。

［ 講義概要 ］
心理学はこれまで幅広い研究領域をカバーするため、さまざまな方法論を発展させてきた。したがって、心理学研究を行う際には、自らの研究課題にもっとも適した方法を選択することが必要になる。本講義では、心理学の代表的な研究法のうち「面接法」「観察法」「実験法」を取り上げる。それぞれの特徴をふまえた上で、計画から実施、分析、まとめまで一連の手続きを学んでいく。本講義では、実際のデータ分析の体験を通して、学べるようにする予定である。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，研究における倫理
第2回　質的研究と量的研究
第3回　面接法（1）：種類と方法論
第4回　面接法（2）：面接法の実習
第5回　観察法（1）：種類と方法論
第6回　観察法（2）：観察法の実習①
第7回　観察法（3）:観察法の実習②
第8回　実験法の基礎
第9回　実験法（1）：1要因被験者間計画の実習①
第10回　実験法（2）：1要因被験者間計画の実習②
第11回　実験法（3）：2要因被験者内計画の実習①
第12回　実験法（4）：2要因被験者内計画の実習②
第13回　実験法（5）：2要因混合計画の実習①
第14回　実験法（6）：2要因混合計画の実習②
第15回　まとめ
第16回　レポート提出

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（70％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

［ 成績評価（備考） ］
各実習のレポート提出に加え、各実習への参加状況、授業でのディスカッションの参加・貢献度によって評価を行う。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
事前予習：t 検定までの統計の基本的な知識を復習しておくこと。
復習：授業内で示す参考文献などを読んで，理解を深めること。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

［ テキスト ］
特になし。

［ 参考文献 ］
①中澤潤・大野木裕明・南博文（編著）「心理学マニュアル観察法」 北大路書房　1997年　（本体価格：1,300円+税）
②村井潤一郎（編著）「Progress & Application 心理学研究法」 サイエンス社　2012年　（本体価格：2,200円+税）
③サール，アン（著）宮本聡介・渡辺真由美（訳）「心理学エレメンタルズ　心理学研究法入門」 新曜社　2005年　（本体価格：2,200円+税）
④山田剛史・林　創 「大学生のためのリサーチリテラシー入門　研究のための8つの力」 ミネルヴァ書房　2011年　（本

体価格：2,400円+税）

［ 備考 ］
本講義の内容は受講生の人数や状況に合わせて修正することがある。

心理的アセスメント

2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美	

［ 到達目標 ］
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
3. 検査者および被検査者の体験
4. 自己理解を深める
5. 心理検査結果におけるアセスメントについての理解

［ 履修の条件 ］
1. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
2. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分に理解できること
3. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

［ 講義概要 ］
この講義では理的アセスメントの目的及び倫理および心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を学ぶ。心理検査では、医療や教育現場および研究で使用されている質問紙法、作業検査法、知能検査を取り上げる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　心理的アセスメントの目的及び倫理
第3回　心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）
第4回　心理検査の目的と留意点
　　心理検査の概要
第5回　パーソナリティの検査①　体験と解説
第6回　パーソナリティの検査②　体験と解説
第7回　状態や症状の検査①　体験と解説
第8回　状態や症状の検査②　体験と解説
第9回　状態や症状の検査③　体験と解説
第10回　内田クレペリン精神検査の体験と解説
第11回　知能検査総論
第12回　WISC−Ⅳ：解説、結果のまとめ方
第13回　WISC−Ⅳ・WAIS−Ⅲ：DVD 視聴
第14回　田中ビネー知能検査Ⅴ：解説、DVD 視聴
第15回　事例提示
第16回　まとめ

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

［ 成績評価（備考） ］
授業参加態度、小レポート

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と秘術を身に付けることができる。

［ テキスト ］
必要な資料を適宜配布する。

［ 参考文献 ］
小山充道「臨床心理アセスメント」　金剛出版8,500円
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版　2,100円

心理検査技法演習

2単位：後期1コマ	2〜4年
田副　真美	

［ 科目補足情報 ］
心理的アセスメントを履修済みでないと、この科目は履修できない。

［ 到達目標 ］
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）の理解
3. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
4. 検査者および被検査者の体験
5. 自己理解を深める
6. 検査結果によるアセスメントやテストバッテリーについての理解
7. 心理検査を実施する際の倫理上の問題への理解を深める

［ 履修の条件 ］
1.「心理的アセスメント」を履修済みであること
2. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
3. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分理解できること
4. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

［ 講義概要 ］
心理検査では、投映法を中心に講義する。各検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方について体験する。結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の

実際について具体的な事例を提示し説明する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　投映法総論
第3回　SCT：実施方法の説明、検査の体験と解説
第4回　P−F スタディ①
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第5回　P−F スタディ②
　　実施方法の説明、検査の体験と解説②
第6回　バウムテスト①：実施方法の説明、検査の体験と解説
第7回　バウムテスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第8回　HTP テスト①：実施方法の説明、検査の体験と解説
第9回　HTP テスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第10回　風景構成法①：実施方法の説明、検査の体験と解説
第11回　風景構成法②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第12回　TAT：実施方法の説明、検査の体験と解説
第13回　ロールシャッハ・テスト：実施方法の説明と解説
第14回　テストバッテリー・相談、助言、指導等への応用の仕方
第15回　事例提示、全体のまとめ
第16回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

［ 成績評価（備考） ］
授業参加態度、小レポート

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
複数回の講義では、必ず前回の資料などに目を通し講義に臨むこと。
本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と秘術を身に付けることができる

［ テキスト ］
必要な資料を適宜配布する。

［ 参考文献 ］
小山充道「臨床心理アセスメント」　金剛出版8,500円
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版2,100円

［ 備考 ］
心理検査技法Ⅱを履修するには、心理検査技法Ⅰが単位取得済みであることが必要。

学習・言語心理学

2単位：後期1コマ	2〜4年
上田　卓司	

［ 到達目標 ］
本授業では「学習」「行動」「言語」にまつわる心的現象や基本的知識を取得する事と同時に，「客観的な事実による裏付け」がどのように得られるのか，どのように「事実」を解釈するかについても見つけることを目標とします．

［ 履修の条件 ］
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい．欠席せずに，毎回参加できる学生に向いた科目です．

［ 講義概要 ］
本授業では「学習」「獲得」という観点を元に種々の心理学的現象について考察します．講義形式を中心としますが，適宜マルチメディア資料を活用したり，実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます．

■授業計画

第1回　導入：心理学における「学習」と「言語」の位置付け
第2回　生得的行動と学習
第3回　条件付け（1）：古典的条件付け
第4回　条件付け（2）：道具的条件付け
第5回　般化と弁別：学習の諸要素
第6回　学習における認知的要因
第7回　学習・獲得における動機の役割
第8回　社会的学習：模倣と観察学習
第9回　行動療法（1）：心理的障害への学習・行動主義的アプローチ
第10回　行動療法（2）：行動療法と認知的変容
第11回　言語と行動
第12回　言語の獲得
第13回　言語の障害と喪失
第14回　予備的話題
第15回　まとめ
第16回　まとめ

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（70%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業内容についてノートを整理し，指示した参考文献に目を通します．本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要となります．合計15回の授業で60時間となります．

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
ほぼ毎回行われることになる小テストについては，実施直後に解説・復習を行い，新たな授業トピックの導入の役割を果たします．

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します. 本科目を履修することにより, 基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます.

[テキスト]
特定の教科書は用いません.

[参考文献]
教場で, 必要な資料を適宜配布します. 参考文献情報は資料に掲載されています.

知覚・認知心理学

2単位：前期1コマ	2〜4年
上田　卓司	

[到達目標]
1. 私たちの経験を「心の情報処理」という観点から捉えられるようになる
2. 知覚・認知情報処理過程に関する基礎知識を得る
3. 日常生活での様々な活動や判断でどのような心的情報処理が行われているか, 考察できるようになる

[履修の条件]
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい, 欠席せずに, 毎回参加できる学生に向いた科目です.

[講義概要]
私たちの知覚や認知のあり方について考察する授業です.「情報処理」という観点から理論的に考察し, 経験的に検証することを目的としています. 講義形式を中心としますが, 適宜マルチメディア資料を活用したり, 実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます.

■授業計画

第1回　導入
第2回　心の情報処理について：知覚認知研究の目標と方法論
第3回　知覚(1)：視知覚情報処理の基礎
第4回　知覚(2)：知覚の理論
第5回　知覚(3)：知覚の生涯発達と障害
第6回　注意と意識(1)
第7回　注意と意識(2)
第8回　イメージと表象
第9回　知識構造と認識
第10回　記憶の緒側面
第11回　記憶の性質と障害
第12回　推論と問題解決
第13回　判断・意志決定とそのバイアス
第14回　感情・身体と認知
第15回　予備的話題
第16回　まとめ

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(70%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業内容についてノートを整理し, 指示した参考文献に目を通します. 本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要となります. 合計15回の授業で60時間となります.

[試験・レポート等のフィードバック]
ほぼ毎回行われることになる小テストについては, 実施直後に解説・復習を行い, 新たな授業トピックの導入の役割を果たします.

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します. 本科目を履修することにより, 基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます.

[テキスト]
特定の教科書は用いません. 教場で, 必要な資料を適宜配布します.

[参考文献]
西本武彦(編著)(2012). 認知心理学ラボラトリー. 弘文堂 (ISBN：9784335651533)
その他, 教場にて必要な資料を適宜配布します. 参考文献情報は資料に掲載されています.

生理心理学

2単位：集中	2〜4年
大木　紫	

[到達目標]
生理心理学は神経心理学同様、バイオサイコロジーの一分野で、生理学と心理学にまたがる領域である。講義を通して、ヒトの行動と脳の関わりについて理解することを目標とする。

[履修の条件]
履修の条件は、特にない。短期集中講義なので疑問をそのままにせず、積極的な討論と発言を期待する。

[講義概要]
生理心理学の概要と方法を説明したのち、異なる心理機能の脳基盤について各論の講義を行う。福祉・教育の現場に関わる心理機能について、基本的な知識を得ることを目指す。

■授業計画

第1回　生理心理学概論
第2回　脳の発生・解剖学的基礎
第3回　脳機能に関する基礎知識
第4回　脳の検査法
第5回　睡眠と生体リズム
第6回　情動
第7回　学習と記憶

第8回　性差
第9回　摂食
第10回　不安障害・注意欠陥
第11回　自閉性障害
第12回　ストレス障害
第13回　薬物嗜癖
第14回　認知庄
第15回　統合失調症
第16回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（100%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回に4時間の準備学習（特に復習）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートについては、採点後、特に不足している点（内容、書式等）をフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、臨床心理における脳科学の基盤について理解し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

[テキスト]
講義毎に、プリントを配布する。

[参考文献]
泰羅雅登等訳、カールソン　神経科学テキスト　脳と行動　丸善、18,000円

神経・生理心理学

2単位：前期1コマ	2〜4年
重宗　弥生	

[到達目標]
①脳の生理学的・解剖学的な構造を理解する（脳神経系の構造及び機能の理解）
②脳を基盤とする認知機能の機序を理解する（記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解）
③脳領域の損傷や疾患によってみられる障害を理解する（高次脳機能障害の概要の理解）

[履修の条件]
この授業では、教員と学生の質疑応答や、学生同士での心理検査の実施やディスカッションの機会を設けますので、受け身ではなく、能動的に講義に参加する姿勢が求められます。
特別な理由なく2回以上講義に欠席した場合や、一定時間以上の遅刻や早退が認められた場合には、単位の取得が難しくなりますので注意してください。

[講義概要]
神経心理学は、脳が損傷された場合に起こる知覚や行動の障害から、その障害された認知機能のメカニズムや対応する脳領域を明らかにする学問です。本授業では、スライドやビデオ映像などの資料提示や、心理検査やディスカッションを通して、脳の損傷によって起こる障害について理解してもらいます。

■授業計画
第1回　神経心理学の位置付けと方法
第2回　脳神経の生理学的・解剖学的構造と機能
第3回　視覚・聴覚の障害①
第4回　視覚・聴覚の障害②
第5回　言語の障害①
第6回　言語の障害②
第7回　記憶の障害①
第8回　記憶の障害②
第9回　運動の障害
第10回　感覚の障害
第11回　情動の障害
第12回　実行機能の障害
第13回　精神疾患と発達障害
第14回　神経心理検査
第15回　まとめ
第16回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本講義では、脳の領域名や症状名など専門的な用語を憶え、様々な認知機能の機序について理解する必要があります。そのため、それらを自分の知識にできるよう各授業回に4時間の準備学習（予習・復習など）をし、合計15回の授業で60時間の学習となります。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストは翌週の講義で採点したものを返却し、解説を行います。試験は事務を通して採点したものを返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目を履修することにより、高次脳機能障害や精神疾患、発達障害についての知識を身に付け、その知識を当事者やその家族の理解や援助に役立てることができます。

[参考文献]
神経心理学入門　山鳥重　医学書院
高次脳機能障害学　石合純夫　医歯薬出版株式会社

[備考]
私語など他の学生に迷惑をかける行為は厳禁です。

臨床心理学概論

2単位：前期1コマ	1〜2年
植松　晃子	

［到達目標］
現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解する。精神分析を中心に、分析心理学、行動療法、来談者中心療法の理論を成り立ちから学びます。

［履修の条件］
心理臨床とは何か、基礎となる理論を学ぶ意欲を持った学生であること。地域の方にも開かれた公開講座です。本学の学生で聴講を希望する場合は事前に相談してください。

［講義概要］
臨床心理学が提案する様々な理論やアプローチは、「個」を理解するためのものです。この講義では、臨床心理学の理論に焦点を当て、それぞれの理論で核となる考え方を学びます。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画

第1回　授業についての説明：心理臨床とはどのような支援なのか
第2回　精神分析(1)導入：背景の理解
第3回　精神分析(2)局所論・構造論
第4回　精神分析(3)心理力動論
第5回　精神分析(4)発達論
第6回　精神分析(5)発達論
第7回　分析心理学(1)導入：背景の理解
第8回　分析心理学(2)タイプ論、集合的無意識、元型
第9回　分析心理学(3)夢分析、箱庭
第10回　行動療法(1)導入：背景の理解
第11回　行動療法(2)様々な技法1
第12回　行動療法(3)様々な技法2
第13回　来談者中心療法(1)導入：背景の理解
第14回　来談者中心療法(2)理論の展開
第15回　来談者中心療法(3)人格論
第16回　定期試験

［成績評価］
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
積極的な予習・復習を勧めます。授業で扱う内容を1回ですべて理解しようとせず、各自復習することを勧めます。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

［試験・レポート等のフィードバック］
授業内容についての質問や授業で掴んだことのフィードバックの時間を毎回設ける。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解し、臨床心理学を学びを深める。

［テキスト］
特になし

［参考文献］
授業時に適宜紹介する
＜概説書として＞
・無藤隆他「心理学」有斐閣のうち、第4部「心の適応と臨床」
・スミスら「ヒルガードの心理学」ブレーン出版のうち、第13章「人格」
＜各理論ごとの参考文献＞
・小此木啓吾「フロイト思想のキーワード」講談社現代新書
・河合隼雄「ユング心理学入門」培風館
・山下敏子「方法としての行動療法」金剛出版
・佐治守夫・飯長喜一郎「新版　ロジャースクライエント中心療法」有斐閣

自律訓練法

1単位：集中	1〜4年
田副　真美	

［到達目標］
1. 心身医学領域における治療法として有用性のある自律訓練法の知識を得る。
2. 自律訓練法の体験を通して、心身相関が理解できる。

［履修の条件］
体験型の講義のため、講義日程をすべて受講できる者に限る。

［講義概要］
自律訓練法は、心身医学領域では中心的な心理療法であるが、現在は、ストレス対処や健康増進の1方法として広く実施されているそのようなリラクゼーション法の1つである自律訓練法の標準練習について学び体験する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　ストレスについて
　　心身相関について
第3回　自律訓練法とは
第4回　自律訓練法とは
　　自律訓練法の標準練習の説明と体験①
　　①　背景公式
　　②　第1公式　四肢重感練習
第5回　自律訓練法の標準練習の説明と体験②
　　③　第2公式　四肢温感練習
　　④　第3公式　心臓調整練習
　　⑤　第4公式　呼吸調整練習
第6回　自律訓練法の標準練習の説明と体験③
　　⑥　第5公式　腹部温感練習
　　⑦　第6公式　額部涼感練習
第7回　事例提示

第8回　まとめ
第9回　レポート試験
第10回　1単位のため第8回で終了
第11回　1単位のため第8回で終了
第12回　1単位のため第8回で終了
第13回　1単位のため第8回で終了
第14回　1単位のため第8回で終了
第15回　1単位のため第8回で終了
第16回　1単位のため第8回で終了

[成績評価]
試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
授業への参加態度、講義後の小レポート

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
2日間の集中講義のため、1日目に体験した自律訓練法を数回講義で復習し、その実施記録を2日目の講義に提出してもらう。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。臨床心理学を専門とする者が、心理的介入方法、自己コントロールの方法として実践的な知識と技術を身に着けることができる。

[テキスト]
必要な資料を適宜配布する。

[参考文献]
松岡洋一、松岡素子　「自律訓練法」日本評論社2,730円

[備考]
1単位のため、全8回の講義となる。
受講者は、自律訓練法の習得も目的としているため、遅刻や欠席をしないように心がけてほしい。

サイコドラマⅠ

1単位：前期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[到達目標]
①集団心理療法の1つであるサイコドラマを体験し、その目的を理解する。
②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

[履修の条件]
希望者を2つのグループに分け、全7-8回を隔週(2週間に1回のペース)で実施する(単位数は1)。サイコドラマを初めて受講するものは原則として前期から始めてほしい。1グループは15人程度としたいので、何らかの方法で、人数制限か人数調整をする。授業開始日にグループ分けを行うので第1日目は必ず出席してください(1回目だけ大きめの別の教室で行い、2回目からは小さめの教室に移動する。掲示に注意してほしい)
後期に初めてサイコドラマを履修したい場合は相談してください。

[講義概要]
(1)サイコドラマの目的
サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。臨床心理学を学ぶものとして、個人を対象にした技法とともに集団を対象としたスキルを身につけることも将来的に必要となる。そこで、集団心理療法の1つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法について体験的に理解をはかる。

■授業計画
第1回　サイコドラマについての概要を説明する。
　　グループ分けとグループメンバーを知るワークを実施する。
　　サイコドラマ実施上の限界や注意点についても理解する。
第2回　サイコドラマの構成の体験的理解
　　これまでのサイコドラマの記録を読んで、サイコドラマのすすめ方に関する理解を深める。
第3回　「自分にプレゼントをする」のワークがら連想するテーマに関するドラマ体験
第4回　「対人関係の課題」をテーマにしたドラマ体験
第5回　「エンプティチェア」から連想したテーマに基づくドラマ体験
第6回　「最近の自分に対する評価」をテーマにしたドラマ体験
第7回　「最近困ったこと」をテーマにしたドラマ体験
第8回　「この半年のベスト月・ワースト月」をテーマにしたドラマ体験
第9回　1単位なので第8回で終了である
第10回　1単位なので第8回で終了である
第11回　1単位なので第8回で終了である
第12回　1単位なので第8回で終了である

第13回　1単位なので第8回で終了である
第14回　1単位なので第8回で終了である
第15回　1単位なので第8回で終了である
第16回　1単位なので第8回で終了である

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに4時間の復習時間をとって、各授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください(8回の合計で32時間)。以下の内容をレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことをメモしておいてください。
(1)各回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
(2)サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
(3)自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
(4)主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分のことについて違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。
(5)その他

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間をとって、その授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解も深めることを目指す。

[テキスト]
とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマⅡ

1単位：後期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

[到達目標]
①内容そのものはサイコドラマⅠと同じであるが、経験者のクラスである。役割をとることの理解が深まっているはずなので、自発性を発揮し、ダブルや補助自我の役割をしっかりとれるようになることを目指して欲しい。
②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

[履修の条件]
サイコドラマⅠを履修済みのもの。ただし、後期からサイコドラマを履修したい場合は谷井に相談してください。
サイコドラマを始めてようやく慣れた頃に、サイコドラマⅠが終わったと思うので、引続き履修を続けて自己理解や他者理解を深めたい学生のための科目である。
最初の授業で(または事前に)履修者を2つのグループに分けるので、希望者は1回目から参加すること。

[講義概要]
サイコドラマは、主役のこころの世界を立体的に表現し、集団の力に支援されながら自分のこころを検討していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。サイコドラマⅡでは、ダブルなどの補助自我の役割を、主役の心情を理解して適切に表現できるようになることを目指したい。また、少し遊び心豊かなドラマを一緒に創って行きたい。

■授業計画
第1回　サイコドラマⅠの経験の振り返り, ダブルの練習。
第2回　「今年一番の思い出を写真にとる」をテーマにしたドラマ体験
第3回　「自分にプレゼントをする」をテーマにしたドラマ体験
第4回　「エンプティチェア」から出発したドラマ体験
第5回　「今の気持ちを表す物になる」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験
第6回　「カードを選んでメッセージをもらう」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験
第7回　「今年一番重要だった月」をテーマにしたドラマ体験
第8回　「もし主役をするならこの場面」をテーマにしたドラマ体験
第9回　1単位なので第8回で終了である
第10回　1単位なので第8回で終了である
第11回　1単位なので第8回で終了である
第12回　1単位なので第8回で終了である
第13回　1単位なので第8回で終了である
第14回　1単位なので第8回で終了である
第15回　1単位なので第8回で終了である
第16回　1単位なので第8回で終了である

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに4時間の復習時間をとり、各授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください（8回の合計で32時間）。以下の内容をレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことを簡単にメモしておいてください。
(1)各回ごとにどんな役割（主役・補助自我・観客）をして、何を感じたか。
(2)サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
(3)自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
(4)主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分についてのことで違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。
(5)その他・感想

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間を設けてその日の授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解が深まることを目指す。

[テキスト]
とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマ III

1単位：前期＋後期	2〜4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
サイコドラマⅠⅡを履修した人は、「監督がどのようにしてドラマを進めていっているのか」について学ぶことでサイコドラマがさらに楽しくなると思うので、3・4年生は是非履修してほしい。

[到達目標]
①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。

[履修の条件]
①サイコドラマⅠ（またはⅡ）を履修済みのこと。
②前期と後期で同じ内容を繰り返し実施する（授業は、サイコドラマⅢとⅢ演習の受講者が混じっているグループで実施する）
③サイコドラマⅢ演習は、リピート授業なので、最初に受講する人はサイコドラマⅢとして登録すること。Ⅲを履修の後、繰り返しもう一度、受講する人は、サイコドラマⅢ演習として履修すること。
④3・4年生でサイコドラマⅠ・Ⅱと同時に並行履修したい場合は相談してください。

[講義概要]
(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会が出てくる可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画
第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)
第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択までの監督体験
第8回　ウォーミングアップからドラマ化・シェアリングまでの監督体験
第9回　1単位なので第8回で終了である
第10回　1単位なので第8回で終了である
第11回　1単位なので第8回で終了である
第12回　1単位なので第8回で終了である
第13回　1単位なので第8回で終了である
第14回　1単位なので第8回で終了である
第15回　1単位なので第8回で終了である
第16回　1単位なので第8回で終了である

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらう。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。授

業ごとに4時間の復習時間が必要で合計32時間の復習時間が必要である。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施すす。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

[テキスト]
必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]
レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでの授業と同じ観点から書いてください。監督体験（ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成）に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

サイコドラマ III 演習

1単位：前期＋後期	2〜4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
前期・後期ともに開講する。最初に履修するときはサイコドラマⅢ、2回目に履修するときはサイコドラマⅢ演習として履修登録してください。

[到達目標]
①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。

[履修の条件]
①サイコドラマⅢを履修済みで、もう少し監督のトレーニングを継続して学びたい人。
②前期と後期で同じ内容を繰り返し実施する。実際の授業はサイコドラマⅢと同時履修となる。つまり、一つの授業にサイコドラマⅢの受講者とサイコドラマⅢ演習の受講者がまじっていることになる。
③サイコドラマⅢ演習は、リピート授業なので、最初に受講する人はサイコドラマⅢとして登録をするように。繰り返し2度目に受講する人は、サイコドラマⅢ演習として履修してください。

[講義概要]
(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校において、集団活動を指導する機会が出てくる可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)
第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択までの監督体験
第8回　ウォーミングアップからドラマ化・シェアリングまでの監督体験
第9回　1単位なので第8回で終了である
第10回　1単位なので第8回で終了である
第11回　1単位なので第8回で終了である
第12回　1単位なので第8回で終了である
第13回　1単位なので第8回で終了である
第14回　1単位なので第8回で終了である
第15回　1単位なので第8回で終了である
第16回　1単位なので第8回で終了である

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価（備考）]
授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。将来サイコドラマのスキルが役に立つと感じた時にあらためて学びなおしてほしい。1回の授業について4時間の復習時間が必要で、8回の合計で32時間の復習時間が必要である。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとに、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、疑問的や今回のドラマのポイントについて、フィードバックを行っている。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。主役のテーマを把握しどのようにサイコドラマを組み立てていくかを学習する。

[テキスト]
必要なら参考文献を参照してください。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]
レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでの授業と同じ観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

感情・人格心理学

2単位：後期1コマ	2〜4年
佐藤　聡美	

[到達目標]
感情とパーソナリティに関する知識を得るだけでなく、心理学の立場からみた人間像を理解する。

[履修の条件]
授業初回までに各自でテキストを購入しておくこと。

[講義概要]
感情とパーソナリティ(人格)について心理学ではどのように考えられているのかを学ぶ。また、感情とパーソナリティに関するテーマに基づき、グループディスカッションやペアワークも交え、多角的に考察する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、講義の進めかたおよび評価方法の説明
第2回　感情とは何か　パーソナリティによる個人差をどう考えるか
第3回　感情の生起メカニズム1
第4回　感情の生起メカニズム2
第5回　感情：合理性と非合理性
第6回　社会性を紡ぐ感情
第7回　感情の発達プロセスとその機序
第8回　感情の起源とパーソナリティ
第9回　パーソナリティによる個人差をどう考えるか
第10回　見えないものをどう見るか
第11回　パーソナリティをどうやって測るのか
第12回　類型論と特性論
第13回　遺伝と環境はパーソナリティにどのようにかかわるのか
第14回　感情とパーソナリティとこころの健康
第15回　総括・期末レポート提出
第16回　期末レポート返却・総評

[成績評価]
試験(50%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各授業前にキーワードを予習し、授業後にその復習をする。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートについては授業内でコメントをする。期末試験は返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修すると、他者理解が深まり、コミュニケーションの取りかたに幅が広がる。

[テキスト]
小塩真司著『はじめて学ぶパーソナリティ心理学ー個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房2,700円

[備考]
毎回テキストを持参すること。

交流分析

2単位：前期1コマ	2〜4年
白井　幸子	

[到達目標]
「交流分析」はフロイトの精神分析理論を背景にもち、それを具体的で分かりやすい日常語を使って表現した人間の心と行動に関するパーソナリティー理論です。6つの基本理論より成り立っており、これらの基本理論を学ぶことによって客観的な自己理解・他者理解が得られます。

さらに、V.Joines、I.Stewartによって創始された「交流分析による人格適応論」も学びます。乳幼児期の親子関係がその後の人格形成、行動様式、適応スタイルにどのような影響を及ぼすかなどについての理解が得られます。自分の適応スタイルを知り、自分とは異なる適応スタイルを持つ人とどのように望ましい関係性を築いていくかを学ぶことによってストレスの少ない人間関係を築くことが可能になります。

[履修の条件]
学部2年生以上誰でも履修できます。公開します。

［講義概要］
交流分析は以下の6つの基本理論より成り立っています。
1）自我状態の分析
2）やりとりの分析
3）ストロークへの欲求とディスカウント
4）心理的ゲームの分析
5）人生における基本的構え
6）人生脚本の分析
上記の6つの基本理論は1）パーソナリティ理論、2）コミュニケーション理論、3）発達心理学、4）精神病理学などの領域を含み、人間の心と行動を分析します。交流分析の基本理論に基づいて開発されたのが「交流分析による人格適応論」です。

■授業計画
第1回　授業へのオリエンテーション：1）交流分析とは
　　2）自己紹介　3）この授業より望むもの
第2回　自我状態の分析（その1）
　　「エゴグラム」を通して自己理解をする
第3回　自我状態の分析（その2）
　　1）自我状態の汚染の問題、2）臨床の現場での応用
第4回　やりとりの分析
　　1）やりとりのタイプ：相補的やり取り、交差したやり取り、隠されたやりとり
　　2）他の人との望ましいやりとりとは
第5回　ストロークへの欲求とディスカント（その1）
　　1）ストロークとは
　　2）ストローク経済の法則
第6回　ストロークの欲求とディスカウント（その2）
　　1）各発達段階に必要なストローク
　　2）ストロークの体験学習
第7回　心理的ゲームの分析（その1）
　　1）心理的ゲームとは
　　2）心理的ゲームの種類
第8回　心理的ゲームの分析（その2）
　　1）なぜ心理的ゲームを行うのか
　　2）心理的ゲームをやめるには
第9回　人生における基本的構え：1）私もあなたもOK、2）あなたはOK、私はOKではない、3）私はOK，あなたはOKではない、4）私もあなたもOKではない
第10回　人生脚本の分析（その1）
　　1）人生脚本とは
　　2）人生脚本の構成要素：1）禁止令、拮抗禁止令、行動のプログラム
第11回　人生脚本の分析（その2）
　　1）自分の脚本テーマを知る
　　2）脚本の種類（プロセス脚本）
第12回　「幼児決断」から「再決断」へ
　　再決断療法の実際
第13回　交流分析による「人格適応論」（その1）
　　「人格適応論とは」
　　親の養育スタイルと6つの人格適応タイプ
第14回　交流分析による「人格適応論」（その2）
　　1）各適応タイプの特徴
　　2）質問紙を用いて自分の適応タイプを知る
第15回　交流分析による「人格適応論」（その3）
　　人格適応論を人間関係の向上にどのように役立てるか
第16回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
1）授業・実習への参加態度
2）授業を受けての感想文（毎回）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業前にその日の講義内容をテキストを通して理解しておくと授業が分かりやすく、より興味深いものになるでしょう。「エゴグラム」と「ジョインズによる人格適応質問紙」などは授業前に記入しておくとよいでしょう。本科目では、各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
フィードバックについての回答を次の授業でおこない話し合う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで人間の心理的理解を深め他者とのコミュニケーション能力を高める。

［テキスト］
白井　幸子　臨床にいかす心理療法. 医学書院、2004.¥2,310
必要に応じてプリントを配布します。

［参考文献］
ジョインズ、スチュアート（白井、繁田監訳）。交流分析による人格適応論. 誠信書房、2007.¥6,090.
ジョインズ、スチュアート（深沢　道子監訳）TA TODAY
最新交流分析入門、実務教育出版. 1991.¥4,500
白井　幸子. 看護にいかす交流分析. 医学書院. 1983.¥2,200

［備考］
成績評価の「その他」は以下の内容を含みます。
1）体験学習への参加
2）ディスカッションへの参加
3）講義セッションの感想提出

社会・集団・家族心理学

2単位：集中	2〜4年
坂本　真士	

［到達目標］
①社会心理学の基本的な考え方、概念や理論を理解する。
②社会心理学の実験例を通し、実証的なアプローチの仕方について理解する。
③身近な現象（特に臨床心理学で扱っているような心の問題）を、社会心理学の枠組みからも考えられるようにする。

[履修の条件]
「心理学」「心理学 II」を履修済みが望ましい。集中講義期間中、休まず出席できること。集中講義は3日間で終わってしまうので、必ず事前にテキストを購入して学習すること。なお、テキストを持参しない場合、受講を認めない。

[講義概要]
社会心理学は人と人との相互作用に関して研究する学問である。社会心理学は、個人から文化まで幅広い対象をもつが、本講義ではこのうち、「心理学的社会心理学」と呼ばれる領域を主な対象として授業を展開する。社会心理学では実証的な研究を積み重ね、多くの理論や知見が報告されており、その一部は教育や臨床の現場で応用されている。特に、臨床心理学への応用は「臨床社会心理学」という分野で研究されており、日本においても近年、注目が高まってきている。本講義では、社会心理学の基礎的な概念や理論について学習しながら、臨床心理学との関連についても触れ、社会心理学に対する理解を深めていく。なお、基本的に講義形式の授業になるが、適宜、DVD 等の映像を活用して理解を確実なものにしていく。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　社会心理学の考え方、臨床心理学との関連
第2回　社会心理学の研究法、実証的アプローチ、相関研究と実験研究
第3回　原因帰属、原因帰属の誤り
第4回　原因帰属と適応の問題、抑うつの原因帰属理論
第5回　態度、態度の測定、態度の一貫性
第6回　ステレオタイプ、偏見の低減
第7回　対人認知、対人認知のバイアス、印象形成
第8回　自己認知、自己概念、セルフ・スキーマ
第9回　自己意識、公的自己・私的自己
第10回　自己意識と適応の問題、抑うつや自我障害との関連
第11回　自己呈示、自己呈示の分類、自己開示、自己開示と健康
第12回　援助行動、ソーシャル・サポート、攻撃行動
第13回　集団と個人、内集団と外集団、同調
第14回　家族、親子関係、アタッチメント
第15回　文化・社会
第16回　レポート課題

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された次の回において行う(最終回に実施した場合は、授業内で行う)。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
集中講義なので、各自で事前にテキストを購入の上、読んでおいてほしい。復習は当日配付資料を中心にしてほしい。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された次の回で行う(最終回に実施した場合は、その授業内で行う)。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本授業を履修し、社会心理学を心の問題と関連づけて学ぶことにより、他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力を身につける。

[テキスト]
『はじめての臨床社会心理学』坂本・佐藤有斐閣(1,900円+税)

[参考文献]
『グラフィック社会心理学第2版』池上・遠藤　サイエンス社(2,730円)

産業・組織心理学

2単位：後期1コマ	2〜4年
渡邉　祐子	

[到達目標]
産業社会の激変やグローバル化の進展により雇用社会も大きく変化しています。加えて超少子高齢化時代となり、また、多様化が叫ばれる時代に個人の価値観も大きく変化しています。こうした背景をもとに、産業・組織心理学についての知識と考え方を知り、働く人のストレスの増大からくる心の健康問題、人間関係の希薄さなどによる職場の状況と企業の課題について、講義と演習を交えて理解を深めます。

そのうえで、より良い職業人生を送るためのメンタルヘルス対策、キャリア開発、良好なコミュニケーションづくりについて学習することを目的とします。この目的を達成するために、集団・組織や職場・職業に関わる心理学の理論を学びながら、産業・労働分野についての知識と考え方をバランスよく身につけることを目指します。

[履修の条件]
企業ではコミュニケーション能力の高い人が求められます。また、企業に限らず、コミュニケーションは組織が成立し機能するための重要要件の1つです。社会に貢献したり、良い仕事をしたりするために、また、人を支援する仕事に就く場合は、特に、ラポールの構築のために良好なコミュニケーションは必須なのです。

コミュニケーション能力は、生まれもった能力や性格とまったく関係がないわけではありませんが、大きく反映されるものではありません。饒舌に話すことや、情報を伝達しあうだけではなく、それぞれの思いや意見の交換を通して、心を通じ合わせるプロセスです。他者の話に興味・感心をもち、情報や気持を聴く一方で、自身の考えや思いを発信するスキルは実践して身に付くものです。授業内でのコミュニケーション演習は、他者の異なる視点で見る目を養ったり良さを吸収したり、また、自分のよさを発揮する機会です。日常会話とは異なるコミュニケーションを通して、日ごろの友人とだけでなく、広く良好な関係性を築く準備を一緒に前向きにしましょう。

[講義概要]

テキストを中心に講義します。授業のなかで、コミュニケーション演習を実施します。

毎授業の最後には、講義内容と演習を含めた「振り返りシート」を作成し提出します。この「振り返りシート」は成績評価になります。

また、「レポート」は2回予定しています。

■授業計画

第1回　ガイダンス、産業・組織心理学とは＜テキスト第1章＞
第2回　組織と個人＜第2章＞
第3回　職場集団と人間関係＜第3章＞
第4回　ワーク・モチベーション＜第4章＞
第5回　組織とコミュニケーション＜第5章＞
第6回　リーダーシップ＜第6章＞
第7回　人事アセスメントと能力開発＜第7章・8章＞
第8回　キャリア発達とその支援1（キャリアとは）＜第9章＞
第9回　キャリア発達とその支援2（キャリア発達の理論）＜第9章＞
第10回　産業・組織におけるカウンセリング1（産業・組織とカウンセリング）＜第10章＞
第11回　産業・組織におけるカウンセリング2（カウンセリングの理論と技法）＜第10章＞
第12回　職業性ストレスとメンタルヘルス＜第12章＞
第13回　消費者行動とマーケティング・リサーチ＜第13・14章＞
第14回　仕事の能率と安全＜第11章＞
第15回　まとめ
第16回　終講時テスト

[成績評価]

試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]

終講時試験が50%（産業・組織心理学についての知識と考え方についての把握度を評価）、レポート30%（小論文2回）に加えて、「振り返りシート」20%（毎授業の講義の内容からの気づきと演習の参加貢献度を評価）とし、成績評価を行います。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

予習は、テキストの該当する章を読んでおきましょう（1時間以上）。復習は、講義配布資料やノートを整理し、演習（ワークと話し合い）で実施したワークやディスカッションの内容を振り返っておきましょう（2時間以上）。

本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

[試験・レポート等のフィードバック]

毎授業のフィードバックは、基本的には、次回の講義において行いますが、数回分をまとめることもあります。

また、レポートについては、翌々週には、フィードバックします。発表については、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]

他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになることを研鑽するとともに、専門家としての資格を取得しようとする者は、クライエントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し、遵守姿勢と遵守に必要な実践能力を有するよう心構え、目指しましょう。

[テキスト]

テキストとして、次の書籍を中心に講義を行います。毎授業では、テキストをベースにした流れがわかるレジメを配布します。
高橋浩・中嶋励子・渡邉祐子（著）・高橋修（編著）「社会人のための産業・組織心理学入門」（産業能率大学出版部）2,592円
ISBN−13：978−4382056961

[参考文献]

適宜、授業で紹介します。

[備考]

毎回、テキストを持参すること。

ストレス学

2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美	

[到達目標]

1. ストレスの意味を正しく理解できる
2. ストレスによる心理的反応と測定法を理解できる
3. ストレスによる生物学的反応と測定法を理解できる
4. ストレスと各種疾患の関係を理解できる
5. ストレスをめぐる最近の研究動向を文献検索し、理解できる

[履修の条件]

2年生以上で履修が可能。
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修することが望ましい。

[講義概要]

この授業では、ストレスの意味とストレスによる心理的、生物学的反応に関する基礎的な知識を学ぶ。また、ストレス対処法やマネジメントについて学び、ストレスに対する発想転換、対処法を身につけて日常生活に活かせるよう、ゲストスピーカーによる講義も予定している。

■授業計画

第1回　ストレスと健康・ストレスとは何か
第2回　ストレスに対するアプローチ
第3回　現代社会におけるストレス
第4回　ストレスの生理学的基礎1：ゲストスピーカー
第5回　ストレスの生理学的基礎2：ゲストスピーカー
第6回　ストレスとホメオスタシス
第7回　心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因①
第8回　心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因②
第9回　心理学的ストレスの測定と評価①
第10回　心理学的ストレスの測定と評価②
第11回　性格と心理学的ストレス

第12回　生活習慣と心理学的ストレス
第13回　各ライフステージにおける心理学的ストレス
第14回　職場と心理学的ストレス
第15回　まとめ
第16回　レポート提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で配布した資料には必ず目を通しておくこと。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパに対するフィードバックを次回の講義内容おいて行う。
・発表やレポートについて、授業内適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、ストレスや心身相関についての理解を深めヒューマン・ケアに必要な知識を身に着けてることができる。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
小杉正太郎(2011)「ストレス心理学」川島書店2,200円

司法・犯罪心理学

2単位：集中	2〜4年
室城　隆之	

[到達目標]
(1)犯罪・非行, 犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。
(2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。

[履修の条件]
特になし。

[講義概要]
以下の内容について学習する。なお, 基本的にはパワーポイントの資料を用いた講義形式の授業になるが, 一部については視聴覚教材を活用した授業を実施する。
(1)犯罪の原因に関する生物学的, 社会学的, 心理学的諸理論につい学習する。
(2)各種犯罪の特徴について検討する。
(3)犯罪者の捜査, 司法手続き, 処遇, 立ち直りという一連のプロセスにおける心理的支援について学習する。
(4)犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。
(5)家庭裁判所における家事事件の内容とプロセス及び心理的支援について学習する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　司法・犯罪心理学とは何か
第2回　犯罪の原因(1)生物学的要因
第3回　犯罪の原因(2)社会学的要因
第4回　犯罪の原因(3)心理学的要因・環境との相互作用
第5回　犯罪各論(1)暴力犯罪, 殺人
　　小テストと解説
第6回　犯罪各論(2)性犯罪, 放火
第7回　犯罪各論(3)窃盗等の財産犯, その他の犯罪
第8回　犯罪各論(4)少年非行
第9回　犯罪捜査と心理学
第10回　非行・犯罪に対する司法手続き〜アセスメントを中心に
　　小テストと解説
第11回　非行・犯罪者の処遇・矯正
第12回　犯罪者の立ち直り
第13回　犯罪被害者支援と犯罪予防
第14回　家庭裁判所の家事事件と心理的支援
第15回　まとめ〜司法・犯罪心理学の課題
　　小テストと解説
第16回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(100%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では, 各授業につき4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。予習においては, テキストおよび参考文献の該当箇所を読んでおくこと。復習においては, 講義資料を読み直すことが求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内小テストの解答・解説は, 各小テスト実施後に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって, 犯罪や非行の加害者の理解と更生のための援助能力を身につけるとともに, 犯罪や非行の被害者の痛みを癒すための援助能力を身につけることができる。また, 様々な家庭問題の解決のための援助方法を学ぶことができる。

[テキスト]
河野荘子・岡本英生編著『コンパクト犯罪心理学』北大路書房 1944円
その他, 必要に応じて資料を配布する。

[参考文献]
大渕憲一『犯罪心理学』培風館　3,024円
越智啓太著『犯罪心理学』サイエンス社　2,376円

藤岡淳子著『犯罪・非行の心理学』有斐閣　2,592円

[備考]
特になし

臨床心理特講 A（大学院進学支援講座）

2単位：前期1コマ	2〜4年
松田　崇志	

[到達目標]
本講義では，受講者が心理学系または臨床心理学系の大学院の受験準備に主体的に取り組めるようになることを目標とする。また，進路に関する目標を設定できることを目指し，自身の職業適性や関心のある研究テーマについて理解を深めることを目標とする。
①大学院の試験の仕組みの基本を理解する。
②専門試験に向けての学習方法を身につける。
③職業適性について，ディスカッションを通じて，考えることができるようになる。
④関心のある研究テーマについて，研究計画を立てることができるようになる。

[履修の条件]
大学卒業後あるいは近い将来、心理学・臨床心理学系の大学院への進学を考えている2〜4年生が対象である。
ペアやグループでのワークを中心に授業を進めるため，全ての授業への出席，積極的な授業参加を求める。原則として欠席が3回を超えた場合は不可とする。ただし，やむを得ない事情がある場合は，担当教員に相談すること。
※早い時期に履修すると、ふだんの授業で学んでいる内容を大学院受験の準備にも活かせるようになることが期待される。
※とりあえず大学院の進学でも考えてみようかという程度の動機付けだと、宿題に取り組む意欲が続かない。就職進路相談室による説明会などを活用して進路を考え、目標を持って参加することを期待する。

[講義概要]
本講義では，心理学・臨床心理学系の大学院進学を目指す受講者の目標設定を支援する。
具体的には，①大学院の試験の仕組み，②職業適性，③心理学の各領域のトピックの学習（200字要約と英文読解），④研究テーマの設定の4つについて，グループワークを通じて学ぶ。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション，講義の進め方，参考文献の紹介
第2回　大学院の試験の仕組み①:過去問の分析
第3回　大学院の試験の仕組み②:グループ発表の準備
第4回　大学院の試験の仕組み③:グループ発表
第5回　職業適性①:自己分析
第6回　職業適性②:臨床心理士に必要とされる能力・適性
第7回　職業適性③:先輩大学院生の体験談
第8回　重要用語・人物の知識整理と英語学習①:認知
第9回　重要用語・人物の知識整理と英語学習②:発達
第10回　重要用語・人物の知識整理と英語学習③:教育，小テスト①（認知・発達の回の英文読解）
第11回　重要用語・人物の知識整理と英語学習④:臨床
第12回　小論文の解答方法①:文章の書き方，要約の仕方，小テスト②（教育・臨床の回の英文読解）
第13回　小論文の解答方法②:過去問を解く
第14回　研究計画を考える①:研究計画の立て方
第15回　研究計画を考える②:研究計画の書き方
第16回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（40%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
英文読解に関する小テスト（2回×20%），英文読解および200字要約の宿題の提出（4回×5%），最終レポートに加え，毎回の授業の感想の記入および授業でのディスカッションの参加・貢献度によって成績評価を行う。
※積極的な参加が必須なので，欠席は減点材料とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
①関心に応じて進学先候補となる大学院をインターネットや資料請求によって，情報収集を事前に行っておくこと。
②予習として，「重要用語・人物の知識整理」の回では配布プリントをもとに，200字要約を行うこと，「英語学習」の回では英文の日本語訳を行ってくることを宿題とする。
本科目では各授業回に，2時間の予習と2時間の復習を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，小テストの解答・解説はテストが実施された翌週に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，心理職を志す者としての態度，自主的に学ぶ学習能力を身に付けることができる。

[テキスト]
テキストは指定しない。
※図書館に，臨床心理学専攻大学院進学に関連する書籍をリザーブブックとして設置している。

[参考文献]
①山田剛史・林　創「大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための8つの力」 ミネルヴァ書房　2011年　（本体価格：2,400円+税）
②マリアン・コーリィ・ジェラルド・コーリィ著（下山晴彦監訳）「心理援助の専門職になるために　臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト」 金剛出版　2004年　（本体価格：3,800円+税）
③遠田諭他「合格ナビ!臨床心理士指定大学院 〔研究計画書〕」 東京出版　2014年　（本体価格：2,800円+税）
④渋谷寛子他「臨床心理士指定大学院対策　鉄則10＆サン

プル18　研究計画書編」講談社　2016年（本体価格：2,600円+税）

［備考］
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。
「重要用語・人物の知識整理と英語学習」では予習・復習にしっかりと取り組むこと，また，通常授業ではペアやグループでのディスカッション，グループ発表に積極的に参加することを期待する。
この授業に出席しただけでは，大学院に合格できるところまでは達しないので，継続的な学習が重要である。